

現代心理学部
(2016年度以降入学者用)

現代心理学研究科

2018^{年度}
履修要項

立教大学

教務事項の伝達について

I 掲示

大学から学生への連絡は、原則として掲示によって行う。掲示を確認しなかったために生じる不利益は、本人の責任となるので、登校時には必ず掲示を確認する習慣をつけること。掲示した事項については学生に伝達したものとみなす。掲示内容に疑問がある場合は、教務窓口で直接問い合わせる。電話や電子メールによる問い合わせには、一切応じない。

種類	設置場所	掲載内容
各学部・研究科掲示板	池袋キャンパス 教務事務センター前	■各学部生・各研究科学生への伝達事項
全学共通科目掲示板		■各学部科目・各研究科科目にかかわる伝達事項
教務全学用掲示板	新座キャンパス 7号館と4号館の間	■全学共通科目にかかわる伝達事項
f-Campus掲示板		■公示・学年暦等全学にかかわる伝達事項 ■f-Campusにかかわる伝達事項
インフォメーションボード	池袋キャンパス 5/8/14号館1階	■全学の休講
	新座キャンパス 1号館1階/4号館2階	■全学の教室変更(2週間分)・学生呼出

II 教務関連ホームページ

●SPIRIT 教務部ページ

⇒ https://spirit.rikkyo.ac.jp/academic_affairs/

教務からのお知らせ、履修要項、シラバス・時間割、履修・成績参照、休講情報などが確認できる。

●シラバス・時間割検索

⇒ <https://sy.rikkyo.ac.jp/timetable/>

開講科目のシラバス・時間割・科目コード・科目名・担当者・教室が確認できる。

●履修登録/成績参照/履修登録状況

⇒ <https://r.rikkyo.ac.jp/> (ログイン時のID・パスワードはV-Campusと同じ)

履修登録(抽選登録・科目コード登録)、成績参照および当年度の履修登録状況について確認することができる。

※開講科目の変更内容・各登録システムマニュアルについても閲覧が可能。

III 緊急時連絡

台風の接近等により、授業を平常通り行うことができないと判断した場合は、休講などの特別措置をとることがある。特別措置の内容については、掲示、ホームページ等または電話で確認すること。

[立教大学ホームページ](http://www.rikkyo.ac.jp/)

<http://www.rikkyo.ac.jp/>

[立教大学 Twitter](https://www.twitter.com/rikkyouniv)

<https://www.twitter.com/rikkyouniv>

[立教大学公式Facebookページ](https://www.facebook.com/RikkyoUniversity)

<https://www.facebook.com/RikkyoUniversity>

※試験期間についても前記の措置をとることがある。

※大学の窓口業務、諸施設の利用については、ホームページおよび掲示によって周知する。

教務窓口について

学部・研究科等	窓 口	場 所	窓口時間 ^{※1}
文・経済・理・社会・法・経営の各学部・研究科学生 異文化コミュニケーション学部・異文化コミュニケーション研究科 (2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者を除く)の学生 グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生 キリスト教学研究科学生	池袋キャンパス 教務事務センター	池袋キャンパス タッカーホール1階	月～金 9:00～17:00 土 9:00～12:30
観光・コミュニティ福祉・現代心理の各学部・研究科学生	新座キャンパス 教務事務センター	新座キャンパス 7号館1階	
法務研究科学生	法務研究科事務室 ^{※2}	池袋キャンパス 11号館4階	月～金 12:30～20:30 土 10:00～17:00
ビジネスデザイン・21世紀社会デザインの各研究科学生 異文化コミュニケーション研究科 (2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者)の学生	独立研究科事務室	池袋キャンパス 11号館4階	

※1 授業期間中の通常窓口時間は上記のとおりである。授業期間以外、また、特別な場合の窓口時間については、ホームページおよび掲示によって周知する。
 ※2 学生証・学籍に関する事項は、池袋キャンパス教務事務センターにて取り扱う。

2018年度 現代心理学部・現代心理学研究科 行事予定 (春学期)

カレンダー ■ 休日・祝日 □ 祝日授業日 ▲ 全日休講日	日程	行事予定	学部	研究科																																																	
2018 <h1 style="text-align: center;">3</h1> March <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; font-size: small;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td></tr> <tr><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td></tr> <tr><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	28日(水)	成績発表 (Web)	○	○							
	日	月	火	水	木	金	土																																														
					1	2	3																																														
4	5	6	7	8	9	10																																															
11	12	13	14	15	16	17																																															
18	19	20	21	22	23	24																																															
25	26	27	28	29	30	31																																															
27日(火)~29日(木)	履修要項配付	○	○																																																		
<h1 style="text-align: center;">4</h1> April <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; font-size: small;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土								1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30						4日(水)	英語単位認定試験 試験時間・試験場発表 (予定)	○	
	日	月	火	水	木	金	土																																														
	1	2	3	4	5	6	7																																														
	8	9	10	11	12	13	14																																														
	15	16	17	18	19	20	21																																														
	22	23	24	25	26	27	28																																														
	29	30																																																			
	3日(火)~12日(木)	4月期 履修登録 期間	科目コード登録期間	○	○																																																
	3日(火)~6日(金)		抽選登録1次申込期間	○																																																	
	8日(日)		抽選登録1次結果発表	○																																																	
	8日(日)・9日(月)		抽選登録2次申込期間	○																																																	
	10日(火)		抽選登録2次結果発表	○																																																	
	13日(金) 18:00~		履修登録科目の確認 ★1	○	○																																																
5日(木) 12:45	入学式	○	○																																																		
11日(水)	春学期・春学期1 授業開始		○	○																																																	
17日(火)・18日(水)	4月期 履修登録 修正期間	履修登録修正期間	○	○																																																	
19日(木) 21:00~		履修登録科目の確認 ★1	○	○																																																	
26日(木)		申し出期限	○	○																																																	
30日(月)	授業日 ★2		○	○																																																	
末日まで	研究計画書提出期間 (博士課程後期課程)		○																																																		
<h1 style="text-align: center;">5</h1> May <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; font-size: small;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>▲2</td><td>▲3</td><td>▲4</td><td>▲5</td></tr> <tr><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr> <tr><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td></tr> <tr><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td></tr> <tr><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土				1	2	3	4				▲2	▲3	▲4	▲5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			2日(水)	全日休講	○	○
	日	月	火	水	木	金	土																																														
				1	2	3	4																																														
				▲2	▲3	▲4	▲5																																														
	6	7	8	9	10	11	12																																														
	13	14	15	16	17	18	19																																														
	20	21	22	23	24	25	26																																														
	27	28	29	30	31																																																
	4日(金)	授業日 ★2		○	○																																																
4日(金)~10日(木)	修士論文題目提出期間 (秋学期提出者) *映像身体学専攻除く			○																																																	
5日(土)	授業日 ★2		○	○																																																	
12日(土) 3時限以降	補講日 *実施科目発表は5月4日(金)		○	○																																																	
8日(火)~10日(木)	春学期1開講科目 履修中止申請期間		○																																																		
18日(金)	春学期1末試験	実施方法発表 (予定)	○	○																																																	
31日(木)	春学期1 授業終了		○	○																																																	

★1 履修登録状況画面 (Web) にて必ず確認すること。

★2 各祝日にその曜日の授業を行う。

・次年度の学年始め行事予定の詳細は1月中旬に各学部等掲示板にて発表する。

・各種申込の受付時間については、必ず別途確認すること。

カレンダー ■ 休日・祝日 ◯ 祝日授業日 ▲ 全日休講日	日程	行事予定	学部	研究科																																																	
6 June <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr> <tr><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td></tr> <tr><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1日(金)～7日(木)	春学期1 レポート提出期間	○	○							
	日	月	火	水	木	金	土																																														
						1	2																																														
	3	4	5	6	7	8	9																																														
	10	11	12	13	14	15	16																																														
	17	18	19	20	21	22	23																																														
	24	25	26	27	28	29	30																																														
	1日(金)	春学期2 授業開始	○	○																																																	
2日(土) 3時限以降	補講日 *実施科目発表は5月25日(金)	○	○																																																		
9日(土)	英語単位認定試験実施	○																																																			
19日(火)～21日(木)	春学期科目(春学期1開講科目を除く) 履修中止申請期間	○																																																			
30日(土) 3時限以降	補講日 *実施科目発表は6月22日(金)	○	○																																																		
下旬	映像身体学専攻修士論文中間報告会		○																																																		
7 July <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土								1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					2日(月)	英語単位認定試験合格者発表	○	
	日	月	火	水	木	金	土																																														
	1	2	3	4	5	6	7																																														
	8	9	10	11	12	13	14																																														
	15	16	17	18	19	20	21																																														
	22	23	24	25	26	27	28																																														
	29	30	31																																																		
	4日(水)～6日(金)	卒業論文、卒業論文・卒業制作提出期間(春学期)	○																																																		
	4日(水)～6日(金)	修士論文提出期間(春学期)		○																																																	
	6日(金)～10日(火) 15:00	研究成果報告書提出期間(春学期)		○																																																	
	16日(月)	授業日 ★2	○	○																																																	
	19日(木)	春学期・春学期2 授業終了	○	○																																																	
2日(月)	日程・実施方法・試験場発表(予定)	○	○																																																		
13日(金)～19日(木)	春学期末試験 最終授業時試験期間	○	○																																																		
20日(金)～26日(木)	レポート提出期間(春学期1開講科目を除く)	○	○																																																		
20日(金)～31日(火)	定期試験期間	○	○																																																		
20日(金) 15:00	博士論文中間報告書提出期限(春学期)		○																																																		
8 August <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td></tr> <tr><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td></tr> <tr><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr> <tr><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		1日(水)～9月19日(水)	夏季休業期間	○	○							
	日	月	火	水	木	金	土																																														
				1	2	3	4																																														
5	6	7	8	9	10	11																																															
12	13	14	15	16	17	18																																															
19	20	21	22	23	24	25																																															
26	27	28	29	30	31																																																
27日(月)	春学期末追試験 対象者・試験方法・時間割発表	○	○																																																		

★2 各祝日にその曜日の授業を行う。

2018年度 現代心理学部・現代心理学研究科 行事予定 (秋学期)

カレンダー ■ 休日・祝日 □ 祝日授業日 ▲ 全日休講日	日程	行事予定	学部	研究科																																																	
9 September <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td></tr> <tr><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td></tr> <tr><td>30</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30							5日(水)	春学期成績発表 (Web)	○	○
	日	月	火	水	木	金	土																																														
							1																																														
	2	3	4	5	6	7	8																																														
	9	10	11	12	13	14	15																																														
	16	17	18	19	20	21	22																																														
	23	24	25	26	27	28	29																																														
	30																																																				
	5日(水)~12日(水)	春学期末追試験	試験期間	○	○																																																
	12日(水)~21日(金)	9月期 履修登録 期間	科目コード登録期間	○	○																																																
	12日(水)~15日(土)		抽選登録1次申込期間	○																																																	
	17日(月)		抽選登録1次結果発表	○																																																	
	17日(月)・18日(火)		抽選登録2次申込期間	○																																																	
	19日(水) 12:30		抽選登録2次結果発表	○																																																	
22日(土) 18:00~	履修登録科目の確認 ★1		○	○																																																	
13日(木)		英語単位認定試験試験時間・試験場発表 (予定)	○																																																		
19日(水)		大学院学位授与式・特別卒業式	○	○																																																	
20日(木)		秋学期・秋学期1 授業開始	○	○																																																	
24日(月)		授業日 ★2	○	○																																																	
26日(水)・27日(木)	9月期 履修登録 修正期間	履修登録修正期間	○	○																																																	
28日(金) 21:00~		履修登録科目の確認 ★1	○	○																																																	
10月5日(金)		申し出期限	○	○																																																	
末日まで		研究計画書提出期間 (秋学期復学者) (博士課程後期課程)		○																																																	
10 October <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td></tr> <tr><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td></tr> <tr><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td></tr> <tr><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				1日(月)~5日(金)	修士論文題目提出期間 (春学期提出者) *映像身体学専攻除く		○							
	日	月	火	水	木	金	土																																														
		1	2	3	4	5	6																																														
	7	8	9	10	11	12	13																																														
	14	15	16	17	18	19	20																																														
	21	22	23	24	25	26	27																																														
	28	29	30	31																																																	
	4日(木)	全日休講		○	○																																																
	8日(月)		授業日 ★2	○	○																																																
	9日(火)~11日(木)		秋学期1 開講科目 履修中止申請期間	○																																																	
20日(土) 3時限以降		補講日 *実施科目発表は10月12日 (金)	○	○																																																	
24日(水)		全日休講 (スポーツフェア)	○	○																																																	
31日(水)		秋学期1 末試験 実施方法発表 (予定)	○	○																																																	
11 November <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td></tr> <tr><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td></tr> <tr><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td></td></tr> </table> <small>※池袋キャンパス開講科目のみ全日休講</small>	日	月	火	水	木	金	土					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		1日(木)~6日(火)	秋季臨時休業期間 (学園祭)	○	○							
	日	月	火	水	木	金	土																																														
					1	2	3																																														
	4	5	6	7	8	9	10																																														
	11	12	13	14	15	16	17																																														
	18	19	20	21	22	23	24																																														
	25	26	27	28	29	30																																															
	10日(土)		英語単位認定試験実施	○																																																	
15日(木)		秋学期1 授業終了	○	○																																																	
16日(金)~22日(木)		秋学期1 レポート提出期間	○	○																																																	
16日(金)		秋学期2 授業開始	○	○																																																	
17日(土)		秋季入学試験 ※池袋キャンパス開講科目のみ全日休講	○	○																																																	
24日(土) 3時限以降		補講日 *実施科目発表は11月16日 (金)	○	○																																																	
28日(水)		全日休講																																																			

★1 履修登録状況画面 (Web) にて必ず確認すること。

★2 各祝日にその曜日の授業を行う。

・次年度の学年始め行事予定の詳細は1月中旬に各学部等掲示板にて発表する。

・各種申込の受付時間については、必ず別途確認すること。

カレンダー ■ 休日・祝日 □ 祝日授業日 ▲ 全日休講日	日程	行事予定	学部	研究科																																																	
<div style="text-align: center;"> 12 December </div> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>10</td><td>▲11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td></tr> <tr><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td></tr> <tr><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	▲11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31						3日(月) 英語単位認定試験合格者発表 4日(火)～6日(木) 秋学期科目 (秋学期1開講科目を除く)・通年科目 履修中止申請期間 11日(火) 全日休講 12日(水) 秋学期末・学年末試験 日程・実施方法・試験場発表 (予定) 12日(水)～14日(金) 卒業論文, 卒業論文・卒業制作提出期間 15日(土) 3時限以降 補講日 *実施科目発表は12月7日(金) 24日(月)～1月5日(土) 冬季休業期間		○	○
日	月	火	水	木	金	土																																															
						1																																															
2	3	4	5	6	7	8																																															
9	10	▲11	12	13	14	15																																															
16	17	18	19	20	21	22																																															
23	24	25	26	27	28	29																																															
30	31																																																				
<div style="text-align: center;"> 1 January </div> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr> <tr><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19*</td></tr> <tr><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td></tr> <tr><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td></tr> </table> <p style="font-size: small;">※新座キャンパス開講科目のみ全日休講</p>	日	月	火	水	木	金	土			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19*	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			9日(水)～11日(金) 修士論文提出期間 9日(水)～11日(金) 15:00 研究成果報告提出期間 (秋学期) 19日(土) 大学入試センター試験 ※新座キャンパス開講科目のみ全日休講 23日(水) 秋学期・秋学期2 授業終了 17日(木)～23日(水) ※ 秋学期末・学年末試験 最終授業時試験期間 24日(木)～30日(水) レポート提出期間 (秋学期1開講科目を除く) 24日(木)～2月4日(月) 定期試験期間 中旬 心理学科「心理学演習」ガイダンス 中旬 映像身体学科「基礎演習」ガイダンス		○	○							
日	月	火	水	木	金	土																																															
		1	2	3	4	5																																															
6	7	8	9	10	11	12																																															
13	14	15	16	17	18	19*																																															
20	21	22	23	24	25	26																																															
27	28	29	30	31																																																	
<p style="font-size: x-small;">※[2018年3月27日 訂正] 最終授業時試験期間について 1月19日(土)は大学入試センター試験実施により新座キャンパス開講科目のみ全日休講のため下記日程となります。 (池袋)17日(木)～23日(水) (新座)12日(土)・17日(木)・18日(金)・21日(月)～23日(水)</p>																																																					
<div style="text-align: center;"> 2 February </div> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr> <tr><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td></tr> <tr><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28			1月下旬～2月上旬 卒業論文, 卒業論文・卒業制作口頭試問 1月下旬～2月上旬 心理学・臨床心理学専攻修士論文発表会 1月下旬～2月上旬 心理学専攻修士論文構想発表会 1月下旬～2月上旬 修士論文口頭試問 2月上旬 修士論文最終報告会 18日(月) 秋学期末・学年末追試験 対象者・試験方法・時間割発表 28日(木) 卒業合格者 (在学8学期以上の者)・修了合格者発表 (Web) 下旬 映像身体学専攻修士論文構想発表会		○	○							
日	月	火	水	木	金	土																																															
					1	2																																															
3	4	5	6	7	8	9																																															
10	11	12	13	14	15	16																																															
17	18	19	20	21	22	23																																															
24	25	26	27	28																																																	
<div style="text-align: center;"> 3 March </div> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr> <tr><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td></tr> <tr><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr> <tr><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31							1日(金)～7日(木) 秋学期末・学年末追試験 試験期間 13日(水) 成績発表 (Web) 23日(土) 卒業礼拝 25日(月) 11:30 卒業式 25日(月) 16:00 大学院学位授与式		○	○
日	月	火	水	木	金	土																																															
					1	2																																															
3	4	5	6	7	8	9																																															
10	11	12	13	14	15	16																																															
17	18	19	20	21	22	23																																															
24	25	26	27	28	29	30																																															
31																																																					

現代心理学部全学生にかかわる事項

全学共通科目について

総合系科目（全学共通科目）

言語系科目（全学共通科目）

心理学科履修規定・カリキュラム

映像身体学科履修規定
・カリキュラム

現代心理学研究科にかかわる事項
博士課程前期課程

現代心理学研究科にかかわる事項
博士課程後期課程

諸規則

個人情報保護

各種案内

教員一覧

案内図

2018年度

履修要項

現代心理学部
現代心理学研究科

目次

教務事項の伝達について
教務窓口について
行事予定

現代心理学部の考え方・学位授与方針

現代心理学部全学生にかかわる事項

I	カリキュラムのしくみ	16
	1 カリキュラムのしくみ	
	2 科目ナンバリングについて	
II	授業（学習生活）	21
	1 学期・授業	
	2 授業時間	
	3 休講	
	4 補講	
	5 授業の欠席について	
	6 学校感染症に罹患した場合の措置について	
	7 裁判員制度に伴う場合の措置について	
III-1	履修規定（単位）	24
	1 単位制度	
	2 卒業要件単位	
III-2	履修規定（履修についての注意事項）	25
	1 全体についての注意事項	
	2 卒業論文，卒業制作，卒業研究について	
	3 他学科科目・他学部科目について	
	4 派遣留学生・認定校留学生の履修	
	5 5大学間単位互換制度（f-Campus）による科目の履修	
	6 必修科目履修辞退制度	
III-3	履修規定（カリキュラムの一部改定について）	30
III-4	履修規定（単位認定）	31
	1 派遣留学制度による単位認定	
	2 認定校留学制度による単位認定	
	3 入学前に修得した単位の認定	
	4 入学後に他大学等で修得した単位の認定	
IV	学習計画の立て方・アドバイザー	35
	1 学習計画の立て方	
	2 アカデミックアドバイザー・オフィスアワー	
V	履修登録	36
	1 履修登録とは	
	2 履修登録の流れ	
	3 履修届出方法	
	4 登録科目の確認について	
	履修登録状況画面の確認	
	5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認	
	6 履修中止制度	
VI	試験・成績	48
	1 試験に関する規定	

	2	試験方法	
	3	筆記試験	
	4	口頭試問	
	5	レポート	
	6	追試験	
	7	試験時間重複特別試験	
	8	不正行為	
	9	成績	
VII		卒業に関する事項	61
	1	卒業および学位に関する規定	
	2	最長在学年数	
	3	卒業合否の発表	
	4	卒業の延期（希望留年）	
	5	特別卒業	
VIII		学生証・学籍・学費	63
	1	学生証	
	2	学籍	
	3	休学・復学	
	4	退学	
	5	希望留年（学部4年次生のみ）	
	6	特別卒業	
	7	特別修了	
	8	再入学	
	9	学費	
IX		グローバル教養副専攻	69
	1	グローバル教養副専攻（G副専攻）とは	
	2	G副専攻の全体像	
	3	G副専攻の体系	
	4	G副専攻修了のための要件	
	5	G副専攻のコース登録	
	6	海外体験の事前審査・認定申請手続き	
	7	G副専攻の修了証の発行	
	8	4年間のスケジュール・モデルケース	
X		5大学間単位互換制度（通称f-Campus）	78
	1	履修登録	
	2	授業	
	3	試験・成績・単位認定	
	4	学費等	
	5	その他	
XI		寄附講座	80
XII		保険への加入	81
XIII		現代心理学研究科推薦入学試験（博士課程前期課程）	82

全学共通科目について

全学共通科目とは	全-3
総合系科目について	全-5

1 総合系科目とは	
2 科目群・科目名	
3 履修上の注意	
4 過年度に開講されていた総合系科目	
2018年度総合系科目開講科目一覧	
言語系科目について	全-37
1 言語系科目とは	
2 必修科目に関する特別措置	
3 履修免除（単位認定）者等の自由科目に関する特別措置	
必修科目	全-43
1 英語	
2 ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ）	
3 日本語（文ド専・フ専以外の外国人留学生のみ）	
4 指定年次・学期以後の単位修得方法（英語単位認定試験、英語R、ディスカッションの再履修）	
自由科目	全-53
1 自由科目 履修上の注意	
2 自由科目 科目一覧表	
3 グローバル教養副専攻 学部展開科目 科目一覧表（2018年度）	

学科ごとの履修規定・カリキュラム

心理学科履修規定	85
1. 卒業要件単位数	
2. 科目群（履修区分）の概要と履修上の注意	
公認心理師	
社会調査士	
心理学科 卒業要件単位表	
心理学科 学科課程	
映像身体学科履修規定	107
1. 卒業要件単位数	
2. 科目群（履修区分）の概要と履修上の注意	
映像身体学科 卒業要件単位表	
映像身体学科 学科課程	

現代心理学研究科にかかわる事項

現代心理学研究科の理念・目的 学位授与方針等 科目ナンバリングについて	118
博士課程前期課程履修規定その他注意事項 全専攻	123
博士課程前期課程履修規定 心理学専攻	133
博士課程前期課程履修規定 臨床心理学専攻	136
博士課程前期課程履修規定 映像身体学専攻	146
博士課程後期課程履修規定その他注意事項 全専攻	149
博士課程後期課程研究指導一覧 心理学専攻 臨床心理学専攻 映像身体学専攻	155

諸 規 則

1	立教大学学則（抜粋）	161
2	立教大学大学院学則（抜粋）	164
3	立教大学学位規則（抜粋）	167
4	現代心理学部専門教育科目試験規則	169
5	立教大学博士学位申請手続要領（抜粋）	171
6	博士学位論文取扱い事務に関する内規（抜粋）	171
7	立教大学大学院学位論文審査手数料規則	171
8	立教大学大学院学費その他納入金内規	172
9	立教大学大学院学生会発表奨励金規程	173
10	学習院大学・学習院女子大学・日本女子大学・立教大学・早稲田大学 学生交流に関する覚書	173
11	明治大学，立教大学及び国際大学による共同教育プログラムの履修等に関する覚書	174

個 人 情 報 保 護

プライバシーポリシー 立教大学における個人情報の取扱いについて	177
---------------------------------	-----

各 種 案 内

1	教務部案内	181
2	パソコン教室，貸出パソコン利用案内	182
3	V-Campus案内	183
4	大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置	184
5	地震発生時の心得	184
6	台風の接近が予想される場合の措置	184
7	授業中にJアラートが作動（弾道ミサイル発射時）した場合の対応	184
8	緊急連絡システムについて	185

教 員 一 覧

専任教員プロフィール	189
担当者一覧	200

案 内 図

専任教員研究室一覧	202
構内案内図・教室案内図（新座キャンパス）	204
構内案内図・教室案内図（池袋キャンパス）	209

こんなときは

現代心理学部の考え方

現代心理学部は、心と身体と映像の三つを探究の柱として、〈人間とは何か〉を問うところです。

心の科学は、二十世紀になって大きく発展しました。医学や生理学は、それ以前から現在まで、ずっと目覚ましい発展を続けてきました。けれども、心と身体との実際の結びつきについては、まだ余りに多くのことが知られないままになっています。私たちの心は身体なしには働きようがありませんし、身体は何かを感じたり、計ったり、予測したりせずには動きません。ということは、心と身体の活動は、どちらも二つの結びつきのなかでしか、ほんとうには解明できないということではないでしょうか。心身の結びつきは、これを生きている私たちにとっては、言うに言えないほど単純な、統一された経験ですが、外側から説明しようとするれば複雑極まりない事実の諸系列です。このような〈結びつき〉を解明するには、これまでの科学的方法だけでは充分ではありません。この解明には、哲学的な思考も、歴史や社会を見通す鋭い眼差しも、自分の心身を内側から動かして知る技法も必要となります。

また、この学部では、映像と呼ばれるものを、現代人の身体から分岐したもうひとつの身体として、重視します。映像の働きは、物を、世界を知覚することです。知覚は、身体に特有の働きであったにもかかわらず、映像はその働きを独自の仕方引き継ぎ、分岐させ、ますます驚異的な発達に向かいつつあります。私たちの心身は、今や機械による無数の知覚に取り巻かれ、それを通して生きるようになったとさえ言えるでしょう。現代心理学部は、この状況を積極的に受け止め、心身にとっての映像の意味と働きを明らかにしていきます。思考や表現における、映像の限らない可能性を追究していきます。

この学部は、心理学科と映像身体学科という一見対照的な二学科から成りますが、いずれの学科も心、身体、映像の三つのメインテーマを探究しながら、〈人間とは何か〉を問う姿勢に変わりはありません。異なるのは、重点の置き方です。心理学科は、科学的、実証的な方法で心と身体の機能とメカニズムの探究をリードします。映像身体学科は、歴史を踏まえた哲学的な思考技法実践や作品制作を通して、身体と映像の探究をリードします。二学科の探究は、互いに助け合う両輪となって二十一世紀の新人間学を拓いていくでしょう。

現代心理学部は、新たな人間学の構築を目指して、2006年度に多彩な人材を結集し、創り出されました。教員も学生のひとりひとりも、この目的を達成するためのかけがえのない人材なのです。

現代心理学部長 江川 隆男

教育目的

本学部は「人間とは何か」という古くからの根本問題を、心、身体、映像に関する諸学を通じ、サイエンス、フィロソフィ、アートが融合した、現代世界にふさわしい方法で探究することをその目的とする。

学修成果

〈心理学科〉

心理学科の学士課程では、学生が下記の知識・能力・技能を身につける。

1. 「人間とは何か」の根本問題に対し、心、身体、映像の3つの視点から理論的、技術的にアプローチでき、21世紀を生きる人間にとって有効な思考方法を身につけることができる。
2. さらに、心理学、隣接・関連諸科学を構成する基礎的な諸概念を、包括的、学問的に理解し、問題の発見と解決に際して、それらを有効、的確に使用することができる。
3. 心理学に関する文献を理解するために必要な、心理学の歴史、主な研究領域、学説、統計手法に対する基礎知識と英文読解力を涵養する。
4. 心理学の基礎・応用に関連する研究あるいは実践活動を遂行するために必要な、実験・調査・面接・テストを実施する技術と、研究や調査を計画・立案し、研究の成果を報告する能力を身につける。
5. 社会、企業、組織、地域、家庭におけるさまざまな問題解決のために、心理学の知識と方法論を応用する能力を身につける。
6. 言語Aの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎を身につける。
7. 言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多元的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
8. 学びの精神では、立教大学設立理念の一端に触れ、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、大学での講義科目受講の包括的スキルを体得する。
9. 多彩な学びでは、学問的知見の多様性と豊饒性を理解し、他の諸学問の成果を交錯させることで、世界を複眼的に解読する柔軟な知性を涵養する。また、スポーツ実習では、心身の健康増進を目的とした科学的知識を理解し、スポーツの実践をとおした体力の維持・向上、運動習慣を醸成する。

〈映像身体学科〉

映像身体学科の学士課程では、学生が下記の知識・能力・技能を身につける。

1. 「人間とは何か」の根本問題に対し、心、身体、映像の3つの視点から理論的、実践的アプローチを行なうことにより、21世紀を生きる人間にとって有効な思考方法を身につけることができる。
2. さらに「人間とは何か」の根本問題をめぐり、現代心理学部全体の知見を統合しつつ、心、身体、映像を多面的に理解する。
3. 人間の〈からだ〉をめぐって多様に蓄積されてきた東西の哲学、身体技法を包括的に学ぶ〈身体学〉を修める。
4. こうした〈身体学〉の内部にあるものとして、知覚と運動に関する人間科学的思考の基礎を身につける。
5. 現代の知覚経験に大きく作用するものとしての機械映像の本質を、歴史的、理論的に学習する。映像を通

して実現される表現や思考を解析し、批判し、創造的に実践できる技能を身につける。

6. 言語Aの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身につく。
7. 言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多面的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
8. 学びの精神では、立教大学設立理念の一端に触れ、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、大学での講義科目受講の包括的スキルを体得する。
9. 多彩な学びでは、学問的知見の多様性と豊饒性を理解し、他の諸学問の成果を交錯させることで、世界を複眼的に解読する柔軟な知性を涵養する。また、スポーツ実習では、心身の健康増進を目的とした科学的知識を理解し、スポーツの実践をとおした体力の維持・向上、運動習慣を醸成する。

学修環境

〈心理学科〉

心理学科では、上記の教育目標を実現するために、視覚実験のための暗室機能や聴覚実験のための防音室機能を備えた15の学生実験室をはじめ、多様な実験設備、コンピュータ、統計ソフト等を用意している。一方、面接・テストに用いる各種検査器具や解析ツールも整備している。また、専任教員の専門領域は、基礎心理学分野から応用心理学分野、臨床心理学分野に及び、幅広く心理学全般を学べる学習環境が用意されている。教育課程は、心理学の基礎を学ぶ学科必修科目、心理学の裾野を広げる学科選択科目B、心理学に関する知識と技法を学ぶ学科選択科目C、卒業研究の準備とその展開をはかる学科選択科目A・E、近接・関連諸科学の最新の研究成果にふれ、心理学の広がりを知る学科選択科目Dなどにより構成する。さらに、社会の実態を把握するための専門的な知識と実施の技能を有することを証明する社会調査士の資格を取得するための制度を導入している。加えて、こころの専門家としての公認心理師として自立するための、臨床教育および臨床実習（見学実習）を展開するための環境も整えている。

〈映像身体学科〉

映像身体学科の学生のためには、上記の教育目標を実現するために、学生用撮影機材、編集設備（HD編集用プロ仕様のものも含む）、座席収納可能可動式のダンス・演劇用教室、4K（次世代高精細画像）映写設備を備えた映像上映用教室及び映像作品・スチール写真の撮影が可能な学習環境を備えている。また、教員に第一線を活躍する舞台芸術家、映画監督、プロデューサー／ディレクターを擁しているため、作品制作を行う機会が随時提供されている。

身体学の基礎を身につけるのに必要なものとしては、身体社会論、身体人類学、生命システム論などに関する授業科目があり、その展開を学ぶものとして、身体学文献講読、各種演習、舞踊論、演劇論、医学身体論などに関する多彩な授業科目がある。映像学の基礎を身につけるのに必要なものとしては、映像社会論、映像人類学などに関する授業科目があり、その展開を学ぶものとして、映像学文献講読、各種演習、映画論、写真論、広告論などに関する授業科目がある。また、身体・映像の2領域にわたってワークショップ形式の授業が数多く用意されており、舞踊、演劇、映像などに関し、現代第一線の技法をまのあたりにして学ぶことができる。

現代心理学部 全学生に かわる事項

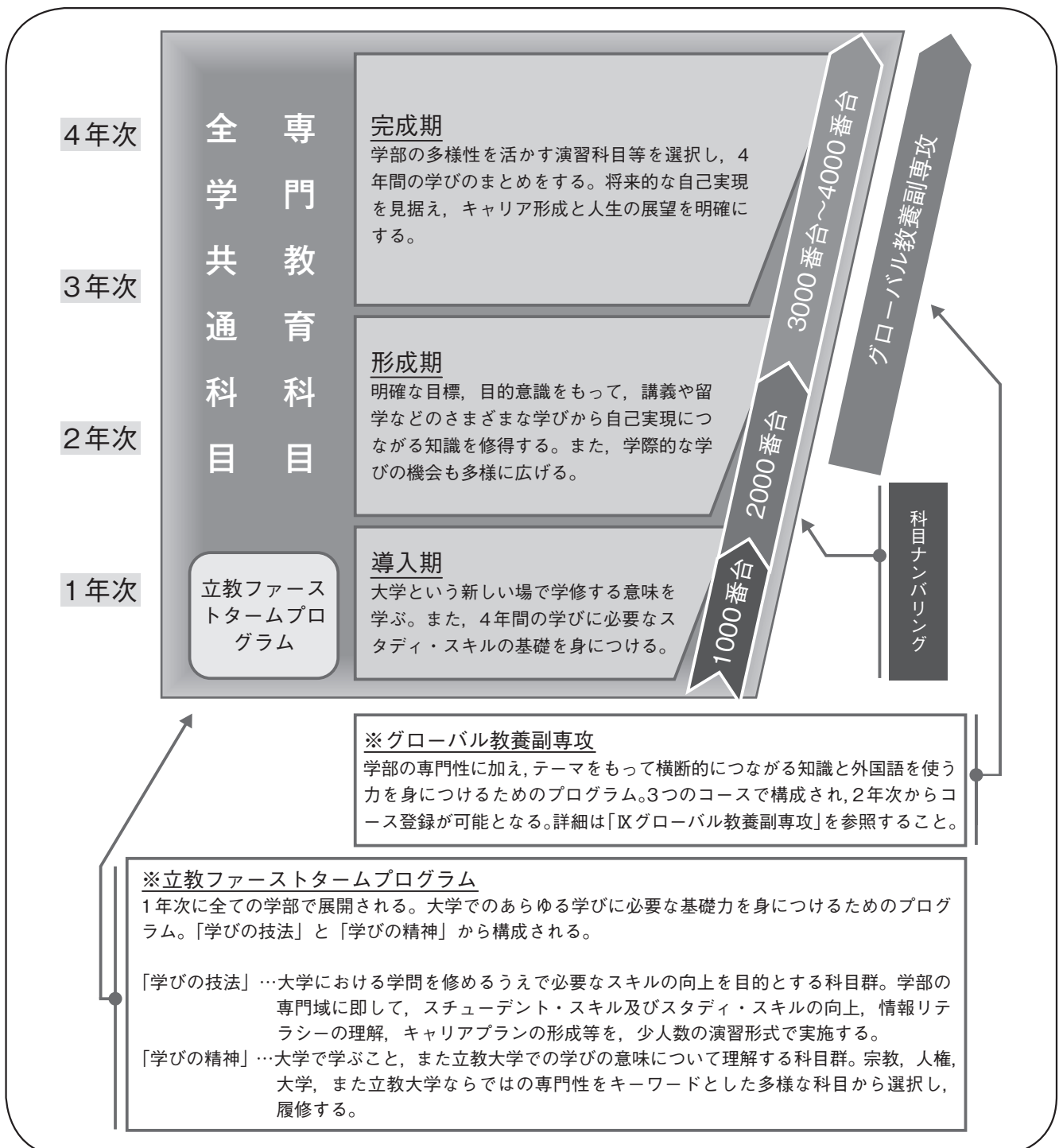
- I カリキュラムのしくみ
- II 授業（学習生活）
- III-1 履修規定（単位）
- III-2 履修規定（履修についての注意事項）
- III-3 履修規定（カリキュラムの一部改定について）
- III-4 履修規定（単位認定）
- IV 学習計画の立て方・アドバイザー
- V 履修登録
- VI 試験・成績
- VII 卒業に関する事項
- VIII 学生証・学籍・学費
- IX グローバル教養副専攻
- X 5大学間単位互換制度（通称 f-Campus）
- XI 寄附講座
- XII 保険への加入
- XIII 現代心理学研究科推薦入学試験（博士課程前期課程）

カリキュラムのしくみ

1 カリキュラムのしくみ

本学を卒業するためには、本学の学部にて4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上，2年次に転部・転科した場合は3年以上），所定の単位を修得しなければならない。詳細は所属する学科・専修の卒業要件単位表を参照すること。

本学の教育課程（カリキュラム）は、全ての学部において、全学共通科目と専門教育科目による「導入期」「形成期」「完成期」の3つの学修期によって構成され、段階的に学ぶ仕組みになっている。また、科目毎にどの学修期に学ぶことが適切かの目安を示す科目ナンバリングが設定されている。



2 科目ナンバリングについて

立教大学では、2016年度より全学部・研究科で科目ナンバリング制度を導入している。科目ナンバリングとは授業科目に適切な番号を付与し分類することで、学修の段階や順序等を表し、カリキュラムの体系的性を明示する仕組みである。科目ナンバリングを用いて検索をすることで、学びたい分野を探し体系的に履修するための一つのツールとすることができる。また、成績証明書（2016年度以降入学者のみ対象）には修得科目ごとに科目ナンバリングが記載され、体系的に学習した結果を対外的に証明することが可能である。

1. 科目ナンバリングの構成について

本学の科目ナンバリングはアルファベット3文字と数字4文字の構成となっている。

※アルファベット3文字⇒科目の設置学部学科（専修）・研究科を示す。

数字4文字⇒レベル，学問分野・分類等を示す。

アルファベット部分	1000番台	100番台	10番台	1番台
A B C	1	2	3	0
↓	↓	↓	↓	↓
学科・専攻等	レベル	分野	学部自由領域	言語

例として、全学共通科目「学びの精神」科目であれば「CMP1100」のように示される。

他学部等の科目ナンバリングについては、当該学部等の履修要項を参照すること。

2. 全学共通科目のナンバリング

① 科目の設置学部学科（専修）・研究科を示すアルファベット3文字は以下のとおりとなる。

	全学共通科目	コード
言語系	英語	LNE
	ドイツ語	LNG
	フランス語	LNF
	スペイン語	LNS
	中国語	LNC
	朝鮮語	LNK
	ロシア語	LNR
	日本語	LNJ
	ポルトガル語	LNP
	日本手話	LNH
	総合系	CMP

I カリキュラムのしくみ

② レベル，専門分野・分類等を示す数字4文字は以下のとおりとなる。

(1) 全学共通科目 言語系科目

◆1000番台（レベルコード）

言語系科目では，以下のとおり分類する。

コード	言語系科目の定義
0000	リメディアル科目：設定なし
1000	導入科目：【英語・言語B共通】言語必修クラスの科目（言語必修再履修クラス，必修科目相当の自由科目を含む）
2000	形成期科目：【英語】言語自由科目 インディペンデント・モジュール，インテンシブ・モジュール，アドバンスト・モジュールの科目，【言語B】基礎科目相当の自由科目
3000	完成期科目：【英語】言語自由科目 オナーズ・モジュールの科目，【言語B】コア科目相当の自由科目

◆100番台（科目の分野を示す）

言語系科目は，アルファベット部分で言語種類の分類を行っているため，100番台は共通で「0」とする。

◆10番台（授業形態を示す）

言語系科目では，授業形態に応じて以下のとおり分類する。

番号	授業形態
00	10人以下の極少人数でコミュニケーションを重視する科目
10	20～40人程度の少人数講義科目
20	eラーニング
30	海外研修

◆1番台（使用言語を示す）

言語系科目では，授業で使用する言語に応じて以下のとおり分類する（学修する言語とは異なる）。

番号	言語
0	日本語で行う授業
1	英語で行う授業
2	英語以外の外国語で行う授業
3	その他（バイリンガル授業など）

(2) 全学共通科目 総合系科目

◆1000番台（レベルコード）

総合系科目では，以下のとおり分類する。

番号	総合系科目
0000	リメディアル科目：該当なし
1000	導入期科目：「学びの精神」，全期科目：「スポーツ実習」
2000	形成期科目：「多彩な学び」（「立教ゼミナール発展編」を除く）
3000	完成期科目：「立教ゼミナール発展編」（「多彩な学び」として設置）

I カリキュラムのしくみ

◆100番台（科目の分野を示す）

総合系科目では、以下のとおり分類する。

番号	総合系科目
100	人間の探究（「多彩な学び」）、学びの精神
200	社会への視点（「多彩な学び」）、スポーツ実習
300	芸術・文化への招待（「多彩な学び」）
400	心身への着目（「多彩な学び」）
500	自然の理解（「多彩な学び」）
600	知識の現場（「多彩な学び」）

◆10番台（授業形態を示す）

総合系科目では、授業形態に応じて以下のとおり分類する。

番号	授業形態
00	学びの精神、立教ゼミナール発展編、以下を除く講義系科目
10	コラボレーション科目、スポーツプログラム
20	オンデマンド授業科目、スポーツスタディ
30	外国語による日本研究科目
40	立教ゼミナール
50	演習系科目
60	実習系科目

◆1番台（使用言語を示す）

番号	言語
0	日本語で行う授業
1	英語で行う授業
2	英語以外の外国語で行う授業
3	その他（バイリンガル授業など）

3. 現代心理学部 専門科目のナ ンバリング

① 科目の設置学部学科を示すアルファベット3文字は以下のとおりとなる。

学科等	コード
現代心理学部共通	CPX
心理学科	PSY
映像身体学科	BEC

② レベル、学問分野・分類等を示す数字4文字は以下のとおりとなる。

◆1000番台（レベルコード）

番号	専門科目
0000	リメディアル科目
1000	入門科目
2000	基礎科目
3000	発展科目
4000	最終学年演習・卒業論文・卒業研究

I カリキュラムのしくみ

◆100番台（科目の分野を示す）

現代心理学部共通（CPXで始まるナンバリング）

番号	
100	共通
200	心理学
300	映像身体学
900	その他

心理学科科目（PSYで始まるナンバリング）

番号	
100	一般心理学
200	基礎心理学
300	応用心理学
400	臨床心理学
500	近接諸科学
900	その他

映像身体学科科目（BECで始まるナンバリング）

番号	
100	映像学
200	身体学
300	映像身体学
900	その他

◆10番台（履修区分）

番号	
10	必修科目
20	選択科目
30	自由科目
90	その他

◆1番台（使用言語を示す）

番号	言語
0	日本語で行う授業
1	英語で行う授業
2	英語以外の外国語で行う授業
3	その他（バイリンガル授業など）

1 学期・授業

- 学期 (1) 本学の授業は1年を2学期に分けて行われ、それぞれを春学期、秋学期と呼ぶ。
 (2) 本年度の春学期の授業開始日は4月11日（水）、秋学期の授業開始日は9月20日（木）である。

授業 授業には以下の種類がある。

通年科目	
通年開講科目	春学期・秋学期通して行われるもの
通年他科目	学部・学科で期間を定めて行われるもの
春学期科目	
春学期開講科目	春学期で完結するもの
春学期1開講科目	春学期前半で完結するもの
春学期2開講科目	春学期後半で完結するもの
春学期他科目	春学期に学部・学科で期間を定めて行われるもの
春学期期間外科目	春学期期間外に学部・学科で期間を定めて行われるもの (履修登録時期が通常より遅れる科目)
秋学期科目	
秋学期開講科目	秋学期で完結するもの
秋学期1開講科目	秋学期前半で完結するもの
秋学期2開講科目	秋学期後半で完結するもの
秋学期他科目	秋学期に学部・学科で期間を定めて行われるもの
秋学期期間外科目	秋学期期間外に学部・学科で期間を定めて行われるもの (履修登録時期が通常より遅れる科目)

2 授業時間

本学における授業時間は次のとおりである。

〈時限・授業時間〉

時限	1	2	3	4	5	6
授業時間	9:00 }	10:45 }	13:15 }	15:00 }	16:40 }	18:20 }
	10:30	12:15	14:45	16:30	18:10	19:50

- ただし、経済学研究科、ビジネスデザイン研究科、21世紀社会デザイン研究科の6時限以降の授業時間は次のとおりである。

6時限	18:30~20:00	7時限	20:10~21:40
-----	-------------	-----	-------------

3 休講

大学または各授業科目の担当者にやむを得ない事情が発生した場合には、授業を休講することがある。

休講掲示 休講は、大学としての決定または科目担当者からの届出があり次第、掲示板（インフォメーションボード）に表示する。

〈掲示板（インフォメーションボード）設置場所〉

池袋キャンパス：5号館1階，8号館1階，14号館1階
 新座キャンパス：1号館1階，4号館2階

休講情報 休講情報は、SPIRIT Mobileからも確認することが可能である。

- 休講の掲示がないにもかかわらず、始業時刻後30分以上経過しても担当教員が入室しない場合は、教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）に連絡し、その指示に従うこと。
 ■ 大規模地震の警戒宣言が発令された場合、および台風の接近が予想される場合等、緊急時の休講の措置については、表紙裏および巻末の各種案内を参照すること。

4 補 講

休講等により講義の進行が予定より遅れた際に、臨時の授業を行うことがあり、これを補講という。下記の日程を補講日として設定している。

学期	補 講 日 (*1)	発表時期 (*2)	発表場所
春学期	5月12日 (土)	5月 4日 (金) 5月25日 (金) 6月22日 (金)	池袋キャンパス開講科目： 8号館インフォメーション ボード下(池袋キャンパス) 新座キャンパス開講科目： 各学部掲示板(新座キャン パス) SPIRIT 教務部ページ
	6月 2日 (土)		
	6月30日 (土)		
秋学期	10月20日 (土)	10月12日 (金) 11月16日 (金) 12月 7日 (金)	
	11月24日 (土)		
	12月15日 (土)		

*1) この期間以外に補講を行う場合もあるので教員の指示に従うこと。あわせて、上記発表場所も随時確認すること。

*2) 発表後に変更・追加がある場合、随時更新されるので注意すること。

5 授業の欠席について

本学では、学校感染症により出校停止となった場合、裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭する場合以外の事由による欠席は認めていない（いわゆる公欠制度は設けていない）。

6 学校感染症に罹患した場合の措置について

学校感染症第1種・2種に罹患した場合は、出校を停止する。速やかに各教務窓口へ連絡し、指示を受けること。

1. 対象となる
学校感染症
第1種・2種

	疾患名
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARSコロナウイルス）、中東呼吸器症候群（MERSコロナウイルス）、特定鳥インフルエンザ
第2種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふく）、風しん、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎

2. 授業欠席の
扱い

学校保健安全法によって定められた学校感染症のうち第1種および2種に該当するものに罹患した場合の授業欠席については、以下のとおりとする。

- (1) 学校感染症第1種・2種に罹患したことにより、授業を欠席した学生が、所定の申請手続きを行った場合は、欠席扱いとはならない。
- (2) 申請手続きは以下のとおりである。

- ① 登校可能となった日を含む7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、「学校感染症第1種・2種に罹患した学生の欠席について」（各教務窓口で交付）に必要事項を記入し、医療機関が発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」*1、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」*2とともに、各教務窓口へ提出する。

申請手続き科目を確認するため、履修登録状況画面のコピーも提出すること。

*1 罹患開始時と治癒時の診療医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「罹患期間についての証明」が受けられない場合がある。その場合は、罹患開始時の医療機関が発行する『罹患日記載がある「診断書』』と、治癒時の医療機関が発行する『治癒日と登校可能日の記載がある「診断書』』の2種類をもって「罹患期間事項についての証明」とすることができる。

*2 「治癒証明書」の書式はSPIRIT 教務部ページからダウンロードできる。

- ② 申請者は、各教務窓口にて受付印を押印された申請書および診断書もしくは治癒証明書（コピー）を受取り、各授業時間に担当教員に提出する。

3. 試験欠席の扱い

定期試験に関する事項は「VI 試験・成績」を確認すること。

7 裁判員制度に伴う場合の措置について

1. 授業欠席の扱い

裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭し、授業を欠席した学生の扱いについては、以下のとおりとする。

- (1) 裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭し、授業を欠席した学生が所定の申請手続きを行った場合は、欠席扱いとはならない。

- (2) 申請手続きは以下のとおりである。

① 裁判員に選任された場合

公判終了日の翌日から7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、裁判員の職務従事期間についての「証明書*」を持参し、「裁判員制度による学生の欠席について」（各教務窓口で交付）に必要事項を記入し、履修登録状況画面のコピーとともに各教務窓口へ提出する。

*「証明書」は出頭先の裁判所に申し込み、発行を受けること。

② 裁判員に選任されなかった場合

選任手続期日の翌日から7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、裁判所出頭日の証明*を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」を持参し、「裁判員制度による学生の欠席について」（各教務窓口で交付）に必要事項を記入し、履修登録状況画面のコピーとともに各教務窓口へ提出する。

*裁判所出頭日の証明は出頭先の裁判所で受けることができる。

- ③ 申請者は、各教務窓口にて受付印を押印された申請書類を受取り、各授業時間に担当教員に提出する。

2. 試験欠席の扱い

定期試験に関する事項は「VI 試験・成績」を確認すること。

履修規定（単位）

1 単位制度

1. 単位制度

大学での学修は、すべて単位制になっている。すべての科目には一定の単位が定められており、その科目の履修登録をし、授業を受け、かつ、試験に合格した場合、当該科目の単位が与えられる。その単位の合計が卒業に必要な単位（卒業要件単位）を満たした者に対して卒業の資格が与えられる。

2. 単位の数え方

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 輪講、実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 前述の(1)(2)にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

全学共通科目および現代心理学部専門教育科目では、計算基準を次のように定めている。

〈全学共通科目〉

言語系	週1回半期の授業で1単位 週2回半期の授業で2単位 ※ただし、英語自由科目、言語Bの自由科目「上級～語」（日本語を除く）は、週1回半期の授業で2単位
総合系	週1回半期の授業で2単位 ※ただしスポーツプログラムを除く。 「スポーツプログラム～」は週1回半期の授業で1単位

〈現代心理学部専門教育科目〉

講義・演習・ワークショップ科目	週1回半期の授業	2単位
実験・実習科目	週1回半期の授業	1単位
卒業論文		半期8単位
卒業研究		半期4単位
卒業論文・卒業制作		半期8単位

- (1) 心理学実験実習1〔2018年度入学者は心理学実験実習1（心理学実験）〕・2、心理学調査実習1・2は週3回（3時限連続）授業を行う。
- (2) 入門演習1、入門演習2は週2回（2時限連続）授業を行う。

2 卒業要件単位

- (1) 現代心理学部の卒業に必要な単位数（卒業要件単位）は、各学科の定めるところによる。入学年度によっても異なるので注意すること。

㉞ 所属学科の該当入学年度の履修規定を参照

- (2) 「随意科目」として指定される科目は、卒業要件単位に含めることはできない。

㉞ 随意科目とは、①随意科目として設定している科目と、②科目自体が随意科目というわけではなく、重複履修や教職のために設置している科目等を履修した結果、履修規定により卒業に必要な単位数に算入されない科目の2種類がある。

1 全体についての注意事項

1. 学年配当

- (1) 科目の履修は、原則として、当該科目が配当されている年次において行うものとする。
- (2) 高学年次の者が低学年次に配当されている科目を履修することはできる。ただし、以下の科目については指定された在学学期の学生に限り履修することができる。

科目	履修することができる学生
映像技術入門(A)・(B)	在学1学期・2学期の者
基礎演習1～15	2年次生以上で在学1学期～3学期の者

- (3) 低学年次の者が高学年次に配当されている科目を履修することはできない。ただし、資格要件等により、履修が認められる科目についてはこの限りではない。

※配当年次の他に、履修の前提となる条件が定められている場合がある。

*休学した学生の履修の原則について

休学した学生は、在学学期数にかかわらず、年次は自動的に進む。この場合、特に学部・学科等で定める場合を除き、進んだ年次の配当科目について履修登録が認められる。

2. 履修登録上限 単位数

- (1) 1年間に履修登録できる単位数は、下表のとおり定められている。履修上限単位数を超えて履修登録することはできない。

学年	年間履修登録上限単位数				履修登録上限の範囲	
	通年	春学期 春1 春2	秋学期 秋1 秋2	履修登録上限の範囲		
1年次	48	30		・現代心理学部専門教育科目 ・全学共通科目 ・他学部科目 ・5大学間単位互換制度 (f-Campus) 科目	・学校・社会教育講座科目 (科目コードがG～で始まる科目)	
		16	16			16
2年次	44	30				
		16	16			16
3年次	44	30				
		16	16			16
4年次	44	30				
		16	16	16	16	

春1：春学期1，春2：春学期2，秋1：秋学期1，秋2：秋学期2

*単位認定により修得した単位については、「入学後に他大学等で修得した単位」を除き、履修登録上限には含まれない。

- (2) いずれの学科・年次も、各学期30単位まで履修登録をすることができるが、年間履修登録単位数（春学期と秋学期を合計したもの）は上記の上限単位数を超えることは認められない。例えば、春学期に30単位を登録すると、1年次では秋学期に18単位、2～4年次では秋学期に14単位までしか登録することができなくなる。したがって、4月に履修計画を立てる際に、必修科目や春学期・秋学期のバランスを考え、偏らないように注意すること。
- (3) 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」は半期8単位として扱う。「卒業研究」は半期4単位として扱う。卒業論文、卒業論文・卒業制作、卒業研究を提出する学期に履修登録となるため、履修登録上限単位数に算入される学期に注意のうえ履修計画を立てること。
- (4) 履修登録をした科目で、単位を修得できなかった科目も履修登録上限に含まれる。
- (5) ①通年科目の単位は、半期（春学期・秋学期）それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の1/2が算入され、4半期（春学期1・春学期2・秋学期1・秋学期2）科目を履修した場合、4半期それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の1/4が算入される。
②春学期科目・秋学期科目の単位は、4半期（春学期1・春学期2，秋学期1・秋学期2）科目を

Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）

履修した場合、4半期それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の1/2が算入される。

- ③春・秋学期期間外科目は、年間の履修登録上限単位数に算入される（学期ごとの上限には含まれない）。

〈全学共通科目の履修登録上限単位数〉

- ・総合系科目は、全学年において春・秋学期それぞれ6単位以内とする（「国連ユースボランティア」科目を履修する場合を除く）。また、「海外インターンシップ1・2」科目の履修上限単位数の扱いについては、「全学共通科目について」の **3 履修上の注意** 「11.海外インターンシッププログラムについて」を参照すること。
- ・言語自由科目（英語）インディペンデント・モジュールの「TOEIC1」, 「TOEIC2」, 「TOEFL2」 「IELTS」の資格系科目と資格系以外科目の申請上限単位数は、全学年において春・秋学期それぞれ6単位ずつとする。

3. 重複履修

科目の名称（番号までを含む）および単位数が同一の科目について、既に単位を修得している場合に学期あるいは年度を変えて再度履修することを重複履修という。

〈全学共通科目〉

- (1) 言語系科目必修科目および「英語R」は重複履修をすることはできない。
- (2) 総合系科目、言語系科目自由科目は学期を変えれば重複履修をすることはできる。その場合には、最初に修得した1科目分だけが卒業要件単位として認められ、2回目以降に修得した単位は随意科目となり、卒業要件単位には算入されない。

〈専門教育科目〉

一度単位を修得した科目を再度重複して履修することについては、各学科の履修規定を参照すること。

4. 同時履修

同一科目（科目名称および単位数が同一の科目）が同一学期内に複数開講されている場合、同時履修は認めない。

5. 同一時限の履修

各科目は、同一時限に2科目以上にわたり履修をすることはできない。授業が集中形式で行われる科目については、実施日時が他の履修科目と一部でも重なる場合は履修することはできない。

6. キャンパス間の移動にかかわる措置

同一日の異なるキャンパスでの授業については、移動の必要上連続した時限の履修は不可能であるから、その場合の履修登録は認めない。ただし、昼休みをはさむ場合を除く。

実際の移動時間が不足する場合でも自己責任となるので、履修登録の前に移動に要する時間をよく確認すること。

7. 科目の開講について

各科目は、原則として毎年開講されるが、年度によっては開講しない場合もあるので、注意すること。

8. 必修科目履修辞退届

心理学科では必修科目履修辞退を認めることがある。履修辞退を希望する学生は、所定の手続きを行うこと。必修科目履修辞退届の制度と手続きについては **6 必修科目履修辞退制度** を参照すること。

2 卒業論文、卒業制作、卒業研究について

卒業論文・卒業制作・卒業研究の位置づけ

- (1) 卒業論文、卒業制作、卒業研究は、4年間の学習成果を集大成するもので、指導教員の綿密な指導を受けて、意欲的に取り組むことが期待される。映像身体学科の卒業制作は、映像作品（映画、写真、グラフィック）、パフォーマンス映像記録（演劇、ダンス）、言語表現（シナリオ）など、多様な形態がありうる。心理学科の卒業研究は、海外における留学体験に基づき、関心をもった心理学に関するテーマや事柄について、自ら資料を収集し、研究の成果をまとめるものである。

- (2) 卒業論文、卒業制作、卒業研究は各学科の指導内容にしたがって執筆、制作し、提出しなければならない。指導教員が、適切と認めた場合には、卒業論文または卒業制作として、共同執筆論文、共同制作を提出することができる。この場合、各人の担当した役割を卒業論文、卒業制作論文で明確にしなければならない。また、提出物は各自が指定された部数（2部）を提出すること。卒業研究の共同執筆は原則的には認めない。
- (3) 映像身体学科において、卒業制作を提出する場合は、作品の目標、問題意識、制作過程、意義などを論述する卒業制作論文を添付しなければならない。
- (4) 卒業研究については、心理学科の履修規定を参照すること。

3 他学部科目・他学科科目の履修について

1. 他学部科目
- (1) 他学部科目を履修して修得した単位は、卒業要件単位に算入できる。ただし、算入できる単位数・算入先となる履修区分は入学年度によって異なるので、所属学科の該当入学年度の卒業要件単位表で確認すること。
- (2) 他学部科目の履修を希望する場合は、その科目を設定している学部・学科の履修要項の該当入学年度の学科目表を見て、その配当年次に従うこと。
 △配当年次を誤って届け出た場合、後日取り消すことになるので注意すること。また、履修を取り消された場合、時間割のその部分は「空き時間」となる。
 他学部科目のシラバスは、シラバス・時間割検索システムを参照すること。
- (3) あらかじめ定められている「他学部学生履修不許可科目」は、当該科目を設置している学部の掲示板（ただし、池袋キャンパス開講科目については、7号館1階協の移動掲示板）で確認しておくこと。
 △他学部学生履修不許可科目は、配当年次が合っても履修できない。
- (4) 他学部科目の履修を届け出る場合も、春学期開講科目と通年開講科目については4月期履修登録時に、秋学期開講科目については9月期履修登録時に科目コード登録で届け出るものとする。
- (5) 届け出た他学部科目は、当該学部からの承認を受け、はじめて正式に履修許可となる。履修の可否については、教授会審議後、4月期履修登録では5月下旬に、9月期履修登録では10月下旬に現代心理学部掲示板で発表する。
 △不許可となった場合、時間割のその部分は「空き時間」となり、新たな科目の追加によってこれを埋めることはできない。履修登録の際はこの点に留意の上登録すること。
2. 他学科科目
- 修得した単位は、卒業に必要な自由科目の単位数に算入することができる。学科によっては履修できない科目もあるので、該当学科の履修上の注意を参照すること。
3. 他学部学生の履修
- 他学部の学生が本学部の科目の履修を願い出たときは、教授会においてこれを承認するか否かを決定する。

4 派遣留学生・認定校留学生の履修

派遣留学・認定校留学*が決定した者は、ただちに所属キャンパスの教務窓口で、出発年度・帰国年度の履修について説明を受けること。

※ここでいう派遣留学・認定校留学とは、1. 大学間協定に基づく派遣留学制度、2. ケント州立大学留学プログラム、3. セントクラウド州立大学プログラム、4. 認定校留学制度ならびに5. 学部間協定等に基づく海外研修・留学プログラムをさす。

派遣留学生および認定校留学生は本学の履修科目において、下記の特別措置の対象となる。派遣留学制度および認定校留学制度を利用する以外の留学では、下記の特別措置の対象とはならない。

Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）

1. 出発年度の履修と単位修得
 留学開始が本学の定める春学期（または秋学期）の試験期間終了後の学生は、「在学留学」・「休学留学」のどちらを選択しても、出発年度の春学期（または秋学期）の科目を履修し、単位を修得することができる。
2. 通年科目の接続
 派遣留学生および認定校留学生については、本学における通年科目の履修に関し学年暦の国際的差異による支障がある場合、教授会または研究科委員会の議により、教授会または研究科委員会が認めた科目については、同一の通年科目の出国年度の春学期における履修と帰国年度の秋学期における履修を接続し、通年で履修したものとすることができる。派遣留学・認定校留学が決定し、上記の通年科目の接続を希望する学生は、所属キャンパスの教務窓口で、手続き方法などについて説明を受けること。
- 注意点**
 (1) 「通年科目の接続」は、原則として翌年度の履修に限るものとし、翌々年度に亘ることはできない。
 (2) 個人都合による休学を挟むと「通年科目の接続」は適用されない。
3. 帰国年度の履修登録
 (1) 5月末日（秋学期は10月末日）までに帰国届の提出および履修登録をした場合、帰国年度の春学期科目および通年科目（秋学期は秋学期科目）を履修することができる（「春学期1」開講科目・「秋学期1」開講科目は、対象外）。ただし、抽選登録科目等、履修登録できない科目もあるので、必ず所属キャンパスの教務窓口を確認すること。
 ※全学共通科目の抽選登録科目は、科目コード登録対象科目に移行した科目のみ履修することができる。
 (2) 以下については、本学部は該当しない。
 「在学留学」を選択した学生は留学期間の終了時期が6月以降の場合でも、秋学期授業開始前までに留学期間を終了して帰国届を提出し、学部の許可を得た場合、通年の「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」・「卒業論文」・「卒業論文・卒業制作」・「卒業研究指導演習」・「卒業研究」・「輪講」については特別に履修を認めることがある。
- ☎ その他、詳細については国際センターが発行する「海外留学の手引」を参照すること。

5 5大学間単位互換制度（f-Campus）による科目の履修

5大学間単位互換制度（f-Campus）による科目を履修し、単位を修得した場合、所属学科が定める範囲で専門教育課程の卒業要件単位にすることができる。5大学間単位互換制度（f-Campus）については「X 5大学間単位互換制度（通称f-Campus）」を参照のこと。

6 必修科目履修辞退制度

1. 必修科目履修辞退制度とは
 休学や単位修得状況により、前提として必要な学習経験を経ないまま、後で学ぶべき必修科目（低年次配当科目と高年次配当科目であれば高年次配当科目、春学期開講科目と秋学期開講科目であれば秋学期開講科目）が自動登録され、学習効果があがらないことがある。このような場合、順を追って必修科目を履修したり、他の科目を履修したりするほうがより効果的な場合もあるため、本人の願い出に基づき、学部が必要と認めた場合に、後で学ぶべき必修科目の履修辞退を認めることがある。

2. 対象科目

学科	対象となる必修科目
心理学科	配当年次2年次以上の必修科目
映像身体学科	対象科目なし

Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）

3. 申出方法

必修科目の履修辞退を希望する者は、「必修科目履修辞退届」（新座キャンパス教務事務センターで配付）を持参して、アカデミックアドバイザーと面談を行うこと。アカデミックアドバイザーの指導のもと、履修辞退する科目を決定し、「必修科目履修辞退届」に必要事項を記入の上、下記期日までに新座キャンパス教務事務センター窓口提出すること。

提出された「必修科目履修辞退届」に基づき現代心理学部が審議を行い、承認された場合に必修科目の辞退が認められる。

（春学期科目）

4月3日（火）17：00締切

（秋学期科目）

9月7日（金）16：00締切

4. 結果通知

下記の日時に新座キャンパス教務事務センター窓口にて結果を通知する。

（春学期科目）

4月12日（木）9：00～

（秋学期科目）

9月21日（金）9：00～

5. 必修科目以外の 科目の追加登録

必修科目の履修辞退が認められた場合、当該時間は空き時間となり、全学的な履修登録日程に従い、履修登録上限の範囲内で新たな科目を登録できる。

1 2018年度のカリキュラム一部改定

心理学科 (1) 科目の新設

- 【必修科目】** 心理学概論1 (半期 2単位)
 心理学概論2 (半期 2単位)
 心理学統計法1 (半期 2単位)
 心理学統計法2 (半期 2単位)
 心理学実験実習1 (心理学実験) (半期 2単位) (2019年度より開講)
- 【学科選択科目B】** 家族心理学 (社会・集団・家族心理学) (半期 2単位) (2019年度より開講)
- 【学科選択科目D】** 障害者・障害児心理学 (半期 2単位)
 健康・医療心理学 (半期 2単位)
 福祉心理学 (半期 2単位)
 人体の構造と機能及び疾病 (半期 2単位)
- 【自由選択科目】** 観光心理学 (半期 2単位)
 関係行政論 (半期 2単位)
 公認心理師の職責 (半期 2単位) (2020年度より開講)
 心理演習 (半期 2単位) (2020年度より開講)
 心理実習 (半期 1単位) (2021年度より開講)

(2) 科目名の変更

- 【学科選択科目B】** 知覚心理学 → 知覚心理学 (知覚・認知心理学)
 学習心理学 → 学習心理学 (学習・言語心理学)
 認知心理学 → 認知心理学 (知覚・認知心理学)
 社会心理学 → 社会心理学 (社会・集団・家族心理学)
 産業心理学 → 産業・組織心理学
 臨床心理学 → 臨床心理学概論
- 【学科選択科目C】** 心理学研究法4 → 心理学研究法4 (心理的アセスメント)
- 【学科選択科目D】** 生理心理学 → 生理心理学 (神経・生理心理学)
 教育心理学 → 教育心理学 (教育・学校心理学)
 人格心理学 → 感情・人格心理学
 言語心理学 → 言語心理学 (学習・言語心理学)
 神経心理学 → 神経心理学 (神経・生理心理学)
 学校心理学 → 学校心理学 (教育・学校心理学)
 精神医学 → 精神疾患とその治療
 心理療法 → 心理学的支援法
 犯罪心理学 → 司法・犯罪心理学

通常の履修による単位修得以外に、下記の通り、単位が認定される場合がある。詳細は以下の各制度の内容を確認のこと。なお、単位認定の上限は学則（「立教大学学則第2章第10条の2第1項～第10条の4第3項」参照）により合計60単位までと定められている（ただし3年次編入学または転部・転科等による単位認定、入学前に本学で修得した単位の認定などについてはこの上限に含まない）。

1 派遣留学制度による単位認定

本学部の学生が、国際交流制度による派遣留学生（在学留学生）として外国の大学で修得した単位は以下の通り扱う。

㊦ 認定の上限については、「立教大学学則第2章第10条の2第1項から第10条の4第3項」を参照すること。

(1) 在学留学の学生が外国の大学で修得した科目の単位の認定を申し出る場合、下記①～⑤の書類を、派遣留学期間終了後1ヵ月以内に所属キャンパスの教務窓口に提出すること。派遣留学期間終了後1ヵ月を過ぎると一切受け付けないので注意すること。

- ①立教大学派遣留学生単位認定願
- ②留学先大学・機関等が発行した成績証明書
- ③学業成績評価の基準を示す書類
- ④講義内容等、授業内容がわかる書類
- ⑤総授業時間数を示す書類

※学期中に休暇期間などがある場合は、それもわかる資料（アカデミックカレンダーなど）を添付すること。

提出された書類に基づき、現代心理学部および全学共通カリキュラム運営センターが審査を行う。その結果単位認定を受けられないこともある。なお、5月末日までの申請受付分が当該年度の特別卒業（9月卒業）判定の対象となり、10月末日までの申請受付分が当該年度の卒業判定の対象となる。※派遣留学期間後の学籍が休学であっても申請は有効となる。

※申請した単位が認定される以前に退学した場合は、派遣留学単位認定の申請が無効になる。

郵送（書留相当）による派遣留学単位認定申請について

以下の条件すべてに該当する場合は、派遣留学単位認定の申請について郵送（書留相当）で行うことができる。

- ①派遣留学期間終了後、引き続き現地で研究・勉学等を継続して行う者で、1ヵ月以内に帰国できない者
- ②派遣留学期間終了日以前に、①の内容について所属キャンパスの教務事務センターに申し出た者
- ③大学側からの連絡に回答可能な方法を構築できる者
- ④以下の条件を了解できる者
 - ・ 手続書類の不備がないよう申請すること
 - ・ 手続書類不備については、派遣留学単位認定の申請が無効になる場合があること

(2) 認定を受けた科目の単位は、40単位を限度として卒業要件単位に算入できる。40単位を超えて設定された単位については随意科目とし、卒業要件単位に算入されない。

(3) 全学共通科目として認定を受けた科目は、認定を受けたカテゴリーに応じて卒業要件単位に算入することができる。卒業要件単位への算入については全学共通科目、および所属学科の履修規定を参照すること。

(4) 認定を受けた科目の単位は、留学先大学の授業時間数を考慮して決定する。

(5) 留学単位認定科目の成績評価は「認定」とする。

2 認定校留学制度による単位認定

本学部の学生が認定校留学制度により在学留学中に外国の大学で修得した科目の単位は、国際交流制度による派遣留学生の単位認定に準じて扱う。

3 入学前に修得した単位の認定

入学前に本学または本学以外で修得した単位の認定

入学前に本学または本学以外の大学・短期大学等で修得した単位および短期大学・高等専門学校の専攻科での学修について、単位認定を希望する場合は、以下のとおり認定することがある。

(1) 申請時期・方法

入学前に修得した単位の認定を申し出る場合、下記①～④の書類を、定められた期日までに所属キャンパスの教務窓口へ提出すること（入学前の修得単位認定申請は入学時にしか受け付けない）。ただし、本学で修得した科目については、①のみを提出すればよい。

- ① 単位認定申請書（所属キャンパスの教務窓口で配付，SPIRIT 教務部ページからダウンロード可能）
- ② 単位修得先の大学等が発行した成績証明書
- ③ シラバス等，授業内容がわかる書類
- ④ 学業成績評価の基準および授業時間数を示す書類（修得先が，短期大学および高等専門学校の専攻科もしくは海外の機関の場合）

提出された書類に基づき，全学共通カリキュラム運営センターまたは学部が審査を行う。その際，当該学科教員との面談も実施することがある。その結果単位認定を受けられないこともある。

申請期日：2018年4月2日（月）～5日（木） 17：00
結果通知：2018年4月下旬

(2) 認定対象の範囲

〈全学共通科目〉

一定の基準に基づき，全学共通科目に相当する科目を修得したと認められた場合には，その単位を認定する。なお，認定対象としては，総合系科目相当のもののみを扱い，言語系科目相当のものはこの制度での認定対象としない。ただし，言語必修科目については，一定の実力・学習歴がある場合には，別途履修免除制度による単位認定の可能性がある。履修免除制度の詳細については「全学共通科目 言語系科目 2.必修科目に関する特別措置」を参照のこと。

〈専門教育科目〉

一定の基準に基づき，専門教育科目（全科目対象）と同一の科目を履修したと認められた場合は，その単位を認定する。ただし，卒業論文，卒業論文・卒業制作，卒業研究，卒業論文指導演習，卒業論文・卒業制作指導演習，卒業研究指導演習は認定の対象外とする。

(3) 認定科目名・履修区分

〈全学共通科目〉

全学共通科目として認定する場合は，科目名では表示せず，その内容から特定の履修区分に振り替えて認定する。

〈専門教育科目〉

専門教育科目として認定する場合は，その内容から本学開講の科目名に振り替えて認定する。認定を受けた科目の履修区分は，修得先の授業内容をもとに決定する。

(4) 認定単位数の換算

認定を受けた科目の単位は，修得先の授業時間数を考慮して決定する。

(5) 認定科目の単位の扱い

認定を受けた科目は，認定された履修区分に従って卒業要件単位に算入する。

(6) 認定の上限単位数

入学前に本学以外で修得した単位の認定は、上限30単位とする。

なお、全学共通科目について、総合系科目の卒業要件単位数を超えて単位認定された場合、その単位は現代心理学部の卒業要件単位における全学共通科目超過単位の扱いと同様とする。

(7) 認定科目の成績表示

入学前に修得した単位の認定の成績は「認定」とする。

4 入学後に他大学等で修得した単位の認定

入学後に他大学等で修得した単位の認定

入学後に他大学（本学以外の大学・短期大学）等で修得した単位について、認定を希望する場合は、以下のとおり認定することがある。認定対象者は学部1～3年次生で、4年次生は対象外とする。

他大学等の範囲は立教大学学則第2章第10条の2、および第10条の3において規定されているものとする。ただし、海外の大学等での修得単位の単位認定については、派遣留学、認定校留学の認定制度を適用し、本単位認定制度の対象外とする。

(1) 申込時期・方法

入学後に他大学等での修得単位の認定を申し出る場合、事前申請は特に設けず、他大学等での成績確定後に認定の申請を行う。また単位認定の申請は、単位を修得した年度のみ行うことができるものとし、過年度に修得した単位は単位認定の対象外とする。ただし、成績評価が年度を越えて（次年度4月）発表になる科目の場合は、次年度春学期授業開始日までに申請しなければならない。

申請は、下記①～③の書類を、定められた期日までに所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

- ① 単位認定申請書（所属キャンパスの教務窓口で配付）
- ② 単位修得先の大学等が発行した成績証明書
- ③ シラバス等、授業内容がわかる書類

提出された書類に基づき、全学共通カリキュラム運営センターまたは学部が審査を行う。その結果単位認定を受けられないこともある。結果の通知は認定作業が完了次第通知するが、成績評価が年度を越えて発表になる科目は履修登録修正期間（特別措置）の初日までに通知する。

(2) 認定対象の範囲

〈全学共通科目〉

全学共通科目に相当する科目を修得したと認められた場合には、その単位を認定する。なお、認定対象としては、総合系科目相当のもののみを扱い、言語系科目相当のものはこの制度での認定対象としない。

〈専門教育科目〉

各学科の一定の基準に基づき、専門教育科目（全科目対象）と同一の科目を履修したと認められた場合は、その単位を認定する。ただし、原則として、卒業論文、卒業論文・卒業制作、卒業研究、卒業論文指導演習、卒業論文・卒業制作指導演習、卒業研究指導演習は認定の対象外とする。

(3) 認定科目名・履修区分

〈全学共通科目〉

全学共通科目として認定する場合は、科目名では表示せず、その内容から特定の履修区分に振り替えて認定する。

〈専門教育科目〉

専門教育科目として認定する場合は、その内容から本学開講の科目名に振り替えて認定する。

(4) 認定単位数の換算

認定を受けた科目の単位は、修得先の授業時間数を考慮して決定する。

(5) 認定科目の単位の扱い

認定を受けた科目は、認定区分に従って卒業要件単位に算入する。

また、認定を受けた科目は、単位を修得した年度における本学の履修登録上限単位数の計算に含まれるので、履修計画を立てる際に十分注意すること。

Ⅲ-4 履修規定（単位認定）

(6) 認定の上限単位数

学則（「立教大学学則第2章第10条の2第1項～第10条の4第3項」）で定められている単位認定の上限60単位に含まれるが、「入学後に他大学等で修得した単位の認定」としての上限はない。

なお、全学共通科目について、総合系科目の卒業要件単位数を超えて単位認定された場合、その単位は現代心理学部の卒業要件単位における全学共通科目超過単位の扱いと同様とする。

(7) 認定科目の成績表示

成績評価は「認定」とする。

1 学習計画の立て方

大学における学習の特徴は、自分で履修計画を立て、受講する科目を選択し、卒業に必要な単位を満たしていく点にある。そのため、時間割は各自異なったものとなる。

学習の成果をあげるためには、たとえば1時間の講義に対して、その倍の時間の予習と復習が必要である。この主旨からすれば、1年間で履修することができる授業科目の単位数にはおのずと限界がある。そこで、履修登録には上限が設定されている。

履修計画を立てるにあたっては、教員による履修相談、先輩による「履修要項」読み方指南（新1年次生対象）の学部ガイダンスに出席し、また、必要に応じてアカデミックアドバイザーに相談すること。

 1年次生の日程については、『2018年度新入生オリエンテーション行事表』を参照のこと。

2 アカデミックアドバイザー、オフィスアワー

1. アカデミック
アドバイザー

アカデミックアドバイザー制度は、学生一人ひとりに対して担当者（専任教員）を定め、本学における学習全般に関して助言・指導や情報提供を行う制度である。アカデミックアドバイザーは学生にとって身近な相談相手となるので、学習に関する悩みや相談がある場合には、気軽に連絡を取ること。

〈現代心理学部アカデミックアドバイザー〉

学科	年次	アカデミックアドバイザー
心理学科	1年次	大学より指定されたアカデミックアドバイザー
	2年次	1年次と同じアカデミックアドバイザー
	3年次	心理学演習の担当者 ※心理学演習を履修していない者は、2018年度心理学科教務委員。
	4年次	卒業論文指導教員 ※卒業論文指導演習を履修していない者は、心理学演習担当者、心理学演習を履修していないものは2018年度心理学科教務委員。
映像身体学科	1年次	入門演習1・2の担当者
	2年次	1年次と同じアカデミックアドバイザー
	3年次	専門演習の担当者 ※専門演習を履修していない者は、1年次と同じアカデミックアドバイザー。
	4年次	卒業論文または卒業制作の指導教員 ※卒業論文または卒業制作を履修していない者は、3年次と同じアカデミックアドバイザー。

なお、2018年度の1年次のアカデミックアドバイザーは、ウェルカムアワーで発表する。心理学科の教務委員は新座キャンパス教務事務センター窓口にお問い合わせること。

2. オフィスアワー

オフィスアワーは、それぞれの専任教員*が、主として担当する授業に関する質問や勉学の相談等に応じることを目的として、授業期間中の毎週決まった時間帯に研究室で待機する制度である。授業内容等に関する質問がある場合には、オフィスアワーの時間帯に担当教員の研究室を訪ね質問することができる。

*兼任講師の担当する授業に関する質問は、授業終了後の時間等を利用し質問すること。

オフィスアワーの時間帯は履修要項の「教員一覧」を参照すること。

履修登録とは

履修登録は、学生がその年度に自分が履修しようとする科目を届け出る手続きであり、学習計画の出発点となるものである。定期試験期間の試験は、全学共通科目、現代心理学部専門教育科目、学校・社会教育講座科目いずれも同一期間内に、1時限目から5時限目まで行われる。そのことも考慮して、無理のない履修計画を立て、登録してほしい。

学生は自己の責任において履修する科目を決定し、所定の期間内に登録の手続きを完了しなければならない。履修登録をしていない科目は、授業に出席し、また試験を受けても、当該科目の単位を修得することはできない。履修登録は、年2回、4月に春学期科目と通年科目、9月に秋学期科目を届け出る。登録のあとは、履修登録状況画面が更新されるので、必ず内容を確認すること。登録科目に変更の必要がなければ履修登録は完了する。

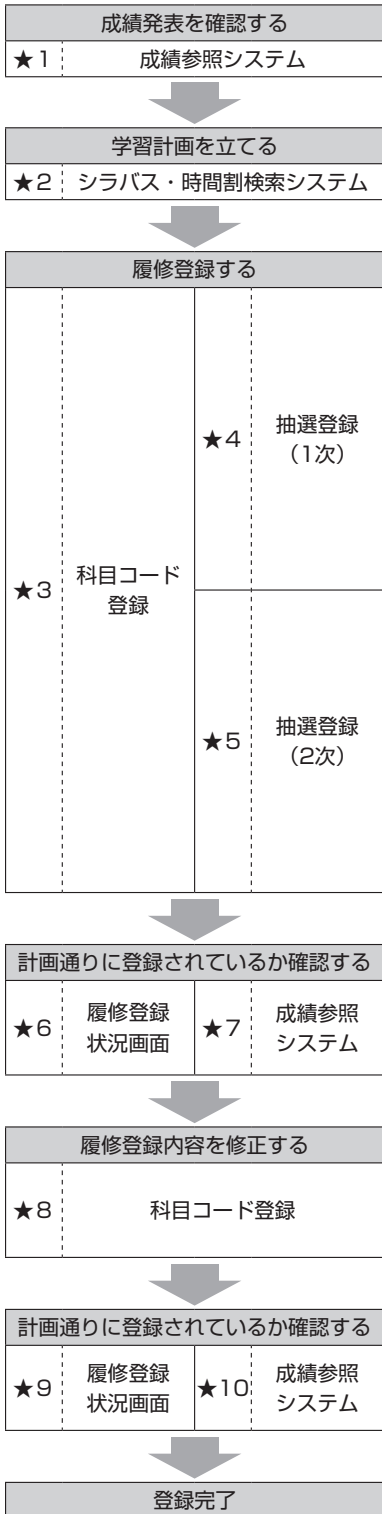
履修登録届出時期

履修登録届出時期と対象科目は以下の通り。

- 4月期 ⇒ 春学期科目、通年科目
- 9月期 ⇒ 秋学期科目

※春学期期間外科目、秋学期期間外科目については履修登録届出時期が異なるので、別途確認すること。

2 履修登録の流れ



履修登録スケジュール

	春学期	秋学期
★1 成績発表	3月13日(火) 10:00	9月5日(水) 10:00
★2 シラバス・時間割検索システムHP公開	3月19日(月)	
★3 科目コード登録期間①	4月3日(火)、4日(水) 各日11:00~26:00	9月12日(水)、13日(木) 各日11:00~26:00
★4 抽選登録期間(1次)	4月5日(木)~6日(金) 5日11:00~17:00、 5日20:00~6日17:00 ※5日17:00~20:00は休止	9月14日(金)~15日(土) 14日11:00~15日17:00
抽選1次履修許可者発表 履修登録状況画面の更新	4月8日(日) 11:00	9月17日(月) 11:00
★3 科目コード登録期間②	4月8日(日)~9日(月) 8日11:00~9日15:00	9月17日(月)、18日(火) 17日11:00~18日15:00
★5 抽選登録期間(2次)	4月8日(日)~9日(月) 8日11:00~9日15:00	9月17日(月)、18日(火) 17日11:00~18日15:00
抽選2次履修許可者発表 履修登録状況画面の更新	4月10日(火) 18:00 4月10日(火) 21:00	9月19日(水) 18:00 9月19日(水) 21:00
★3 科目コード登録期間③	4月10日(火) 18:00~26:00	9月19日(水) 18:00~26:00
	4月11日(水) 11:00~26:00	9月20日(木) 11:00~26:00
	4月12日(木) 11:00~18:00	9月21日(金) 11:00~18:00
★6 履修登録状況画面の更新	4月13日(金) 18:00	9月22日(土) 18:00
★7 成績参照システムの更新	4月14日(土) 10:00	9月24日(月) 10:00
★8 履修登録修正期間	4月17日(火) 11:00~26:00	9月26日(水) 11:00~26:00
	4月18日(水) 11:00~18:00	9月27日(木) 11:00~18:00
★9 履修登録状況画面の更新	4月19日(木) 21:00	9月28日(金) 21:00
★10 成績参照システムの更新	4月23日(月) 10:00	10月1日(月) 10:00

各履修届出方法の詳細については、次頁以降を必ず確認すること。

3 履修届出方法

履修登録には科目の性格によって、自動登録、「その他」登録、抽選登録、科目コード登録の方法がある。届出方法がそれぞれ異なるので、指示に従うこと。抽選登録、科目コード登録の届出は履修登録システム (<https://r.rikkyo.ac.jp/>) により行うこと。このシステムは大学内のコンピューター教室の他、自宅等からもアクセス可能だが、ブラウザの種類、バージョン等により一部使用できない場合もある。

1. 自動登録

(1) 対象科目

〈全学共通科目〉

言語系科目の必修科目（全学共通科目言語系科目必修科目の項を確認すること）。

〈現代心理学部専門教育科目〉

学科課程の科目コード欄に「自動登録」と記載されている科目。履修に関する詳細は各学科履修規定を参照すること。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 大学であらかじめ登録しているため、履修登録に関する手続きは一切不要である。
- ② 配当年次に自動登録される必修科目を修得できずに再履修する場合は、次の年度も自動登録される。
※全学共通科目言語A（英語）の必修科目については全学共通科目言語系科目必修科目「4. 指定年次・学期以後の単位修得方法（英語単位認定試験、英語R、英語ディスカッション再履修）」の項を確認すること。
- ③ 自動登録科目の取り消しは原則として認めない。
- ④ 同一科目が複数の担当教員に分かれる場合、授業開始日前に履修登録状況画面で担当教員を確認すること。

2. 「その他」登録

(1) 対象科目

〈全学共通科目〉

下表のとおり。

〈全学共通科目対象科目〉

	科目	注意事項
総合系科目	GL101, GL111, GL102, GL201, GL202, GL301, GL302 国際協カリテラシー アクティブ・リサーチ1 アクティブ・リサーチ2 国連ユースボランティア 陸前高田プロジェクト 海外インターンシップ1 海外インターンシップ2	全学共通科目総合系科目「3, 履修上の注意」を参照のこと。
言語系科目	英語海外文化研修 ドイツ語海外言語文化研修（中級, 上級） フランス語海外言語文化研修（中級, 上級） スペイン語海外言語文化研修（中級, 上級） 中国語海外言語文化研修（中級, 上級） 中国語海外言語文化研修春（中級, 上級） 朝鮮語海外言語文化研修（中級, 上級） ビクトリア夏ESL2, ハワイ夏ESL1 ダブリン春ESL3, シドニー春ESL3 アジア春ESL2	全学共通科目言語系科目自由科目「2, 自由科目 科目一覧表」を参照のこと。

※総合系科目「海外インターンシップ1・2」、言語系科目「ビクトリア夏ESL2」、「ハワイ夏ESL1」、「ダブリン春ESL3」、「シドニー春ESL3」、「アジア春ESL2」については、2017年度より履修登録上限単位の算入される。

〈現代心理学部専門教育科目〉

学科課程の科目コード欄に「その他」と記載されている科目。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 履修を許可された場合は、大学が登録する。
- ② 履修を許可された科目は、原則として履修の取消はできない。
- ③ 選考・選抜のための提出書類の届出方法、届出期間、選考の有無、結果の発表は科目により異なるので、履修要項の該当頁を参照すること。
- ④ 総合系科目の「その他」登録および抽選登録における申請上限単位数は、各学期6単位である（ただし、「国連ユースボランティア」科目を履修する場合を除く）。また「海外インターンシップ1・2」科目の登録上限の扱いについては、「全学共通科目について」の「**3 履修上の注意** 11. 海外インターンシッププログラムについて」を参照すること。

3. 抽選登録

(1) 対象科目

〈全学共通科目〉

総合系科目は「2018年度総合系科目開講科目一覧」、言語系科目は「自由科目 科目一覧表」を参照すること。

〈現代心理学部専門教育科目〉

学科課程の科目コード欄に「抽選登録」と記載されている科目。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 履修可否は、履修登録システムで発表する。履修を許可された場合は、大学が登録する。
- ② 履修を許可された科目は、原則として履修登録の取消はできない（ただし全学共通科目総合系科目は2次申込終了後に科目コード登録対象となった科目については科目コード登録期間および履修登録修正期間に取消・変更が出来る）。
- ③ 1次申込において抽選定員に達しなかった科目のみ、2次申込受付を行う。
- ④ 必修科目などすでに登録されている科目や、抽選登録申込期間後に登録を予定している科目と重複する曜日・時限には、抽選登録科目の申込を行わないこと。
- ⑤ 総合系科目の抽選登録における1次申込の申請上限単位数は、各学期6単位である。2次申込時においては、1次申込で履修を許可された科目の単位数を含め6単位である。
- ⑥ 言語自由科目（英語）：インディペンデント・モジュール科目の「TOEIC1」, 「TOEIC2」, 「TOEFL2」, 「IELTS」の資格系科目と資格系以外科目の申請上限単位数は、各学期6単位とする。

抽選登録期間内は、何度でも申請科目の確認、修正ができる。

4. 科目コード登録

(1) 対象科目

〈全学共通科目〉

総合系科目で抽選登録の結果、定員を満たさなかった科目（※一部科目を除く）は対象科目となる。なお、申請上限単位数は、「その他」登録・抽選登録科目を含め各学期6単位である。

〈現代心理学部専門教育科目〉

履修登録方法が、自動登録、「その他」登録、抽選登録以外の科目。

※5大学間単位互換制度による他大学科目は、科目コード登録では登録できない。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 科目コード登録と同時期に抽選登録の申込を行うが、全学共通科目については、科目コード登録期間が4月期は4月10日（火）から、9月期は9月19日（水）からとなる。なお科目コード登録対象科目は履修登録システムで発表する。
- ② 病気等やむを得ない理由により、期日に手続きできない場合は、必ず期日前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。また、疑問がある場合は、事前に所属キャンパスの教務窓口で相談してから手続きすること。
- ③ 届出科目が確定したら、「登録内容送信」ボタンを必ずクリックし、届出内容およびエラー状況を確認すること。
- ④ 科目コード登録期間内に、「エラー」の無い状態で完了すること。エラーが出た際は【エラーメッセージと対処法】を参照すること。
- ⑤ 科目コード登録期間中に、登録が正常に行われたことを確認するために、「履修登録」画面に再度ログインし、登録内容を確認すること。
- ⑥ 「履修登録」画面は、科目コード登録期間あるいは履修登録修正期間以外は使用できない。
- ⑦ 履修登録修正期間後、「履修照会」画面に申請内容が反映されるので、申請内容を必ず確認すること。
- ⑧ 科目コード登録で届け出る科目が1科目もない場合も、科目コード登録期間内にアクセスして、

V 履修登録

大学に届け出ている連絡先が正しいかを確認すること。

科目コード登録期間内は、何度でも科目コード登録科目の確認、修正ができる。

4 登録科目の確認について

1. 登録科目の確認方法について

履修登録の内容は、履修登録状況画面により確認できる。これらが正規の登録科目となるため記載事項の誤りの有無を確認すること。更新日程は履修登録システムで確認すること。

また、履修登録の内容と併せて、成績参照画面の更新結果（履修登録後に単位計算した結果）も確認すること。更新日程等詳細は、成績参照システムで確認すること。

Blackboard及びSPIRIT Mobile (mobile V-Campus) の時間割は正式な登録科目の確認には使用できないので注意すること。

〈履修登録状況画面の表示内容と更新日〉

履修登録状況画面は、教務の窓口に提示する際の資料として使用できる。

履修登録状況画面の確認

履修登録状況画面は、履修登録された科目が曜日・時限順に表示されている。下部に「エラー科目」として記載されているものは無効となり、登録されていない（ただし「～上限オーバー」エラーを除く）。

記載事項に誤りがある場合、「～上限オーバー」などのエラー表示がある場合は、5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認を参照し、所定の期間内に手続きをとること。

【表示方法】

- 履修登録システムにアクセスする。
- メニューから『履修登録状況画面』をクリックする (Aの①)。
- 『⇒「WEB履修・成績参照サイト」ログイン』をクリックする (Aの②)。
- ログイン画面が表示されるので、V-CampusID (学生番号) とパスワード (V-Campusと同じ。新入生については、学生証等交付の際に配付される) でログインする。
- 履修登録状況画面が表示される。(B)

A

メニュー
履修登録 (抽選登録・科目コード登録)
履修登録状況画面
履修中止
成績参照

⇒「WEB履修・成績参照サイト」ログイン
②↑ここをクリック

B

必ず一番下までスクロールして、エラー表示が出ていないかチェック

予定している科目がすべて正しく登録されているかをチェック

更新日	更新時間
9月6日(火)	11:00(予定)
9月17日(土)	11:00(予定)
9月19日(月)	21:00(予定)
9月22日(木)	18:00(予定)
9月28日(水)	21:00(予定)

全学共通	専修	講義	その他
6(12)	17(36)	0(0)	0(0)

曜日	時限	科目コード	科目名	担当教員	学期	教室
火	2-2	BX199	アジア経済論	2 野暮 崇	秋学期	
火	4-4	BX144	公共経済学2	2 野暮 崇	秋学期	
火	5-5	BX176	経済産業と政策	2 野暮 崇	秋学期	
火	2-2	BX025	外語講義Ⅱ-英A	2 太田 寛之	春学期	5501
火	3-3	FA136	世界の文化とことば	2 山本 薫	春学期	5121
火	4-4	FE131	生物の多様性	2 多田 多恵子	春学期	0301
火	5-5	FX214	GL1.0.1	2 野暮 崇	春学期	4411
水	1-1	BX184	都市政策論Ⅰ	2 田島 夏寿	春学期	8101
水	1-1	BX185	都市政策論Ⅱ	2 田島 夏寿	秋学期	8101
水	2-2	BX082	経済学論A (英語)	4 大友 敏明	通年	7102
木	1-1	BX139	経済政策論Ⅰ (政・会)	2 櫻井 公人	春学期	D301
木	2-2	BX355	課題解決英語Ⅰ	2 野暮 崇	春学期	5210
木	2-2	AT304	文学講義Ⅲ.0.4	2 本條 知美	秋学期	8202
木	3-3	BX104	ミクロ経済学Ⅱ	2 伊藤 寛也	秋学期	4402
木	4-4	BX102	ミクロ経済学Ⅰ	2 吉川 康也	秋学期	8201

曜日	時限	科目コード	科目名	担当教員	学期	教室	メッセージ
		DM021	基礎英語Ⅱ				必修科目未届け
		DM081	C.S.2.C (英語)				必修科目未届け

! 重要 履修登録状況画面・成績参照画面の記載事項について誤りの有無を必ず確認すること。

注意 履修登録の誤りや、エラー表示への対処は、履修登録修正期間に履修登録システムで行うこと。

- 2. 登録の完了

履修登録状況画面を確認した結果、修正する必要がない（自分が履修する予定の科目がすべて間違いなく記載されている）場合、登録は完了となる。
- 3. 登録の無効について

履修登録状況画面でエラー表示された科目に対して所定の期間内に履修登録修正の手続きをしなかった場合、その届出科目は無効となり、本年度の履修はできない。したがって授業に出て試験を受けても無効となる。

なお、「～上限オーバー」エラーに対して所定の期間内に手続きを行わなかった場合には大学が無作為にオーバー単位数分の科目を削除する。

ⓧ履修登録修正期間以外の修正は原則として認めない。

5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認

- 1. 履修登録の修正

修正対象となる科目は「科目コード登録」で登録した科目に限られる。また、科目コード登録の科目であれば、新たな科目の追加も可能である。

履修登録状況画面の表示内容を確認し、登録内容の修正が必要な場合は、履修登録修正期間に履修登録システムで手続きを行うこと。

なお、エラー表示された科目は、登録無効となっている（ただし、「～上限オーバー」エラーを除く）。
- 2. 修正についての注意点
 - (1) 履修登録状況画面上に記載され、登録無効となった科目については、エラーになった理由を調べ、エラーへの対処を行うこと。【エラーメッセージと対処法】を参照すること。
 - (2) 履修登録修正期間内に、エラーの無い状態で完了すること。

履修登録修正期間内は、何度でも科目コード登録科目の確認、修正ができる。

 - (3) 履修登録修正期間後の修正は原則として認めない。期日に手続きできない場合は、必ず期日前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。
- 3. 履修登録修正結果の確認
 - (1) 履修登録修正期間に届出科目の修正を行った者は、履修登録状況画面で履修登録内容の修正手続きが正しく行われたかを確認すること。履修登録状況画面に記載されている科目が履修登録修正者の正規登録科目となる。したがって、必ず記載事項の誤りの有無を確認すること。
 - (2) 履修登録システムや履修登録状況画面上でエラー表示のまま修正しなかった科目は登録無効となり、削除されている。また、「～上限オーバーエラー」が発生したまま修正しなかった場合は、大学が無作為にオーバー単位数分の科目を削除している。各自が行った修正手続き終了時点の申請状況は申し出期限までに履修登録システムの履修照会画面で確認すること。
- 4. 申し出期限

履修登録の内容に関する疑問がある場合は、下記の申し出期限までに申し出ること。ただし、新たに科目を追加ならびに取消すことはできない。

時期	申し出期限	申し出場所
4月期	4月26日（木）17：00	所属キャンパスの 教務窓口
9月期	10月5日（金）17：00	

申し出の際には以下2点を持参すること。

- ① 履修登録状況画面のコピー
- ② 履修登録システムの履修照会画面のコピー

「履修照会画面」には、履修登録システムで、各自が行った手続き終了時点の申請状況が、各学期の申し出期限まで表示される。

5. 登録の無効について

履修登録状況画面の確認を怠り、届け出たつもりの科目が正しく履修登録されていなかった場合、その科目は無効であり、本学期または本年度の履修はできない。したがって授業に出ても試験を受けても無効となる。

V 履修登録

【エラーメッセージと対処法】

履修登録状況画面 「エラー科目」欄の表示	エラーメッセージへの対応について
[A] 校地移動時間不足	池袋キャンパス開講科目と新座キャンパス開講科目、池袋キャンパス開講科目と明治大学開講科目、新座キャンパス開講科目と明治大学開講科目の授業は1時限分（または昼休み分）の移動時間が必要です。なお、新座キャンパス開講科目と明治大学開講科目などにおいて、実際の移動時間が不足する場合でも自己責任となるので、登録の前に移動に要する時間を必ず確認してください。＊明治大学開講科目は全学共通科目です。 ⇒連続した時限では履修登録できませんので、一方を削除し、どちらか一科目のみ登録してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。
[B] 人数制限科目	この科目は科目コード登録では登録できません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[C] 履修対象者以外	履修できる学生は学部・学科・年次・クラス・入学年度などによって決まっており、該当しない学生は履修できません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[D] 同時履修不可	同一年度または同一学期に複数登録できない科目です。 ⇒履修要項を確認して、一科目のみ登録してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。
[E] 履修要件単位の不足	この科目を履修するためには、履修要項に示されている要件を満たす必要があります。 ⇒要件（別の特定の科目を履修中または修得済でなければ登録できない等）を満たすことができるか確認して、対処（追加・変更・削除）してください。
[F] 履修登録単位数不足	この科目を履修するためには、履修要項に示されている要件を満たす必要があります。 ⇒要件（****を～単位同時に登録が必要）を満たすことができるか確認して、対処（追加・変更・削除）してください。
[G] 講座未登録課程の履修	学校・社会教育講座の各講座課程（教職課程、学芸員課程、司書課程、社会教育主事課程）に登録していない学生は、各講座で開講されている科目を履修登録することができません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[H] 重複履修不可	この科目は、単位修得後に再び履修登録することが認められていません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[J] 同一内容科目履修不可	履修要項の規定を確認してください。 ①科目名が異なっている科目の間で「同時に履修登録することはできない」場合 ⇒一方の科目を削除してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。 ②「すでに修得済の場合は、もう一方の科目を履修登録できない」場合 ⇒登録できませんので、エラー表示科目を削除してください。
[K] 同一科目（担当）不可	すでに修得した科目（科目名・担当教員ともに同じ科目）について再度の履修が認められない場合は、該当科目を履修登録することができません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[L] グループ科目の超過	この科目群は登録できる単位数が制限されていますので、履修要項の規定を確認してください。 ⇒現在エラー表示中の科目を含めて再度確認し、指定の単位数になるように科目を選択しなおして、超過している単位数分の科目を削除してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、同じグループに該当する他の科目を削除してください。
[N] 履修科目上限オーバー	学科・学年により全学共通科目と専門教育科目等の合計の履修登録単位数に上限単位数（科目数）が決まっています。それより多い単位数（科目数）の履修登録はできません。 ⇒科目コード登録により登録した科目の中から選択しなおし、超過した単位数分削除してください。 ★【Q】エラーも同時に表示されている場合の注意★ 全学共通科目（科目コードFA****～FE****, FH****～FI****, FV****）の上限単位数も超過している場合は、まず、全学共通科目のうち、科目コード登録により登録した科目から、削除してください。
[O] 専門教育上限オーバー	専門教育科目について履修登録できる上限単位数（科目数）が決まっています。それより多い単位数（科目数）の履修登録はできません。 ⇒科目コード登録により登録した科目の中から選択しなおし、超過した単位数分削除してください。
[P] 内部科目コードの重複	開講曜日・時限あるいは担当者などが異なる場合でも、同一内容の科目として規定されている科目は、1科目しか履修登録することはできません。 ⇒同一科目となるいずれかの科目を削除してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。
[Q] 全学共通（全カリ）総合系科目上限オーバー	全学共通科目（科目コードFA****～FE****, FH****～FI****, FV****）は、各学期の登録上限単位数（*）が決まっています。 ＊合計6単位までです。 ⇒科目コード登録により登録した科目の中から選択しなおし、超過した単位数分削除してください。
[R] 今年度休講	この科目は今年度休講です。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[S] 科目コードなし	この科目コードの開講科目はありません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[T] 曜日・時限の重複	同じ曜日・時限に開講されている科目は、同時に1科目しか履修登録することができません。 ⇒科目コード登録により登録した科目を削除してください。
[U] 必修科目未届け	今年度または今学期（まで）に修得しなければならない必修科目が、履修登録されていません。 ⇒履修要項で確認し、科目コード登録で登録する科目の場合は、画面上から追加してください。科目コード登録以外の登録方法が指示されている場合は、所属キャンパスの教務窓口で質問してください。

V 履修登録

履修登録状況画面 「エラー科目」欄の表示	エラーメッセージへの対応について
【V】登録時期エラー	9月期に登録する科目（秋学期科目）は、4月期に履修登録できません。同様に、4月期に登録する科目（通年科目、春学期科目）は、9月期に履修登録できません。履修要項で学期を確認してください。 ⇒エラー表示科目を削除してください（科目コードを誤って入力していた場合は、確認して入力しなおしてください）。
【W】外部科目コードの重複	同じ科目コードを複数届け出することはできません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【X】講座履修条件エラー	学校・社会教育講座において、その科目を履修するために必要な条件が定められていますが、その条件を満たしていません。もう一度履修要項と登録内容を確認してください。不明な点がある場合は、学校・社会教育講座事務室窓口で質問してください。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【Y】履修許可条件エラー	この科目を履修するためには履修要項に示されている必要な条件を満たす必要があります。 ⇒要件（別の特定の科目を履修中または修得済でなければ登録できない等）を満たすことができるか確認し、対処（追加・変更・削除）してください。

6 履修中止制度

1. 履修中止制度とは
履修登録を行った科目について、大学の定める一定期間に本人からの申請により、履修を中止することを認める制度である。
履修中止申請を行った科目については、当該学期の授業の出席、試験等の受験、単位の修得はできない。また、履修中止単位数分の新たな履修登録は認められない。
2. 申請した科目の扱い
履修中止を申請された科目は、以下のように扱われる。
(1) 成績評価：評価対象とはならず、成績通知表には「Q（履修中止）」と表示される。また、成績証明書には、科目名、成績評価とも記載されない。
(2) 履修登録上限：上限単位数に算入される。
(3) 追加登録：当該学期開講科目の追加登録は認められない。
(4) GPA：計算対象とならない。
3. 履修中止申請対象とならない科目
履修登録科目のうち、以下の科目は履修中止申請が認められない。ただし、現代心理学部専門教育科目に限り、長期療養等の事由により、現代心理学部において審査のうえ正当であると認められた場合は、この限りではない。事由の提示にあたっては、事実の確認できる証明書類を提出すること。
(1) 必修科目
(2) 他大学で開講している科目（例：f-Campus等）
(3) 集中講義形式で開講する科目
(4) 実習料等授業実施にあたっての費用を別途徴収している科目
専門教育科目 「短期海外留学プログラム」「心理学特講4」「都市の記憶と表象文化」
全学共通科目 「英語海外文化研修」「ドイツ語海外言語文化研修」
「フランス語海外言語文化研修」「スペイン語海外言語文化研修」
「中国語海外言語文化研修」「中国語海外言語文化研修春」
「朝鮮語海外言語文化研修」「ビクトリア夏ESL2」「ハワイ夏ESL1」
「ダブリン春ESL3」「シドニー春ESL3」「アジア春ESL2」
「GL301」「国際協力リテラシー」「アクティブ・リサーチ1」
「国連ユースボランティア」「陸前高田プロジェクト」「海外インターンシップ1」
「海外インターンシップ2」「RSL-コミュニティ（埼玉）」
「RSL-コミュニティ（池袋）」「RSL-ローカル（南魚沼）」
「RSL-グローバル（フィリピン）」「RSL-プロジェクト・プランニング」
学外で集中して実施するスポーツ実習
(5) 特に定める科目
専門教育科目
<心理学科>
「心理学演習1・2」「卒業論文指導演習1・2」「卒業論文」「卒業研究指導演習」
「卒業研究」「社会調査演習」「心理検査実習」「心理面接実習」「情報処理」
<映像身体学科>
「基礎演習」「専門演習1・2」「映像技術入門A・B」「映像技術中級1・2」
「身体系ワークショップ1～7」「映像系ワークショップ1～7」
「超域系ワークショップ1」「舞台技術演習」「卒業論文・卒業制作指導演習1・2」
「卒業論文・卒業制作」
全学共通科目 ①言語系科目の言語自由科目（「英語R」を含む）
②総合系科目
・「学びの精神」のうち以下に挙げる科目
「GL101」

V 履修登録

- ・「多彩な学び6. 知識の現場」の全科目
- ・「スポーツプログラム」「スポーツスタディ」の全科目

学校・社会教育講座 博物館実習（館園実習） 見学・学内実習 図書館実習 図書館実習（司書教諭）
社会教育演習

4. 申請期日

(1) 申請期間

申請期間は履修中止を希望する科目によって異なる。下表を参照し、所定の期間に申請すること。

申請対象科目	申請期間
春学期1開講科目	5月8日（火）～10日（木）17：00
春学期科目 （春学期1開講科目を除く）	6月19日（火）～21日（木）17：00
秋学期1開講科目	10月9日（火）～11日（木）17：00
秋学期科目 （秋学期1開講科目を除く） 通年科目	12月4日（火）～6日（木）17：00

※受付時間11：00～26：00（締切日は11：00～17：00）

入院等により申請期間に申請できない場合は、原則として申請締切日以前に所属キャンパスの教務窓口へ連絡すること。連絡があった場合には、現代心理学部教授会において審査されるので、追試験受験申請書提出時に準じ、事実を確認できる書類を提出すること。

(2) 申請手続き

履修登録システムよりアクセスし、履修中止申請画面より申請手続きを行うこと。

〈手続内容〉

履修中止申請の対象となる科目が表示されているので、中止する科目について、**中止する**ボタンをクリックし、「履修中止申請状態」欄に「履修中止申請中」と表示されたことを確認すること。

(3) 履修中止処理結果の確認

履修中止を行った科目は、下記の日程で成績参照システムで確認できる。履修中止処理が行われた科目の成績欄には、「Q」と表示される。

申請対象科目	確認期間
春学期1開講科目	5月14日（月）～
春学期科目 （春学期1開講科目を除く）	6月25日（月）～
秋学期1開講科目	10月15日（月）～
秋学期科目 （秋学期1開講科目を除く） 通年科目	12月10日（月）～

1 試験に関する規定

現代心理学部専門教育科目の試験に関しては、巻末の「現代心理学部専門教育科目試験規則」もあわせてよく読んでおくこと。他学部および学校・社会教育講座科目の試験に関しては、その科目が設置されている学部等の履修要項および掲示に従うこと。

1. 試験の種類と
実施時期

(1) 定期試験

講義終了後に期間を定めて行う試験。

- ① 春学期末試験——春学期科目に対する試験

※春学期1開講科目は筆記試験を実施しない。

- ② 秋学期末・学年末試験——秋学期科目および通年科目に対する試験

※秋学期1開講科目は筆記試験を実施しない。

*通年科目の試験を、定期試験（中間試験）として春学期末に実施する場合がある。

◎全学の定期試験期間は、以下のとおり定められている。

■ 専門教育科目，全学共通科目，学校・社会教育講座科目とも，同一の定期試験期間で行う。

■ 1日5時限の試験を実施し，各時限とも，全科目同一時刻に試験を開始する。（各時限の試験終了時刻は，科目の設置学部等により，また科目により異なる。）

☞試験は授業と同じ曜日・時限に実施されるとは限らない。

試験方法発表（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）をよく確認すること。

〈2018年度 定期試験期間（全学）〉

春学期末	秋学期末・学年末
2018年7月20日（金）～7月31日（火）	2019年1月24日（木）～2月4日（月）

(2) 最終授業時試験

春学期末，秋学期末・学年末の最終授業時に行う試験。

※春学期1開講科目，秋学期1開講科目は筆記試験を実施しない。

※現代心理学部専門教育科目では，最終授業時筆記試験を実施しない。

(3) 追試験

入院その他やむを得ない事由によって，最終授業時試験および定期試験を受験できなかった場合に実施する試験（いずれも試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に，筆記試験もしくは口頭試問として発表され，追試験対象科目に指定された場合に限る）。

☞ 6 追試験 の項を参照のこと。

(4) 試験時間重複特別試験

試験時間に重複が生じた場合（池袋・新座キャンパス間の移動時間不足を含む）に実施する試験。

☞ 7 試験時間重複特別試験 の項を参照のこと。

(5) 英語単位認定試験

英語単位認定試験は全学共通科目言語系科目言語A必修科目（英語ディスカッション1・2を除く）の不足単位の修得を目的とし，以下の期日に行う試験。その詳細については別途定める（全学共通科目 言語系科目 4 指定年次・学期以後の単位修得方法—必修科目が不合格になったら の項を参照）。

〈2018年度 英語単位認定試験実施日〉

春学期	秋学期
2018年6月9日（土）	2018年11月10日（土）

2. 受験資格・受験資格の喪失・出校停止

- (1) 受験資格
 在学中の者であって、かつ当該科目について履修登録を完了している者のみ、受験資格がある。
- (2) 受験資格の喪失
 次のいずれかに該当する者は、受験資格を喪失し、受験した場合はその答案、レポート等は無効となる。
- ① 学生証または臨時学生証のいずれも不携帯の者*¹
 - ② 当該試験期間中に休学中・停学中の者
 - ③ 出席その他、当該科目の担当教員があらかじめ指示した受験資格要件を欠く者
 - ④ 派遣留学・認定校留学中の者*²
- *1 試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問と発表された受験に関してのみ適用される。
- *2 ケント州立大学およびセントクラウド州立大学の秋学期派遣留学生は、秋学期末・学年末試験を受験することはできない。また同様に、当該科目の授業期間中に派遣留学・認定校留学し、定期試験期間に帰国していた場合においても、受験資格が無い派遣留学・認定校留学がある。詳細は所属キャンパスの教務窓口へ問い合わせること。
- (3) 出校停止による受験不可
 次に該当する者は、出校停止となるため、試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問と発表された試験の受験はできない。追試験の受験を希望する場合は、追試験の申請をすること。出校停止期間中に受験した場合、その試験は無効となる。
- 試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、レポート試験と発表された試験については「5 レポート 2 提出方法 (1)レポート試験」の項を参照すること。

インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）第1種または第2種に罹患中の者（「II 授業（学習生活）6 学校感染症に罹患した場合の措置について」の項を参照）。

2 試験方法

1. 試験方法

- (1) 試験は、筆記、レポートあるいは口頭試問によって実施する。ただし科目によっては、試験によらず平常点によって成績評価する場合もある。
- ⚠️各科目の成績評価方法・基準は、シラバスの記載内容によるが、履修者数、教室などの条件により、やむを得ず変更する場合もある。シラバスの変更については、変更内容を各学部等掲示板およびホームページ上のシラバスにも示すので、確認すること。
- 試験（筆記・レポート・口頭試問）についての詳細は、「2. 試験方法発表」における発表内容が最終的な試験方法の指示となるので、必ず確認すること。
- ⚠️試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）において発表された、筆記試験を欠席した場合、または「レポート試験」と発表されているレポート（「5 レポート」の項を参照）を提出しなかった場合は、シラバスに記載された成績評価の割合にかかわらず、成績評価は「欠席」となる。
- (2) 次の科目は、試験を行わず評価するものとし、試験方法発表掲示（「2. 試験方法発表」の項を参照）を行わない。
- 〈心理学科〉卒業論文指導演習1・2、卒業論文、卒業研究指導演習、卒業研究
 - 〈映像身体学科〉卒業論文・卒業制作指導演習1・2、卒業論文・卒業制作
 - 〈全学共通科目〉全ての言語教育科目 スポーツ実習（スポーツスタディ・スポーツプログラム）
 立教ゼミナール1～5 立教ゼミナール発展編1～5 GL101
 多彩な学び「6. 知識の現場」の全ての科目
 - 〈現代心理学研究科〉修士論文指導演習1・2、修士論文

VI 試験・成績

(3) 次のテスト等は、平常点として扱う。

- ① 学期中随時実施される、筆記による小テスト・中間テスト、学期末の最終テスト（学期末に実施されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においては筆記試験とは発表されないもの）
- ② 学期中随時課されるレポート、学期末に課されるレポート（学期末に課されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においてはレポート試験とは発表されないもの）
- ③ 学期中に随時実施される口頭試問、学期末の口頭試問（学期末に実施されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においては口頭試問とは発表されないもの）
- ④ 全学共通科目言語系科目において実施される筆記によるテスト、口頭試問等は全て平常点として扱う。

2. 試験方法発表

試験方法は、下記の日程で掲示（新座1号館2階、池袋キャンパスは池袋11号館1階エントランスホール）、ならびに、SPIRIT 教務部ページに発表する。

〈2018年度 試験方法発表（予定）〉

春学期1末	2018年5月18日（金）10：00
春学期末・春学期2末	2018年7月2日（月）10：00
秋学期1末	2018年10月31日（水）10：00
秋学期末・秋学期2末・学年末	2018年12月12日（水）10：00

3 筆記試験

筆記試験には、定期試験期間内に行われるもの、および最終授業時に行われるものがある。

1. 試験の時間割 ・試験時間

(1) 現代心理学部専門教育科目および全学共通科目の定期試験時間は、通常の授業とは異なり70分である。

〈定期試験期間内筆記試験 試験時間〉

時限	1	2	3	4	5
試験時間	9：10 } 10：20	11：00 } 12：10	13：20 } 14：30	15：10 } 16：20	17：00 } 18：10

*科目によっては、試験時間が変更される場合がある。

*他学部科目、学校・社会教育講座科目の試験時間は、当該学部等の履修要項、試験時間割発表掲示を確認すること。

〈最終授業時筆記試験 試験時間〉

通常授業時間内（Ⅱ授業（学習生活）2 授業時間 の項を参照）で行われる。

*科目によっては、試験時間が変更される場合がある。

*他学部科目、学校・社会教育講座科目の試験時間は、当該学部等の履修要項、試験時間割発表掲示を確認すること。

㊦ 交通機関の遅れなどにより、試験の開始・終了時刻が遅くなる可能性があるため、試験当日の行動予定を立てるに際して、そのことを考慮しておくこと。

(2) 試験方法等

- ① 試験方法・試験日程・時間割・試験場は、掲示（新座1号館2階、池袋キャンパスは池袋11号館1階エントランスホール）ならびにSPIRIT 教務部ページに発表する。（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）
- ② 試験日程には、予備日が設けられている。予備日とは、定期試験期間内筆記試験および最終授業時筆記試験において、災害等、突発的な事情により試験を実施することができなくなった場合の代替日を示す。予備日に代替された科目、予備日の試験日程については、随時試験掲示およびホーム

VI 試験・成績

ページ上で発表するので、必ず確認すること。

- ③ 受験者は、必ず指定された教室で受験すること。
- ④ 試験は、授業時の教室と異なる教室で行うことがあるので注意すること。

2. 筆記試験受験時の学生証携帯義務

- (1) 学生証（または臨時学生証）を携帯しない場合は、いかなる理由があっても受験できない。
- (2) 受験中は、学生証（または臨時学生証）を机上の試験監督者の見やすい位置に明示しておかなければならない。
- (3) 学生証を紛失・破損した場合や、劣化により顔写真が不鮮明となった場合は、直ちに所属キャンパスの教務窓口で再交付を受けること。
- (4) 試験当日、学生証を忘れた者は所属キャンパスの教務窓口で「臨時学生証」の発行を受けること。
臨時学生証 発行手数料500円・2日間有効・写真不要
*試験当日に入金できない場合は、所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせのこと。

3. 試験場への入退室

- (1) 定期試験期間内現代心理学部専門教育科目筆記試験の受験者は試験時間開始の15分前までに試験場前の廊下に集合し、試験場入口で指定された場所に着席すること。
- (2) 定期試験期間内全学共通科目筆記試験の受験者は試験時間開始の10分前までに試験場に入室すること。
- (3) 最終授業時筆記試験の受験者は授業開始時刻までに試験場に入室すること。
- (4) 試験開始後15分までの遅刻については、試験監督者が許可した場合に受験を認める。
- (5) 交通機関等の遅延による遅刻者であって、交通機関発行の遅延証明書を持参した者は、試験開始後15～30分までの遅刻については試験監督者が許可した場合に限り、受験を認める。
- (6) 上記(5)において、やむを得ず「遅延証明書」を持参しなかった者については、試験場で「交通機関遅延状況説明書」に必要事項を記入した上で、試験監督者の許可を得て受験することができる。（監督者から指定された期日までに、交通機関発行の遅延証明書の提出が必要となる）
- (7) 試験開始後30分を経過しなければ退室することができない。また、原則として試験終了前10分間は、退室することができない。
- (8) 交通機関の大幅な遅延、事件、事故などのため試験時間に遅れそうな場合は、速やかに所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を受けること。

4. その他

- (1) 解答用紙および試験出席票に記入する所属、学年、学生番号、氏名は、特に指示のないかぎりペンまたはボールペンで記入すること。
- (2) 学生番号・氏名が未記入の答案は無効とする。
- (3) 当該科目の履修登録を行わない者は、受験資格を持たない。万一受験した場合は、その答案は無効とする。
- (4) 受験した科目の解答用紙および試験出席票、試験問題は、白紙であっても氏名等を記入して、必ず提出すること。
- (5) 携帯電話等の通信機器類は、試験場での使用を認めない（試験方法に「すべて持込可」とされた科目の場合も使用不可）。また、同機器類の時計・電卓としての使用も認めない。
- (6) 筆記用具は筆入れから出すこと。筆記用具・学生証（臨時学生証）以外のものは、当該科目について特に許可されているものを除き、かばん等に入れて、指定された場所に、試験開始前におくこと。
- (7) 受験中は、学生同士の会話、物の貸借を一切禁ずる。

4 口頭試問

定期試験として行う口頭試問の詳細については、掲示（新座1号館2階、池袋キャンパスは池袋11号館1階エントランスホール）ならびに、SPIRIT 教務部ページに発表する試験方法発表にて確認すること。（「**2 試験方法** 2. 試験方法発表」の項を参照）

本学部は実施しない

5 レポート

レポートを作成する場合の注意事項は後述の「レポート・論文作成時のルールについて」も参照すること。

1. レポート

- (1) レポートには下記の2種類がある。
- ① 試験方法発表（「**2 試験方法** 2. 試験方法発表」の項を参照）において「レポート試験」と発表され、レポート提出期間に提出するレポート
 - ② 最終授業時など、①以外の方法・時期に提出するレポート
- (2) 上記(1)–①におけるレポートの提出日時、提出場所、題目の発表
提出日時、提出場所、題目は、試験方法と同時に、掲示（新座1号館2階、池袋キャンパスは池袋11号館1階エントランスホール）、ならびに、SPIRIT 教務部ページに発表する。（「**2 試験方法** 2. 試験方法発表」の項を参照）

2. 提出方法

- (1) レポート試験
試験方法発表（「**2 試験方法** 2. 試験方法発表」の項を参照）で指定された期日・場所に、専用のレポート表紙を綴じ付け、レポート提出証を添えて提出すること。※2018年度より、一部webで受付する場合もある。試験方法発表にて詳細を発表するので注意すること。
- ① 指定期日後は、理由の如何にかかわらず一切受け付けないので十分注意すること。（後述「レポート・論文等の提出に際しての注意」も参照）
 - ② レポートは、同一科目につき複数提出することはできない。万一、複数提出された場合は、最初の1件のみを採点の対象とする。また、一度提出されたレポートの返却はしないので、不備がないか十分確認のうえ提出すること。
 - ③ レポートの用紙は、特に指定のない限りA4判の用紙を使用すること。
 - ④ レポート表紙とレポート提出証（いずれも専用のもの）の配付開始時期は、試験方法発表（「**2 試験方法** 2. 試験方法発表」の項を参照）により指示する。
レポート表紙……A4サイズで科目設置学部等により色が異なる
レポート提出証…レポート表紙と同色
 - ⑤ レポート表紙、レポート提出証は、ペンまたはボールペンで必要事項を記入すること。
 - ⑥ レポートとレポート表紙はホチキスで2箇所以上綴じること。
 - ⑦ 提出されたレポートは、レポート表紙の整理記号欄の記入内容により採点されるので、記入間違いや他科目と表紙を付け間違えないよう十分注意すること。
 - ⑧ レポート表紙に、学生番号・氏名が未記入のレポートは無効とする。
 - ⑨ 当該科目の履修登録を完了していない者はレポート提出資格を持たない。万一レポートが提出された場合は、そのレポートを無効とする。
 - ⑩ 病気、その他やむを得ない事情により本人が提出できない場合には、代理人による提出を認める（以下「レポート・論文等の提出に際しての注意」参照）。
 - ⑪ 学校感染症第1種または第2種に罹患した場合は、速やかに所属キャンパスの教務窓口ご連絡をして指示を受けること（以下「レポート・論文等の提出に際しての注意」参照）。

レポート・論文等の提出に際しての注意

レポート・論文等は、指定された提出期限後は受理しないので時間厳守のこと。交通機関等の遅延も予測されるので、提出にあたっては十分余裕をもって臨み、本人が提出できない場合は、信頼できる代理人に依頼する等の措置を講ずること。ただし、締切日当日、不測の事態により、本人または代理人が提出期限までにレポート・論文等の提出に来られない場合は、当日の締め切り時刻以前にその対応について所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を受けること。不測の事態とは、事件・事故や交通機関等の大幅な遅延などの場合を言う。

*プリンター等、機器の故障は不測の事態に含まれないので注意すること。

学校感染症のため出校停止となった学生のレポート・卒業論文・修士論文の提出について

上記に該当した場合は、以下の指示に従うこと。

1. 上記の提出物の提出期間において本人が出校停止中である場合は、代理人を立て、当該の期間内に提出することを原則とする。

代理人による不備は、依頼した本人の責任となる。

2. 1. において代理人を立てることができない場合は、締め切り時刻以前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。

(以下のすべてに該当する場合、後日の提出を認めることがある)

- ① 上記2. に該当する学生であること。
- ② 医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」の提出によって、締切日当日に学校感染症に罹患して出校停止中であった事実が証明できること。
- ③ 「出校可能となった日の翌日（窓口対応可能日）」に提出すること。

(2) レポート試験以外のレポート

- ① 各自で表紙をつけ、表紙には、必要事項（科目名・科目担当教員名・所属学部・学科・年次・学生番号・氏名）を必ず記入すること。
- ② 紙媒体以外の提出方法による場合も、上記必要事項を必ず明記すること。
- ③ その他の提出方法については、科目担当教員の指示に従うこと。科目担当教員へ提出するよう指示されたレポートは直接科目担当教員に手渡すこと。

レポート・論文作成時のルールについて

皆さんは、さまざまな授業でレポートや論文を書く機会があると思います。授業の中で指示されて書くレポートや期末試験の代わりに書くレポート、討論会のために作成する論文や卒業論文など、その性質はさまざまですが、どのレポートや論文にも共通なルールがいくつかあります。その一つが、他人が書いたものを写して、あたかも自分が書いたかのように装ってはいけない、というルールです。

これは、元の文章や図表が書物のものであっても、Web上のデータのものであっても、友人のレポートであっても同じです。たとえその文章が著作権を放棄したもので、リンクフリーのサイトに載っているものでも同じです。問題は、元の文章の性格ではなく、他の人の成果を自分の成果であるかのように装ってはいけない、ということなのです。このような他人の成果を盗む行為は「盗用」や「剽窃（ひょうせつ）」と呼ばれます。

もちろん、他の人がこれまで積み重ねてきた研究の業績を自分のレポートや論文に全く利用してはいけないということではありません。独りよがりにならないためには、従来の研究の成果に大いに学ばなければなりません。他人の業績のアイデアを利用することもあるでしょうし、他人の作った文章や図表などを引用して説明を行う場合もあるでしょう。

ただし、こうした利用や引用にはルールがあります。他の人のアイデアや文章、図表などを用いるときには、それがもともと誰の成果なのかを明記するというルールです。このルールをないがしろにすれば、悪気のあるなしにかかわらず「盗用」や「剽窃」になってしまうのです。

具体的な表記の仕方については授業で学びますが、一般的には次の通りです。

- ・引用対象が文章なら、その文章を「 」で囲み、他の部分と区別する。
- ・その対象の出典を明記する。

【例】【図書の場合】 著者名、『書名』、出版社、発行年、ページ

【雑誌論文、記事の場合】 筆者名、「論文名」、『雑誌名』、巻、号、発行年月、ページ

【ホームページの場合】 URL、取得年月日

【新聞記事の場合】 新聞紙名、朝夕刊の区別、号数、第何面か

これ以外にも表記の仕方にはいろいろなバリエーションがあります。そうした表記の方法や、そもそも論文やレポートでどのくらいの引用をすべきなのかといった点については教員の指導に従ってください。

盗用や剽窃は文章を書く場合にはもっとも恥ずべき行為のひとつであり、研究者がこうしたことを行えば研究者生命を失いかねない程の大問題になります。皆さんのレポートや論文についてもこうした盗用・剽窃がなされないように適切に指導することと、こうした行為が行われたときには厳しく対処することが全学の教員で合意されています。

レポートや論文は他の人の成果を調べて書き写したり、コピーアンドペーストのみで作ったりするものではありません。さまざまな研究成果やデータをルールに則って利用しつつ、最終的に自分の考えや主張を論じることで完成するものです。他者の成果には十分に敬意を払い、ルールを守って論文やレポートを作成するようにしましょう。

6 追試験

入院その他やむを得ない事由によって春学期末試験または秋学期末・学年末試験を受験できなかった者で、追試験受験申請書を提出した者に対しては、審査の上追試験の受験を許可することがある。

☞ 「現代心理学部専門教育科目試験規則」第4章を参照のこと。

1. 対象科目

追試験の対象となる科目は、試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問として発表され、追試験対象科目に指定された、最終授業時試験科目および定期試験科目である。

- * 試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、追試験対象科目として指定されなかった科目は、追試験の対象とはならない。
- * その他授業時間内に科目担当教員が任意に実施する小テスト・中間テスト・最終テストは、追試験の対象とはならない。それらが実施された授業日に欠席した場合は、科目担当教員の指示に従うこと。

2. 受験申請書

追試験受験申請書を、履修登録状況画面のコピーと別表の証明書を添付の上、試験実施日の翌日から1週間以内（翌週の同じ曜日まで。締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に所属キャンパスの教務窓口に提出すること。

追試験受験申請書は、所属キャンパスの教務窓口で交付する。

(SPIRIT 教務部ページからもダウンロード可能。)

- * 入院等により期間内に追試験受験申請書を提出できない場合は、必ず提出期間内に所属キャンパスの教務窓口に連絡し、指示に従うこと。特に、学校感染症（第1種または第2種）に罹患した場合は、速やかに連絡し、指示を受けること。
- * 所属キャンパスとは異なるキャンパスで履修した科目の追試験受験申請書は、当該科目の開講キャンパス窓口に提出すること。ただし、所属キャンパスで履修した科目を同時に申請する場合はその限りではないので、事前に所属キャンパスの教務窓口に相談すること。

3. 対象者・試験方法・時間割の発表

対象者・試験方法・時間割は、下記の日程で掲示（新座7号館1階移動掲示板、池袋キャンパスは池袋11号館1階エントランスホール）、ならびにSPIRIT 教務部ページに発表する。

〈2018年度 追試験対象者・試験方法・時間割発表〉

春学期末	秋学期末・学年末
2018年8月27日(月) 10:00	2019年2月18日(月) 10:00

- * 掲示による発表は当該科目の開講キャンパスにて行う。

4. 追試験実施期間

追試験は、次の期間に実施する。

〈2018年度 追試験 実施期間〉

追試験実施方法	春学期末	秋学期末・学年末
筆記試験 口頭試問	実施期間： 2018年9月5日(水)～12日(水)	実施期間： 2019年3月1日(金)～7日(木)
レポートによる追試験	提出期間： 2018年9月5日(水) ～10日(月) 16:00	提出期間： 2019年3月1日(金) ～4日(月) 17:00

- * 追試験の実施は当該科目の開講キャンパスにて行う。

5. 追試験（筆記試験）受験についての注意事項

実施要領は **3** 筆記試験 に準じる。

なお、追試験を受験できなかった場合の特別措置は一切行わない。

〈別表：追試験受験申請書添付書類〉

	試験欠席事由	添付するべき証明書類 <small>事由によっては、立教大学が記入用紙を作成する場合がある</small>
(1)	入院またはそれに準ずる登校不能（風邪・下痢等の一時的な疾病は含まない）ただし、必修科目、先修科目については欄外*を参照	入院先機関の発行する入院証明書 ^{注1)}
(2)	インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）第1種または第2種の罹患による登校不能 ^{注2)}	医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」 ^{注3)} 、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」 ^{注4)}
(3)	忌引（保証人、配偶者および3親等以内の血族または姻族に限る）（法事は含まない） ^{注5)}	本人と保証人の署名・捺印のある書類（様式は自由、本人との続柄を明記）およびその事実を明らかにするもの（死亡に関する公的証明書もしくは会葬礼状等）
(4)	交通機関の30分以上の遅延	交通機関発行の遅延証明書
(5)	重大な災害による登校不能	官公庁発行の被災証明書
(6)	学校・社会教育講座の各種実習・体験等	実習・体験期間証明書
(7)	就職試験（就職試験の日程が変更できない場合に限る。セミナー、複数企業の合同説明会、OB・OG訪問等は含まない）	本人が受験したことを証明する受験先機関発行の証明書（就職試験の場所、日時を明記、社印が押印されていること）
(8)	他大学大学院入学試験	受験票のコピー
(9)	日本代表としてのスポーツ公式競技への参加	派遣元団体が大学に宛てた公文書
(10)	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭、または裁判員に選任された公判のための裁判所への出頭	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭の場合、出頭した裁判所での出頭日の証明を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」、裁判員に選任された場合、裁判員職務従事期間についての「証明書」
(11)	上記10事項に準ずる事由 ^{注6)}	

* 必修科目、先修科目については、医師の診断書がある病気・けがによる登校不能についても欠席事由とする。

先修科目とは、ある科目を履修するための条件として、先立って単位を修得しておくことが必要な科目をいう。具体的には、科目設置学科等の規定を参照すること。

注1) 上記(1)の場合の入院証明書・医師の診断書は、試験を欠席した日の入院・病気・けがを証明する内容であること。

注2) 上記(2)に該当した場合には、速やかに所属キャンパスの教務窓口ご連絡し指示を受けること。なお、罹患中に試験を受験した場合には、その試験は無効となる。

注3) 上記(2)に該当した場合の医師の診断書において、罹患時と治癒時の受診医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「罹患期間についての証明」が受けられない場合があるので注意が必要である。受診医療機関を変更する場合は、罹患時に受診した医療機関が発行する「罹患日記載がある『診断書』」を必ず取得しておくこと。こうすることにより、罹患時に取得した「診断書」と治癒時に受診した医療機関が発行する『治癒日と登校可能日の記載がある「診断書」』の2種類をもって「罹患期間についての証明」とすることが可能となる。

注4) 上記(2)に該当した場合の「治癒証明書」の書式は、SPIRIT 教務部ページからダウンロードすること。

注5) 3親等以内の血族または姻族とは次を指す。

血族—父母・子、祖父母・兄弟姉妹・孫、曾祖父母・伯叔父母・甥姪・曾孫

姻族—配偶者の父母・子の配偶者・配偶者の子（配偶者の前婚における子など）、配偶者の祖父母・配偶者の兄弟、姉妹・孫の配偶者・配偶者の孫（配偶者の前婚における孫など）・兄弟姉妹の配偶者、配偶者の曾祖父母・配偶者の伯叔父母・配偶者の甥姪・曾孫の配偶者・配偶者の曾孫（配偶者の前婚における曾孫など）・甥姪の配偶者・伯叔父母の配偶者

注6) 原則として、事前の届出に対して審査を行うので、所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせのこと。

7 試験時間重複特別試験

試験時間に重複が生じた場合（池袋・新座キャンパス間の移動時間不足を含む）は、試験時間重複特別試験を実施する。その場合は、原則として、他学部等の科目を定期試験期間内で受験し、自学部科目を特別試験において受験すること。

1. 受験申請書

受験希望者は、試験日時発表後から試験実施期間開始の1週間前までに、試験時間重複特別試験受験申請書を履修登録状況画面のコピーを添付の上、所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。ただし、試験時間が変更されたことによって試験時間に重複が生じた場合は、試験実施日の翌日から2日以内に試験時間重複特別試験受験申請書を所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

2. 対象者・試験方法・時間割の発表

対象者・試験方法・時間割は、下記の日程で掲示（新座7号館1階移動掲示板、池袋キャンパスは池袋11号館1階エントランスホール）、ならびにSPIRIT 教務部ページに発表する。

〈2018年度 試験時間重複特別試験対象者・試験方法・時間割発表〉

春学期末	秋学期末・学年末
2018年8月27日(月) 10:00	2019年2月18日(月) 10:00

* 掲示による発表は当該科目の開講キャンパスにて行う。

3. 実施期間

試験時間重複特別試験は、次の期間に実施する。

〈2018年度 試験時間重複特別試験 筆記試験・口頭試問実施期間〉

春学期末	秋学期末・学年末
2018年9月5日(水)～12日(水)	2019年3月1日(金)～7日(木)

〈2018年度 試験時間重複特別試験 レポート提出期間〉

春学期末	秋学期末・学年末
2018年9月5日(水)～10日(月) 16:00	2019年3月1日(金)～4日(月) 17:00

* 試験時間重複特別試験の実施は当該科目の開講キャンパスにて行う。

4. 試験時間重複特別試験（筆記試験）受験についての注意事項

実施要領は **3 筆記試験** に準じる。

なお、試験時間重複特別試験を受験できなかった場合の特別措置は一切行わない。

8 不正行為

試験は、学生各自の科目履修の成果を確認する趣旨のものであり、その趣旨に反する行為は不正行為とみなす。

1. 退室命令

試験中に不正行為とみなされる行為が発見された場合、不正行為者は、試験場から直ちに退出を命ぜられる。

2. 受験資格の喪失

- (1) 受験中に不正行為を行った者は、不正行為以降の全学共通科目、他学部科目等を含むその期の全科目の受験資格（レポート提出資格等を含む）を失う。
- (2) 英語単位認定試験を受験中に不正行為を行った者は、同日に行われる試験を含め、当該試験期間（6月実施：春学期末試験終了まで、11月実施：秋学期末・学年末試験終了まで）の筆記試験全科目の受験資格を失い、その成績はすべて不合格となる。

3. 当該試験期間の成績

不正行為者の当該試験期間の成績は以下の通りとする。

- (1) 定期試験期間内筆記試験科目、最終授業時筆記試験科目については、すでに受験した科目を含む全科目の成績を不合格とする。
- (2) 春学期末または秋学期末・学年末試験期間に不正行為を行った場合、6月または11月に受験した

VI 試験・成績

英語単位認定試験の受験資格をさかのぼって失い、合格は取り消される。

- (3) レポート試験科目、平常点科目、口頭試問科目等、原則として定期試験期間内筆記試験、最終授業時筆記試験以外の方法のみによって成績評価を実施する科目については、不正行為以前の成績評価は有効とする。

4. 処分の決定

- (1) 不正行為者の処分は、その者の所属する学部教授会がこれを決定する。
 (2) 処分は、訓告・停学・退学の3種類とする。不正行為の処分は、原則として停学とする。
 (3) 処分決定後は、不正行為以降全ての受験資格を喪失する。

9 成績

1. 成績評価

授業科目の成績は以下の基準に従い、S、A、B、Cを合格、D、欠を不合格とする。

⊙単位を修得した科目の評価を取り消すことはできない。

〈成績の評価〉

評価		GP <small>注1)</small>	評価基準	成績証明書 の表示
合格	S (100~90点)	4	当該科目の目標をほぼ完全に達成していると認められる	S
	A (89~80点)	3	当該科目の目標を十分に達成していると認められる	A
	B (79~70点)	2	当該科目の目標の基幹部分は達成しているものと認められる	B
	C (69~60点)	1	当該科目の目標のうち最低限は達成していると認められる	C
不合格	D (59~0点)	0	当該科目の目標に及ばない	F
	欠席	0	試験未受験等により評価できないもの <small>注4)</small>	
履修中止 <small>注2)</small>	Q	—	所定の期日までに履修中止の手続きをしたもの <small>注3)</small>	表示 されない

注1) 「4. GPA」の項参照

注2) 「V 履修登録 6 履修中止制度」の項参照

注3) 成績確定前に、休学したものおよび在学留学したものも含む。

注4) 筆記試験・口頭試問を欠席した場合、また試験発表掲示にレポート試験と発表されているレポート（5 レポートの項を参照）を提出しなかった場合は、シラバスに記載された成績評価の割合にかかわらず、成績評価は「欠席」となる。

次のように表示される科目もある。(GPA^{注1)}算出対象外)

評価	成績証明書
合格	合
不合格	H
認定	認

注1) 「4. GPA」の項参照

2. 成績の発表

成績は下記の日程で成績参照システムに発表する。電話・メールによる成績の問い合わせには一切応じない。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

VI 試験・成績

〈成績の発表〉

春学期科目	2018年度在籍者 (特別卒業[9月卒業]申請者を含む)	2018年9月5日(水)
秋学期科目 通年科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2019年2月28日(木)
	2019年度在籍者	2019年3月13日(水)
	2019年度在籍者 (2019年度の新年次での発表)	2019年3月28日(木)

〈追試験結果の発表〉

春学期科目	2018年度在籍者 (特別卒業[9月卒業]申請者を含む)	2018年9月24日(月)
秋学期科目 通年科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2019年3月13日(水)
	2019年度在籍者	

3. 成績評価調査 の申請

成績評価調査制度は、成績評価が間違っていると思われる十分な理由がある場合に、科目担当教員に成績評価に間違いがないか、の確認を求めるとのものであり、成績の再考を求めるとのものではない。調査の申請にあたっては、「成績評価調査申請書」にその理由を詳しく記入し、下記の期間内に所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

* 「成績評価調査申請書」は所属キャンパスの教務窓口で配付する。

〈成績評価調査申請書提出期間〉

2018年度 春学期科目	特別卒業(9月卒業)申請者	2018年9月5日(水) ~7日(金) 16:00
	2018年度在籍者 (特別卒業[9月卒業]申請者を除く)	2018年9月5日(水) ~10日(月) 16:00
2018年度 秋学期科目 通年科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2019年2月28日(木) ~3月2日(土) 12:30
	2019年度在籍者 (2018年度卒業合格 発表対象者を除く)	2019年3月13日(水) ~16日(土) 12:30

申請期限は遵守すること。

入院等により、期間内に成績評価調査申請書を提出できない場合は、必ず提出期間内に所属キャンパスの教務窓口へ連絡し、指示に従うこと。

4. GPA

(1) GPA (Grade Point Average)

GPAとは、履修した各科目の成績評価に対してそれぞれポイント (GP) を定め、当該期間の成績の平均値を示す成績評価結果の表示方法の一つである。GPAは、不合格科目も含め、学期ごと、学年ごとの値が算出されるので、学生が自分の学修の履歴や到達度を把握することができ、学修の促進に効果的な成績評価方法である。米国をはじめ海外の多くの大学が採用しており、留学や海外の大学院への進学を希望する場合には、提出が求められるものでもある。

(2) GPA算出方法

下記計算式によりGPAを求める。

* 小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数値で、表示する。

$$\frac{S\text{の修得単位数} \times 4 + A\text{の修得単位数} \times 3 + B\text{の修得単位数} \times 2 + C\text{の修得単位数} \times 1}{\text{GPA算出対象科目の総履修登録単位数 (D・欠を含む)}}$$

⓪ 個々の学生のGPA値に関する問い合わせには応じない。

(3) GPA算出対象

① GPA算出対象科目

成績評価が、S・A・B・C・D・欠 と表示される科目とする。

② GPA算出対象外科目

- ◇ 履修中止を申請した科目
- ◇ 単位認定科目 (3年次編入や留学等により単位認定され成績評価が「認」と表示される科目)
- ◇ 学校・社会教育講座の科目
- ◇ 成績評価が 合・不 で表示される科目

(4) GPA値の表示形式

- ◇ 成績証明書には、通算のGPAを表示する。
- ◇ 前頁「2. 成績の発表」の成績参照システムでの成績発表においては、通算のGPAの他、履修年度ごと、学期ごとのGPAを表示する。

* 通年科目については、秋学期科目に含めてGPAを計算し、表示する。

1 卒業および学位に関する規定

現代心理学部に4年以上在学して、所定の単位を修得した者には、心理学科は学士（心理学）、映像身体学科は学士（映像身体学）の学位を授与する。

なお、本学の卒業年月日は、当該年度3月31日付とする。

*休学などによる学修中断の期間は、この在学年数には数えられない。詳細は、「Ⅶ 学生証・学籍・学費 2 学籍」を参照。

2 最長在学年数

本学における最長在学年数は8年とする。これを超えて在学することはできない。なお、3年次に編入学または転部・転科・転専修した者は6年、2年次に転部・転科したものは7年とする。

3 卒業合否の発表

卒業合否は2月28日（木）に成績参照システムにて発表する。在学8学期目以降の4年次生は必ず本人が卒業の合否を確認すること。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

☎電話や電子メールなどでの問い合わせには一切応じない。

4 卒業の延期（希望留年）

1. 希望留年とは 卒業に必要な所定の単位を修得した後も本学に留まり、勉学を継続するため在学（留年）を希望する場合、所定の受付期間に、所定の書式（希望留年願）により、保証人連署をもって願い出て、許可を受けて留年することができる。この場合、卒業は翌年度末まで認められない。この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。許可された場合、当該年次に納入すべき所定の学費その他の納入金の全額を納入することになる。なお、特別卒業を申請し、許可された場合、9月19日付で卒業となる。特別卒業に関しては次頁「5 特別卒業」を参照。

2. 希望留年願の配付
 配付期間 2018年12月1日（土）9：00～2019年3月13日（水）17：00
 配付場所 教務窓口（巻頭参照）

3. 希望留年願の受付と許可者発表
 受付期間 2019年2月28日（木）10：00～3月13日（水）17：00
 *受付期間以外の申請はいっさい受け付けないので注意すること。
 *この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。

受付場所 教務窓口（巻頭参照）

許可者発表 2019年3月18日（月）
 成績参照システムに発表する。
 発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

5 特別卒業

1. 特別卒業（9月卒業）とは 「特別卒業（9月卒業）」とは、以下の6つの条件をすべて満たした学生が、所属学部が行う卒業判定で合格した場合、年度途中の9月19日付で卒業することができる制度である。

Ⅶ 卒業に関する事項

〈特別卒業（9月卒業）申請条件〉

1. 所定の受付期間に、所定の書式（特別卒業願）によって保証人連署をもって願い出ていること
2. 学部学生であること
3. 申請時において、在学8学期目以降の学生であること^{*1}
4. 申請時において、所属学部等の卒業に必要な単位を、修得または修得見込^{*2}であること
5. 申請学期において、在学中であること^{*3}
6. 申請時において、当該年次の「学費^{*4}その他の納入金」の全額または分納1を納めていること

この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。特別卒業願を提出し特別卒業を許可された場合の「学費^{*4}その他の納入金」は、学費^{*4}その他の納入金の2分の1額とする。

※1：休学中の期間は、在学年数ならびに在学学期数に含まれない。

※2：当該年度春学期科目の修得により、所属学部等の卒業に必要な単位を修得する見込がある学生。

※3：休学中・停学中でないこと。

※4：学費とは、授業料（在籍料を含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。

※5：特別卒業を許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が特別卒業の申請条件として納入すべき金額に不足する場合は、特別卒業願を受理しない。

2. 特別卒業願の 配付

配付期間 2018年6月1日（金）9：00～7月16日（月）17：00

配付場所 教務窓口（巻頭参照）

3. 特別卒業申請 受付と許可者 発表

受付期間 2018年7月2日（月）9：00～7月16日（月）17：00

*受付期間以外の申請はいっさい受け付けないので注意すること。

*この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。

受付場所 教務窓口（巻頭参照）

許可者発表 2018年9月5日（水）

成績参照システムに発表する。

発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

4. 特別卒業式

2018年9月19日（水）

時間については、許可者発表日にあわせて成績参照システムに発表する。

1 学生証

1. 学生証

学生証は、立教大学の学生であることを証明するものである。学生証は、プラスチックカードと通学定期乗車券発行控がセットになっている。請求があった場合にはいつでも提示できるよう、常に携帯すること。

2. 学生番号について

学生番号は固有の番号で、在籍中および卒業後も変わることはない。各種手続きの際に必要なもので正確に覚えること。

1	8	A	A	1	2	3	Z
入学年度		入学時の 学部・学科等 (研究科・専攻)		個人番号			

3. 有効期間

学生証の有効期限は在籍期間中である。ただし次の場合は学生証（プラスチックカードと通学定期乗車券発行控）を返却しなければならない。

- (1) 卒業・修了・退学・除籍などで学籍を失ったとき。
- (2) 紛失等により再交付を受けたのち、前の学生証が見つかったとき（前の学生証を返却すること）。

4. 貸与・譲渡の禁止

学生証は学生本人を証明する大変重要なものである。学生証を他人に貸与、または譲渡することは固く禁止されており、違反した学生は本学では懲戒の対象となる。なお、複写物の貸与・譲渡についても同様の扱いとなる。

5. 紛失・破損したとき

学生証を紛失・破損した場合や劣化により顔写真が不鮮明な場合は、直ちに教務窓口（巻頭参照）へ届け出ること。

再交付（再交付手数料2,000円*）は2日後（窓口閉室日を除く）になる。

*劣化により顔写真が不鮮明な場合は、現在の学生証と交換（再交付手数料は不要）。

2 学籍

1. 学籍とは

学籍とは、本学に入学することによって取得されるものであり、本学の学生（在籍者）であることを意味する。本学を卒業・修了・退学・除籍となった場合は学籍を喪失する。

2. 在籍と在籍期間

在籍とは、本学に学籍が存在することをいい、その期間を在籍期間という。休学期間は在学年数に算入されないため、在籍期間は、在学状態の期間（在学期間）に休学状態の期間（休学期間）を加えた期間となる。

3. 修業年限と最長在学年数

本学を卒業・修了するために必要な年数（大学院学生の場合は標準的な年数）のことを修業年限という。学部学生が本学を卒業するためには、4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得しなければならない。ただし、最長在学年数を超えて在学することはできない。修業年限と最長在学年数は以下の表のとおりである。

Ⅷ 学生証・学籍・学費

	修業年限	最長在学年数 ^{*1}
学部学生	4年 ^{*2}	8年 ^{*2}
修士課程・博士課程前期課程の大学院学生	2年	4年
博士課程後期課程の大学院学生	3年	6年
専門職学位課程の大学院学生（法務研究科）	3年	6年

※1：休学期間は最長在学年数には算入されない。休学については「**3** 休学・復学」を参照すること。

※2：編入学、学内転部、転科または転専修制度を利用した学生については、教務窓口にて確認すること。

4. 在学年数と在学学期数

学部学生の修業年限である「4年以上在学して」を学期に置き換えると、「8学期以上在学して」となり、以下の表のとおりである。

大学院学生についても、所属研究科が定める学位授与の要件において必要とされる在学年数を在学学期数に置き換える場合は、学部学生に準ずる。

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期

3 休学・復学

1. 休学とは

病気その他やむを得ない事由により満2ヶ月以上就学することができないときは、所定の受付期間に、所定の書式（休学願）により、保証人連署をもって願い出て、許可を受けて当該学期間休学することができる。休学中の期間は在学年数に算入しない。なお、休学の理由によっては、その事実を証明する書面の提出を求める場合があるので指示に従うこと。

休学期間は理由の如何を問わず、休学願を提出した時期により以下の表のとおりとする。2学期以上にわたって休学するときは、学期ごとに定められた休学願提出期間内に改めて休学願を提出することが必要である。

休学学期	休学願提出時期	休学期間
2018年度春学期	2018年2月1日（木）～5月31日（木）	2018年9月19日（水）まで
2018年度秋学期	2018年8月1日（水）～12月4日（火）	2019年3月31日（日）まで

2. 復学について

休学した者は、休学期間終了後、自動的に復学となる。なお、復学の時期は以下のとおりである。

復学時期

■2018年度春学期を休学した場合の復学日 ⇒ 2018年9月20日

■2018年度秋学期を休学した場合の復学日 ⇒ 2019年4月1日

3. 休学学期と年次の扱いについて

休学中の期間は在学年数に算入しないと同時に、在学学期数にも算入しない。ただし、2010年度以降に休学制度を利用した場合、在学学期数にかかわらず年次は学部学生の場合4年次まで自動的に進む。

〈1学期休学した場合〉～3学期目を休学し、2年次秋学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次		4年次 ^{*3}	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	休学	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期 ^{*2}	9学期 ^{*1}

※1・2：卒業の時期については、「4. 卒業・修了の時期について」を参照すること。

※3：学部学生が4年次に卒業できなかった場合は、再度4年次生として在籍することとなる。

4. 卒業・修了の時期について

(1) 学部学生

休学した学生の卒業も、原則として3月31日付となる。ただし春学期で8学期以上在学となる場合は、特別卒業を申請し許可を受けることにより9月19日付で卒業することができる。詳細は「Ⅶ卒業に関する事項 5 特別卒業」を参照すること。

なお、休学中に卒業・特別卒業はできないので注意すること。

〈1学期休学した場合〉～3学期目を休学し、2年次秋学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	休学	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期 ※2	9学期 ※1

※1：通常の卒業時期は秋学期の終了日である。

※2：特別卒業を申請し許可された場合の卒業時期は春学期の終了日である。

(2) 博士課程前期課程学生

休学した学生の修了も、原則として3月31日付となる。ただし春学期で4学期以上在学となる場合は、特別修了を申請し許可を受けることにより9月19日付で修了することができる。詳細は「修了に関する事項」を参照すること。

なお、休学中に修了・特別修了はできないので注意すること。

〈1学期休学した場合〉～2学期目を休学し、2年次春学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	休学	2学期	3学期	4学期 ※2	5学期 ※1

※1：通常の修了時期は秋学期の終了日である。

※2：特別修了を申請し許可された場合の修了時期は春学期の終了日である。

5. 利用回数の上
限について

休学制度の利用回数には上限が設けられている。いかなる理由においても上限回数を超過して休学することはできない。学期の初めから休学した場合でも学期の途中から休学した場合でも、いずれも1回として計算される。なお、上限回数は通算の休学回数である。2学期間連続して休学した場合や、1学期以上の在学期間をはさみ2学期間休学した場合は、休学回数は2回となる。

	休学制度を利用 できる回数	2007年度以前に 休学制度を利用した回数
学部学生	8回	上限回数に算入しない
修士課程・博士課程前期課程の大学院学生	4回	
博士課程後期課程の大学院学生	6回	
専門職学位課程の大学院学生（法務研究科）	4回	

※1：学内転部、転科または転専修制度を利用し、学部、学科または専修が変更になった場合、変更前の休学回数は変更後の学部、学科または専修に引き継がれる。

※2：本学を退学後、再入学した場合、退学前の休学回数は引き継がれる。

※3：本学を卒業・修了・退学した後、選抜試験に合格し、入学（※2の再入学を除く）した場合は、過去に休学した回数は引き継がれない。

6. 休学願の配付
・提出先について

提出時期

■2018年度春学期を休学する場合

⇒ 2018年2月1日（木）9：00～5月31日（木）17：00

■2018年度秋学期を休学する場合

⇒ 2018年8月1日（水）9：00～12月4日（火）17：00

配付・提出場所

教務窓口（巻頭参照）

7. 休学許可通知
について

休学願を提出し各学部等教授会又は各研究科委員会で許可された場合、本人及び保証人に対して休学許可通知を郵送する。休学の許可についてはこの通知で確認すること。在籍料（「9. 休学中の学費について」参照）等、休学中にかかる諸経費の支払いは、休学許可通知の発送後、別途郵送にて通知するのでその指示に従うこと。

8. 就学の問い合わせ
について

休学している学生に対して、「就学問い合わせ」を郵送する^{*1}。引き続き休学を希望する場合は同封の休学願を、退学を希望する場合は同封の退学願を、必ず締切期日までに提出すること。締切期日は同封の書簡にて指示する。休学願または退学願を提出しない場合は、休学期間終了後、「2. 復学について」に示す日付をもって自動的に復学となるので注意すること。

休学学期	就学問い合わせの 送付時期	就学問い合わせの 回答締切	回答時の提出書類		
			休学	退学	復学
2018年度春学期	2018年7月末 ^{*2}	2018年8月下旬	休学願	退学願	手続不要
2018年度秋学期	2019年1月末 ^{*3}	2019年2月下旬			

※1：保証人住所宛に郵送する。

※2：外国人留学生で兵役のために休学する場合は例外措置があるので、休学する前に必ず兵役による休学であることを申し出ること。

※3：自己都合で休学した学期の後、間をあげずに派遣留学又は認定校留学に出発する場合は就学問い合わせを送付しない。

※4：2019年1月末時点で当該年次に納入すべき学費及び在籍料の全額または一部が未納の場合、就学問い合わせは当該年次に納入すべき所定の学費及び在籍料の全額を納入した後に発送する。

9. 休学中の学費
について

休学願を提出し休学を許可された場合、当該休学学期間の在籍料を除く学費^{*1}を免除する。在籍料は、在籍保証、在籍管理事務の経費として所属学部（学科・専修）・研究科に係らず1学期につき60,000円を、休学した学期ごとに徴収する。なお、休学を許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が休学時に納入すべき金額に満たない場合は、これを徴収する。

休学学期	学費		
	春学期	秋学期	当該年次
春学期	在籍料 (60,000円)	学費の1/2 (在籍料含む) ^{*2}	学費の1/2 (在籍料含む) + 在籍料 (60,000円)
秋学期	学費の1/2 (在籍料含む) ^{*2}	在籍料 (60,000円)	
春学期・秋学期	在籍料 (60,000円)	在籍料 (60,000円)	在籍料 (120,000円)

- ※1：学費とは、授業料（在籍料を含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。
- ※2：学費の1/2（在籍料含む）とは、1年間に支払う学費の1/2額を意味する。
- ※3：授業料は在籍料120,000円（半期60,000円）を含むものとする。
- ※4：その他の納入金は、休学を許可された場合であっても所定の金額を徴収する。

4 退学

1. 退学とは

病気その他の事由により退学しようとする場合は、所定の受付期間に、所定の書式（退学願）により、保証人連署をもって願い出て、許可を受けなければならない（学生証を返却のこと）。なお、退学の理由によっては、その事実を証明する書面の提出を求める場合があるので指示に従うこと。
2. 提出時期と学費の減免について

退学願を提出し退学を許可された場合、退学願を提出した時期により学費^{※1}その他の納入金の一部を次のとおり減免する。なお、退学を許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が退学願を提出した時点で退学時に納入すべき金額に不足する場合は、退学願を受理しない。

退学願提出時期	減免額
2018年5月31日（木）まで	学生健康保険互助組合費を除く全額（在籍2年目以上） ^{※2}
2018年12月4日（火）まで	学費その他の納入金の1/2（在籍料含む）
2019年3月30日（土）まで	無し ^{※3}

 - ※1：学費とは、授業料（在籍料を含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。
 - ※2：法務研究科の大学院学生については学生健康保険互助組合費および法科大学院生教育研究賠償責任保険を除く全額（在籍2年目以上）。
 - ※3：当該年次に納入すべき所定の学費その他の納入金の全額を納入しなければならない。
3. 退学願の配付・提出先について

配付・提出場所
教務窓口（巻頭参照）
4. 退学許可通知について

退学願を提出し各学部等教授会又は各研究科委員会で許可された場合、本人及び保証人に対して退学許可通知を郵送する。退学の許可についてはこの通知で確認すること。学費の減免に関する手続きが生じる場合は、退学許可通知の発送後、別途郵送にて通知するのでその指示に従うこと。

5 希望留年（学部4年次生のみ）

希望留年については「Ⅶ卒業に関する事項 **4** 卒業の延期（希望留年）」を参照すること。

6 特別卒業

特別卒業（9月卒業）については「Ⅶ卒業に関する事項 **5** 特別卒業」を参照すること。

7 特別修了

特別修了（9月修了）については「現代心理学研究科にかかわる事項 **8** 修了に関する事項」を参照すること。

8 再入学

1. 再入学とは 病気その他の理由で退学した者が再入学を希望するときは、所定の書式により、保証人連署をもって願い出て、年度の始め（4月1日付）に再入学を許可されることがある。再入学を申し出る場合は、再入学する前年度の10月初日（初日が窓口閉室日の場合は直後の窓口開室日）から11月末日（末日が窓口閉室日の場合は直前の開室日）までに所定の書式を提出すること。再入学に必要な所定の書式及び手続の詳細については下記まで問い合わせること。
2. 再入学に関する問合せ先 教務窓口（巻頭参照）

9 学費

1. 学費通知の発送 (1) 口座振替の場合
5月中旬に学費の口座振替のお知らせを、原則保証人宛に発送する。分納1回目分を通知するので、振替日の前金融機関営業日までに資金を準備すること。また、分納1回目納付者には9月上旬^{*1}に分納2回目の口座振替のお知らせを発送する。
- (2) 振込の場合
学費振込口座の登録がない場合は、振込による納入となる。5月中旬に学費の振込用紙を、原則保証人宛に発送する。分納1回目の振込用紙を同封するので、期限までに納入すること。また、分納1回目納付者には9月上旬^{*1}に分納2回目の振込用紙を発送する。
※1：春学期休学者へは発送が1ヶ月ほど遅れ、10月中旬に発送する。
2. 延納制度 経済的な事情により、定められた期限までに納入ができない場合には、事前に「学費延納願」を申請すること。「学費延納願」を申請し認められた場合には、納入期限を一定の範囲で延期することができる。延納制度の詳細は、各学期に財務部経理課から送付される学費案内を参照すること。
3. 滞納した場合 当該年次に学費の未納がある場合は、除籍となる。

1 グローバル教養副専攻（G副専攻）とは

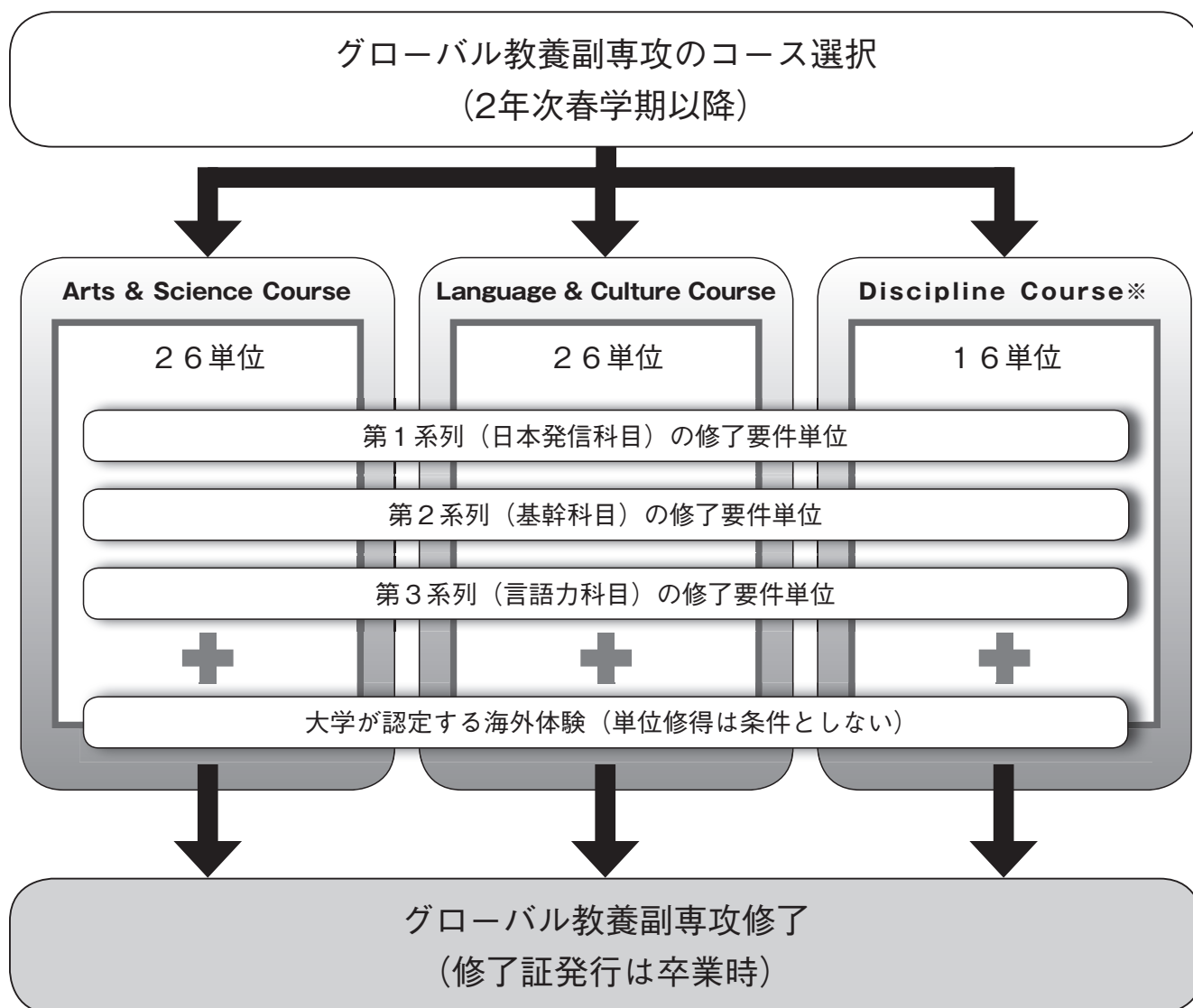
グローバル教養副専攻（以下、「G副専攻」と表記）は、本学の全ての学部学生を対象とし、所属する学部学科や専修の専門性に加えて、複数の分野にわたる知識を一つのテーマに沿って修得し、多面的に物事を捉えて持続的に考え続ける能力を養成するプログラムである。その目標は「専門性に立ち世界に通用する教養人の育成」である。

具体的には、学生自身が目指す海外体験（留学を含む）につながる指定された科目群を体系的に学び、大学が認定する海外体験を行うことが修了要件となっている。

また、所定の修了要件を満たした場合には、大学から修了証が発行される。

詳細はG副専攻Webサイト（<http://s.rikkyo.ac.jp/rmp>）を確認すること。

2 G副専攻の全体像



*Discipline Courseは2018年度より開設。

3 G副専攻修了のための要件

1. 修了要件

G副専攻は、自分が目指す海外体験をイメージしながら、専門の応用につながる多彩な学問領域の中からテーマごとにつながり合う科目を、ルールに従って履修していく。

修了には、大学が認定する海外体験を必ず行うことと、そのために必要な科目を第1系列から第3系列の科目群から、テーマによって定められた単位数を修得することが必要である。

単位数の詳細は次項以降に記載している。

2. G副専攻の3系列と海外体験について

G副専攻は、以下の3系列と海外体験によって構成されている。

なお、修得した単位は、専門教育科目・全学共通科目ともに所属学科・専修等が定める規定により、卒業要件単位として算入することができる。

3つの系列の修了要件単位数および海外体験の認定基準は、各コースやテーマによって異なる。各コースの修了要件の詳細は、G副専攻Webサイトを確認すること。

(1) 第1系列（日本発信科目）

◆Arts & Science Course, Language & Culture Course

日本について学び、「自己理解」「伝達内容」「異文化との相互敬意」を養う。一部、外国語で行われる科目も対象となる。

◆Discipline Course

〈Teaching Japanese as a Foreign Language〉

母語ではなく、1つの言語としての日本語の特徴について学ぶ。その際、日本語を母語としない人々に効率的に教えるためにはどんな知識が必要かという観点から日本語の特徴を学んでいく。

〈Data Science〉

日本における調査の仕組みや日本の公的統計の利活用を学ぶ。

(2) 第2系列（基幹科目）

◆Arts & Science Course

全学共通科目「多彩な学び」を中心とした科目の中からテーマに沿って履修し、各テーマの学びをより深める。

◆Language & Culture Course

言語Aを中心としたテーマでは、プレゼンテーション、ディスカッション、ライティングなどの英語による学習スキルを養う。言語Bを中心としたテーマでは、「多彩な学び」のうち、当該言語圏に関係した講義科目の履修を通じて、その文化圏や多文化共生への理解を深める。

◆Discipline Course

〈Teaching Japanese as a Foreign Language〉

外国語として日本語を教えるための方法、教材作成法、教室管理、学習者特性による日本語教育などについて実践的に学ぶ。

〈Data Science〉

日本語で展開される統計学や調査理論、多変量解析、データ分析実習系科目により、証拠に基づく意思決定や判断を行うことができるデータ活用力を身に付ける。

(3) 第3系列（言語力科目）

◆Arts & Science Course

全学共通科目の言語系科目、外国語で行われる科目などでの学習を通じ、現地で異文化との接触を経験するために外国語での受信力および発信力を磨く。

◆Language & Culture Course

言語A（英語）を中心としたテーマでは、英語自由科目の履修を通じて、テーマごとの目的に沿っ

た英語力を獲得する。言語Bを中心としたテーマでは、主に言語自由科目の履修を通じて、当該言語の知識と技能を獲得する。

◆Discipline Course

〈Teaching Japanese as a Foreign Language〉

基本知識やスキルを修得した後、「海外インターンシップ (CIC)」を修了する。海外の大学の日本語教育の現場で実際に学生の前に立って日本語教育を実践することを通して、教室での学びを現場での学びに結びつける。

〈Data Science〉

英語で展開される統計学や調査理論、多変量解析、データ分析実習系科目により、証拠に基づく意思決定や判断を行うことができるデータ活用力を身に付ける。

(4) 海外体験

◆Arts & Science Course, Language & Culture Course, Discipline Course 〈Data Science〉

派遣留学を含む立教大学主催の海外留学プログラム（留学案内『DEPARTURE』を参照）への参加や、その他自主企画による海外渡航（ボランティアや私費による留学など）を行い、帰国後に所定の申請を行うことで認定される場合がある。各コース・テーマ別に認定基準が異なるので、詳細はG副専攻Webサイトを確認すること。

◆Discipline Course 〈Teaching Japanese as a Foreign Language〉

基本知識やスキルを修得した後、「海外インターンシップ (CIC)」を修了することで認定される。

4

G副専攻のコース・テーマ

G副専攻には、以下3つのコースがあり、さらにコースの中に詳細なテーマが用意されている。学修の興味・関心に合わせて、コース・テーマを選択することができる。

※同一科目を重複履修した場合には、最初に修得した1科目のみがG副専攻の修了に必要な単位として認められ、2回目以降に修得した単位は、修了に必要な単位には算入されない。

1. Arts &
Science
Course

このコースは、全学共通科目総合系科目「多彩な学び」を中心に構成されており、以下の8テーマが用意されている。

1. Global Humanity
2. Global Social Experience
3. Global Art Experience
4. Global Mind
5. Global Studies of Nature and Environment
6. Global Citizenship
7. Global Sports
8. Global Studies of Region

IX グローバル教養副専攻

テーマ1：Global Humanity

人間としての生き方を見つめ、日本文化・精神性を発信できるようになる。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	J科目, F科目	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」第1カテゴリを中心とする指定科目から10単位以上 上記以外の「多彩な学び」(第1系列, 第2系列の指定科目, コラボレーション科目, 立教ゼミナール発展編を除く)	日本語・外国語	14単位以上
第3系列	F科目, 言語系自由科目, 学部等提供の海外実習系科目(「海外体験」と兼ねることも可), など	外国語	4単位以上
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

テーマ2：Global Social Experience

グローバルな視点で社会を読み解く知識と技能を身に付ける。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	J科目, F科目	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」第2カテゴリを中心とする指定科目から10単位以上 上記以外の「多彩な学び」(第1系列, 第2系列の指定科目, コラボレーション科目, 立教ゼミナール発展編を除く)	日本語・外国語	14単位以上
第3系列	F科目, 言語系自由科目, 学部等提供の海外実習系科目(「海外体験」と兼ねることも可), など	外国語	4単位以上
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

テーマ3：Global Art Experience

世界の芸術に触れてグローバルな感性を磨く。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	J科目, F科目	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」第3カテゴリを中心とする指定科目から10単位以上 上記以外の「多彩な学び」(第1系列, 第2系列の指定科目, コラボレーション科目, 立教ゼミナール発展編を除く)	日本語・外国語	14単位以上
第3系列	F科目, 言語系自由科目, 学部等提供の海外実習系科目(「海外体験」と兼ねることも可), など	外国語	4単位以上
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

テーマ4：Global Mind

心身を科学的に理解し、日本人としてのメンタリティを発信できるようになる。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	J科目, F科目	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」第4カテゴリを中心とする指定科目から10単位以上 上記以外の「多彩な学び」(第1系列, 第2系列の指定科目, コラボレーション科目, 立教ゼミナール発展編を除く)	日本語・外国語	14単位以上
第3系列	F科目, 言語系自由科目, 学部等提供の海外実習系科目(「海外体験」と兼ねることも可), など	外国語	4単位以上
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

IX グローバル教養副専攻

テーマ5 : Global Studies of Nature and Environment

地域の環境問題のグローバルなつながりと広がりを見て問題解決の糸口を求める。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	J科目, F科目	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」第5カテゴリを中心とする指定科目から10単位以上	日本語・外国語	14単位以上
	上記以外の「多彩な学び」(第1系列, 第2系列の指定科目, コラボレーション科目, 立教ゼミナール発展編を除く)		
第3系列	F科目, 言語系自由科目, 学部等提供の海外実習系科目(「海外体験」と兼ねることも可), など	外国語	4単位以上
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

テーマ6 : Global Citizenship

ボランティア体験などを通して市民としての自覚を深め, 行動できるようになる。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	J科目, F科目	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」の実践系指定科目から4単位以上	日本語・外国語	14単位以上
	「多彩な学び」の第6カテゴリを中心とする指定科目から6単位以上 上記以外の「多彩な学び」(第1系列, 第2系列の指定科目, コラボレーション科目, 立教ゼミナール発展編を除く)		
第3系列	F科目, 言語系自由科目, 学部等提供の海外実習系科目(「海外体験」と兼ねることも可), など	外国語	4単位以上
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

テーマ7 : Global Sports

スポーツ文化のグローバルな理念と現実に触れて異文化理解を深める。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	J科目, F科目	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「スポーツ実習」から4単位以上	日本語・外国語	14単位以上
	「多彩な学び」第4カテゴリを中心とする指定科目から6単位以上 上記以外の「多彩な学び」(第1系列, 第2系列の指定科目, コラボレーション科目, 立教ゼミナール発展編を除く)		
第3系列	F科目, 言語系自由科目, 学部等提供の海外実習系科目(「海外体験」と兼ねることも可), など	外国語	4単位以上
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

テーマ8 : Global Studies of Region

世界各地の文化, ことば, 社会について理解を深め, 高度な異文化コミュニケーション力を培う。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	J科目, F科目	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」第1, 2, 3カテゴリを中心とする指定科目から10単位以上	日本語・外国語	14単位以上
	上記以外の「多彩な学び」(第1系列, 第2系列の指定科目, コラボレーション科目, 立教ゼミナール発展編を除く)		
第3系列	F科目, 言語系自由科目, 学部等提供の海外実習系科目(「海外体験」と兼ねることも可), など	外国語	4単位以上
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

Ⅸ グローバル教養副専攻

2. Language & Culture Course

このコースは、全学共通科目言語系科目を中心に、海外体験などとともに構成されており、言語A(英語)を中心としたテーマ1~3と、言語Bを中心としたテーマ4~8が用意されている。

1. Academic Studies in English
2. World Issues in English
3. Communication in English
4. German Language & Culture
5. French Language & Culture
6. Spanish Language & Hispanic Culture
7. Chinese Language & Culture
8. Korean Language & Culture

テーマ1：Academic Studies in English

英語圏の大学へ留学するために必要な英語力とアカデミックスキルを獲得する。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	F科目, 「Japanese Studies through English」	外国語	2単位
第2系列	必修科目から6単位 「English Intensive」, 「Lecture & Discussion」, 「English Communication」 から8単位以上	英語	24 単位
	① 「英語海外文化研修」, 学部提供英語科目, 第3系列以外の英語自由科目 (注1)		
第3系列	② TOEFL 科目群, アカデミックスキル科目群, 「University Lecture」, 「Career Studies」 など (注1)	英語	
海外体験	「英語海外文化研修」, 立教大学主催の海外プログラムから (G副専攻Webサイトを参照。修得した単位は、第3系列の単位数に含める)	英語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

(注1) ①と②を合わせて6単位以上修得すること。

テーマ2：World Issues in English

世界中で起こっていることをリアルタイムで理解し、議論できるようになる。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	F科目, 「Japanese Studies through English」	外国語	2単位
第2系列	必修科目から6単位 「English Intensive」, 「Lecture & Discussion」, 「English Communication」 から8単位以上	英語	24単位
	① 「英語海外文化研修」, 学部提供英語科目, 第3系列以外の英語自由科目 (注1)		
第3系列	② 時事英語科目群, アカデミックスキル科目群, 「University Lecture」, 「Career Studies」 など (注1)	英語	
海外体験	「英語海外文化研修」, 立教大学主催の海外プログラムから (G副専攻Webサイトを参照。修得した単位は、第3系列の単位数に含める)	英語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

(注1) ①と②を合わせて6単位以上修得すること。

Ⅸ グローバル教養副専攻

テーマ3：Communication in English

世界を相手に英語で自分の意見を堂々と主張し、発信できるようになる。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	F科目, 「Japanese Studies through English」	外国語	2単位
第2系列	必修科目から6単位 「English Intensive」, 「Lecture & Discussion」, 「English Communication」から8単位以上	英語	24単位
	① 「英語海外文化研修」, 学部提供英語科目, 第3系列以外の英語自由科目 (注1)		
第3系列	② 教養としての英語科目群, Academic Skill 科目群, 「University Lecture」, 「Career Studies」から (注1)	英語	
海外体験	「英語海外文化研修」, 立教大学主催の海外プログラムから (G副専攻Webサイトを参照。修得した単位は, 第3系列の単位数に含める)	英語	認定
修了に必要な総単位数			26単位

(注1) ①と②を合わせて6単位以上修得すること。

テーマ4：German Language & Culture

テーマ5：French Language & Culture

テーマ6：Spanish Language & Hispanic Culture

テーマ7：Chinese Language & Culture

テーマ8：Korean Language & Culture

選択した言語の技能を磨くとともに, その言語圏の文化や社会への理解を深める。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	F科目, J科目, 「Japanese Studies through English」	外国語・日本語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」の「～語圏の社会」「～語圏の文化」「～語圏の文学」などから4単位以上	～語・日本語	6単位以上
	「多彩な学び」第1カテゴリを中心とする指定科目から		
第3系列	言語系科目の「～語自由科目」などから8単位以上	～語	10単位以上
	派遣留学や学部等の留学プログラムで修得した単位		
海外体験	～語圏に渡航する大学主催の海外留学プログラム	～語	認定
	～語圏に渡航する大学主催以外の海外留学プログラム (主催団体から参加受講証明書などが発行されるもの)		
修了に必要な総単位数			26単位

※～語は, ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語とそれぞれ読み替える。

3. Discipline Course

学部や学内諸機関が提供する科目を中心に構成され, 2018年度から2つのテーマが開設される。異文化コミュニケーション学部が提供するテーマ1と, 社会情報教育研究センターが提供するテーマ2を以下に示す。詳細はG副専攻Webサイトを確認すること。

1. Teaching Japanese as a Foreign Language (日本語教育学)
2. Data Science (データサイエンス)

Ⅸ グローバル教養副専攻

テーマ1：Teaching Japanese as a Foreign Language（日本語教育学）

外国語としての日本語教育の世界に触れよう！

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	Japan Study Program A, C, D	日本語	4単位
第2系列	日本語学概論A, B 日本語学特論 日本語教授法A, B	日本語	10単位
第3系列	海外インターンシップ（CIC）（注2）	外国語	2単位
海外体験	海外インターンシップ（CIC）（注2） （修得した単位は、第3系列の単位数に含める）	外国語	認定
修了に必要な総単位数			16単位

※異文化コミュニケーション学部所属する学生は、Teaching Japanese as a Foreign Languageをテーマ登録することはできない。

※外国人留学生在が、Teaching Japanese as a Foreign Languageをテーマ登録する場合は、日本語プレイスメントテストでJ8以上であることが必要。

※第2系列の科目は異文化コミュニケーション学部の専門科目となる。

（注2）「海外インターンシップ（CIC）」の履修にあたっては、異文化コミュニケーション学部の専門科目である日本語学概論A、B、日本語教授法A、Bの単位修得済であることが履修資格となる。

テーマ2：Data Science（データサイエンス）

グローバル人材に求められるデータ活用力を身に付ける。

系列	主な科目	使用言語	必要単位
第1系列	全学共通科目「社会調査入門」，「社会調査の技法」，学部展開科目	日本語	4単位以上
第2系列	(2-1) 基礎科目 全学共通科目「データ分析入門」，「データの科学」，「数学の世界」，学部展開科目（注3）	日本語	8単位以上 （注4）
	(2-2) 先端科目 全学共通科目「多変量解析入門」，「統計情報で社会・経済を診断する」，学部展開科目（注3）		
第3系列	(3-1) 基礎科目 全学共通科目「Introduction to Statistics 1, 2」	英語	
	(3-2) 先端科目 2018年度開設科目はなし		
海外体験	認定要件についてはG副専攻Webサイトを参照	外国語	認定
修了に必要な単位数			16単位

（注3）学部展開科目における履修条件（他学部履修の可否、先修規定等）は、科目設置学部の履修規定等に基づく。

（注4）第2系列および第3系列の基礎科目（区分2-1、3-1）から4単位以上、第2系列および第3系列の先端科目（区分2-2、3-2）から4単位以上をそれぞれ修得すること。

5 G副専攻のコース登録

G副専攻修了のためには、事前にコース登録が必要である。申請登録は、2年次4月21日（土）から受け付ける。登録できるコース数は、一人につき1テーマのみ。

コースの登録方法など詳細については、G副専攻Webサイトを確認すること。

6 海外体験の事前審査・認定申請手続き

海外体験の認定基準は、各コースやテーマによって異なる。海外体験の事前審査、海外体験後の認定には所定の手続きが必要となる。手続きの詳細については、G副専攻Webサイトを確認すること。

7 G副専攻の修了証の発行

G副専攻の修了要件を満たし、修了が認定されると卒業時に大学からG副専攻の修了証が発行される。

8 4年間のスケジュール・モデルケース

年次・学期	1年次		2年次	3年次	4年次	卒業式	
	春学期	秋学期					
	導入期		形成期		完成期		
科目群	学びの精神 学びの技法		多彩な学び			学位記	
	言語必修科目		言語自由科目				
	専門科目						
	スポーツ実習						
G副専攻	G副専攻Webサイトや 説明会で情報収集		コース登録		コース変更（希望者のみ） 修了認定申請		G副専攻修了証
	海外体験の実施			海外体験報告書の 提出・認定			

上記のスケジュールおよびモデルケースは、あくまで一例であり、コース登録や海外体験の実施などの時期は、学生ごとに異なる場合がある。

※G副専攻説明会の開催日程などは、G副専攻Webサイトを確認すること。

5大学間単位互換制度 (通称 f-Campus)

f-Campusとは学習院大学，学習院女子大学，日本女子大学，早稲田大学，本学の5大学間における単位互換制度である。他大学の提供科目一覧，時間割，シラバス（講義内容），学年暦等は，f-Campusホームページ (<http://www.f-campus.org>)にて確認すること。

1 履修登録

1. 履修資格
在学2年目以上の学部学生（2018年度の編入学者を除く正規学生）。
2. 登録可能単位
本学を除く他の4大学合計で年間12単位まで。ただし，4月期の科目登録において選外となった科目の単位数は，9月期の科目登録における登録可能単位に含まれない。
3. 科目登録・登録結果発表
 - (1) 科目登録手順
すべてWebサイトにて行う。具体的な科目登録の手順は，f-Campusホームページで確認のこと。
 - (2) 科目登録期間

時期	登録対象科目	登録期間	結果発表
4月期	春学期科目+通年科目 +集中講義科目	3月26日(月) 12:00~	4月3日(火) 9:30~
		4月2日(月) 9:30	
9月期	秋学期科目+集中講義科目	9月3日(月) 12:00~	9月11日(火) 9:30~
		10日(月) 9:30	

※応募者が定員を超過した場合は抽選を行う。
 - (3) 登録結果発表
f-Campusホームページ上で行う。
4. 登録の取消
科目登録後の取り消しはできない。万が一本学の登録科目と時限重複した場合は，原則として他大学の科目が優先され，本学の科目は取り消される。実習費等が必要な科目は，履修を放棄した場合であっても納金する必要がある。
5. 履修先大学の特別聴講学生番号の通知
f-Campusホームページによって，登録結果とともに履修先大学の特別聴講学生番号を発表する。他大学での授業出席票や試験等では，この番号が必要となるので，自分で番号を控えるなどして管理すること。

2 授業

授業科目の休講・試験等，授業に関する通知は，f-Campusホームページあるいは掲示板にて確認すること。通知方法は大学によって異なるので注意すること。

交通機関のストライキ・気象警報等にもなう授業の扱いは，履修先大学の基準による。

3 試験・成績・単位認定

他大学履修科目と本学の履修科目の筆記試験時間に重複が生じた場合，原則として他大学履修科目の筆記試験を優先して受験し，本学の履修科目については所定の期間内に試験時間重複特別試験受験申請の手続きを行ったうえで試験時間重複特別試験を受験すること。試験時間重複特別試験受験申請については「VI 試験・成績 ⑦ 試験時間重複特別試験」を参照のこと。

ただし、本学の都合により試験時間重複特別試験を受験できない場合は、科目設置大学の追（未済）試験等を受験できるよう配慮する場合がある。

成績結果は、成績参照システムにて本学科目とあわせて発表する。

他大学で修得した単位は、所属学部の単位認定方法に従い卒業要件単位として認められる場合があるので、各学科の履修規程で確認すること。

4 学費等

協定に基づき、他大学の提供科目を履修する場合、授業料は免除される。ただし、科目により実習費等が必要な場合は、自己負担となる。

5 その他

1. f-Campus証

科目登録の結果、他大学の履修許可を受けた学生は、所属キャンパスの教務窓口でf-Campus証を受け取ること。f-Campus証が、他大学でのf-Campusの学生であることを証明するものとなる。

2. 施設の利用

協定による特別聴講学生は、履修期間中は履修先大学の定める範囲において、図書館、売店、学生食堂を利用することができる。図書の貸し出しはできない。

その他利用方法等詳細は、各大学の図書館で確認すること。

パソコン教室やL L自習室、体育施設、保養施設等の施設、および許可された科目の履修に関する事項以外の学生サービス等は利用できない。

1 寄附講座

1. 概要

寄附講座は、講座開設にかかる費用が提供企業・団体の寄附によって成立する講座である。通常の学内の講義が学術的、理論的なものであるのに対して、寄附講座は、より実際の、実践的な知識を志向している。

心理学科「H.I.S.寄附講座『観光心理学』」は、株式会社H.I.S.様より提供いただく講座である。この講座では、高名な実践家の方々、心理学の観点から観光を研究されている研究者の方々から、観光が人の行動や心理に及ぼす様々な影響や効果について学ぶ。講義の内容については、シラバスに記載された内容を参照すること。

2. 履修に関わる事項

(1) 2018年度開講科目

心理学科「H.I.S.寄附講座『観光心理学』」

(2) 履修対象者

心理学科2年次以上（他学科・他学部学生履修可）

(3) 履修登録

人数制限科目（200名）である。履修を希望する場合は「抽選登録」の申し込みをすること。履修が許可された場合は、大学が履修登録をするので科目コードで届け出る必要はない。

(4) 重複履修

同一科目は重複履修できない。心理学科「観光心理学」は2018年度のみ開講する。

(5) 修得単位の扱い

当該科目が設置される科目区分（学科課程を参照）のほかの科目と同様である。映像身体学科の学生が履修・単位修得した場合には、他学科科目の単位として卒業要件単位に算入される。他学部学生が履修した場合の修得単位の扱いは、所属学部の履修規定による。

- | | |
|--------------------------------|--|
| 1. 保険への加入
(通称：学研賠) | 現代心理学部は、実験・実習・実践・制作・公演などを通じて学習効果を修め、それを深める少人数教育を広範に展開している。本学部学生が正課活動において、第三者の財物を破損したために法律上の賠償責任を負うことも予想される。そのため、賠償責任保険である「学研災付帯賠償責任保険」へ加入している。 |
| 2. 保険内容 | 国内外において、学生が、正課、学校行事およびその往復途中で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより、法律上の賠償責任を負担することによって被る損害について保険金を支払う。 |
| 3. 対象となる範囲 | 正課、学校行事およびその往復途中。ただし、他の保険契約で保険金が支払われている場合、その支払いの状況に応じて支払いの対象は異なる。 |
| 4. 保険料 | 学部が全額を負担する。 |
| 5. 学生本人の
傷害時の保険
(通称：学研災) | 本学学生が教育研究活動中に生じた事故によって身体に傷害を被った場合には「学生教育研究災害傷害保険」により保険金が支払われる。「病気」は対象にならない。 |
| 6. 事故等発生時の
連絡について | 事故発生時には、学生厚生課（新座）に速やかに連絡し指示を受けること。
立教大学 学生部 学生厚生課（新座）
電話番号 048-471-6924 |

1. 趣旨

立教大学大学院現代心理学研究科は、現代心理学部心理学科4年次に在籍し、本研究科（心理学専攻、臨床心理学専攻）への進学を希望する優秀な学生に対して、一定の基準を設けて受入れを行う。

2. 選考

入試要項に出願資格や選考日程が記載されるとともに、心理学科の掲示板を通じて案内がなされる。詳しくは、それらを確認すること。

全学共通 科目について

2016年度以降 1 年次入学者に適用

●全学共通科目とは

立教大学では学生諸君の4年間の学修を支援するためRikkyo Learning Styleというカリキュラムを提供している。それは、諸君が所属する学部・学科・専修での学修が首尾一貫して進められ、諸君を立教大学が目標とする「専門性に立つ教養人」へと育成するために設計されている。その中に重要で不可欠な要素として「全学共通科目」がある。

全学共通科目には必修科目として言語系科目、選択科目として総合系科目、自由科目として言語系科目がある。学部の卒業要件単位数を示した表の科目群名称の後に「(全学共通)」と書かれているのでわかる。それらの全ては、どの学部にも所属していても立教大学生の教養として持ってほしい内容、どんな学問分野にも共通して知識の基礎になる内容、自分の得意分野を社会に出て生かすために必要な道具となる内容、自分の選択した専門分野を補完するための副専攻分野を形成する内容などから成っている。いずれの科目も学生諸君が社会に出た後さまざまな困難を乗り越えて、有為な社会人として生活していける力の源となる大切な内容を含んでいる。全学共通科目の科目群は大まかに以下のように構成されている。

言語系科目：

「言語教育科目A」(必修科目・英語) 上級英語、英語ディスカッション、英語リーディング&ライティング、英語プレゼンテーション、英語eラーニング

「言語教育科目B」(必修科目・初習言語) ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語(文学部・グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生のみ)、日本語(原則、留学生のみ)

「言語自由科目」(自由科目)(必修を終えた後学ぶ、初級から上級に至る言語科目) 英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、ロシア語、ポルトガル語、日本語、日本手話

総合系科目：

「学びの精神」(選択科目) 1年次春学期履修が原則。大学生になるための訓練となる授業。

「多彩な学び」(選択科目) 1年次秋学期から履修開始。専門性に立つ教養形成の核となる科目群。

「スポーツ実習」(選択科目) 1年次春学期から履修可能。健康維持のための運動を体得する科目群。

Rikkyo Learning Styleでは、学生諸君の入学時の目標を4年間で達成するため、あるいは、4年間で明確な目標を持って社会に出るために必要な科目を必要な時期に学べるようにカリキュラムが設計されている。専門分野の知見を確実に身に付け、同時にそれが自分の生きる力になるために、全学共通科目を有効に履修してほしい。そのためのヒントを提示する。

入学した最初の学期(ファースト・ターム)に専門科目「学びの技法」と並行して履修する「学びの精神」は、所属する学科の専門性に近い科目だけでなく、それ以外の分野の科目をも積極的に履修すること。「言語教育科目A」はしっかりと履修し、英語力の増進を図ってほしい。春学期と秋学期に1回ずつ無料で実施される英語力伸長度測定テスト(TOEIC® IP)は毎年必ず受けること。「言語教育科目B」は新しく触れる言語を理解し使える力をつけるだけでなく、日本語と英語の特質を知るための手掛かりとして、知的基盤である言語への知見を深める科目としても有効である。学習到達度を測るための検定試験受験料補助制度もある。「多彩な学び」は専門科目の履修と並行して、2年次、3年次でも、新たな問題意識、関心が芽生えたときに、目的を持って履修すること。「スポーツ実習」では必要なときに健康を維持する力と知見を身に付けてほしい。特定の言語、あるいは知的領域に強い関心を持って、特定の言語の継続学習や特定テーマを掘り下げたいと思ったら、「グローバル教養副専攻」(IX グローバル教養副専攻 の項参照)に登録してほしい。言語系にも総合系にも全学共通科目を中心としたコースがたくさん用意されている。将来のグローバル社会での活躍に備えて、有意義な学修ができるだろう。

次ページ以降の内容をよく読み、これらのヒントを踏まえて、なりたい自分、なるべき自分を目指して、自分を社会に出る有為に活躍できる「専門性に立つ教養人」に育てていくことが期待される。

全学共通カリキュラム運営センターとは：

「全学共通科目」と「グローバル教養副専攻」は全学共通カリキュラム運営センターによって運営されている。全学共通カリキュラム運営センターは学生諸君が所属する全ての学部が協力し合って、アイデアも担当教員も出し合って、全学共通のカリキュラムを運営する組織である。全学共通科目は全ての学部が協力して構想し、実施されているので、他学部教員の担当科目がたくさんある。それらは全て、立教大学の全教員が学部の違いを超えて立教大学の全学生に身に付けてほしいと思う内容を持っており、諸君全ての一人一人に向けて語りかけられている。

総合系科目

2016年度以降1年次入学者に適用

●総合系科目について

- 1 総合系科目とは
- 2 科目群・科目名
- 3 履修上の注意
- 4 過年度に開講されていた総合系科目

●開講科目一覧

1 総合系科目とは

総合系科目の特色 総合系科目は「学びの精神」、「多彩な学び」、「スポーツ実習」の3つの科目群に分かれ、導入期、形成期、完成期のそれぞれの時期に適した科目を履修することが求められる。総合系科目の全体像について、また科目群ごとの目的や特色を理解したうえで計画的な履修を期待したい。

大学に入って早い時期から専門の勉強に過度に没頭してしまうと、青年期に必須である肉体の鍛錬がおろそかになったり、豊かな情操を育む機会が狭まったり、さらには学問的視野狭窄に陥って専門の勉強そのものが頭打ちになったりする可能性も増してくる。そうしたことにならないよう、できる限り多種多様な科目を学生諸君の前に用意することで、学生生活の中で勉強やさまざまな活動の幅を広げる手伝いをしようというのが、立教大学の全学共通科目総合系科目が担っている役割である。

新入生諸君には、各学部の少人数クラスで専門の導入教育を受ける以前に、いわば知識を詰め込むだけの高校までの勉強と、考える力そのものを身に付ける大学での勉強がいかにか違うかということ、理解してもらう必要がある。そのために総合系科目の中に設けられているのが「学びの精神」という科目群である。講義というものを受けて、講義内容をしっかりノートにとり自己の思考能力鍛錬の糧としていくという、高校までとは異なる大学での「主体的な学び」の姿勢を身に付けてもらうことを目標としている。そのため、積極的な授業参加を促すさまざまな仕組みが用意されている。

「学びの精神」と後述の「スポーツ実習」のみが1年次春学期から履修でき、他は「多彩な学び」として一括され、1年次秋学期以降の履修となる。「多彩な学び」は、内容によってカテゴリに分かれ、「人間の探究」、「社会への視点」、「芸術・文化への招待」、「心身への着目」、「自然の理解」、6つ目として「知識の現場」が用意される。「知識の現場」はボランティア活動や海外でのさまざまな実践活動に学生時代に積極的に関わろうとする学生諸君を大学の側から後押しするために、学内のさまざまな部局が主体となって設けている科目である。「多彩な学び」は多様で、この「知識の現場」の大部分と「立教ゼミナール」は少人数科目、他は基本的に講義科目だが、教員は一人とは限らず、複数の教員が教える後述の「コラボレーション科目」もある。言語も基本的には日本語だが、外国語で教える「F科目」がある。さらに、自宅のパソコンで統計を学ぶ「オンデマンド科目」がある。あまりに多様なので目移りするかもしれないと考え、体系的履修を促すため、海外体験を必須とした「グローバル教養副専攻」の仕組みが作られている。「総合系科目」が提供する「Arts & Science」という副専攻は、日本文化を外国語で発信できる能力を培うことを目標とし、上記の「F科目」と日本に関することを学ぶ「J科目」を履修する。さらに、「多彩な学び」の特定分野を集中的に履修することで、大学での学びを海外体験につなげることができる仕組みになっている。

【注意】

入学した年度によって、カリキュラムや履修規定が大きく異なります。各自が適用されるカリキュラムや履修規定を確認のうえ、十分に注意しながら履修してください。

1. 学びの精神

この科目群は本学で学ぶ意味を追究しながら、立教生としてのアイデンティティを掴み、立教大学での学修に円滑に入るよう促すことを目標としている。

科目名
世界史の中のキリスト教
思想を生み出すキリスト教
美術の中のキリスト教
音楽の中のキリスト教
文学を生み出すキリスト教
国際社会の中の宗教
現代社会の中の宗教1
現代社会の中の宗教2
人文学からの学び（文学）
人文学からの学び（思想・教育）
人文学からの学び（史学）
芸術への扉
グローバル経済社会を考える
社会学からの学び
学びの場としての社会
現代文化からみる学び
メディアからみる学び
法と政治の世界
経営学への招待
現代社会と観光
現代社会の諸相
自然科学の探究
身体科学からの学び
現代心理学からの学び
アジア地域での平和構築
グローバル社会での平和構築
大学生の学び・社会で学ぶこと
人権とジェンダー
ライフマネジメントと学生生活
立教大学の歴史
西欧キリスト教社会における大学の誕生
伝統と革新の大学図書館
キャリアデザイン
キリスト教史に学ぶ多文化共生
美と生命について：キリスト教の美学
愛について：キリスト教の倫理と哲学
GL101（グローバル・リーダーシップ・プログラム）
University Education in the World

学びの精神は、学生諸君が立教大学での学びに円滑に溶け込めるよう、1年次春学期に履修することを前提として設けられた科目群である。立教大学の建学理念にもとづき、宗教や大学、人権に関する科目やグローバル化に対応した科目などを置くとともに、総合系科目として文化・思想・社会・文学・芸術・健康・スポーツ・自然などの多くのカテゴリにまたがる科目を用意した。またそのほとんどが講義科目となっており、成績評価には筆記試験が課されることが原則である。

その目的は、講義を受けた上で、学生諸君がその要点を理解して自らの考えを練り、リアクションペーパーや小レポートでそれを表現するという、高校までの勉強とは異なる大学での講義科目受講の包括的スキルを、1年次春学期のうちに体得することにある。そのため、各科目ではリアクションペーパーを添削して指導するなどの双方向的な講義が行われる場合が多い。さらに学期末に筆記試験を受験することで、大学における学習到達度チェックの仕組みを理解し、自ら主体的に学ぶ姿勢を涵養することも目指している。すなわち学びの精神は、学生諸君に立教大学での基本的な学びのあり方を経験し、理解してもらうために、設けられた科目群なのである。学びの精神を受講することで、学生諸君が立教大学学生の一員としての自覚を持ち、またその大学生生活の順調な滑り出しを果たすことができるものと考えている。

2. 多彩な学び

「学びの精神」において立教大学における基礎的な学習方法を習得したことを前提に、「多彩な学び」では、幅広い学問分野に触れることが期待されている。多彩な学びは「1. 人間の探究」「2. 社会への視点」「3. 芸術・文化への招待」「4. 心身への着目」「5. 自然の理解」「6. 知識の現場」からなる。各科目は学部等の科目提供元ごとに異なる特徴を持っており、学生が4年間で自分の専門以外のさまざまな学問分野に触れ、専門とは異なる正に「多彩な」思考様式や問題意識、知識等を習得することを目的としている。

1 人間の探究

科目名
聖書と人間
聖書考古学
ジェンダーとキリスト教
イスラームの世界
仏教の世界
日本の宗教
「宗教」とは何か
現代社会と人間
哲学への扉
論理的思考法
教育と人間
歴史への扉
地域研究への扉
教育学への扉
多文化の世界
文化を生きる
日本文化と精神性
人権思想の根源
手話と人権を考える
点字から考える人権
アジアの文化とことば
ヨーロッパの文化とことば
ラテンアメリカの文化とことば
ロシア・東欧の文化とことば
中東の文化とことば
アフリカの文化とことば
イタリアの文化とことば
ドイツ語圏の文化
フランス語圏の文化
スペイン語圏の文化
中国語圏の文化
朝鮮語圏の文化
Japanese Ethnology
World History
立教ゼミナール 1
立教ゼミナール発展編 1
キリスト教と民衆文化
キャンパスデザインの思想と立教スピリット
睡眠文化論
ボランティア論
こっち、あっちの人類学
パトス・ロゴス・エトス

このカテゴリでは、思想・文化・言葉という側面から私たち人間の知に迫っていく。過去に書かれたさまざまな文献を読む、あるいは現代社会に広がるさまざまな事象を集め、そこから考えるという方法が、その中心に位置づけられるだろう。

立教大学の建学の精神を支えるキリスト教については、聖書の内容などを学ぶことによって、その人間観や思想に迫る。古くから人間の生について考えてきた哲学や思想についても、古典の読解などを通して考察を深める。また残された史料に基づき構築されてきた歴史学についても、さまざまな文献を通して理解を深めていく。

もちろんこうした過去の文献に主に依拠した学問ばかりでなく、現代のさまざまな地域で個性的に育まれた地域文化を学ぶ科目や教育・人権といった現代的課題について洞察を深める科目も用意するなど、温故知新の精神を養うと同時に、先端的な知への好奇心をも満足させるよう工夫してある。

これらの科目を広く履修することで、現代人に求められる「教養」とは何かを問い、それをしっかりと自分のものにして欲しい。

2 社会への視点

科目名	科目名
入門・経済教室	パレスチナ問題の歴史と現在
世界経済と日本	Modern Japanese History 1
統計情報で社会・経済を診断する	Modern Japanese History 2
景気・格差問題と統計情報	Japanese Politics and Economy 1
日本国憲法	Japanese Politics and Economy 2
法と社会	Japanese Relations in Asia 1
政治と社会	Japanese Relations in Asia 2
グローバル社会における法と政治	Japanese Society 1
現代のビジネスを学ぶ	Japanese Society 2
企業と社会	Tokyo Studies
現代社会と環境	Saitama Studies
情報と倫理	社会調査入門
近代日本社会と人権	社会調査の技法
メディアと人間	データ分析入門
文化と社会	データの科学
現代社会の解説	多変量解析入門
いのちの尊厳と福祉を考える	デモクラシーとリベラルアーツ
コミュニティをデザインする	Introduction to Statistics 1
観光学への誘い	Introduction to Statistics 2
シティズンシップを考える	Political Sociology
市民活動の組織とマネジメント	Economic Thought
大学と現代社会	University in Modern Society
日本の「多文化」政策を問い直す	立教ゼミナール2
世界の中のロシア	立教ゼミナール発展編2
国際情勢を読み解く	翻訳・通訳と現代社会
ドイツ語圏の社会	戦後社会と原子力
フランス語圏の社会	市民が動く、社会が変わる
スペイン語圏の社会	グローバルシティ・ソウルを読み解く
中国語圏の社会	テレビという媒体
朝鮮語圏の社会	フィールドから考える現代世界の暴力と平和
	立教OBOGの「社長の履歴書」
	キャスターが教える「コミュニケーションガ」
	グローバルの可能性
	〈トランプ時代〉の解剖学
	人の移動と人文学
	しょうがい者の視点から捉え直す現代社会
	Nativeから学ぶ海外の文化や社会問題
	Nativeと学ぶ社会開発

このカテゴリでは、社会という側面から人間の営みに迫っていく。個人と社会、他者との関わり方を、政治・法学・経済学・経営学・社会学などが築いてきた方法を手がかりにして分析することを、目的とする。近年、政治や経済、そして日常生活さえも、それぞれが複雑な仕組みを抱え、その本質を見極めることが難しくなっている。

このカテゴリで学ぶ「社会への視点」とは、「私たちがどのような歴史を作ってきたのか」という過去に学びながら、さらに「これから私たちがどこへ向かおうとしているのか」という、未来にまで含めた視野のなかで物事を見ていこうとするものである。情報と倫理の問題や平和・人権・環境など、私たちに切実な問題についても、このカテゴリで多くを学ぶことができる。これらの科目を履修することで、社会をひとつの視点から見るだけでなく、さまざまな角度から見つめ直していく視点が身に付くことになるだろう。

3 芸術・文化への招待

科目名
文学への扉
表象文化
美術の歴史
美術と社会
音楽の歴史
音楽と社会
美術論演習
音楽論演習
キリスト教美術
キリスト教音楽
日本の美術
日本の音楽
都市と芸術
建築と文化
舞踊論
映像と社会
身体表現と哲学
日本の演劇
ドイツ語圏の文学
フランス語圏の文学
スペイン語圏の文学
中国語圏の文学
朝鮮語圏の文学
Japanese Culture 1
Japanese Culture 2
Japanese Arts A
Japanese Arts B
Culture and Fine Arts
Literature and Society
立教ゼミナール3
立教ゼミナール発展編3
音楽の生まれる場
演芸の世界

このカテゴリでは、人類が生み出してきた文学・美術・音楽・演劇・映像・建築などの作品を対象として、作品の作り手と受け手との緊張をはらんだ関係、あるいは作品を取り巻く社会的諸関係の実相に迫る。文学・芸術の作品に、理性と感性とを総動員して向かい合うことが、その特色である。

このカテゴリに属する科目は、単に作品の創作や実演を目的とするものだけではない。作品が生成される歴史的背景や、それぞれの芸術分野における理論を理解し、一人一人が考察を深めることが求められる。また文学作品などの考察を通じて、作品を生み出した社会に生きる人びとの実態にまで迫ることが必要である。さらには、映画・演劇・美術などの表象文化を多角的に検討することも求められる。こうした多くの要求にかなった科目を配置することで、多彩な学びに相応しい科目を用意した。これら科目の受講により、文化・芸術などの創造・鑑賞を志す学生には、幅広いその土台を提供することになる。

4 心身への着目

科目名
認知・行動・身体
心の科学
パーソナリティの心理
対人関係の心理
心の健康
身体パフォーマンス
ストレスマネジメント
癒しの科学
スポーツの科学
健康の科学
栄養の科学
アンチエイジングの科学
スポーツとメディア
スポーツと社会
スポーツと文化
レジャー・レクリエーションと現代社会
アウトドアの知恵に学ぶ
人間と看護
Japanese Mind
Health and Wellness
立教ゼミナール4
立教ゼミナール発展編4
2020年東京パラリンピック支援を考える

このカテゴリでは、相互に影響しあっている「心」と「身体」の問題を幅広くとらえ、心理学、メディア、健康科学、スポーツ科学の分野から理解を深めていく。コラボレーション科目ではスポーツ、オリンピック関連の分野で幾つかの科目を展開する。

現代社会では、さまざまなストレスのなかで日常生活を送っており、心身の健康がよりよく生きるための重要な要因となっている。健全な身体を有している者でも、心的症状に悩まされることがあったり、規則正しい生活と運動によって交感神経と副交感神経のバランスが取れると、その症状が治ったりする場合がある。心と身体は、このように密接な関わりを持っている。

心身に関わるテーマに、心理学の分野では「認知」、「行動」、「発達」、「心の健康」などの側面から、健康・スポーツの分野では「医学」、「社会学」、「運動学」、「栄養学」などの側面から迫るとともに、映像論、身体論の視点も取り上げる。このように、積極的に心身の問題を掘り下げて理解することを目的としている。

5 自然の理解

科目名
数学の世界
宇宙の科学
生命の科学
物質の科学
身近な物質の化学
化学と自然
化学と社会
行動の科学
生命の歩み
人類の進化
地球の理解
情報科学A
情報科学B
自然環境の保全
生物の多様性
地球環境の未来
自然と人間の共生
脳と心
オーダーメイド医療最前線
大学と科学技術
Science Studies
Nature of the Earth
立教ゼミナール5
立教ゼミナール発展編5

このカテゴリでは、人類が今までの歴史の中で得てきた科学的な知識とその基盤、およびそれらが現代の私たちにどのように密接に結びついているのかを考える。

人間は、人類としてこの世界に現れるとすぐに自然を認識し、「我々の住む世界はどのようになっているのか」、「世界を作っている基本的なものは何か」、「世界を支配する法則はどのようなものか」、「なぜ、この世界は多様な生命体で満たされているのか」などの素朴な疑問を持ち続けてきた。そして、長い歴史の中で「自然哲学」を発展させ、これらの疑問に「科学」として答えようと現在でも努力し続けている。自然界で起こっている現象の理解は日々進展し、私たちの世界観は大きく変わりつつある。

それを踏まえてこのカテゴリでは「自然の法則を記述する数学」やその「数学自身の語る世界」、世界とは何かという問いに答えて導き出された「宇宙の構造」、「身近な物質の化学構造と反応」やその構造を支配する「物理の基本法則」、「物質変換の基本原則」、生命現象の中核をなす「遺伝子と生命」および「生命の歴史」、さらには「生物の行動メカニズム」や「生命の多様性」、「人間と自然との関わり」、「人の心と体の科学」などについて学ぶ。

現代における「自然の理解」の必要性は、理系の仕事に携わる人だけにとどまるものではない。人類が作り出してきたさまざまな物質や技術は毎日の生活に大きな影響を与えており、私たちはこれらの事柄に対して無知ではいられなくなっている。その意味で、私たちにとって自然の理解はますます重要になってきているといえる。

6 知識の現場

このカテゴリでは、大学の内外で作業を行う知的活動を通して、問題解決能力を養うとともに、現場経験から知識が構築されるプロセスに立ち会う。立教大学の社会的な使命や課題を強く意識した全学的な取り組み（プロジェクト）のために設けられている科目群で、学外とくに海外でさまざまな実践活動に携わろうとする学生がそうした活動を学業の一部に取り込むことが可能となるように、「総合系科目」の伝統的なルールの外で、プロジェクトの各担当部局がほぼ独自に科目を編成している。「多彩な学び」は1年次秋学期以降の全学年で所属学部にかかわらず履修できるのが原則だが、「知識の現場」に限っては、「積み重ね型」のカリキュラムであることが多いため、履修できる学部・学年が特定されていたり、先修規定があったり、語学能力等で事前に参加が制限されたりすることがある。多くは人数制限科目であり、単位認定の仕方も「多彩な学び」の他の科目と異なる場合がある。

科目名
GL102 (他者のリーダーシップ開発)
GL111 (Introduction to Leadership)
GL201 (質問力を活用したリーダーシップ開発)
GL202 (Leadership through Inquiry)
GL301 (グローバル・リーダー海外実践)
GL302 (Leadership in a changing world)

「グローバル・リーダーシップ・プログラム」は、権限がなくとも発揮できるリーダーシップを少人数のプロジェクト型学習等を通じて段階的に身に付けるプログラムである。GL111およびGL202、GL301、GL302は英語で開講し、母国語でない環境での経験と講義を通して、グローバルリーダーになるためのリーダーシップスキルと知識を身に付けることを目指す。

「学びの精神」科目として開講しているGL101では、企業（クライアント）から与えられた課題に少人数のチームで取り組み、自分の持ち味を生かしたリーダーシップのあり方に気付く。

「多彩な学び」科目として開講しているGL111は、GL101の英語版であり、英語を用いた環境における自分のリーダーシップに関する気付きとその発揮方法について学ぶ。GL102では、他者のリーダーシップ開発について学ぶ。GL201では、質問力を通したリーダーシップの発揮方法を身に付ける。GL202以降は、英語でのプログラムとなり、GL101、GL201またはGL111等で身につけたリーダーシップを土台として、グローバルに活躍するために必要なリーダーシップを英語で強化する。

グローバル・リーダーシップ・プログラム

**「国際協力人材」
育成プログラム**

科目名
グローバル・イシュー各論
グローバル共通教養総論
ソリューション・アプローチA (国際人権系)
ソリューション・アプローチB (開発経済系)
ソリューション・アプローチC (人道支援系)
ソリューション・アプローチD (国際システム系)
ソリューション・アプローチE (模擬国連・総合演習系)
ソリューション・アプローチF (強制移転・移住系)
ソリューション・アプローチG (紛争と平和)
国際協力リテラシー
アクティブ・リサーチ1
アクティブ・リサーチ2

立教大学・明治大学・国際大学の三大学により運営・開講される「国際協力人材」の育成を目指す、全て英語による科目を展開するプログラムである。

立教大学、明治大学で開講する各科目は、両校の学生が自由に履修可能であり、授業内でのグループワークやディスカッションにて、両大学の学生が活発に交流することができる。

国際協力に関わる多様なゲスト・スピーカーの招聘を中心とした科目、フィールドワーク型・集中合宿型の科目等、多様な科目を体系的に設置することにより、実践的な英語力と、「国際協力人材」としてのマインドを醸成することを目指す。

**国連ユース
ボランティア
プログラム**

科目名
国連ユースボランティア

国連ボランティア計画 (UN Volunteers) が大学と連携して、学生を開発途上国へボランティアとして約5ヶ月の間、派遣するプログラムである。

**陸前高田
プロジェクト**

科目名
陸前高田プロジェクト

被災地の現状を広く知り、復興における課題を共有していくことを目的とし、本学の学部生および大学院生、特別外国人留学生を対象とした、全て英語で開講される課題基盤型学習 (PBL) プログラムである。事前研修、現地研修 (4泊5日)、事後研修の3部構成である。また、スタンフォード大学生、香港大学生との協働プログラムである。

**海外インターン
シッププログラム**

科目名
海外インターンシップ1
海外インターンシップ2

海外における就業体験を通じて、企業を知り、社会の仕組みを理解するとともに、国際的にも活躍できるグローバル人材としての能力を高めることを目指すプログラムである。

**立教サービス
ラーニング**

科目名
RSL-コミュニティ (埼玉)
RSL-コミュニティ (池袋)
RSL-ローカル (南魚沼)
RSL-グローバル (フィリピン)
RSL-プロジェクト・プランニング

立教サービスラーニング (Rikkyo Service Learning: RSL) は、社会の現場での活動と、教室における学問的学習との結合を目指す実践型の科目群である。特に、形成期科目に位置づけて開講するため、一定期間にわたり、専門機関 (NPO、行政、企業等) の指導の下、さまざまな分野の社会活動等を行い、あわせて理論的学習等 (事前・事後学習) を行うことで単位が付与される。履修登録方法 (抽選登録科目) は、全学共通科目の抽選登録方法による。また各科目の詳細・注意事項は、「シラバス」および「立教サービスラーニングガイド」を必ず確認すること。

スポーツ実習

スポーツ実習の目的は、以下の2点に要約される。

- 1) 健康を維持・増進させるための科学的知識を理解し、スポーツの実践を通じて健康づくり、運動不足の解消、体力の向上を目指す。
- 2) スポーツは言語や国境を越えて人類が今日まで築き上げた文化であり、国際人の基礎教養として、あるいは国際交流の手段として、その役割は大きい。スポーツの文化的側面を理解し、同時にその実践を通じて現代人に必要とされるコミュニケーション能力、バランスのとれた理性的確かな判断力を養成する。

スポーツプログラム

科目名
スポーツプログラム1
スポーツプログラム2
スポーツプログラム3
スポーツプログラム4

「スポーツプログラム1～4」は1単位科目で、スポーツ実践を通して、それぞれの種目の運動技術を高め、その種目を楽しむ素養を身に付ける。実技中心の科目であるが、「運動と栄養」、「トレーニング方法」など、健康の維持増進に関連した講義も併せて行うものとする。加えて、スポーツパーソンシップ、コミュニケーションづくりについても学ぶ。スポーツプログラム4は、集中科目である。

スポーツスタディ

科目名
スポーツスタディ1
スポーツスタディ2
スポーツスタディ3
スポーツスタディ4

「スポーツスタディ1～4」は2単位科目で、スポーツプログラムの目的に加えて、授業全体の3分の1程度の時間を使い、それぞれのスポーツについての講義（「スポーツ文化」、「スポーツ栄養学」、「トレーニングと健康」など）を行う。また、各担当者から課せられるレポートを提出することによって、スポーツ文化、スポーツ科学等に対する理解を深め、同時に健康維持・増進のための方法論を学ぶ。また、身体のハンディキャップの有無に関わらずに受講することができる「アダプトッドスポーツ」を用意している。スポーツスタディ4は、集中科目である。

多彩な学びは、広い範囲の学問分野の全体像を俯瞰できるように、多様な科目群で構成されている。これにより、専門分野の枠を超えた幅広い知識と教養、総合的な判断力を養うことを目的としている。

また、多彩な学びでは、各カテゴリの科目紹介にあるような科目が開講されるが、次のような特色のある科目が開講される（科目一覧表には、これらの科目名欄に、科目の特色を示す「F、J、D」などの目印が記されているので、履修計画を立てる際には大いに活用してほしい）。

 外国語による日本研究科目（F科目）

F科目とは外国語（主に英語）による日本研究科目である。日本においてコミュニケーションをするためには日本語能力があるだけでは不十分であり、経済学、文学などの専門に支えられた思考様式や知識体系があって初めて中身のあるコミュニケーションができるようになる。それと同様、世界中の人とコミュニケーションをするためには、単に言語を学ぶだけでは不十分であり、外国の事情を知っておくことや日本の事情を外国語で伝えられるようになることが求められる。

講義は、基本的に外国語（主に英語）で行われる。授業を履修するにあたって必要とされる英語能力については、各科目のシラバスを確認すること。異文化間のコミュニケーションや日本研究に興味を持つ学生はもちろん、留学を計画している学生にとっても、日本の現状を理解し、発信していく上で、有用な科目である。

外国語による日本研究科目（F科目）

上級（TOEIC® 700点程度以上：演習）

Modern Japanese History 1 Modern Japanese History 2 Japanese Politics and Economy 1
Japanese Politics and Economy 2 Japanese Relations in Asia 1 Japanese Relations in Asia 2 Japanese Society 1
Japanese Society 2 Tokyo Studies Japanese Culture 1 Japanese Culture 2 Saitama Studies

中級（TOEIC® 550点程度以上：講義）

Japanese Ethnology Japanese Arts A Japanese Arts B Japanese Mind Science Studies

📖 ▶日本語による日本研究科目（J科目）

J科目とは、「多彩な学び」として開講する科目の中で、とりわけ日本の歴史、政治、社会、文学、法律などを日本語で深く学ぶことを目標に据える科目である。この科目を通して、日本の文化・社会・自然などについて改めて学び直すことで、グローバル教養人にふさわしい日本についての知識を身に付けることを目的とする。

日本語による日本研究科目（J科目）

仏教の世界 日本の宗教 日本文化と精神性 世界経済と日本 日本国憲法
近代日本社会と人権 日本の「多文化」政策を問い直す 日本の美術 日本の音楽 日本の演劇

📖 ▶オンデマンド授業科目（D科目）

オンデマンド授業科目とは、インターネット上で履修することが可能な授業のことである。履修者は、定められた期間内であれば自分の好きな時間に、自宅や大学のパソコンから授業を受けることができる。

履修者は、講義を受講し、さらに、授業のために用意された電子掲示板システム（BBS）を使って担当教員と履修者との間で質疑応答やディスカッションを行う。

オンデマンド授業科目（D科目）

社会調査の技法 多変量解析入門 データ分析入門 社会調査入門 データの科学 Introduction to Statistics 1
Introduction to Statistics 2

📖 ▶コラボレーション科目

専攻分野の異なる複数の教員が協力し、特定の主題に個々の学問の枠を超えたさまざまな角度からアプローチし、受講生を巻き込みながら互いに議論を戦わせることで、知的刺激を与えあう場をつくり出そうというのがコラボレーション科目の狙いである。現在の大学のカリキュラムは、言語のほかに早い段階から専門の導入教育を徹底的に行う仕組みになっている。専門教育の内容が日々高度化していく状況を考えれば意義のあることだが、大学生らしい総合的な思考能力を養うという点がおろそかになりがちで、この点を補うために「総合系科目」が作られた。「コラボレーション科目」はこの「総合系科目」の教育目標をそれ自身だけで体現する科目であり、いわば知的栄養失調を解消する万能薬たることを意図している。元々は、立教大学の伝統ともいえる、分野の異なる大学教員が教員室等で交わす雑談や、さらには特に近年若手研究者の間で盛んになってきた「学際的研究」の試みを、そのまま授業にしてみようということで作られた科目である。ゆえに、教壇に立つ教員、ゲスト・スピーカーは特定の分野を背景に持つ研究者であることが原則だが、受講生に身近な主題が選ばれる場合は、経験豊かな社会人や本学の職員、卒業生といった人々も積極的に参加して、議論を盛り上げるのが常である。ネットで断片的な知識ばかり得ている受講生にとり、専門が異なる生身の人間が本気で議論する現場に参加することは自己形成の大きな糧となろう。コラボレーション科目はテーマに応じて1～5カテゴリに位置づけられている。

コラボレーション科目

キャンパスデザインの思想と立教スピリット 睡眠文化論 ボランティア論 キリスト教と民衆文化 翻訳・通訳と現代社会
しょうがい者の視点から捉え直す現代社会 グローバルシティ・ソウルを読み解く 音楽の生まれる場 2020年東京パラリンピック支援を考える
こっち、あっちの人類学 テレビという媒体 フィールドから考える現代世界の暴力と平和 立教OBOGの「社長の履歴書」
キャスターが教える「コミュニケーション力」 パトス・ロゴス・エトス 戦後社会と原子力 市民が動く、社会が変わる グローカルの可能性
〈トランプ時代〉の解剖学 演芸の世界 人の移動と人文学 Nativeから学ぶ海外の文化や社会問題 Nativeと学ぶ社会開発

📖 ▶立教ゼミナール

立教ゼミナールは、学生と教員、また学生同士で積極的に議論できるように、少人数で授業が行われる。すべて専任教員が担当し、多彩な学びの1～5カテゴリにまたがるさまざまなテーマが用意されて

いる。

この科目では、異なる学部・学年の履修者たちが、ひとつのテーマをめぐってさまざまな立場から「議論する」ことが可能である。この特徴を生かし、自らの専門領域にとらわれない広い視野を持ち、立場の異なる相手を尊重しながら、自らの意見を論理的に主張できる能力を高めることを狙いとしている。この科目を通して、あらゆる分野の学生に必須の「聞く」「調べる」「考える」「書く」「発表する」といった基本的能力を涵養するとともに、自らの興味・関心を深く掘り下げて欲しい。

なお、立教ゼミナール発展編は、いわゆる超学際的テーマを扱うので、3～4年次生の履修を推奨している。1～2年次生の履修を妨げないものの、大学生生活の完成期に学習することが期待される。

立教ゼミナール

立教ゼミナール1～5 立教ゼミナール発展編1～5

3 履修上の注意

1. 「多彩な学び」科目群の履修について
多彩な学び科目群の履修については、原則1年次秋学期より履修が可能である。9月入学者については、入学した翌春学期より履修が可能である。
2. 履修登録上限単位数
全学年において、「学びの精神」科目群「多彩な学び」科目群「スポーツ実習」科目群を全て合計して春・秋学期それぞれ6単位以内とする（ただし、「国連ユースボランティア」科目を履修する場合を除く）。なお、履修登録上限単位数には、履修登録した科目で、単位を修得できなかった科目も含まれる。また、「海外インターンシップ1・2」科目の登録上限の扱いについては、「11. 海外インターンシッププログラムについて」を参照すること。
4年次生は、秋学期の授業終了日以降に集中して授業を行う科目を履修することはできない。
3. 履修規定の変更
「海外インターンシップ1・2」科目は、2017年度より履修登録上限単位数に含まれる。単位の扱い等の詳細については、「11. 海外インターンシッププログラムについて」を参照すること。
4. 同一科目の重複履修
「学びの精神」科目群「多彩な学び」科目群「スポーツ実習」科目群の全ての科目に関し、同一科目は、学期を変えれば重複履修することはできる。その場合には最初に修得した1科目のみが卒業要件単位として認められ、2回目以降に修得した単位は随意科目となり、卒業要件単位には算入されない。なお、成績証明書には履修した全ての科目の成績が記載される。

同一科目とは、科目の名称（番号までを含む）、単位数が同一の科目である。したがって、担当者が同じでも科目の名称が一部でも異なる場合には別科目となる。逆に、担当者、タイトルや授業の内容が異なっても、科目の名称が同じであれば、同一科目であり、2度以上履修した場合には、最初に修得した1科目のみが卒業要件単位となる。

(例) 「グローバル社会における法と政治」〈現代中国の政治を知る〉(倉田 2単位) } 同一科目
「グローバル社会における法と政治」〈法の世界を学ぶ〉(高橋 2単位)
「スポーツスタディ4」〈ネイチャーキャンプ〉(担当者:濁川 2単位) } 同一科目
「スポーツスタディ4」〈スキーA〉(担当者:濁川 2単位)
「現代社会の中の宗教1」〈バイオエシックスとキリスト教と日本社会〉(柳堀 2単位) } 別科目 (数字が異なるため)
「現代社会の中の宗教2」〈古典と文学作品〉(阿部 2単位)

5. 卒業要件とはならない科目
法学部の学生は、「学びの精神」科目群の「法と政治の世界」と「多彩な学び」科目群『2 社会への視点』の「法と社会」「政治と社会」を履修しても卒業要件単位とはならない。また、「日本国憲法」は履修対象外（履修不可）科目となるので注意すること。
社会学部の学生は、「多彩な学び」科目群『2 社会への視点』の「社会調査の技法」「社会調査入門」は履修対象外（履修不可）科目となるので注意すること。
6. オンデマンド科目履修について
履修資格を有するのは休学・在学留学中の学生を除いた学生となる。なお履修に際して注意事項があるので、申込前に<https://spirit.rikkyo.ac.jp/odc/>で必ず確認をすること。
各学期の定められた履修登録期間にオンデマンド科目を登録申請し、履修を許可された者は、下記の期間中にBlackboardにログインをして年度別コース一覧にオンデマンド科目名があることを確認すること。
科目名が確認できない場合は、教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）まで連絡をすること。

春学期：4月11日（水）から4月30日（月）まで

秋学期：9月20日（木）から9月29日（土）まで

その後、受講期間になったら受講を開始すること。操作方法是次のURL（<https://spirit.rikkyo.ac.jp/odc/>）にて「オンデマンド受講生用簡易マニュアル」を参照すること。

※一部科目では学期中のスクーリングや期末の定期試験など、Web上での学習以外に大学へ直接出向く必要が生じる場合があるので各科目のシラバスも必ず確認すること。

7. グローバル・リーダーシップ・プログラムの履修について

履修資格

学部学生対象。各科目の履修資格は以下の通りである。

◆「GL102」「GL201」：「GL101（経営学部の学生は「リーダーシップ入門（BLO）」）」の単位を修得済みであること。

※経営学部の学生については、「GL101」の履修は不可。

◆「GL111」：下記の申請基準相当の語学（英語）力を有すること。

- ・TOEIC®（またはTOEIC®IP）700点程度
- ・TOEFL®iBT 75点程度 TOEFL®PBT 540点程度
- ・IELTS 6.0程度

※グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生については、全学共通科目で開講されている「GL111」の履修は不可。

◆「GL202」：「GL111」または「GL201」の単位を修得済みであり、かつ下記の申請基準を満たす語学（英語）力を有すること。

- ・TOEIC®（またはTOEIC®IP）700点以上
- ・TOEFL®iBT 75点以上、TOEFL®PBT 540点以上
- ・IELTS 6.0以上

※グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生については、全学共通科目で開講されている「GL202」の履修は不可。

◆「GL302」は2018年度は開講しない。

履修登録方法

科目の登録は「その他」登録とする。全ての科目の履修にあたって選考を行う。選考方法とスケジュールは以下のとおり。

春学期開講「GL101」履修登録

上記科目の履修を希望する者は、Rikkyo V-CampusのBlackboard (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/blackboard/>) にログインし、年度別コース一覧の「その他」より「GL101（履修申請用）」をクリックのうえ、そこに設定された設問に対応すること。設問の回答をもって、履修を希望したものとする。

申請期間：4月3日（火）10：00～4月6日（金）18：00

※申請期間が短いので注意すること。

選考の結果、履修を許可された者は、4月10日（火）21：00より履修登録状況画面および履修登録システムに「GL101」の情報が表示され、登録確認が可能となる。

春学期開講「GL202」履修登録

上記科目の履修を希望する者は、Rikkyo V-campusのBlackboard (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/blackboard/>) にログインし、年度別コース一覧の「その他」より「GL202（履修申請用）」をクリックのうえ、そこに設定された設問と提出物に対応すること。設問の回答と提出物の提出をもって、履修を希望したものとする。

申請期間 3月19日（月）10：00 ～ 3月23日（金）17：00

選考の結果、履修を許可された者は、4月2日（月）10：00に全学共通科目掲示板に学生番号を掲示する。履修登録状況画面および履修登録システムにおいても登録確認が可能となる。

秋学期開講「GL102」「GL111」「GL201」履修登録

上記科目の履修を希望する者は、Rikkyo V-CampusのBlackboard (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/>)

blackboard/) にログインし、年度別コース一覧の「その他」より「GL102（履修申請用）」「GL111（履修申請用）」「GL201（履修申請用）」をクリックのうえ、そこに設定された設問や提出物に対応すること。設問の回答や提出物の提出をもって、履修を希望したものとする。

申請期間：9月3日（月）10：00～9月7日（金）18：00

選考の結果、履修を許可された者は、9月12日（水）11：00より履修登録状況画面および履修登録システムに「GL102」「GL111」「GL201」の情報が表示され、登録確認が可能となる。

春学期期間外科目および秋学期期間外科目「GL301」履修登録

グローバル教育センターが「GL301」として認定する学外プログラム（8～9月／2～3月に実施）への参加が必要となる。対象プログラムより参加を希望するプログラムを選択し、各自申込手続きを行うこと。プログラムごとの選考を経て参加が決定したのち、下記要領に従い本科目の履修申請書を提出すること。書類審査の上履修者を決定する。

〈春学期〉

説明会：4月中旬～下旬※グローバル教育センターHP等で案内予定

申請期間：5月21日（月）～6月8日（金）

申請書配付・提出場所：グローバル教育センター／新座キャンパス国際センター

履修許可者発表：6月15日（金）10：00（全学共通科目掲示板に掲示）

〈秋学期〉

説明会：9月下旬～10月上旬 ※グローバル教育センターHP等で案内予定

申請期間：10月22日（月）～11月22日（木）

申請書配付・提出場所：グローバル教育センター／新座キャンパス国際センター

履修許可者発表：11月30日（金）10：00（全学共通科目掲示板に掲示）

「GL301」は春／秋学期期間外科目として履修登録を行う科目であり、全学共通科目総合系科目の年間履修登録上限（12単位）に含まれる。詳細の考え方については、「11.海外インターンシップ・プログラムについて」の「履修登録上限」と同様であるため、必ず確認し履修計画を立てる際には十分に注意すること。

対象プログラム等詳細については、春学期は4～5月、秋学期は9～10月にグローバル教育センターHPで公開し説明会を行う。

注意事項

- ①選考の結果、履修が許可されないことがある。
- ②選考のため、面接を行うことがある。その際は科目担当者より直接連絡する。
- ③履修を希望する場合、申請した曜日・時限に他の科目を履修登録システム上で登録しないこと。1次抽選・2次抽選・科目コード登録で他の科目をシステム上で履修登録していた場合、その科目の履修登録が優先されてしまうので注意すること。また、申請時にはシステムの履修登録上限単位数に含まれていないため、十分注意すること。
- ④「GL101」など同一曜日・時限に複数クラスを開講している科目では、任意のクラスに割り当てられる。選考の結果、どのクラスに配当されたか必ず確認すること。
- ⑤履修を許可された者の履修登録は大学が行うので、履修登録状況画面で正しく登録されているか必ず確認すること。

8. 「国際協力人材」育成プログラムの履修について

◆履修にあたっては、グローバル教育センター提供科目ガイダンスなどで配付している「国際協力人材」育成プログラムパンフレット等を参照のこと。

履修資格

「ソリューション・アプローチA～G」「アクティブ・リサーチ2」の履修については、配当年次が2年次以上となる。

また、「国際協カリテラシー」「アクティブ・リサーチ2」については、所定の申請書類を提出する必要がある。詳細は下記「履修登録方法」を参照のこと。

履修登録方法

「グローバル・イシュー各論」「グローバル共通教養総論」「ソリューション・アプローチA～G」の登録は抽選登録に準ずる。

履修登録にあたっては、科目が立教大学・明治大学の各キャンパスで開講されているので、キャンパス間の移動時間、また、授業時間の違いを考慮して登録を行うこと。移動時間が不足していた場合でも自己責任となるので注意すること。明治大学開講科目については、開講時間が本学と異なるので、必ずシラバス・時間割検索システムの検索結果一覧「注意」欄で確認のうえ登録すること。

2017年度より、「アクティブ・リサーチ1」と「国際協カリテラシー」「アクティブ・リサーチ2」は原則隔年開講とし、2018年度は「国際協カリテラシー」「アクティブ・リサーチ2」を開講する。

「国際協カリテラシー」「アクティブ・リサーチ2」については、「その他」登録となり、所定の用紙での申請が必要となる。

申請方法・申請基準・申請期間・選考結果発表については以下のとおり。

◆申請方法：履修を希望する者は、「履修申請書」を提出する。書類はグローバル教育センターの窓口にて配付する。

申請者は、5月16日（水）～5月18日（金）のいずれかの日程で面接を行う可能性がある。面接を行う場合、申請書に記入された連絡先に直接連絡する。

◆申請書配付期間：5月1日（火）～5月15日（火）

◆提出場所：グローバル教育センター窓口にて提出。

◆申請期間：5月7日（月）10：00～5月15日（火）17：00

◆選考結果：5月21日（月）11：00に、全学共通科目掲示板にて発表する。

*注意事項

- ① 「国際協カリテラシー」「アクティブ・リサーチ2」については、選考の結果、履修が許可されないことがある。
- ② 「国際協カリテラシー」「アクティブ・リサーチ2」の履修を許可された者の履修登録は大学が行うので、履修登録状況画面で正しく登録されているか必ず確認すること。
- ③ 「国際協カリテラシー」「アクティブ・リサーチ2」の単位については、秋学期他科目となる。各自所属する学部・学科の履修規定により履修登録上限単位数が設定されている場合には、履修計画を立てる際に注意すること。

特別聴講学生証

科目登録の結果、明治大学での開講科目の履修が決定した学生は、特別聴講学生証を春学期は4月28日（土）以降、秋学期は10月9日（火）以降に所属キャンパスの教務窓口にて受け取る。明治大学での授業出席や試験等では、特別聴講学生証が必要となるので、紛失しないよう管理すること。

プログラム修了認定（2016年度以前入学者のみ対象）※2017年度以降入学者は対象外なので、注意すること

本プログラムは「モチベーション・パス」「キャリア・パス」の要件に沿って体系的に学んだ場合、修了認定証が発行される。各パスについては、入学年度に配付されたプログラムのパンフレットを参照すること。パンフレットは、グローバル教育センターにて閲覧可能である。プログラムの修了認定は、本人からの申請により、次の修了要件を全て満たしていると認められる場合に認定する。

<モチベーション・パス>

- ① 修了に必要な単位数は10単位以上とする。ただし、重複履修して修得した科目については、最初に修得した1科目分だけがプログラム修了要件単位として認められる。
- ② 「グローバル・イシュー各論」および「グローバル共通教養総論」の2科目4単位を必修とする。

③「ソリューション・アプローチA～G」のうち3科目6単位以上を修得すること。

<キャリア・パス>

- ①修了に必要な単位数は16単位以上（モチベーション・パス科目10単位以上を含む）とする。ただし、重複履修して修得した科目については、最初に修得した1科目分だけがプログラム修了要件単位として認められる。
- ②モチベーション・パスの修了要件を満たしていること。
- ③キャリア・パス科目のうち、2科目4単位以上を修得すること。

修了申請手続

春学期・秋学期に「モチベーション・パス」「キャリア・パス」の修了要件を満たした学生は、以下の方法・日時で申請を行うこと。修了申請書は、グローバル教育センター窓口にて配付する。

<必要書類>

春学期・秋学期とも以下の2点を提出すること

- ①「モチベーション・パス」「キャリア・パス」修了申請書
- ②成績参照画面のコピー

<申請方法・日程・場所>

申請書配付 春学期修了：9月3日（月）～9月10日（月）
秋学期修了：2019年3月1日（金）～3月15日（金）
申請期間 春学期修了：9月5日（水）～9月10日（月）
秋学期修了：2019年3月13日（水）～3月15日（金）
提出場所 グローバル教育センター窓口
結果発表 春学期修了：9月11日（火）
秋学期修了：2019年3月18日（月）

両学期とも全学共通科目掲示板にて発表する。

*修了証については、結果発表時の掲示の指示に従い受け取ること。

9. 国連ユースボランティアプログラムについて

選考から派遣、帰国までのスケジュール

4月5日（木）17：00	応募締切
4月9日（月）～14日（土）うち数日	日本語および英語による面接審査 ※日程詳細は申請書参照
4月16日（月）頃	本学推薦派遣候補者発表 ※4月18日（水）以降の辞退は認めません。
5月～7月	国連による選考（英語による電話インタビューなど）、 最終合格者決定
8月～9月	最終合格者対象の派遣事前研修（集中講義合宿）[受講必須] ※関東および関西において、計10日間程度
9月～2019年2月	現地派遣
2019年3月	帰国報告会

履修資格

- ①学部学生であること。
- ②2018年度に在学していること（休学していないこと）。
- ③日本国籍を有すること。
- ④2018年9月1日時点で、満20歳以上かつ心身ともに健康であること。
- ⑤次のいずれか一つの英語能力を満たしていること。
TOEFL® ITP500点、TOEFL® iBT61点、TOEIC® 590点、IELTS 5.0点
英語能力を証明する書類の写しを必ず提出すること。
- ⑥開発途上国へ2週間以上の渡航経験を持つことが望ましいが、必須ではない。

- ⑦ボランティア経験があることが望ましいが、必須ではない。
- ⑧円滑に共同作業ができること。
- ⑨基本的なICTスキル（Word/Excel/Power Point）を有すること。
- ⑩全学共通科目言語必修科目に未修得の単位がある場合、申請を認めない。

履修申請方法

4月5日（木）17：00までに、いずれかの事務室に以下の提出書類を提出すること。ただし、留学等の理由により、窓口での提出に支障がある場合は、必ず事前にグローバル教育センターに問い合わせること。

提出場所：池袋キャンパス グローバル教育センター窓口
新座キャンパス 国際センター窓口

提出書類：①申請書

グローバル教育センターホームページ（<https://ghrd.rikkyo.ac.jp/>）よりダウンロードすること。

②成績参照画面のコピー

2017年度までの成績がすべて表示されている成績参照画面を出力し、提出すること。

③英語能力証明書のコピー（TOEIC IP可）

④英文履歴書

グローバル教育センターホームページより参考資料をダウンロードすること。締切日までの完成が困難な場合、後日提出も可とする。

履修登録

国連による最終選考に合格し派遣が決定した学生は、秋学期他科目として大学が「その他」登録を行う。派遣決定後に改めて本科目に関する履修登録申請手続きをする必要はないが、各自必ず当該学期の履修登録状況画面を確認すること。

なお、本科目が履修登録される学期において他科目の履修はできない。

※派遣決定前に履修登録した通年科目の取り扱い

通年科目を履修している場合、その科目は履修が中止された扱いとなり、成績評価は「Q」と表示され単位を修得することはできない。

履修登録上限

本科目を履修する場合、当該秋学期における全学共通科目総合系科目の履修登録上限は特例として12単位とする。

成績

本科目の成績は「合格」または「不合格」とする。

なお、派遣国からの帰国の時期により成績発表の時期が遅れることがある。4年次生については、派遣国からの帰国の時期により、卒業合格者発表（2月下旬）までに本科目の成績評価を確定させることが出来ない場合がある。その場合、追加合格者としての発表（3月中旬）となることもある。

研修

最終合格者は、8月～9月に計10日間程度、関東および関西において実施される合宿形式の派遣事前研修を必ず受講すること。

その他

- ・最終合格後および派遣後であっても、国際情勢や現地事情により派遣中止となる場合がある。

・本科目に関する詳細はグローバル教育センターホームページで確認すること。

10. 陸前高田プロジェクトの履修について

スケジュール

5月中旬	募集説明会
6月14日（木）17：00	応募締切
6月中旬	面接 ※日程詳細は申請書参照
6月25日（月）頃	参加者決定
7月～9月	事前研修（2回）
9月5, 6日（水, 木）	事前研修（東京）※現地研修直前2日間程度, 海外からの参加者合流
9月7日（金）～11日（火）	現地研修（陸前高田）※4泊5日
9月12, 13日（水, 木）	事後研修（東京）※現地研修直後2日間程度

履修資格

2018年度春学期および秋学期とも在学であること（休学していないこと）。

履修申請方法

本プログラムは、選考を経て参加者を決定する。

申込期限：6月14日（木）17：00

提出場所：池袋キャンパス グローバル教育センター窓口

新座キャンパス 国際センター窓口

提出書類：①申請書

グローバル教育センターホームページ（<https://ghrd.rikkyo.ac.jp/>）よりダウンロードすること。

②成績参照画面のコピー

2017年度までの成績がすべて表示されている成績参照画面を出力し、提出すること。

③英語能力証明書のコピー（TOEIC IP可）

履修登録

参加が決定した学生は、秋学期他科目として大学が登録を行う。参加決定後に改めて本科目に関する履修登録申請手続きをする必要はないが、各自必ず当該学期の履修登録状況画面を確認すること。

成績

本科目の成績は「合格」または「不合格」とする。

その他

・本科目は幅広い学生の参加を期待することから、博士課程前期課程の学生も参加することができるが、その修得単位は随意科目となる。

・本科目に関する詳細はグローバル教育センターホームページで確認すること。

11. 海外インターンシッププログラムについて

科目の概要

大学直営で行うプログラムと他団体が運営する2プログラムを利用する計3種類のプログラムがあり、いずれも事前研修、現地海外インターンシップ、事後報告会の3つから構成される。

スケジュール

具体的な日程については、グローバル教育センターホームページ（<https://ghrd.rikkyo.ac.jp/>）を確認すること。詳細な派遣スケジュールは、派遣地域や派遣先によっても異なるため、海外インターンシ

ッププログラムに参加を希望する場合、自身のスケジュールは余裕をもって確保しておく必要がある。

また、渡航および派遣期間中の遵守事項があるため、応募前によく確認すること。

<8～9月実施> (春学期期間外科目)

2018年4月中旬	募集説明会
5月9日 (水) 17:00	応募締切 ※応募者多数の場合、書類選考
5月中旬	面接、結果通知※日程詳細は申請書参照
6月	履修登録
6月	受入企業／団体との調整
8月	渡航準備、事前研修
8～9月	現地インターンシップ
9月	事後報告会
9月下旬以降	成績発表

<2019年2～3月実施> (秋学期期間外科目)

2018年9月下旬～10月初旬	募集説明会
10月25日 (木) 17:00	応募締切 ※応募者多数の場合、書類選考
11月中旬	面接、結果通知※日程詳細は申請書参照
11月	履修登録
11～12月	受入企業／団体との調整
2019年2月	渡航準備、事前研修
2019年2～3月	現地インターンシップ
2019年3月	事後報告会
3月下旬以降	成績発表

派遣先情報

8～9月実施は4月中旬、2019年2～3月実施は10月初旬に、具体的な派遣先企業等の情報をグローバル教育センターホームページに掲載する（閲覧にはV-CampusのID及びパスワードが必要）。受入企業／団体によって学年や語学レベル等の条件がある場合があるので注意すること。

履修申請方法

前述のスケジュールに記載の応募締め切りまでに、いずれかの事務室に以下の提出書類を提出すること。

提出場所：池袋キャンパス グローバル教育センター窓口
新座キャンパス 国際センター窓口

提出書類：①申請書

グローバル教育センターホームページよりダウンロードすること。

②成績参照画面のコピー

最新の成績参照画面（当該学期の履修登録内容が反映されたもの）を出力し、提出すること。

③履修登録状況画面のコピー

④語学能力証明書のコピー（受験している場合。TOEIC IP可）

⑤大学宛誓約書

※応募者多数の場合、書類選考を行う。

履修登録

派遣が決定した学生は、各学期期間外科目として大学が「その他」登録を行う。改めて登録手続きをする必要はないが、履修登録後に更新される履修登録状況画面を各自必ず確認すること。

履修登録上限

- ・2017年度より上記のとおりインターンシップ派遣前に履修登録を行うよう変更になったため、本科目を履修した場合は履修登録上限に含まれる。
- ・春学期期間外、秋学期期間外いずれの学期で本科目を履修登録した場合も、全学共通科目総合系科目の年間履修登録上限（12単位）のカウントに含まれる。

例) ◎春学期期間外科目として履修

総合系科目の春学期における履修登録上限である6単位をすでに履修している場合でも、上記のカウントの原則に従い本科目を履修することができる。

◎秋学期期間外科目として履修

総合系科目の秋学期における履修登録上限である6単位をすでに履修している場合でも、上記のカウントの原則に従い総合系科目の年間履修登録上限単位（12単位）および各学部の定める年間の履修登録上限の範囲内で本科目を履修することができる。

※選考の結果合格した場合でも、上記に示された履修登録上限のルールを超えて履修登録ならびに単位の修得をすることはできない。本科目の履修登録時期は、通常の履修登録時期より遅いため、申込をする前に自身でよく確認し、計画的に履修計画を立てること。

成績

本科目の成績は「合格」または「不合格」とする。

その他

- ・派遣後であっても、国際情勢や現地事情により派遣中止となる場合がある。渡航に際しては、大学の指定する賠償責任保険及び海外旅行保険に加入すること。
- ・本プログラムは幅広い学生の参加を期待するため、下記(1)～(3)に該当する学生についても参加申込を認め、選考により合格した場合はプログラムに参加することができる。下記注意事項を確認し、希望する場合はグローバル教育センターに相談すること。

(1) 秋学期期間外科目における学部4年次生

参加を認められた場合も履修登録および単位修得をすることはできない。

(2) 学部1～3年次生および春学期期間外科目における学部4年次生で履修登録を希望しない者

履修登録した上で参加することが原則であるが、履修登録上限超過等、特段の理由がある場合履修登録せずプログラム参加申込をすることを認める。参加を認められた場合も単位修得はできず、途中で単位修得を希望することもできない。

(3) 博士課程前期課程1年次生

参加が認められた場合には、履修登録を行うが、その修得単位は随意科目となる。

※(1)～(3)いずれにおいても、プログラム参加に当たっては履修登録の上参加する学部学生と同様、現地海外インターンシップのみならず事前研修、事後報告会、課題提出、および関係各所の諸指示に従うことを必須とする。

12. RSL科目 の履修について

全て抽選登録科目。抽選登録方法は、全学共通科目の抽選登録方法に従うこと（特別な手続きは不要）。注意事項については「シラバス」および「立教サービスラーニングガイド」を必ず確認すること。

以下は過年度に開講されていた総合系科目で、今年度は開講されていない科目である。

過年度に、これらの科目について、それぞれの科目の開講年度における「履修上の注意」により修得した単位は、規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。開講キャンパスが移動した場合は、下表には記載していない。

科目群 カテゴリ	科目名	開講年度	
		2016	2017
多彩な学び 1. 人間の探究	Fiat lux：キリスト教霊性と文化	●	
	キャスターが教える”伝える力”	●	
	社会人への階段	●	
	新しい時代を生き抜く力		●
多彩な学び 2. 社会への視点	ヒロシマ・ミナマタ・原発事故後の日本	●	
	大衆文化・社会論	●	
	立教OBOGの「社長の履歴書」	●	
	少女歌劇の100年	●	●
	武力紛争を生きる人びと		●
	オリンピックマーケティング		●
	いのちと暮らしのジェンダー論		●
	震災復興とコミュニティの再編	●	●
多彩な学び 4. 心身への着目	スポーツ観戦論	●	
	オリンピック×学生＝レボリューション	●	
多彩な学び 5. 自然の理解	持続可能な地域社会を考える	●	
	都市と自然	●	●
	ヒトと生きものたち	●	●
多彩な学び 6. 知識の現場	RSL-ローカル（陸前高田）	●	●
スポーツプログラム	スポーツプログラムA	●	●
	スポーツプログラムB	●	●
	スポーツプログラムC	●	●
	スポーツプログラムD	●	●
	スポーツプログラムE	●	●
	スポーツプログラムF	●	●
	スポーツプログラムG	●	●
	スポーツプログラムH	●	●
	スポーツプログラムI	●	●
	スポーツプログラムJ	●	●
	スポーツプログラムK	●	●
	スポーツプログラムL	●	●

2018年度 総合系科目
開講科目一覧

2016年度以降1年次入学者に適用

学びの精神科目群

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目 ナンバリング	備考
			池袋 キャンパス	新座 キャンパス			
抽選登録	世界史の中のキリスト教	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	思想を生み出すキリスト教	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
	美術の中のキリスト教	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	音楽の中のキリスト教	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
	文学を生み出すキリスト教	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP1100	
	国際社会の中の宗教	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	現代社会の中の宗教1	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	現代社会の中の宗教2	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP1100	
	人文学からの学び(文学)	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
	人文学からの学び(思想・教育)	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	人文学からの学び(史学)	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
	芸術への扉	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	グローバル経済社会を考える	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	学びの場としての社会	2	春		1・2・3・4	CMP1100	
	現代文化からみる学び	2	秋		1・2・3・4	CMP1100	
	メディアからみる学び	2	春		1・2・3・4	CMP1100	
	社会学からの学び	2		秋	1・2・3・4	CMP1100	
	法と政治の世界	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	・法学部所属学生は履修しても卒業要件単位とはならない
	経営学への招待	2	春	秋	1・2・3・4	CMP1100	
	現代社会と観光	2	春	秋	1・2・3・4	CMP1100	
	現代社会の諸相	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	自然科学の探究	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	身体科学からの学び	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	現代心理学からの学び	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	アジア地域での平和構築	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	グローバル社会での平和構築	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	大学生の学び・社会で学ぶこと	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	・RSL科目
	人権とジェンダー	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
	ライフマネジメントと学生生活	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
	立教大学の歴史	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP1100	
	西欧キリスト教社会における大学の誕生	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
	伝統と革新の大学図書館	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
	キャリアデザイン	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	
キリスト教史に学ぶ多文化共生	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100		
美と生命について：キリスト教の美学	2	春	秋	1・2・3・4	CMP1100		
愛について：キリスト教の倫理と哲学	2	秋	春	1・2・3・4	CMP1100		
University Education in the World	2	春他		1・2・3・4	CMP1101	・人数制限科目定員15名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい	
「その他」登録	GL101 (PBLによるリーダーシップ入門)	2	春	春	1・2・3・4	CMP1100	・人数制限科目定員各20名

多彩な学び科目群

★1年次生（4月入学者）：多彩な学びのうち、春学期科目は履修不可。

★1年次生（9月入学者）：多彩な学びのうち、秋学期科目は履修不可。

1. 人間の探究

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋キャンパス	新座キャンパス			
抽選登録	聖書と人間	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2100	
	聖書考古学	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2100	
	ジェンダーとキリスト教	2	秋		1・2・3・4	CMP2100	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	イスラームの世界	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2100	
	「宗教」とは何か	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2100	
	現代社会と人間	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2100	
	哲学への扉	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2100	
	論理的思考法	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2100	
	教育と人間	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2100	
	歴史への扉	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2100	
	地域研究への扉	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2100	
	多文化の世界	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2100	
	文化を生きる	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2100	
	人権思想の根源	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2100	
	手話と人権を考える	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2100	
	点字から考える人権	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2100	・人数制限科目定員30名
	アジアの文化とことば	2	秋		1・2・3・4	CMP2100	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	ヨーロッパの文化とことば	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2100	
	ラテンアメリカの文化とことば	2	春		1・2・3・4	CMP2100	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	ロシア・東欧の文化とことば	2		春	1・2・3・4	CMP2100	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講
	中東の文化とことば	2	春		1・2・3・4	CMP2100	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	アフリカの文化とことば	2		秋	1・2・3・4	CMP2100	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講
	イタリアの文化とことば	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2100	
	ドイツ語圏の文化	2	春	春	1・2・3・4	CMP2100	
	フランス語圏の文化	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2100	
	スペイン語圏の文化	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2100	
	中国語圏の文化	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2100	
	朝鮮語圏の文化	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2100	
	教育学への扉	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2100	
	立教ゼミナール1	2	春・秋		1・2・3・4	CMP2140	・人数制限科目定員30名
	立教ゼミナール発展編 1	2	春・秋	秋	1・2・③・④	CMP3100	・人数制限科目定員30名 ・○付きの数字は推奨年次を表す
	こっち、あっちの人類学	2	春		1・2・3・4	CMP2110	
	キャンパスデザインの思想と立教スピリット	2	春		1・2・3・4	CMP2110	・人数制限科目定員50名
	睡眠文化論	2	春		1・2・3・4	CMP2110	
	バトス・ロゴス・エトス	2	春		1・2・3・4	CMP2110	
	ボランティア論	2	春		1・2・3・4	CMP2110	
	キリスト教と民衆文化	2	秋		1・2・3・4	CMP2110	
	仏教の世界	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2100	・J科目
	日本の宗教	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2100	・J科目
	日本文化と精神性	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2100	・J科目
Japanese Ethnology	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2131	・F科目 ・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい	

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋キャンパス	新座キャンパス			
抽選登録	World History	4	春		1・2・3・4	CMP2101	・週2回科目 ・人数制限科目定員15名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい

2. 社会への視点

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋キャンパス	新座キャンパス			
抽選登録	入門・経済教室	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP2200	
	統計情報で社会・経済を診断する	2	春		1・2・3・4	CMP2200	
	景気・格差問題と統計情報	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2200	
	法と社会	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP2200	・法学部所属学生は履修しても卒業要件単位とはならない
	政治と社会	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2200	・法学部所属学生は履修しても卒業要件単位とはならない
	グローバル社会における法と政治	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2200	
	現代のビジネスを学ぶ	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP2200	
	企業と社会	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2200	
	現代社会と環境	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2200	
	情報と倫理	2	春	春	1・2・3・4	CMP2200	
	メディアと人間	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2200	
	文化と社会	2	春	春	1・2・3・4	CMP2200	
	現代社会の解説	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2200	
	いのちの尊厳と福祉を考える	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2200	
	コミュニティをデザインする	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2200	
	観光学への誘い	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2200	
	シティズンシップを考える	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2200	・RSL科目
	市民活動の組織とマネジメント	2	秋		1・2・3・4	CMP2200	・RSL科目
	大学と現代社会	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2200	
	パレスチナ問題の歴史と現在	2		春	1・2・3・4	CMP2200	
	世界の中のロシア	2	春		1・2・3・4	CMP2200	
	国際情勢を読み解く	2	春		1・2・3・4	CMP2200	
	デモクラシーとリベラルアーツ	2	秋		1・2・3・4	CMP2200	・RSL科目
	ドイツ語圏の社会	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2200	
	フランス語圏の社会	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2200	
	スペイン語圏の社会	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2200	
	中国語圏の社会	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2200	
	朝鮮語圏の社会	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2200	
	社会調査入門	2	春他		1・2・3・4	CMP2220	・D科目 ・オンデマンド授業 ・社会学部所属の学生は履修不可
	社会調査の技法	2	秋他		1・2・3・4	CMP2220	・D科目 ・オンデマンド授業 ・社会学部所属の学生は履修不可
データ分析入門	2	春他		1・2・3・4	CMP2220	・D科目 ・オンデマンド授業	
データの科学	2	秋他		1・2・3・4	CMP2220	・D科目 ・オンデマンド授業	
多変量解析入門	2	秋他		1・2・3・4	CMP2220	・D科目 ・オンデマンド授業	
Introduction to Statistics 1	2	春他		1・2・3・4	CMP2221	・D科目 ・オンデマンド授業	
Introduction to Statistics 2	2	秋他		1・2・3・4	CMP2221	・D科目 ・オンデマンド授業	
立教ゼミナール2	2	春・秋	春・秋	1・2・3・4	CMP2240	・人数制限科目定員30名	

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋 キャンパス	新座 キャンパス			
抽選登録	立教ゼミナール発展編 2	2	春・秋	春	1・2・③・④	CMP3200	・人数制限科目定員30名 ・○付きの数字は推奨年次を表す
	テレビという媒体	2	春		1・2・3・4	CMP2210	
	フィールドから考える現代世界の暴力と平和	2	春		1・2・3・4	CMP2210	
	翻訳・通訳と現代社会	2	春		1・2・3・4	CMP2210	
	キャスターが教える” コミュニケーション力	2	春		1・2・3・4	CMP2210	
	立教OBOGの「社長の履歴書」	2	秋		1・2・3・4	CMP2210	
	グローバルシティ・ソウルを読み解く	2	秋		1・2・3・4	CMP2210	
	戦後社会と原子力	2	秋		1・2・3・4	CMP2210	
	市民が動く、社会が変わる	2	秋		1・2・3・4	CMP2210	
	グローバルの可能性	2	秋		1・2・3・4	CMP2210	
	〈トランプ時代〉の解剖学	2	秋		1・2・3・4	CMP2210	
	人の移動と人文学	2		秋	1・2・3・4	CMP2210	
	しょうがい者の視点から捉え直す現代社会	2		秋	1・2・3・4	CMP2210	
	Nativeから学ぶ海外の文化や社会問題	2		春	1・2・3・4	CMP2211	
	Nativeと学ぶ社会開発	2		秋	1・2・3・4	CMP2211	
	世界経済と日本	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP2200	・J科目
	日本国憲法	2	春・秋	春・秋	1・2・3・4	CMP2200	・J科目 ・法学部所属学生は履修不可
	近代日本社会と人権	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2200	・J科目
	日本の「多文化」政策を問い直す	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2200	・J科目
	Modern Japanese History 1	2	春		1・2・3・4	CMP2231	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Modern Japanese History 2	2	秋		1・2・3・4	CMP2231	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Japanese Politics and Economy 1	2	春		1・2・3・4	CMP2231	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Japanese Politics and Economy 2	2	秋		1・2・3・4	CMP2231	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Japanese Relations in Asia 1	2	春		1・2・3・4	CMP2231	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Japanese Relations in Asia 2	2	秋		1・2・3・4	CMP2231	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Japanese Society 1	2	春		1・2・3・4	CMP2231	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Japanese Society 2	2	秋		1・2・3・4	CMP2231	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋キャンパス	新座キャンパス			
抽選登録	Tokyo Studies	2	秋		1・2・3・4	CMP2201	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Saitama Studies	2		秋	1・2・3・4	CMP2201	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Political Sociology	4	春		1・2・3・4	CMP2201	・週2回科目 ・人数制限科目定員15名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい
	Economic Thought	4	秋		1・2・3・4	CMP2201	・週2回科目 ・人数制限科目定員15名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい
	University in Modern Society	2	春他		1・2・3・4	CMP2201	・集中科目 ・人数制限科目定員15名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい

3. 芸術・文化への招待

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋キャンパス	新座キャンパス			
抽選登録	文学への扉	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2300	
	表象文化	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2300	
	美術の歴史	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP2300	
	美術と社会	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2300	
	音楽の歴史	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2300	
	音楽と社会	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2300	
	美術論演習	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP2350	・人数制限科目定員30名
	音楽論演習	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP2350	・人数制限科目定員30名
	キリスト教美術	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2300	
	キリスト教音楽	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2300	
	都市と芸術	2	秋		1・2・3・4	CMP2300	・池袋キャンパスと新座キャンパスで隔年開講（予定）
	建築と文化	2	春	春	1・2・3・4	CMP2300	
	舞踊論	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2300	
	映像と社会	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2300	
	身体表現と哲学	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2300	
	ドイツ語圏の文学	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2300	
	フランス語圏の文学	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2300	
	スペイン語圏の文学	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2300	
	中国語圏の文学	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2300	
	朝鮮語圏の文学	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2300	
	立教ゼミナール3	2	春・秋		1・2・3・4	CMP2340	・人数制限科目定員30名
	立教ゼミナール発展編 3	2	秋		1・2・③・④	CMP3300	・人数制限科目定員30名 ・○付きの数字は推奨年次を表す
	音楽の生まれる場	2	秋		1・2・3・4	CMP2310	
演芸の世界	2	秋		1・2・3・4	CMP2310		
日本の美術	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2300	・J科目	
日本の音楽	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2300	・J科目	
日本の演劇	2	秋		1・2・3・4	CMP2300	・J科目 ・人数制限科目定員30名	

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋 キャンパス	新座 キャンパス			
抽選登録	Japanese Culture 1	2	春		1・2・3・4	CMP2331	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Japanese Culture 2	2	秋		1・2・3・4	CMP2331	・F科目 ・人数制限科目定員15名 ・他に特別外国人学生が履修 ・TOEIC®700点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
	Japanese Arts A	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2331	・F科目 ・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい
	Japanese Arts B	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2331	・F科目 ・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい
	Literature and Society	4	秋		1・2・3・4	CMP2301	・週2回科目 ・人数制限科目定員15名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい
	Culture and Fine Arts	4	秋		1・2・3・4	CMP2301	・週2回科目 ・人数制限科目定員15名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい

4. 心身への着目

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋 キャンパス	新座 キャンパス			
抽選登録	認知・行動・身体	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2400	
	心の科学	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2400	
	パーソナリティの心理	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP2400	
	対人関係の心理	2	春	春	1・2・3・4	CMP2400	
	心の健康	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2400	
	身体パフォーマンス	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2400	
	ストレスマネジメント	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2400	
	癒しの科学	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2400	
	スポーツの科学	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2400	
	健康の科学	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2400	
	栄養の科学	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2400	
	アンチエイジングの科学	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2400	
	スポーツとメディア	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2400	
	スポーツと社会	2	春	春	1・2・3・4	CMP2400	
	スポーツと文化	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2400	
	レジャー・レクリエーションと現代社会	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2400	
	アウトドアの知恵に学ぶ	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2400	
	人間と看護	2	秋		1・2・3・4	CMP2400	
	立教ゼミナール4	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2440	人数制限科目定員30名
	立教ゼミナール発展編 4	2		秋	1・2・③・④	CMP3400	・人数制限科目定員30名 ・○付きの数字は推奨年次を表す
2020年東京パラリンピック支援を考える	2	春		1・2・3・4	CMP2410		
Japanese Mind	2	春		1・2・3・4	CMP2431	・F科目 ・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい	

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋 キャンパス	新座 キャンパス			
抽選登録	Health and Wellness	4	秋		1・2・3・4	CMP2401	・週2回科目 ・人数制限科目定員15名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい

5. 自然の理解

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋 キャンパス	新座 キャンパス			
抽選登録	数学の世界	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2500	
	宇宙の科学	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2500	
	生命の科学	2	春・秋	春・秋	1・2・3・4	CMP2500	
	物質の科学	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2500	
	身近な物質の化学	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2500	
	化学と自然	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP2500	
	化学と社会	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2500	
	行動の科学	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2500	
	生命の歩み	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2500	
	人類の進化	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2500	
	地球の理解	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP2500	
	情報科学A	2	春・秋	春	1・2・3・4	CMP2500	
	情報科学B	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2500	
	自然環境の保全	2	春・秋	秋	1・2・3・4	CMP2500	
	生物の多様性	2	春・秋		1・2・3・4	CMP2500	
	地球環境の未来	2	春	春	1・2・3・4	CMP2500	
	自然と人間の共生	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2500	
	脳と心	2	秋	春	1・2・3・4	CMP2500	
	オーダーメイド医療最前線	2	秋	秋	1・2・3・4	CMP2500	
	大学と科学技術	2	春	秋	1・2・3・4	CMP2500	
立教ゼミナール5	2	春		1・2・3・4	CMP2540	・人数制限科目定員30名	
立教ゼミナール発展編 5	2	春他		1・2・③・④	CMP3500	・集中科目 ・人数制限科目定員30名 ・○付きの数字は推奨年次を表す	
Science Studies	2	秋		1・2・3・4	CMP2531	・F科目 ・他に特別外国人学生が履修 ・履修者はTOEIC®550点相当以上の英語力を有することが望ましい	
Nature of the Earth	4	春		1・2・3・4	CMP2501	・週2回科目 ・人数制限科目定員15名 ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム所属学生が履修 ・履修者はTOEIC®785点相当以上の英語力を有することが望ましい	

6. 知識の現場

★1年次生（4月入学者）：多彩な学び「6.知識の現場」のうち、春学期科目は履修不可。ただし、「グローバル・イシュー各論」、「グローバル共通教養総論」、「国際協力リテラシー」、「海外インターンシップ」は履修可。

★1年次生（9月入学者）：多彩な学び「6.知識の現場」のうち、秋学期科目は履修不可。ただし、「グローバル・イシュー各論」、「グローバル共通教養総論」、「海外インターンシップ」は履修可。

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋 キャンパス	新座 キャンパス			
「その他」 登録	GL111 (Introduction to Leadership)	2	秋		1・2・3・4	CMP2651	・人数制限科目定員10名
	GL102 (他者のリーダーシップ開発)	2	秋		1・2・3・4	CMP2650	・人数制限科目定員36名
	GL201 (質問力を活用したリーダーシップ開発)	2	秋		1・2・3・4	CMP2650	・人数制限科目定員20名
	GL202 (Leadership through Inquiry)	2	春		1・2・3・4	CMP2651	・人数制限科目定員10名

登録方法	科目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
			池袋キャンパス	新座キャンパス			
「その他」登録	GL301 (グローバル・リーダー海外実践)	2	春外・秋外		1・2・3・4	CMP2661	・学外集中科目 ・事前、事後研修：池袋キャンパス
	GL302 (Leadership in a changing world)	2	休講		1・2・3	CMP2661	・学外集中科目
抽選登録	グローバル・イシュー各論	2	春		1・2・3・4	CMP2601	・モチベーション・パス科目 ・人数制限科目定員80名
	グローバル共通教養総論	2	春		1・2・3・4	CMP2601	・モチベーションパス科目 ・明治大学和泉キャンパス開講科目 ・人数制限科目定員20名
	ソリューション・アプローチA (国際人権系)	2	秋		2・3・4	CMP2601	・モチベーション・パス科目 ・明治大学駿河台キャンパス開講科目 ・人数制限科目定員25名
	ソリューション・アプローチB (開発経済系)	2	春		2・3・4	CMP2601	・モチベーション・パス科目 ・人数制限科目定員25名
	ソリューション・アプローチC (人道支援系)	2	秋		2・3・4	CMP2601	・モチベーション・パス科目 ・人数制限科目定員25名
	ソリューション・アプローチD (国際システム系)	2	春他		2・3・4	CMP2601	・モチベーション・パス科目 ・明治大学学外集中科目 ・人数制限科目定員5名
	ソリューション・アプローチE (模擬国連・総合演習系)	2	休講		2・3・4	CMP2601	・モチベーション・パス科目 ・明治大学中野キャンパス開講科目 ・人数制限科目定員20名
	ソリューション・アプローチF (強制移転・移住系)	2	春		2・3・4	CMP2601	・モチベーション・パス科目 ・人数制限科目定員10名
ソリューション・アプローチG (紛争と平和)	2	秋		2・3・4	CMP2601	・モチベーション・パス科目 ・人数制限科目定員10名	
「その他」登録	国際協力リテラシー	2	秋他		1・2・3・4	CMP2651	・キャリア・パス科目 ・池袋キャンパス、国際大学、明治大学駿河台キャンパス開講 ・人数制限科目定員12名
	アクティブ・リサーチ1	4	休講		2・3・4	CMP2661	・スリランカ ・キャリア・パス科目 ・池袋キャンパス、明治大学駿河台キャンパス開講 ・人数制限科目定員6名
	アクティブ・リサーチ2	2	秋他		2・3・4	CMP2661	・キャリア・パス科目 ・講義：池袋キャンパス、明治大学駿河台キャンパス ・研修：学外 ・人数制限科目定員10名
	国連ユースボランティア	12	秋他		1・2・3・4	CMP2663	・事前、事後研修：池袋キャンパス、学外 ・現地研修：学外
	陸前高田プロジェクト	2	秋他		1・2・3・4	CMP2661	・事前、事後研修：池袋キャンパス ・現地研修：学外 ・人数制限科目定員10名程度
	海外インターンシップ1	1	休講		1・2・3・4	CMP2663	・事前、事後研修：池袋キャンパス ・現地研修：学外 ・詳細は「3. 履修上の注意」の項を参照のこと
	★海外インターンシップ2	2	春外 秋外		1・2・3・4 1・2・3	CMP2663	・期間外科目 ・事前、事後研修：池袋キャンパス ・現地研修：学外 ・詳細は「3. 履修上の注意」の項を参照のこと
抽選登録	RSL-コミュニティ (埼玉)	2	秋		1・2・3・4	CMP2660	・RSL科目 ・人数制限科目定員15名 ・事前、事後研修：池袋キャンパス
	RSL-コミュニティ (池袋)	2	秋他		1・2・3・4	CMP2660	・RSL科目 ・人数制限科目定員15名 ・事前、事後研修：池袋キャンパス
	★RSL-ローカル (南魚沼)	2	秋他		1・2・3	CMP2660	・RSL科目 ・人数制限科目定員20名 ・事前、事後研修：池袋キャンパス
	★RSL-グローバル (フィリピン)	2	秋他		1・2・3	CMP2663	・RSL科目 ・人数制限科目定員15名 ・事前、事後研修：池袋キャンパス
	RSL-プロジェクト・プランニング	2	春他		1・2・3・4	CMP2660	・RSL科目 ・人数制限科目定員50名 ・事前、事後研修：池袋キャンパス

★4年次生は、秋学期授業終了日以降に集中して授業を行う科目を履修することはできない。
 明治大学開講科目は、科目ごとに開講キャンパスが異なるので、履修登録の際は注意すること（駿河台・和泉・中野の3キャンパスで開講）。

スポーツ実習科目群

スポーツプログラム

登録方法	科目名	種目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
				池袋 キャンパス	新座 キャンパス			
抽選登録	スポーツプログラム1 (レクリエーション系)	クライミング	1	春・秋		1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目24名
		はじめてのバレー		秋	春	1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目30名
		バドミントン		春・秋		1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目40名
	スポーツプログラム2 (トレーニング系)	トレーニング初級		春・秋	春・秋	1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
		ソフトボール			春・秋	1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目40名
	スポーツプログラム3 (球技系)	テニス			春・秋	1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目40名
		バスケットボール		春・秋	秋	1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目30名
		バレーボール		春・秋		1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目30名
		フライングフットボール		秋	春	1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
		フロアボール		秋		1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目24名
		卓球		春	春・秋	1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
	スポーツプログラム4 (学外で集中して実施する科目)	クライミング			春他	1・2・3・4	CMP1210	人数制限科目24名

★4年次生は、秋学期授業終了日以降に集中して授業を行う科目を履修することはできない。

スポーツスタディ

登録方法	科目名	種目名	単位数	開講学期		配当年次	科目ナンバリング	備考
				池袋キャンパス	新座キャンパス			
抽選登録	スポーツスタディ1 (レクリエーション系)	アダプテッドスポーツ	2	春	秋	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目24名
		レクリエーションalスポーツ		春・秋	春・秋	1・2・3・4	CMP1220 CMP1221	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
		太極拳		春・秋	春	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目30名
		長拳		秋	春	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目30名
	スポーツスタディ2 (トレーニング系)	ウォーター・エクササイズ		春・秋	春・秋	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目20名
		セルフケア・エクササイズ		春・秋	春・秋	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
		ダイエットフィットネス		春・秋		1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
		トレーニング		春・秋		1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目30名
		ボディコンディショニング		春・秋	春・秋	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
		ボディシェイプ		秋		1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目30名
		東洋的フィットネス		春・秋		1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目30名
		スポーツスタディ3 (球技系)		ゴルフ		春・秋	1・2・3・4	CMP1220
	サッカー				春・秋	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目40名
	テニス			春・秋	春	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目 池袋キャンパス20名 新座キャンパス40名
	フットサル			春・秋	春・秋	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目 池袋キャンパス30名 新座キャンパス40名
	卓球				春・秋	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目40名
	スポーツスタディ4 (学外で集中して実施する科目)	ゴルフ			春他	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目22名
		★スキー			秋他	1・2・3	CMP1220	人数制限科目22名
		ネイチャーキャンプ			春他	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目22名
		馬術			秋他	1・2・3・4	CMP1220	人数制限科目22名

★4年次生は、秋学期授業終了日以降に集中して授業を行う科目を履修することはできない。

スポーツ実習科目に関する注意事項

- 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はボール・ラッシュ・アスレティックセンター（池袋キャンパス）／体育館1階（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。
なお、第1回目の授業より、実習が始まるので、運動が出来る服装を準備し、授業に出席すること。
- 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内科目、屋外科目に関わらず、授業前にボール・ラッシュ・アスレティックセンター入口（池袋キャンパス）／体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。
- 4月に行われる定期健康診断を必ず受診しておくこと。

言語系科目

2016年度以降 1 年次入学者に適用
(2018年度 3 年次編入学者に適用)

●言語系科目について

- 1 言語系科目とは
- 2 必修科目に関する特別措置
- 3 履修免除（単位認定）者等の自由科目に関する特別措置

●必修科目

- 1 英語
- 2 ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部，グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ）
- 3 日本語（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修以外の外国人留学生のみ）
- 4 指定年次・学期以後の単位修得方法（英語単位認定試験，英語R，英語ディスカッションの再履修）

●自由科目

- 1 自由科目 履修上の注意
- 2 自由科目 科目一覧表
- 3 グローバル教養副専攻 学部展開科目 科目一覧表
(2018年度)

1 言語系科目とは

言語系科目の特色

言語系科目では、主に少人数クラスでの聞く・話す・読む・書くという基本的技能の訓練を通じて当該言語による専門的または日常的なコミュニケーションを可能にし、異文化対応能力を獲得する。

グローバル化が進む現代の社会を生きるには、様々な文化的背景を持つ人々を他者として認め、互いに理解し合う寛容の態度と能力が欠かせない。それを養う基本は言語である。立教大学の全ての学生は、英語を含めて2つの言語を必修科目として履修する。2つの言語を学ぶ目的は、国際的なコミュニケーションが日常的に行われるようになった現在の世界で必要不可欠な言語である英語の力を磨くとともに、英語以外のもう1つの言語を学び、英語圏以外の国・地域の人々が築き上げてきた社会や文化、ものの考え方などに言語を通して触れ、世界が多文化であることの理解を深めることで、多様な視点を獲得するところにある。

全学共通科目言語系科目は、必修科目と自由科目に分かれる。

1年次では主として必修科目を学ぶ。必修科目を修得した学生には、多様な自由科目が用意されている。

英語の必修科目は、大多数の学生がすでに中学校・高等学校で学んできた知識と経験をもとに、基本的技能の運用能力を鍛える科目である。一方自由科目は、学習をさらに積み重ねることで、英語を通して多文化社会の現状を理解し、英語で議論し発信する能力の獲得をめざす科目である。

英語以外のもう1つの言語は、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部・グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ）・日本語（原則、文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修以外の外国人留学生のみ）の中から、学生が自らの関心や将来の計画に応じて選択する。多くの学生にとってこれらの諸言語は大学入学後に初めて学習する言語であるため、必修科目は基礎作りからスタートする。一層の学習を望む学生のために、それぞれの諸言語に自由科目が用意されている。

グローバル教養副専攻「Language & Culture Course」は、英語およびそれ以外の言語にそれぞれ用意されている（英語には複数のコースがある）。言語と文化の学習をさらに深めたいと希望する学生は、多様な自由科目の中から指定科目を規定単位以上修得し、グローバル教養副専攻「Language & Culture Course」を修了することができる。

1. 必修科目

言語Aと言語B

1年次で履修する言語A「英語」と、言語B「ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ）・日本語（原則、文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修以外の外国人留学生のみ）」の中から選択した1言語」の計2言語が、必修科目として履修しなければならない科目である（学部・学科・専修により選択できない言語がある場合や、特定の言語が指定されている場合がある）。言語Bについては入学手続き時に希望を提出済みであり、時間割計画シートにて通知されるので、それに従うこと。なお、時間割計画シートは、学生証等交付時に配付する。

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ）については、すでに一定の学習歴がある者（既習者）に対して、本人の希望があれば、口頭試験および筆記試験をもって、必修科目の全ての単位を認定し、履修を免除することができる。

日本語については、入学前に日本語能力試験1級または日本語能力試験N1に合格し、かつ、プレイスメントテストの結果により大学で学ぶための日本語能力が十分だと認められた場合は、日本語必修科目の全ての単位を認定し、履修を免除することができる。

なお、学習歴把握のため、以下の(1)~(3)のいずれかに該当する者は、4月3日(火)17:00までに所属キャンパスの教務窓口まで申し出ること。

- (1) 入試科目を英語以外の外国語科目で受験した者。
- (2) 中学校・高等学校、あるいは海外などで、英語以外の外国語を主として学習してきた者。
- (3) 外国人留学生入学試験により入学した、英語を母語としない者で、かつ英語学習歴がない者。

2. 自由科目

自由科目の中には、①さらに高度な言語運用能力の育成を目的とする科目、②その言語を使って文化・言語・情報処理に関する、より専門的な知識の修得を目的とする科目、③第3・第4の言語を学ぼうとする学生を対象とした入門的な科目がある(必修科目にはないが、ポルトガル語・日本手話も用意されている)。**1 自由科目 履修上の注意**に従い修得した単位は、各学部の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。また、ドイツ語、フランス語の自由科目の中には、その科目の単位を修得すると次学期以降、文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修の専門教育科目に接続できるものもある。

① 英語

英語必修科目を履修したのち、さらに高度な運用能力を身につけたいと望む学生のために、言語自由科目が用意されている。必修科目を含め、4年間の継続学習が可能となるように、段階的なカリキュラムとなっている。

② 言語B

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語については、必修科目を修了したのち、さらに高度な運用能力を身につけたいと望む学生のために、言語自由科目が用意されている。

2 必修科目に関する特別措置

1. ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語(文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみの既習者)

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語(文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ)を必修科目として履修することになった者は、すでに一定の学習歴がある者は、口頭・筆記試験をもって、当該言語必修科目の単位を認定し(評価はSとする)、履修を免除する場合がある。希望者は下記申請期間中に申請の上、試験を受けること。

申請日 : 4月2日(月) 9:00~17:00

4月3日(火) 9:00~17:00

申請場所: 教務事務センター(池袋: タッカーホール1階/新座: 7号館1階)

提出書類: 入学前に当該言語の検定試験における一定の等級またはスコアを取得している場合(A)と、取得していない場合(B)で提出書類が異なる。下記を参照すること。

口頭・筆記試験日: 4月5日(木) 9:30~11:00または14:00~15:30(いずれかの回に出席すること)

結果発表: 4月7日(土) 10:00 所属キャンパスの教務窓口

A: 検定試験における一定の等級またはスコアを取得している場合

提出書類: ①学習歴記入用紙(申請窓口で配付)

②検定試験の等級またはスコア証明書(原本とコピー各1部)

各言語別の申請基準は下表の通りとする。

【言語別申請基準】

言語	申請基準
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 4級 以上 Start Deutsch2 以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験 3級 以上 DELF/ DALF A2 以上 TCF 250点 以上
スペイン語	スペイン語技能検定試験 4級 以上 DELE A2 以上
中国語	中国語検定試験 4級 以上 漢語水平考試 (HSK) 4級、5級、6級 各180点 以上 * 中国国家漢語水平考試委員会実施
朝鮮語	「ハングル」能力検定試験 4級 以上 韓国語能力試験 2級 以上
ロシア語	ロシア語能力検定試験4級 以上

※試験受験時期は、原則として2016年4月1日以降とする。ただし、2016年3月31日以前に表の等級またはスコアを取得している学生についても、その内容によっては、口頭・筆記試験の結果をもって当該科目の単位認定を行う場合がある。

※本学出願時に証明書原本を入学センターへ提出した者は、申請時に申し出ること。

B：所定の等級もしくはスコアを取得していない場合

提出書類：①学習歴記入用紙（申請窓口で配付）

口頭・筆記試験の結果により一定の学習歴があることを認められた場合は、指定された期日（8月23日（木）16:00）までに等級またはスコアを取得することを条件に、当該科目の単位認定を行うことがある。口頭・筆記試験時に、担当教員の指示に従うこと。

なお、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ）学習経験者（初級修了程度）で、当該言語を入学時の言語選択の際、第1希望にしていたにもかかわらず、抽選に外れた者は、面接の上、言語の変更を認める場合がある。上記申請期間中に、申請窓口まで申し出ること。

2. 文学部への転部・転科（専修）者

文学部文学科ドイツ文学専修3年次へ学内転部・転科（専修）した者および文学部文学科フランス文学専修3年次へ学内転部・転科（専修）した者で専修指定の言語Bを4単位修得していない者については、当該言語の言語Bの不足単位数分の単位を認定し、履修を免除する。成績は認定とする。

3. 外国人留学生

外国人留学生（外国人留学生入試による入学者）は、原則として言語Aは英語、言語Bはドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ）・日本語（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修を除く）から1言語を選択（母語は不可）し、履修する。ただし、言語Bとしてドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語（文学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラムのみ）を選択し、その既習者（母語話者は不可）として必修科目に関する特別措置を希望する学生は、**2 必修科目に関する特別措置** 1項を参照すること。また、言語Bとして日本語を選択する学生で、入学前に日本語能力試験1級または日本語能力試験N1に合格し、かつ、プレイスメントテストの結果により大学で学ぶための日本語能力が十分だと認められた場合は、日本語必修科目のすべての単位を認定し（評価はSとする）、履修を免除する。履修免除を希望する学生は、プレイスメントテスト当日に、日本語能力試験1級または日本語能力試験N1を認定する証明書（合格結果通知書、認定書など。コピー可）を持参すること。必修科目の履修免除者は、4月2日（月）10:00に、全学共通科目掲示板にて発表する。

3

履修免除（単位認定）者等の自由科目に関する特別措置

1. 言語B

言語B必修科目履修免除（単位認定）者は、配当年次に達していない場合でも、1年次から当該言語の自由科目の履修を認める。また、第3の言語として他の言語Bの1言語について1年次で「基礎～語入門」「基礎～語初級」を履修することを認める。

2. 自由科目の履修登録受付

上記1. で、配当年次に達してなくても自由科目の履修が認められた場合は、春学期は、4月5日（木）に実施する口頭・筆記試験において、秋学期は、9月5日（水）～9月7日（金）16:00に登録申請を教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）で行うこと。

3. 文学部への転部・転科（専修）者

文学部文学科ドイツ文学専修3年次へ学内転部・転科（専修）した者および文学部文学科フランス文学専修3年次へ学内転部・転科（専修）した（以下転部等とする）者で、言語自由科目の履修を希望する場合は、以下の通りとする。

<転部等の前に選択していた言語B必修科目単位を全て修得済の場合>

転部等の前に選択していた言語Bの自由科目とドイツ語またはフランス語の自由科目の履修を認める。例えば、転部等の前に言語Bとしてドイツ語またはフランス語以外の言語を選択・履修しており、必修科目単位を全て修得してドイツ文学専修またはフランス文学専修に転部等した場合、転部前に修得した言語とドイツ語またはフランス語の2言語の自由科目の履修を認める。

<転部等の前に選択していた言語B必修科目単位に未修得がある場合>

ドイツ語またはフランス語の自由科目の履修を認める。

転部等の前に選択していた言語Bと同じ言語の自由科目の履修を希望する場合は、各学期の抽選登録期間開始前に所属キャンパスの教務窓口で相談すること。

1 英語

1. カリキュラム
概要

現代社会においては、変化の激しい世界の状況を正しく認識していく力と、各自が生まれ育った文化や社会環境を正確に受け止め、それらを基にして自らの意見を積極的に発信していく能力が必要とされる。さらに、さまざまな分野でグローバル化しているなか、世界に広がる多様な文化を偏見のない視線で分析して受容する力を培うことが要求されている。必修英語では、このようなグローバル社会に対応した総合的かつバランスのとれたコミュニケーション能力を育成することを目的としている。

この目的を実現するために、グローバル社会で必要とされる自らの意見を英語で発信していく能力（話す力、書く力）を積極的に伸ばしつつ、発信する上で必要不可欠な情報収集を英語での確に行えるよう受信力（読む力、聴く力）の強化を行っていく。発信型授業の一つは、意見交換のスキルの向上を目指す1クラス8名程度の「英語ディスカッション」である。授業は基本的表現の練習から始まり、その日の授業の最後には扱ったトピックについて自分の意見を英語で表現できるように訓練する。もう一つは「英語プレゼンテーション」で、構成法をはじめとしたプレゼンテーション・スキルの習得を集中的に行い、社会問題や異文化理解等の様々なトピックについて自分の意見を口頭で発表する力をつけていく。受信力と発信力を有機的に組み合わせる「英語リーディング&ライティング」では、良質な文章を的確に読む訓練をしながら、アカデミックな作文のルールに従って自分の考えを論理的にまとめる発信力を培っていく。そして受信力の向上に特化した「英語eラーニング」で、PCを用い各自の関心ならびにペースに合わせた学習で効率的に訓練していく。

また、一定以上の英語力をもつ学生には上級クラスが用意されている。上級クラスの「英語ディスカッション」では、討論のスキルを押さえながらより抽象度の高いトピックについて効率的に話し合う力を付ける。更に、英語でアカデミックな論文が書けるよう訓練していく「上級英語1（リーディング&ライティング）」、そして更にアカデミックなテーマで課題に取り組む「上級英語2（プロジェクト英語）」を通して英語で学問領域を学ぶ基礎を築く。

このように、必修英語のクラスをとおして、英語で社会や異文化に関する情報を得、討論し、考え、発信する方法を学びながらオールラウンドな英語運用能力を身につけると同時に、社会情報や異文化を批判的かつ多角的に分析し、理解する能力を身につけることが期待される。

プレイスメントテストの結果により、1・2・3・4の4つのレベルに分かれ、レベル1が上級クラスにあたる。全ての授業は原則として英語で行う。

各科目内容の詳細は『シラバス』を参照すること。

クラスの編成

【英語ディスカッション（英語D1・英語D2）】（春学期・秋学期）

極少人数の学習環境で発言する機会を増やし、スピーキング力を徹底して強化することを目的とするクラス。特に、ディスカッションに必要な基本的表現を習得し、ディスカッションスキルの向上を図る。各授業の後半では、その回で学んだ表現を利用し、ディスカッションの内容を発展させて、自分の考えを適切な英語で述べられるようにする。

②【英語リーディング&ライティング（英語R&W1(R), 英語R&W2(W)）】（春学期・秋学期）

リーディングとライティングとを関連させながら両方の強化を目的とした1クラス20名程度のクラス。春学期は効率的に読むための読解スキルのトレーニングを行い、要約を書く活動も組み合わせることでの確に読む習慣をつけていく。良質な文章を多く読むことでライティング力の基礎づくりも目指す。秋学期はライティングに焦点をあて、書くために読むという位置づけで読解活動も入れながら、基礎的な英語表現からパラグラフの書き方、簡単なエッセイ、そしてリサーチペーパーへと、学生の英語能力に応じた目標の達成を試みる。

③【英語プレゼンテーション（英語P）（春学期または秋学期）】

プレゼンテーション活動を中心とした1クラス20名程度のクラス。語彙力およびリーディング力、リスニング力、スピーキング力の総合的な英語運用能力の育成を目的とする。プレゼンテーションの基本的なスキルの習得とともに、書き手の論理や意図を正確に読みとる訓練をし、読んだ内容についてプレゼンテーションができるようにする。

④【英語eラーニング（英語e）】（春学期または秋学期）

PCを活用した能力別個別英語学習プログラムによるリーディング力およびリスニング力を強化するクラス。自分のペースで学習を進め、弱点を補強し、得意とする部分を伸ばしていく。一人の教員（補助付き）の指導のもと、160名程度の学生が一斉に学習する。毎回、Evaluation Sheetに自分の学習進捗度を記録する。学期末までには、自主的および継続的な外国語学習の習慣を身につける。

⑤【上級英語1（リーディング&ライティング）（上級英1）】（春学期）

週2回の集中クラスで、よりアカデミックな内容を扱いながら、リーディング力とライティング力の両者を伸ばし、本格的なリサーチペーパーの書き方の基礎を学ぶ。各自テーマを設定し、情報収集をし、論文を書く訓練を行う。

⑥【上級英語2（プロジェクト英語）（上級英2）】（秋学期）

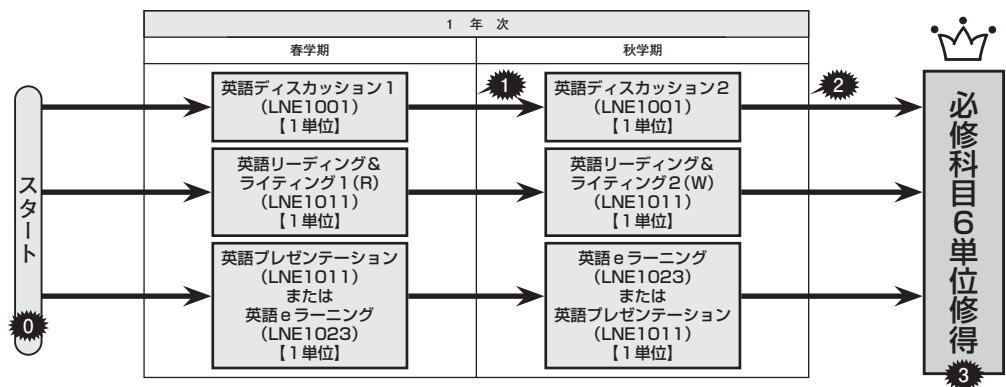
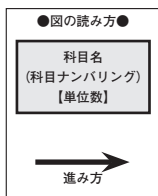
週2回の集中クラスで、グループで設定したアカデミックな課題の達成に向けて情報収集、読解、データ収集やグループディスカッションを進め、グループメンバーと協力、協調しながら完成させ、プレゼンテーションを行う。また、春学期に習得したライティングスキルを応用して各個人がリサーチペーパーを書く。

2. 履修チャート

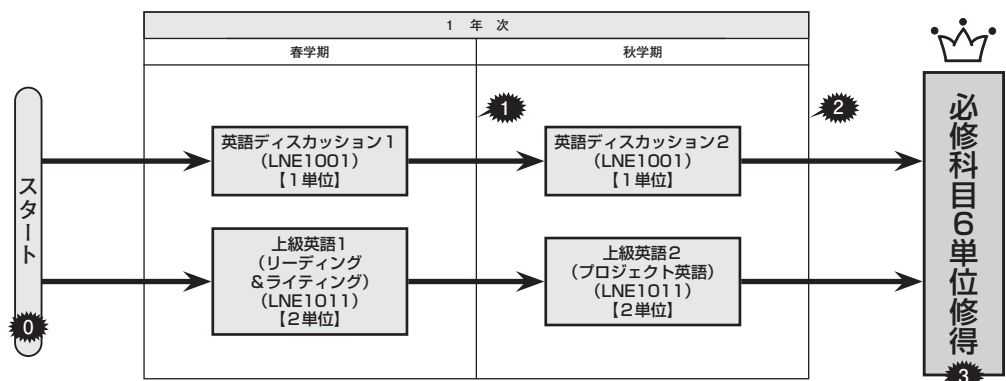
A1

各学期に履修する科目、単位数は以下の通り。

通常クラス



上級クラス



0 <履修クラスの発表について>

- 4月2日(月)に行うプレイメントテストの結果によって履修するクラスが決定する。クラスは、4月8日(日)11:00に履修登録状況画面にて発表する。
- クラスを変更することはできない。

1 <1年次秋学期の履修について>

- 1年次秋学期開始時には、春学期の成績等の結果によって英語ディスカッションのクラスの再編成を行う。履修するクラスは、9月5日(水)11:00に履修登録状況画面にて発表する。なお、英語ディスカッションについてはクラスの再編成によって履修する曜日・時限も変わる場合があるので注意すること(履修登録状況画面参照)。
- 12月1日(土)に1年次生全員を対象とする英語力伸長度測定テスト(TOEIC® IP)を実施する。1年次生は必ず受験すること。

<1年次春学期科目が不合格になったら>

- 1年次春学期に履修した科目が不合格であっても、1年次秋学期の科目を履修すること。

2 <1年次科目が不合格になったら>

- 1年次に履修した科目が不合格であった場合(英語ディスカッションを除く)は、2年次春学期以降、英語単位認定試験を受験、もしくは英語再履修クラス(「以下、英語R」)を履修すること。英語単位認定試験を受験した、または、「英語R」を履修したにも関わらず、単位を修得できなかった場合は、次学期以降に行われる英語単位認定試験を再度受験または「英語R」を履修し、不足単位がなくなるまでこれを繰り返す。英語ディスカッションが不合格となった場合は、2年次以降、英語ディスカッション1については夏期(8月実施)、英語ディスカッション2については冬期(2月実施)に集中科目として再履修すること。

3 <必修科目を修得したら>

- 必修の6単位を修得(英語単位認定試験および「英語R」で修得した場合も含む)後は、自由科目を履修し、さらに高度な運用能力を身につけることができる。

英語力伸長度
測定テストの受験

2018年度に在学する学生は以下の日程で英語力伸長度測定テスト(TOEIC® IP)を受験することができる。1年次生は原則として全員受験すること。

受験の結果、規定以上のスコアを獲得できた際には、基準点が定められている言語自由科目の履修資格判定の申請に利用することができる。詳細は別途全学共通科目掲示板で発表する。

1年次生

自宅宛に発送(10月下旬)される受験票を確認のうえ、受験すること。

受験会場等の詳細は、全学共通科目のホームページ、全学共通科目掲示板にて確認すること。

【日程】秋学期:12月1日(土)

※2年次生以上の日程は、自由科目の項を参照のこと。

1. カリキュラム

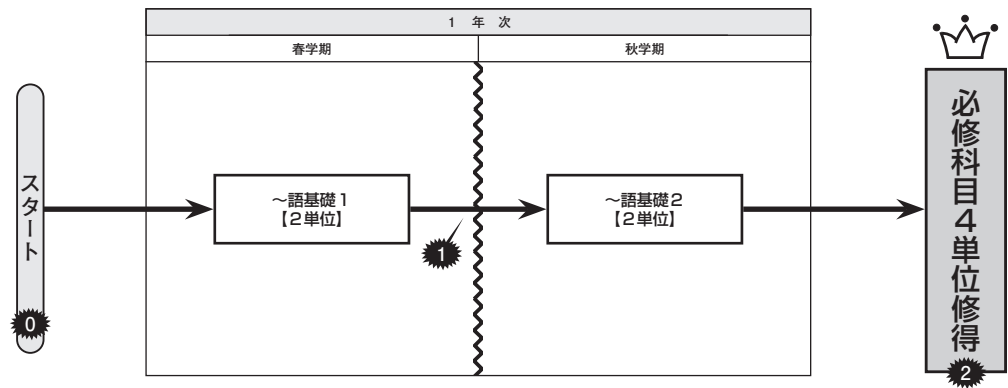
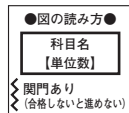
必修科目として履修するドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語で開講される科目は履修段階に応じておおむね以下のようになっている。各言語によって多少の違いがあるので詳細は『シラバス』を参照すること。

登録方法	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング
自動登録	～語基礎1	2	春	1	ドイツ語：LNG1010 フランス語：LNF1010 スペイン語：LNS1010
	～語基礎2	2	秋	1	中国語：LNC1010 朝鮮語：LNK1010 ロシア語：LNR1010

2. 履修チャート

B1

各学期に履修する科目，単位数は以下の通り。科目名で「～語」と記載されているところは，各自の履修言語に従い，ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語と読み替えること。



⚠ 不合格になった場合は、「言語B-不合格になったら」を参照のこと。

0 <言語の決定・1年次春学期のクラス分けについて>

- 履修する言語およびクラスは，学生証等交付の際に個別に配付される『時間割計画シート』で確認すること。
- 言語およびクラスを変更することはできない。

1 <1年次秋学期のクラスについて>

- 「～語基礎2」は「～語基礎1」に合格しないと履修できない。
「～語基礎1」の合否については，9月5日（水）に成績参照システム画面で確認すること。
- 「～語基礎1」合格者は，春学期と同じクラス番号のクラスで「～語基礎2」を履修する。

2 <自由科目について>

- 必修科目を履修しながら，または，必修科目の単位修得後，自由科目を履修することができる。必修科目の単位修得後，さらに高度な運用能力を身につけたいと望む学生のために，言語自由科目が用意されている。

3 日本語（文学部文学科ドイツ文学専修・フランス文学専修以外の外国人留学生のみ^{*}）

※グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生のうち、申請により認められた場合は日本語の履修を許可する。
必修科目として履修する日本語で開講される科目は履修段階に応じておおむね以下のようにになっている。詳細は『シラバス』を参照すること。

1. カリキュラム

登録方法	科目名	科目名（英文）	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング
自動登録	大学生の日本語A	Academic Japanese A	1	春	1	LNJ1010 ^{*1}
	大学生の日本語B	Academic Japanese B	1	春	1	
	大学生の日本語C	Academic Japanese C	1	秋	1	
	大学生の日本語D	Academic Japanese D	1	秋	1	

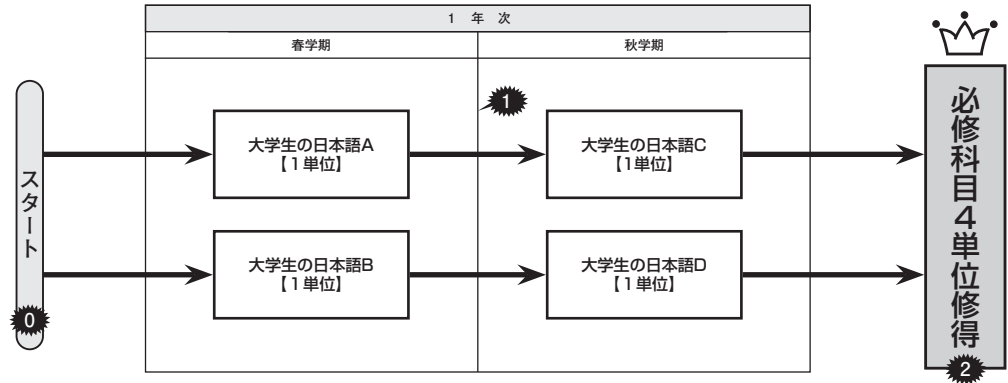
* 1 グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生の「大学生の日本語」のナンバリングはLNJ1013とする。

2. 履修チャート

J1

各学期に履修する科目、内容、単位は以下の通り。

● 図の読み方 ●
科目名
【単位数】
関門なし
(合格しなくても進める)



0 <言語の決定・1年次春学期のクラス分けについて>

- 3月20日（火）に行う日本語プレイスメントテストの結果によって履修するクラスが決定する。クラスは、4月8日（日）11:00に履修登録状況画面にて発表する。
- 言語およびクラスを変更することはできない。

1 <1年次秋学期の履修について>

- 1年次秋学期開始時は、日本語プレイスメントテストの結果に従って指定されたクラスで「大学生の日本語C」および「大学生の日本語D」を履修すること。自動登録されたクラスは、履修登録状況画面にて確認すること。

<1年次春学期科目が不合格になったら>

- 1年次春学期に履修した科目が不合格であっても、1年次秋学期の科目を指定されたクラスで履修すること。

2 <自由科目について>

- 必修科目の単位修得後、自由科目を履修することができる。

※秋入学の場合は、1年次1学期目に秋学期の科目を履修し、1年次2学期目に春学期の科目を履修すること。



不合格になった場合は、「言語B-不合格になったら」を参照のこと。

英語

英語ディスカッションを除く英語必修科目が不合格となった場合は、英語単位認定試験を受験して、未修得となった科目の単位を修得する、あるいは英語再履修クラス「英語R」を履修し、未修得となった科目の単位を修得する。

英語ディスカッションが不合格となった場合は、2年次以降、英語ディスカッション1については夏期（8月実施）、英語ディスカッション2については冬期（2月実施）に集中科目として再履修する。



英語必修科目不合格者の単位修得にあたっては、英語単位認定試験と英語再履修者クラス「英語R」とでは、受験（もしくは履修）できる回数が異なるため、修得できる単位数が異なることに注意すること。

1. 英語必修科目（英語ディスカッションを除く）が不合格になったら

以下のいずれかにより、2年次以降に未修得となった単位を修得すること。

①英語単位認定試験を受験し、単位を修得する。→ **1 英語単位認定試験** 参照

②英語再履修クラス「英語R」を受講し、単位を修得する。→ **2. 英語再履修クラス「英語R」の履修** 参照

2. 英語ディスカッションが不合格になったら

2年次以降、英語ディスカッション1については夏期（8月実施）、英語ディスカッション2については冬期（2月実施）に集中科目として再履修する。→ **3 英語ディスカッションの再履修** 参照

1 英語単位認定試験

英語単位認定試験は、英語必修科目（英語ディスカッションを除く）の不足単位の修得を目的とした試験であり、全学共通カリキュラム運営センターが定めた期日に行う定期試験である。

受験者は、英語単位認定試験説明会に参加すること。詳細は全学共通科目掲示板で確認すること。

なお、休学等による未履修の必修科目がある場合、試験に合格してもその科目の単位に充当することはできない。

1. 対象者

以下のすべてを満たす者。

- (1) 英語必修科目（英語ディスカッションを除く）の修得単位が4単位に満たない者。
- (2) 2年次生以上の者。
- (3) Rikkyo English Online (REO) の指定ユニット（課題I, 課題II）を期日までに終了した者。
- (4) 当該学期の「英語R」を履修登録していない者。

2. 実施概要およびスケジュール

英語単位認定試験は、年2回、6月と11月に実施する。各回につき2種類の試験を実施し、それぞれの試験につき異なる課題が課される。

行事	6月実施	11月実施
説明会	4月4日(水) 池袋 10:00~11:00 5122教室 新座 14:00~15:00 N852教室	9月13日(木) 池袋 10:00~11:00 MB01教室 新座 14:00~15:00 N852教室
試験時間・試験場発表	4月4日(水) 全学共通科目掲示板	9月13日(木) 全学共通科目掲示板
事前学習期間 *学習期間は所属学部により異なる。	(課題I) 4月7日(土) 9:00~5月2日(水) 9:00 文・理・社会・異文化・GLAP 〃 12:00 〃 12:00 経済・法・経営 〃 15:00 〃 15:00 観光・コミ福・現代心理 (課題II) 5月5日(土) 9:00~5月30日(水) 9:00 文・理・社会・異文化・GLAP 〃 12:00 〃 12:00 経済・法・経営 〃 15:00 〃 15:00 観光・コミ福・現代心理	(課題I) 9月15日(土) 9:00~10月7日(日) 9:00 文・理・社会・異文化・GLAP 〃 12:00 〃 12:00 経済・法・経営 〃 15:00 〃 15:00 観光・コミ福・現代心理 (課題II) 10月9日(火) 9:00~10月31日(水) 9:00 文・理・社会・異文化・GLAP 〃 12:00 〃 12:00 経済・法・経営 〃 15:00 〃 15:00 観光・コミ福・現代心理
受験対象者発表	6月5日(火) 全学共通科目掲示板	11月6日(火) 全学共通科目掲示板
試験日	6月9日(土) 英語単位認定試験A 英語単位認定試験B	11月10日(土) 英語単位認定試験C 英語単位認定試験D
合格者発表	7月2日(月) 全学共通科目掲示板	12月3日(月) 全学共通科目掲示板
成績証明書への記載	[2018年度在籍者] 9月5日(水) ~	[2019年度在籍者] 4月1日(月) ~ [卒業合格発表対象者] 卒業式終了後~

注1) 履修登録は不要であり、各学部の定める履修登録上限単位数には含まれない。

注2) 英語単位認定試験の結果について内容的な問い合わせがある場合は、合格発表後1週間を期日として、教務事務センター(池袋: タッカーホール1階/新座: 7号館1階)に申し出ること。

3. 修得できる単位数および成績

1つの試験の合格につき1単位を修得できる。科目対応はしていない。1回の英語単位認定試験では、不足単位数にかかわらず上表の通り2試験(各1単位、計2単位)まで受験できる。ただし、試験に合格した場合に認定される単位数は不足単位数分のみとする。合格した場合に成績参照画面ならびに証明書に記載される科目名は、「英語単位認定試験~(1単位)」となる(~にはA, B, C, Dのうち合格した試験が記される)。評価は「C」とする。

4. 英語単位認定試験の受験資格

Rikkyo English Online (REO) にアップロードされている教材のうち、指定のユニット(課題I, 課題II)を期日までに終了させることが、英語単位認定試験の受験資格となっているので注意すること。各学期の各試験につき、2回的事前学習期間を設ける。所定の期日までに全てのユニットを終えることが受験資格を得る要件となる。指定ユニットおよびそれぞれの学習完了指定期日等については、各学期の始めに、REOの画面上で確認すること。

5. 受験手続

受験希望者は、試験当日、学生証を持って試験場に行くこと。
試験時間、試験場は全学共通科目掲示板に掲示するので、事前に確認しておくこと。

6. 試験問題形式

リーディングとリスニングの総合問題(文法・語彙含む。マークシート形式)。
持ち込みは不可とする。
問題はRikkyo English Online (REO) にアップロードされている「スーパー英語」の教材のうち、事前学習において指定されたユニットをベースに出題される。(詳細は4. 英語単位認定試験の受験資格を参照すること。)

7. 受験上の注意

- (1) 試験当日は、学生証・HBの鉛筆・消しゴム・ペンまたはボールペンを必ず持参すること。
- (2) 遅刻者の入室は許可しない。ただし、試験開始後15分以内の遅刻者は、監督者の許可を得て入室できるものとする。なお、交通機関の遅延による遅刻の場合は、試験開始後30分まで、入室を許可することもある(交通機関発行の遅延証明書の提出が必要)。
- (3) 試験当日、学生証を忘れた学生には臨時学生証(500円)を発行するので、所属キャンパスの教務窓口へ時間に余裕を持って申し出ること。

8. 追試験

英語単位認定試験は、追試験を行わない。

9. 不正行為

- (1) 試験は学生各自の科目履修の成果を確認する趣旨のものであり、その趣旨に反する行為は不正行為とみなす。
- (2) 受験中不正行為を行った者は、直ちに退場させられる。
- (3) 英語単位認定試験を受験中に不正行為を行った者は、同日に行われる試験を含め、当該試験期間（6月実施：春学期末試験終了まで、11月実施：秋学期末試験終了まで）の筆記試験全科目の受験資格を失い、その成績は全て不合格となる。
- (4) 不正行為を行った者の当該試験期間の成績は、筆記試験以外の方法のみによって成績評価をする科目（レポート・レポート試験科目、平常点科目、口頭試問科目）について有効とする。ただし、処分決定後は、不正行為以後の全ての受験資格を喪失する。
- (5) 春学期末または秋学期末試験期間に不正行為を行った場合、6月または11月に受験した英語単位認定試験の受験資格をさかのぼって失い、合格は取り消される。
- (6) 不正行為を行った者の処分は、当該学生の所属学部教授会が決定する。
- (7) 不正行為に対する処分は、訓告、停学、退学の3種類とする。
不正行為の処分は、原則として停学とする。

2 英語再履修クラス「英語R」の履修

英語必修科目（英語ディスカッションを除く）について、再履修クラス「英語R」を履修することができる。このクラスでは、基礎的な英語力を身につけることを目的とする。このため、1回のみ履修を許可することとし、このクラスを履修したことで修得できる単位は1単位までとする。また、「英語R」を履修した場合、当該学期の英語単位認定試験を受験することはできないため、間違えないよう手続きをすること。

1. 対象者

以下のすべてを満たす者。

- (1) 英語必修科目（英語ディスカッションを除く）の修得単位が4単位に満たない者。
- (2) 2年次生以上の者。
- (3) 春学期は3月、秋学期は9月に開催予定の説明会に出席した者。

2. 実施概要およびスケジュール

行事	春学期	秋学期
説明会	3月23日（金） 池袋 10:00～11:00 4342 新座 14:00～15:00 N313	9月4日（火） 全学共通科目掲示板にて発表
履修登録申請	3月23日（金）～3月26日（月）16:30	9月4日（火）～9月6日（木）16:00
	教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）	
履修許可者発表	3月31日（土）	9月17日（月）
	履修登録状況画面で発表	

3. 履修に関する注意事項

- (1) 履修登録および履修許可
履修希望者は、説明会に必ず出席し、説明会で配付する「履修希望届」に必要な事項を記入の上、期日までに提出すること。締切日時を過ぎてからの提出は、一切受け付けない。
- (2) 成績評価方法・基準
『シラバス』を参照のこと。
- (3) 修得できる単位数および評価
「英語R」を履修した場合は、当該学期の英語単位認定試験を受験することはできない。「英語R」は1クラスしか履修できないため、履修した場合の当該学期の英語（ディスカッション科目を除く）の修得可能な単位は1単位となる。合格した場合に成績参照画面ならびに証明書に記載される科目名

は、「英語R（1単位）」となる。評価は「C」とする。不足単位が2単位以上ある場合は、次学期以降に **1 英語単位認定試験** を受験し、不足単位を修得すること。

(4) 重複履修

すでに「英語R」にて単位修得している場合は、「英語R」を再度履修することはできない。

(5) 履修登録上限単位

「英語R」は、「その他登録」となり、履修登録上限単位数に含まれる。

(6) 履修取消およびクラス変更

いかなる理由があっても「英語R」の履修取消、クラス変更はできない。

3 英語ディスカッションの再履修

2年次以降、春学期「英語ディスカッション1」不合格者は夏期（8月実施）、秋学期「英語ディスカッション2」不合格者は冬期（2月実施）に、集中科目として再履修する。再度「英語ディスカッション1／2」が不合格となった場合も、同じように履修する。授業の日程は下記の通り。

「英語ディスカッション1」春学期：2018年8月1日（水）～8月7日（火）（土日は除く）

「英語ディスカッション2」秋学期：2019年2月15日（金）～2月21日（木）（土日は除く）

または2019年2月22日（金）～2月28日（木）（土日は除く）

いずれの日も1時限9：00～10：30、2時限11：00～12：30、3時限14：00～15：30で行う。通常の時間割とは異なるので注意すること。

クラスは指定され、自動登録される。各学期の授業開始前に履修登録状況画面を確認すること。

※英語ディスカッション2を再履修する4年次生の成績発表は追試験結果発表と同じ2019年3月13日（水）となる。

言語B

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語については、不合格になった場合、不合格となった科目の指定されたクラスで再履修することにより、未修得となった単位を修得する。以下に注意すること。

●春学期開講科目、秋学期開講科目とも、それぞれの授業開始前に各自の履修するクラス・担当者を履修登録状況画面で発表する。春・秋学期でクラス・担当者が変わる場合があるので充分注意すること。

●秋学期開講科目について、履修するクラスは秋学期授業開始前に発表されるが、所属学部別に指定される曜日・時限が「シラバス・時間割検索システム」に記載されているので、1年間の履修計画を立てる際に、確認しておくこと。それぞれの学期に再履修可能な科目は、下表の通り。履修方法の詳細については、再履修チャート記号を参照すること。

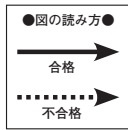
年次・学期 科目	1年次		2年次		3年次		4年次		不合格になったら (再履修チャート記号)
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
～語基礎1	◎	×	●	×	●	×	●	×	X1 （日本語はX3）
<p>「～語基礎1」に合格しないと「～語基礎2」を履修することはできない。 ただし、日本語については「大学生の日本語A」「大学生の日本語B」の合格・不合格にかかわらず「大学生の日本語C」「大学生の日本語D」を履修することができる。</p>									
～語基礎2	×	◎	×	●	×	●	×	●	X2 （日本語はX3）

◎……配当年次・学期

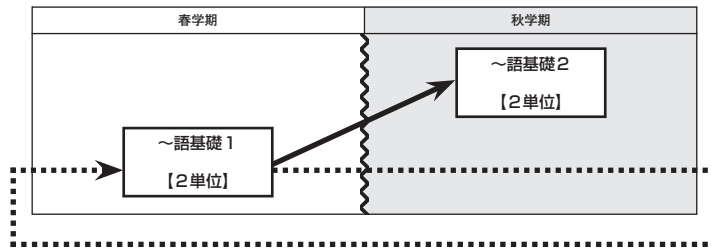
●……再履修クラスが指定され、自動登録される

×……当該学期には開講されていないため履修不可

1. 「～語基礎1」
が不合格にな
ったら
(日本語を除く)



X1

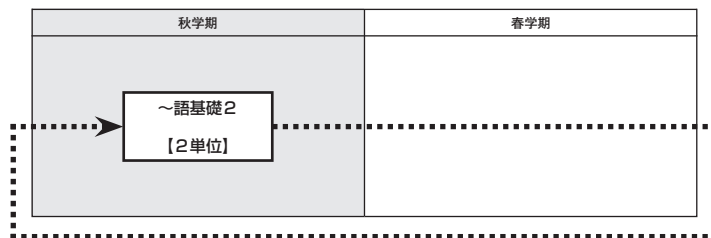


- 「～語基礎1」が不合格になった場合、次年度春学期に1年次のクラスで「～語基礎1」を再履修する。再度「～語基礎1」が不合格となった場合も、同じように再履修する。合格するまで、秋学期に開講される「～語基礎2」を履修することはできない。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

2. 「～語基礎2」
が不合格にな
ったら
(日本語を除く)



X2

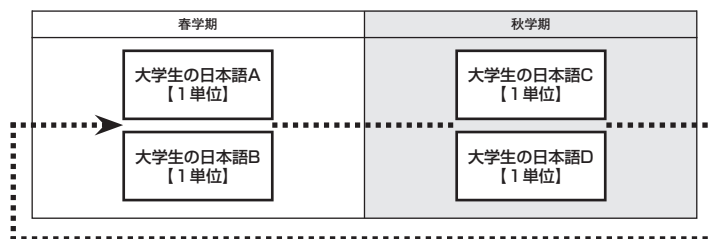


- 「～語基礎2」が不合格になった場合、次年度秋学期に1年次のクラスで「～語基礎2」を再履修する。再度「～語基礎2」が不合格となった場合も、同じように再履修する。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

3. 「大学生の日本語A」
「大学生の日本語B」
「大学生の日本語C」
「大学生の日本語D」
が不合格になったら



X3



- 「大学生の日本語A」が不合格になった場合、次年度春学期に1年次のクラスで「大学生の日本語A」を再履修する。「大学生の日本語B」が不合格になった場合、次年度春学期に1年次のクラスで「大学生の日本語B」を再履修する。再度「大学生の日本語A」もしくは「大学生の日本語B」が不合格となった場合も、同じように再履修する。合格・不合格に関わらず、秋学期に開講される「大学生の日本語C」「大学生の日本語D」を履修できる。
- 「大学生の日本語C」が不合格になった場合、次年度秋学期に1年次のクラスで「大学生の日本語C」を再履修する。「大学生の日本語D」が不合格になった場合、次年度秋学期に1年次のクラスで「大学生の日本語D」を再履修する。再度「大学生の日本語C」もしくは「大学生の日本語D」が不合格となった場合も、同じように再履修する。
- 再履修のクラスは、指定され、自動登録される。授業開始前に履修登録状況画面で確認すること。

1 自由科目 履修上の注意

1. 自由科目の履修について 自由科目には、履修資格が定められている科目や履修者決定のための選抜を行う科目もあるので、「科目一覧表」をよく読み履修計画を立てること。
2. 同一科目の重複履修について 同一科目は、1学期に1つしか履修できない。ただし、学期を変えれば2度以上履修することができるが、その場合には最初に単位を修得した1科目のみが所属学部の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。
- 同一科目とは、科目の名称（番号までを含む）、単位数が同一のものである。したがって、担当者が同じでも科目の名称が一部でも異なる場合には別科目となる。逆に担当者や授業の内容が異なっても、科目の名称が同じであれば、同一科目である。

(例) 「English through Movies A」(担当教員A) と 「English through Movies B」(担当教員A) は別科目である。

「Current English 1 (reading)」(担当教員A) と 「Current English 1 (reading)」(担当教員B) は同一科目である。
3. 自由科目の修得単位の扱いについて
- (1) 言語系科目の自由科目として修得した単位は、言語Aあるいは言語Bの必修科目としては認定されない。
 - (2) 重複履修等の規定に従い修得した単位は、所属学部の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。
 - (3) 留学認定科目は以下のとおりとし、自由科目に算入する。

英語

 - ・留学認定英自N●＝インディペンデント・モジュール
 - ・留学認定英自A●＝アドバンスト・モジュール
 - ・留学認定英自H●＝オナーズ・モジュール

(●は単位数)

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語

 - ・留学認定～自K●＝基礎科目群
 - ・留学認定～自C●＝コア科目群

(～は言語名, ●は単位数)
4. グローバル教養副専攻について 各コース・モデルで指定された言語教育科目を履修し、規定の単位数以上を修得すると、本人の申請に基づき、グローバル教養副専攻の修了が認定される。詳細は「Ⅹグローバル教養副専攻」の項を参照のこと。
5. 自由科目(英語)の履修について 自由科目(英語)は必修科目単位修得者のみが履修できる(英語海外文化研修, 短期英語研修プログラムを除く)。
- 以下の日程で説明会を実施するので、履修を考えている者は参加すること。
- 池袋：3月28日(水) 11:00～12:00 8101教室
3月29日(木) 14:00～15:00 8101教室
新座：3月28日(水) 14:00～15:00 N312教室

6. 自由科目 (ドイツ語, フランス語, スペイン語, 中国語, 朝鮮語) は, 原則その言語の必修科目単位
 取得者のみが履修できる (ただし, 必修科目に関する特別措置対象は除く)。
7. 英語力伸長度 測定テストの 受験
- 2年次生以上
- 2018年度に在学する学生は以下の日程で英語力伸長度測定テスト (TOEIC® IP) を受験することが
 できる。受験の結果, 規定以上のスコアを獲得できた際には, 基準点が定められている言語自由科目の
 履修資格判定の申請に利用することができる。詳細は別途全学共通科目掲示板で発表する。
- 受験にあたっては事前に申込が必要となるため, 自宅宛に発送 (4月度は2月中旬, 12月度は10月
 下旬) される受験案内はがきを確認すること。受験会場等の詳細は, 全学共通科目ホームページ, 全学
 共通科目掲示板にて確認すること。
- 【日程】 春学期: 4月14日 (土)
 秋学期: 12月8日 (土)
- ※1年次生の日程は, 必修科目の項を参照のこと。

言語自由科目 (英語)

*科目名等の後にある()内数字は単位数

ステージ	ステージ1		ステージ2	ステージ3	ステージ4
プログラム	必修科目		自由科目		
履修年次	1年次春学期	1年次秋学期	2年次~4年次		
コース・科目名	英語ディスカッション(1) 英語R&W1(1) 英語プレゼンテーションまたは 英語ラーニング(1) または上級英語1(2)	英語ディスカッション2(1) 英語R&W2(1) 英語プレゼンテーションまたは 英語ラーニング(1) または上級英語2(2)	基準点/TOEFL® iBT60点・TOEFL® ITP (Level 1)500点・TOEIC®(またはTOEIC® IP)570点・GTEC250点 IELTS5.5 インテンシブ・モジュール インディペンデント・モジュール	基準点/TOEFL® iBT76点・TOEFL® ITP (Level 1)540点・TOEIC®(またはTOEIC® IP)700点・GTEC300点 IELTS6.0 アドバンスト・モジュール	基準点/TOEFL® iBT87点・TOEFL® ITP (Level 1)570点・TOEIC®(またはTOEIC® IP)785点・GTEC325点・IELTS6.5 オナーズ・モジュール

- ()内の数字は単位数 ※原則として, 必修科目修了後に自由科目の履修を認める。
 ※各モジュールの科目を履修する場合, 上表に提示された基準点を取得していることを目安とし, 履修登録前に履修資格判定のための申請手続きなど
 が必要となる。
 ※2年次以上の学生が受験可能なTOEIC® IPを年2回実施する。
 ※TOEIC® SW, TOEIC® SW IPは対象としない。GTECはListeningとReadingの合計点のみを対象とする。IELTSはアカデミック・モジュールのみを
 対象とする。

自由科目 (ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語)

*科目名の後にある()内数字は単位数

スキル科目	言語B必修科目		自由科目			
	1年次春学期	1年次秋学期	基礎科目		コア科目(基礎科目4単位修得後に履修)	
			(2年次~)春学期	(2年次~)秋学期	(3年次~)春学期	(3年次~)秋学期
~語基礎1(2)	~語基礎2(2)	~語中級1(2)	~語中級2(2)	上級~語コミュニケーション1(2) 上級~語ライティング1(2) 上級~語リスニング・リーディング1(2) 上級~語演習1(2)	上級~語コミュニケーション2(2) 上級~語ライティング2(2) 上級~語リスニング・リーディング2(2) 上級~語演習2(2)	
		~語スタンダード1(1)	~語スタンダード3(1)			
		~語スタンダード2(1)	~語スタンダード4(1)			
~語海外言語文化研修(中級)(2)夏期(集中) 中国語海外言語文化研修春(中級)(2)冬期(集中)			~語海外言語文化研修(上級)(2)夏期(集中) 中国語海外言語文化研修春(上級)(2)冬期(集中)			

- ※~語は, ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語とそれぞれ読み替える。
 ※原則として, 必修科目修了後に自由科目履修が認められる (「基礎~語入門」「基礎~語初級」は同じ言語の自由科目を履修するための必修科
 目と同等に扱う)。また, 原則として基礎科目修了後にコア科目に進む (先修制) が, 所定の要件を満たしていればスキップ制度を利用でき
 る。

*1・2年次春学期に基礎科目4単位を修得し終えた場合の措置

春学期に基礎科目を4単位修得し, 秋学期からコア科目の履修を希望する1・2年次生は, 秋学期履修登録時に
 事前申請を行うことで履修を認める場合がある。希望者は9月5日(水)~7日(金)に申請書と成績参照画面
 をプリントアウトしたものを提出すること。

なお, 申請書は教務事務センター (池袋: タッカーホール1階/新座: 7号館1階) で配付する。

※2018年度から実施する「中国語海外言語文化研修春」についても, 中級は基礎科目, 上級はコア科目に算入す
 ることができる。

自由科目履修関連スケジュール等

①2016年度以降 1年次入学者

英語	申請内容	履修資格判定申請, スキップ制度適用申請(インテンシブ・モジュール, アドバンスト・モジュール, オナーズ・モジュール)
	必要手続	英語自由科目専用Web(https://emp.rikkyo.ac.jp)にて履修資格判定申請, スキップ制度適用申請の手続を行うこと。
	申請受付期間	【英語自由科目専用Web】 <春学期>3月17日(土)10:00~3月30日(金)15:00, <秋学期>9月5日(水)10:00~9月7日(金)15:00
	結果発表・日時	<春学期>3月31日(土)16:00, <秋学期>9月10日(月)16:00 英語自由科目専用Web画面
	備考	履修を希望する者は, 履修登録申請も必ず行うこと。
	申請内容	履修登録申請(インテンシブ・モジュール, アドバンスト・モジュール, オナーズ・モジュール)
	必要書類・手続	英語自由科目専用Web上に履修登録申請手続を行うこと。 インディペンデント・モジュール科目は抽選登録期間に履修登録システムより申請すること。
	申請受付期間・場所	【英語自由科目専用Web】 <春学期>3月17日(土)10:00~3月30日(金)15:00, <秋学期>9月5日(水)10:00~9月7日(金)15:00
結果発表・日時	<春学期>3月31日(土)16:00, <秋学期>9月10日(月)16:00 英語自由科目専用Web画面	

ドイツ語 フランス語 スペイン語 中国語 朝鮮語	申請内容	履修資格判定申請, スキップ制度適用申請(第3言語としての言語副専攻含む)
	必要書類・手続	①言語自由科目【ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語】スキップ制度申請書兼履修希望科目申請書 ②語学力, スコア等を証明する証明書など(原本とそのコピー) ※ ③成績参照画面を印刷したもの
	申請受付期間・場所	<春学期>3月17日(土)9:00~3月30日(金)17:00, <秋学期>9月5日(水)10:00~9月7日(金)16:00 教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階) 書類受付時間は窓口開室日・時間に準ずる。
	結果発表・日時	<春学期>4月2日(月)13:00, <秋学期>9月11日(火)10:00 全学共通科目掲示板
	申請内容	履修登録申請
	必要書類・手続	抽選登録期間に履修登録システムより申請すること。 ※ただし配当年次に達していないが自由科目の履修が認められた者は登録受付をWebサイトではなく, 教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階)で行う。希望者は下記のとおり申請すること。
	申請受付期間・場所	<春学期>3月17日(土)9:00~3月30日(金)17:00, <秋学期>9月5日(水)10:00~9月7日(金)16:00 教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階) 上段の※印対象者(配当年次に達していないが自由科目の履修が認められた者)は申請期間・手続が異なるため注意すること。それ以外の者は抽選登録期間を確認すること。
結果発表・日時	<春学期>, <秋学期>ともに履修登録システムより結果を確認すること。	

自由科目(ドイツ語, フランス語, スペイン語, 中国語, 朝鮮語)履修関連申請スケジュール等

2018年度1年次入学者(必修科目に関する特別措置対象者で2年次以上対象の自由科目履修希望者のみ)

ドイツ語 フランス語 スペイン語 中国語 朝鮮語	申請内容	履修資格判定申請, スキップ制度適用申請
	必要書類・手続	①全学共通科目言語B既習者学習歴記入用紙【ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語】 ②語学力, スコア等を証明する証明書など(原本とそのコピー) ※
	申請受付期間・場所	<春学期>4月2日(月)9:00~4月3日(火)17:00 口頭および筆記試験:4月5日(木) 教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階) 書類受付時間は窓口開室日・時間に準ずる。
	結果発表・日時	<春学期>4月7日(土)10:00 教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階)
	申請内容	履修登録申請
	必要書類・手続	<春学期>①全学共通科目言語B既習者学習歴記入用紙【ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語】 ②語学力, スコア等を証明する証明書など(原本とそのコピー) ※ <秋学期>ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語の必修科目特別措置(履修免除)者用履修希望申請書兼スキップ制度申請書
	申請受付期間・場所	<春学期>必修科目に関する特別措置における口頭・筆記試験の際に, 担当教員と相談すること。 <秋学期>下記の期間に履修登録希望科目を教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階)まで届け出ること。 9月5日(水)10:00~9月7日(金)16:00 書類受付時間は窓口開室日・時間に準ずる。
	結果発表・日時	<春学期>4月7日(土)10:00 教務事務センター(池袋:タッカーホール1階/新座:7号館1階) <秋学期>9月11日(火)10:00 全学共通科目掲示板
備考	秋学期は入学時に必修科目に関する特別措置が認められた者のみ申請可。	

※語学力, スコアなどの証明書の有効期限は2年(テスト受験日が, 春学期申請時は2016年4月1日以降, 秋学期申請時は2016年9月1日以降のもの)とする。ただし, 言語Bで2016年3月31日以前(秋学期に申請する者は2016年8月31日以前)にスコアを修得している学生についても等級またはスコアによってはスキップ制度を適用し基礎科目群の履修をすることなくコア科目群の履修を認める場合がある。

8. 履修資格判定
(英語)

(1) 英語

下表の申請基準を満たしている者は、春学期・秋学期の定められた期間に、英語自由科目専用Webより履修資格判定申請を行うことで該当ステージから履修することができる。ただし、履修資格を認められたステージよりも下位のステージの科目も履修することができる（例：ステージ1からステージ3にスキップを認められた者は、ステージ2の科目の履修資格も有する。同様にステージ2からステージ4にスキップを認められた者は、ステージ3の履修資格も有する。またステージ1からステージ4へのスキップを認められた者は、ステージ2、3の履修資格も有する）。

モジュール	申請基準
インテンシブ・モジュール	TOEFL® iBT60点, TOEFL® ITP (Level1) 500点
	TOEIC® (またはTOEIC® IP) 570点* ¹
	GTEC 250点* ²
	IELTS 5.5* ³
インディペンデント・モジュール	英語必修科目単位修得済
アドバンスト・モジュール	TOEFL® iBT 76点以上, TOEFL® ITP (Level1) 540点以上
	TOEIC® (またはTOEIC® IP) 700点以上* ¹
	GTEC 300点以上* ²
	IELTS 6.0以上* ³
オナーズ・モジュール	TOEFL® iBT 87点以上, TOEFL® ITP (Level1) 570点以上
	TOEIC® (またはTOEIC® IP) 785点以上* ¹
	GTEC 325点以上* ²
	IELTS 6.5以上* ³

* 1 TOEIC® SWテスト, TOEIC® SW IPテストは対象としない。

* 2 GTECはListeningとReadingの合計点のみを対象とし, SpeakingとWritingの得点は対象としない。

* 3 IELTSはアカデミック・モジュールのみを対象とし, ジェネラル・トレーニング・モジュールは対象としない。

9. 履修資格判定・スキップ制度について
(ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語)

(1) ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語

以下のAおよびBの両方に該当する者は、春学期・秋学期の定められた期間に次表の申請基準を満たすことを証明できる証明書等（コピー不可）を提示した上で、そのコピーと申請書を提出し認定されることにより、ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語における自由科目基礎科目群の履修をすることなく、コア科目を履修することができる。

A：言語系科目必修単位修得済の者または1年次に履修免除・単位認定を申請中もしくは認定の判定を受けた者。

B：次表の申請基準いずれかを満たしている者。ただし、各試験受験時期は原則として春学期に申請する者は2016年4月1日以降、秋学期に申請する者は2016年9月1日以降とする。

※2016年3月31日以前（秋学期に申請する者は、2016年8月31日以前）に表の等級またはスコアを取得している学生についても、等級またはスコアによっては基礎科目群の履修をすることなくコア科目の履修を認める場合がある。

【言語別申請基準】

言語	申請基準
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験3級以上
	ドイツ語基礎統一試験 (ZD) またはGoethe-Zertifikat B1
	ヨーロッパ言語共通参照枠A2以上の語学コース (45分×50以上) 受講証明書
	文学部文学科ドイツ文学専修「ドイツ語基礎演習1～3」修了
フランス語	実用フランス語技能検定試験準2級以上
	DELF / DALF A2以上
	TCF350点以上
	ヨーロッパ言語共通参照枠A2以上の語学コース (45分×50以上) 受講証明書 文学部文学科フランス文学専修「フランス語基礎演習1～3」修了
スペイン語	スペイン語技能検定試験3級以上
	DELE A2以上
	ヨーロッパ言語共通参照枠A2以上の語学コース (45分×50以上) 受講証明書* ¹
中国語	中国語検定試験3級以上
	漢語水平考試 (HSK) 4級 210点以上, 5級 6級 180点以上 ※中国国家漢語水平考試委員会 実施
朝鮮語	「ハングル」能力検定試験3級以上
	韓国語能力試験3級以上

* 1 ヨーロッパ言語共通参照枠と異なるレベル設定の証明書の場合、レベル対照表もしくは使用教材など補足資料を提出すること。

- (2) スキップ制度適用の申請および発表
スキップ制度適用を希望する者は、必要書類を持参のうえ、定められた期間に申請すること。
- (3) スキップ制度の認定を受けた者で配当年次に達していない場合でも自由科目の履修が認められた場合は、登録受付を教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）で行う。春、秋学期とも自由科目履修資格認定申請と同日程で行うので希望者は教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）まで申し出ること。

10. 第3言語としてのドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語の言語自由科目履修について

必修科目として選択した言語とは異なる言語の自由科目基礎科目の履修を希望する者（「基礎～語入門」、「基礎～語初級」およびそれに準ずる留学認定科目を修得した者を除く）は、必修科目履修免除（単位認定）の基準を満たしていると認められた場合、履修できる。自由科目コア科目の履修を希望する者は、スキップ制度適用の基準を満たしていると認められた場合に履修できる。

2 自由科目 科目一覧表

1. 英語

グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力や、海外の大学に留学するために必要な語学力など、一人ひとりが望むレベルに到達できるよう、継続的・系統的に学べる科目を展開する。

〈履修上の注意〉

- (1) インテンシブ・モジュールは、春学期に開講される2科目8単位（週4回）または秋学期に開講される2科目8単位（週4回）をセットで履修する。履修の開始時期は春学期・秋学期を問わないが、同一キャンパスでの履修を原則とする。
- (2) インテンシブ・モジュール、アドバンスト・モジュールおよびオナーズ・モジュールは、履修資格を判定するため、履修を希望する者は、定められた期間に英語自由科目専用Webにて申請すること。

(池袋キャンパス開講科目)

ステージ	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	モジュール	定員	クラス数	※	登録方法
2	English Intensive A (Global World)	4	春 (週2回)	2・3・4	LNE2011	英語必修科目単位修得済であり、TOEFL® iBT 60点 (TOEFL® ITP [Level 1] 500点)、TOEIC® (または TOEIC® IP) 570点、IELTS 5.5 または GTEC 250点以上の能力を有する者。 ※春学期はA-Bをセット(週4回)で、秋学期はC-Dをセット(週4回)で履修すること(履修開始は春学期からでも秋学期からでも可)。	インテグレイテッド・モジュール	25名	3		「その他」登録
	English Intensive B (Academic Language Skills)	4	春 (週2回)					25名	3		
	English Intensive C (Integrated Language Skills)	4	秋 (週2回)					25名	3		
	English Intensive D (Intercultural Understanding)	4	秋 (週2回)					25名	3		
	English Communication 1	4	春・秋 (週2回ずつ)		LNE2001	英語必修科目単位修得済	インディペンデント・モジュール(資格系以外科目)	10名	春3 ・ 秋2		抽選登録
	English Communication 2	4	春・秋 (週2回ずつ)					10名	春3 ・ 秋2	☆	
	Pleasure Reading	2	春					25名	2		
	Speech	2	春・秋					25名	春1 ・ 秋1	☆	
	Debate	2	春・秋					25名	春1 ・ 秋1	☆	
	Presentation	2	春・秋					25名	春1 ・ 秋1	☆	
	Current English 1 (reading)	2	春・秋					25名	春2 ・ 秋2		
	Current English 2 (reading)	2	春・秋					25名	春2 ・ 秋2	☆	
	Current English 1 (listening)	2	春・秋					25名	春3 ・ 秋2		
	Current English 2 (listening)	2	春・秋					25名	春2 ・ 秋2	☆	
	Japanese Studies through English	2	春・秋		LNE2011			25名	春2 ・ 秋2		
	Language and History	2	春					25名	1		
	English through Movies A	2	春					25名	1		
	English through Movies B	2	春					25名	1		
	English through Movies D	2	秋					25名	1		
	English through Movies E	2	秋					25名	1		
World Cultures	2	秋		25名	1						
English through Dramas	2	秋		25名	1						
Advertisement English	2	秋		25名	1						

※☆印のある科目は、インディペンデント・モジュール レベルII科目

(池袋キャンパス開講科目)

ステージ	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	モジュール	定員	クラス数	※	登録方法			
2	TOEFL 2 (vocabulary and grammar)	2	春・秋	2・3・4	LNE2011	英語必修科目単位修得済	インディペンデント・モジュール(資格系科目)	25名	春2・秋2	☆	抽選登録			
	TOEFL 2 (reading)	2	春・秋					25名	春2・秋2	☆				
	TOEFL 2 (listening)	2	春・秋					25名	春2・秋2	☆				
	TOEFL 2 (speaking and writing)	2	春・秋					25名	春2・秋2	☆				
	TOEIC 1 (reading)	2	春・秋		LNE2013			25名	春4・秋4					
	TOEIC 1 (listening)	2	春・秋					25名	春3・秋3					
	TOEIC 1 (vocabulary and grammar)	2	春・秋					25名	春4・秋4					
	TOEIC 2 (reading)	2	春・秋					25名	春2・秋2	☆				
	TOEIC 2 (listening)	2	春・秋					25名	春2・秋2	☆				
	TOEIC 2 (vocabulary and grammar)	2	春・秋		25名			春2・秋2	☆					
	IELTS	2	春		25名			1						
	Lecture and Discussion A	4	春(週2回ずつ)		LNE2011			TOEFL® iBT76点(TOEFL® ITP[Level 1]540点), TOEIC®(またはTOEIC® IP)700点, IELTS6.0またはGTEC 300点以上の能力を有する者。	アドバンスト・モジュール	25名		1		「その他」登録
	Lecture and Discussion B	4	春(週2回ずつ)							25名		1		
Lecture and Discussion C	4	春(週2回ずつ)	25名	1										
Lecture and Discussion E	4	秋(週2回ずつ)	25名	1										
Lecture and Discussion F	4	秋(週2回ずつ)	25名	1										
Lecture and Discussion G	4	秋(週2回ずつ)	25名	1										
Discussion and Debate	2	春・秋	3	LNE2011		アドバンスト・モジュール	25名			春1・秋1				
Advanced Academic Vocabulary	2	春・秋			25名		春1・秋1							
Current English 3 (Comprehensive)	2	春・秋			25名		春2・秋2							
Academic Studies (advanced presentation)	2	春・秋			25名		春1・秋1							
Academic Studies (advanced writing)	2	春・秋			25名		春1・秋1							
Career Studies (English for vocational purposes)	2	春・秋			25名		春1・秋1							
4	University Lecture A	2	春	LNE3011	TOEFL® iBT87点(TOEFL® ITP[Level 1]570点), TOEIC®(またはTOEIC® IP)785点, IELTS6.5またはGTEC 325点以上の能力を有する者。	オナーズモジュール	25名	1						
	University Lecture B	2	春				25名	1						
	University Lecture D	2	秋				25名	1						
	University Lecture E	2	秋				25名	1						

※☆印のある科目は、インディペンデント・モジュール レベルⅡ科目

(新座キャンパス開講科目)

ステージ	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	モジュール	定員	クラス数	※	登録方法
2	English Intensive A (Global World)	4	春 (週2回)	2・3・4	LNE2011	英語必修科目単位修得済であり、TOEFL® iBT 60点 (TOEFL® ITP [Level 1] 500点)、TOEIC® (または TOEIC® IP) 570点、IELTS 5.5 または GTEC 250点以上の能力を有する者。 ※春学期はA・Bをセット(週4回)で、秋学期はC・Dをセット(週4回)で履修すること(履修開始は春学期からでも秋学期からでも可)。	インディペンデント・モジュール	25名	2		「その他」登録
	English Intensive B (Academic Language Skills)	4	春 (週2回)					25名	2		
	English Intensive C (Integrated Language Skills)	4	秋 (週2回)					25名	2		
	English Intensive D (Intercultural Understanding)	4	秋 (週2回)					25名	2		
	English Communication 1	4	春・秋 (週2回ずつ)		LNE2001	英語必修科目単位修得済	インディペンデント・モジュール(資格系以外科目)	10名	春2・秋1		抽選登録
	English Communication 2	4	春・秋 (週2回ずつ)					10名	春2・秋1	☆	
	Speech	2	春					25名	1	☆	
	Debate	2	秋					25名	1	☆	
	Presentation	2	春					25名	1	☆	
	Current English 1 (reading)	2	春・秋		LNE2011			25名	春1・秋1		
	Current English 2 (reading)	2	春・秋					25名	春1・秋1	☆	
	Current English 1 (listening)	2	春・秋					25名	春1・秋1		
	Current English 2 (listening)	2	春・秋					25名	春1・秋1	☆	
	Japanese Studies through English	2	春・秋					25名	春1・秋1		
	English through Movies C	2	春					25名	1		
	English through Movies F	2	秋					25名	1		
World Heritage Sites	2	春		25名	1						

※☆印のある科目は、インディペンデント・モジュール レベルII科目

(新座キャンパス開講科目)

ステージ	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	モジュール	定員	クラス数	※	登録方法
2	TOEFL 2 (vocabulary and grammar)	2	春・秋	2・3・4	LNE2011	英語必修科目単位修得済	インディペンデント・モジュール(資格系科目)	25名	春1・秋1	☆	抽選登録
	TOEFL 2 (reading)	2	春・秋					25名	春1・秋1	☆	
	TOEFL 2 (listening)	2	春・秋					25名	春1・秋1	☆	
	TOEFL 2 (speaking and writing)	2	春・秋					25名	春1・秋1	☆	
	TOEIC 1 (reading)	2	春・秋		LNE2013			25名	春2・秋2		
	TOEIC 1 (listening)	2	春・秋					25名	春2・秋2		
	TOEIC 1 (vocabulary and grammar)	2	春・秋					25名	春3・秋3		
	TOEIC 2 (reading)	2	春・秋					25名	春1・秋1	☆	
	TOEIC 2 (listening)	2	春・秋					25名	春1・秋1	☆	
	TOEIC 2 (vocabulary and grammar)	2	春・秋					25名	春1・秋1	☆	
	IELTS	2	春					25名	1		
3	Lecture and Discussion D	4	春(週2回ずつ)	LNE2011	TOEFL® iBT76点(TOEFL® ITP[Level 1]540点), TOEIC®(またはTOEIC® IP)700点, IELTS6.0またはGTEC 300点以上の能力を有する者。	アドバンストモジュール	25名	1		「その他」登録	
	Lecture and Discussion H	4	秋(週2回ずつ)				25名	1			
	Discussion and Debate	2	春				25名	1			
	Advanced Academic Vocabulary	2	春				25名	1			
	Current English 3 (Comprehensive)	2	春・秋				25名	春1・秋1			
	Academic Studies (advanced presentation)	2	秋				25名	1			
	Academic Studies (advanced writing)	2	春				25名	1			
	Career Studies (English for vocational purposes)	2	春・秋				25名	春1・秋1			
4	University Lecture C	2	春	LNE3011	TOEFL® iBT87点(TOEFL® ITP[Level 1]570点), TOEIC®(またはTOEIC® IP)785点, IELTS6.5またはGTEC325点以上の能力を有する者。	オナーズモジュール	25名	1			
	University Lecture F	2	秋				25名	1			

※☆印のある科目は、インディペンデント・モジュール レベルII科目

英語海外文化研修

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

人数制限を行う

ステージ	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	モジュール	定員	クラス数	登録方法
2	英語海外文化研修	4	その他	1・2・3・4	LNE2031	下記のいずれかに該当する者。 ①1年次生 ②英語必修科目単位修得済の2～4年次生	インディペンデント・モジュール	約50名	1	その他登録

- 注意**
- 1) 募集人数は1～4年次生50名程度。
 - 2) 春学期の土曜日13:40より事前研修、秋学期の指定日に報告会などが池袋キャンパスで実施され、これらへの参加状況も含めて成績が評価される。成績発表は通年・秋学期科目と同時期となる。
 - 3) 履修を希望する学生は、全学年とも、下記日程で開催の説明会に『シラバス』を読んだ上で参加すること。

説明会：池袋…4月5日（木）11:15～12:15 8101教室（8号館1階）
 出願：池袋・新座…4月5日（木）9:00～4月7日（土）12:30
 提出場所：教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）
 選考結果発表：4月10日（火）10:00 全学共通科目掲示板

* 「英語海外文化研修」の単位については、履修登録上は1学期あたり2単位（春学期2単位・秋学期2単位）として計算する。各自所属する学部・学科の履修規定により履修登録上限単位数が設定されている場合には履修計画を立てる際に注意すること。

国際交流制度短期英語研修プログラムについて

2017年度より立教大学学生国際交流制度のプログラムに参加し履修登録申請をした学生は、各大学の短期英語研修で修得した単位が、所定の手続きにより全学共通科目言語系科目「自由科目（英語）」の単位として認められる。この単位は、各学部の規定の範囲内で、卒業要件単位として認められる。

ステージ	科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	コース	定員	クラス数	登録方法
2	ビクトリア夏ESL2	2	春外	1・2・3・4	LNE2031	インディペンデント・モジュール（資格系以外科目）	約30名	1	その他登録
	ハワイ夏ESL1	1		1・2・3・4			約20名	1	
	ダブリン春ESL3	3	秋外	1・2・3			約25名	1	
	シドニー春ESL3	3		1・2・3			約25名	1	
	アジア春ESL2	2		1・2・3			約20名	1	

- 注意**
- 1) 履修希望者は、国際センターのWebサイトを確認し、説明会に必ず参加すること。
 - 2) 成績は「合」「否」のいずれかにて評価する。
 - 3) 成績の発表は、夏季実施は11月上旬、春季実施は6月上旬の予定である。

* 上記科目の単位は、履修登録申請を行った年間の履修登録上限単位数に算入される。

2. ドイツ語

(池袋キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
ドイツ語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNG2013	「ドイツ語基礎1」および「ドイツ語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	2
ドイツ語スタンダード2	1	春					30名	2
ドイツ語スタンダード3	1	秋					30名	2
ドイツ語スタンダード4	1	秋					30名	2
ドイツ語中級1	2	春 (週2回)					30名	4
ドイツ語中級2	2	秋 (週2回)					30名	4
上級ドイツ語コミュニケーション1	2	春	3・4	LNG3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	1
上級ドイツ語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
上級ドイツ語ライティング1	2	春					30名	1
上級ドイツ語ライティング2	2	秋					30名	1
上級ドイツ語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
上級ドイツ語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
上級ドイツ語演習1	2	春					30名	1
上級ドイツ語演習2	2	秋					30名	1
言語情報処理論 (ドイツ語)	2	春	1・2・3・4	LNG2013	「ドイツ語基礎1」および「ドイツ語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名	1

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	備考	定員	クラス数
基礎ドイツ語入門	2	春 (週2回)	2・3・4	LNG1010	必修科目がドイツ語以外の者。	必修科目に併せて行う	5名	池袋:6 新座:2
基礎ドイツ語初級	2	秋 (週2回)			必修科目がドイツ語以外の者。 「基礎ドイツ語入門」の単位修得済。	必修科目に併せて行う	5名	池袋:6 新座:2

「基礎ドイツ語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「スタンダード」または「中級」の履修を推奨する。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

全てのクラスで人数制限を行う

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
ドイツ語海外言語文化研修 (中級)	2	春他	1・2・3・4	LNG2033	「ドイツ語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	約10名	1
ドイツ語海外言語文化研修 (上級)	2	春他	3・4	LNG3033	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群	約10名	1

注意 ドイツ語海外言語文化研修 (中級・上級) の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること。

説明会：池袋…4月5日 (木) 11:15~12:15 A201教室 (11号館2階)
 出願：池袋・新座…4月5日 (木) 9:00~4月7日 (土) 12:30
 提出場所：教務事務センター (池袋：タッカーホール1階/新座：7号館1階)
 選考結果発表：4月10日 (火) 10:00 全学共通科目掲示板

(新座キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
ドイツ語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNG2013	「ドイツ語基礎1」および「ドイツ語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	1
ドイツ語スタンダード2	1	春					30名	1
ドイツ語スタンダード3	1	秋					30名	1
ドイツ語スタンダード4	1	秋					30名	1
ドイツ語中級1	2	春 (週2回)					30名	2
ドイツ語中級2	2	秋 (週2回)					30名	2
上級ドイツ語コミュニケーション1	2	春	3・4	LNG3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	1
上級ドイツ語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
上級ドイツ語ライティング1	2	春					30名	1
上級ドイツ語ライティング2	2	秋					30名	1
上級ドイツ語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
上級ドイツ語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
上級ドイツ語演習1	2	春					30名	1
上級ドイツ語演習2	2	秋					30名	1
言語情報処理論 (ドイツ語)	2	秋	1・2・3・4	LNG2013	「ドイツ語基礎1」および「ドイツ語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名	1

3. フランス語

(池袋キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
フランス語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNF2013	「フランス語基礎1」および「フランス語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	2
フランス語スタンダード2	1	春					30名	2
フランス語スタンダード3	1	秋					30名	2
フランス語スタンダード4	1	秋					30名	2
フランス語中級1	2	春 (週2回)	3・4	LNF3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	4
フランス語中級2	2	秋 (週2回)					30名	4
上級フランス語コミュニケーション1	2	春					30名	1
上級フランス語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
上級フランス語ライティング1	2	春					30名	1
上級フランス語ライティング2	2	秋					30名	1
上級フランス語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
上級フランス語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
上級フランス語演習1	2	春					30名	1
上級フランス語演習2	2	秋					30名	1
言語情報処理論(フランス語)	2	春	1・2・3・4	LNF2013	「フランス語基礎1」および「フランス語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名	1

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	備考	定員	クラス数
基礎フランス語入門	2	春 (週2回)	2・3・4	LNF1010	必修科目がフランス語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名	池袋：6 新座：2
基礎フランス語初級	2	秋 (週2回)			必修科目がフランス語以外の者。 「基礎フランス語入門」の単位修得済。	必修科目に合併して行う	5名	池袋：6 新座：2

「基礎フランス語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「スタンダード」または「中級」の履修を推奨する。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

全てのクラスで人数制限を行う

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
フランス語海外言語文化研修(中級)	2	春他	1・2・3・4	LNF2033	「フランス語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	計20 ~30名	1
フランス語海外言語文化研修(上級)	2	春他	3・4	LNF3033	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群		1
<p>注意 フランス語海外言語文化研修(中級・上級)の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること。</p> <p>説明会：池袋…4月5日(木) 11:15~12:15 A301教室(11号館3階) 出願：池袋・新座…4月5日(木) 9:00~4月7日(土) 12:30 提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階/新座：7号館1階) 選考結果発表：4月10日(火) 10:00 全学共通科目掲示板</p>								

(新座キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
フランス語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNF2013	「フランス語基礎1」および「フランス語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	1
フランス語スタンダード2	1	春					30名	1
フランス語スタンダード3	1	秋					30名	1
フランス語スタンダード4	1	秋					30名	1
フランス語中級1	2	春 (週2回)	3・4	LNF3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	2
フランス語中級2	2	秋 (週2回)					30名	2
上級フランス語コミュニケーション1	2	春					30名	1
上級フランス語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
上級フランス語ライティング1	2	春					30名	1
上級フランス語ライティング2	2	秋					30名	1
上級フランス語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
上級フランス語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
上級フランス語演習1	2	春					30名	1
上級フランス語演習2	2	秋					30名	1
言語情報処理論(フランス語)	2	春	1・2・3・4	LNF2013	「フランス語基礎1」および「フランス語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名	1

4. スペイン語

(池袋キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
スペイン語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNS2013	「スペイン語基礎1」および「スペイン語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	2
スペイン語スタンダード2	1	春					30名	2
スペイン語スタンダード3	1	秋					30名	2
スペイン語スタンダード4	1	秋					30名	2
スペイン語中級1	2	春 (週2回)					30名	4
スペイン語中級2	2	秋 (週2回)					30名	4
上級スペイン語コミュニケーション1	2	春	3・4	LNS3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	1
上級スペイン語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
上級スペイン語ライティング1	2	春					30名	1
上級スペイン語ライティング2	2	秋					30名	1
上級スペイン語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
上級スペイン語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
上級スペイン語演習1	2	春					30名	1
上級スペイン語演習2	2	秋					30名	1
言語情報処理論 (スペイン語)	2	秋					1・2・3・4	LNS2013

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	備考	定員	クラス数
基礎スペイン語入門	2	春 (週2回)	2・3・4	LNS1010	必修科目がスペイン語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名	池袋:6 新座:2
基礎スペイン語初級	2	秋 (週2回)			必修科目がスペイン語以外の者。 「基礎スペイン語入門」の単位修得済。	必修科目に合併して行う	5名	池袋:6 新座:2

「基礎スペイン語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「スタンダード」または「中級」の履修を推奨する。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

全てのクラスで人数制限を行う

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
スペイン語海外言語文化研修 (中級)	2	春他	1・2・3・4	LNS2033	「スペイン語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	約20名	1
スペイン語海外言語文化研修 (上級)	2	春他	3・4	LNS3033	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群	約20名	1
<p>注意 スペイン語海外言語文化研修 (中級・上級) の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、「シラバス」をよく読んで上で、必ず参加すること。</p> <p>説明会：池袋…4月5日 (木) 11:15~12:15 X102教室 (10号館1階) 出願：池袋・新座…4月5日 (木) 9:00~4月7日 (土) 12:30 提出場所：教務事務センター (池袋：タッカーホール1階/新座：7号館1階) 選考結果発表：4月10日 (火) 10:00 全学共通科目掲示板</p>								

(新座キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
スペイン語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNS2013	「スペイン語基礎1」および「スペイン語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	1
スペイン語スタンダード2	1	春					30名	1
スペイン語スタンダード3	1	秋					30名	1
スペイン語スタンダード4	1	秋					30名	1
スペイン語中級1	2	春 (週2回)					30名	2
スペイン語中級2	2	秋 (週2回)					30名	2
上級スペイン語コミュニケーション1	2	春	3・4	LNS3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	1
上級スペイン語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
上級スペイン語ライティング1	2	春					30名	1
上級スペイン語ライティング2	2	秋					30名	1
上級スペイン語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
上級スペイン語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
上級スペイン語演習1	2	春					30名	1
上級スペイン語演習2	2	秋					30名	1
言語情報処理論 (スペイン語)	2	春					1・2・3・4	LNS2013

5. 中国語

(池袋キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数				
中国語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNC2013	「中国語基礎1」および「中国語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	3				
中国語スタンダード2	1	春					30名	3				
中国語スタンダード3	1	秋					30名	3				
中国語スタンダード4	1	秋					30名	3				
中国語中級1	2	春 (週2回)					30名	4				
中国語中級2	2	秋 (週2回)					30名	4				
上級中国語コミュニケーション1	2	春	3・4	LNC3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	1				
上級中国語コミュニケーション2	2	秋					30名	1				
上級中国語ライティング1	2	春					30名	1				
上級中国語ライティング2	2	秋					30名	1				
上級中国語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1				
上級中国語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1				
上級中国語演習1	2	春					30名	1				
上級中国語演習2	2	秋					30名	1				
言語情報処理論(中国語)	2	春					1・2・3・4	LNC2013	「中国語基礎1」および「中国語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名	1

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	備考	定員	クラス数
基礎中国語入門	2	春 (週2回)	2・3・4	LNC1010	必修科目が中国語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名	池袋：6 新座：2
基礎中国語初級	2	秋 (週2回)						

「基礎中国語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「スタンダード」または「中級」の履修を推奨する。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
中国語海外言語文化研修(中級)	2	春他	1・2・3・4	LNC2033	「中国語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	なし	1
中国語海外言語文化研修(上級)	2	春他	3・4	LNC3033	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群	なし	1
中国語海外言語文化研修春(中級)	2	秋他	1・2・3	LNC2033	「中国語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	なし	1
中国語海外言語文化研修春(上級)	2	秋他	3	LNC3033	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群	なし	1

注意 中国語海外言語文化研修(中級・上級)の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること。

説明会：池袋…4月5日(木) 11:15~12:15 A304教室(11号館3階)
 出願：池袋・新座…4月5日(木) 9:00~4月7日(土) 12:30
 提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階/新座：7号館1階)
 選考結果発表：4月10日(火) 10:00 全学共通科目掲示板

中国語海外言語文化研修春(中級・上級)の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること。

説明会：池袋…7月10日(火) 12:20~13:05 M202教室(マキムホール2階)
 新座…7月11日(水) 12:20~13:05 N854教室(8号館5階)
 出願：池袋・新座…7月10日(火) 9:00~7月13日(金) 17:00
 提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階/新座：7号館1階)
 選考結果発表：7月19日(木) 10:00 全学共通科目掲示板

(新座キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講 学期	配当年次	科目 ナンバリング	履修資格	レベル (科目群)	定員	クラ ス数
中国語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNC2013	「中国語基礎1」および「中国語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	1
中国語スタンダード2	1	春					30名	1
中国語スタンダード3	1	秋					30名	1
中国語スタンダード4	1	秋					30名	1
中国語中級1	2	春 (週2回)					30名	2
中国語中級2	2	秋 (週2回)					30名	2
上級中国語コミュニケーション1	2	春	3・4	LNC3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	1
上級中国語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
上級中国語ライティング1	2	春					30名	1
上級中国語ライティング2	2	秋					30名	1
上級中国語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
上級中国語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
上級中国語演習1	2	春					30名	1
上級中国語演習2	2	秋					30名	1
言語情報処理論 (中国語)	2	秋					1・2・3・4	LNC2013

6. 朝鮮語

(池袋キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
朝鮮語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNK2013	「朝鮮語基礎1」および「朝鮮語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	1
朝鮮語スタンダード2	1	春					30名	1
朝鮮語スタンダード3	1	秋					30名	1
朝鮮語スタンダード4	1	秋					30名	1
朝鮮語中級1	2	春 (週2回)	2・3・4	LNK2013	「朝鮮語基礎1」および「朝鮮語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	4
朝鮮語中級2	2	秋 (週2回)					30名	4
上級朝鮮語コミュニケーション1	2	春	3・4	LNK3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	1
上級朝鮮語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
上級朝鮮語ライティング1	2	春					30名	1
上級朝鮮語ライティング2	2	秋					30名	1
上級朝鮮語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
上級朝鮮語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
上級朝鮮語演習1	2	春					30名	1
上級朝鮮語演習2	2	秋					30名	1
言語情報処理論(朝鮮語)	2	秋	1・2・3・4	LNK2013	「朝鮮語基礎1」および「朝鮮語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名	1

(池袋キャンパスおよび新座キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	備考	定員	クラス数
基礎朝鮮語入門	2	春 (週2回)	2・3・4	LNK1010	必修科目が朝鮮語以外の者。	必修科目に合併して行う	5名	池袋：6 新座：2
基礎朝鮮語初級	2	秋 (週2回)			必修科目が朝鮮語以外の者。 「基礎朝鮮語入門」の単位修得済。	必修科目に合併して行う	5名	池袋：6 新座：2

「基礎朝鮮語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「スタンダード」または「中級」の履修を推奨する。

(池袋キャンパス・新座キャンパス共通)

全てのクラスで人数制限を行う

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
朝鮮語海外言語文化研修(中級)	2	春他	1・2・3・4	LNK2033	「朝鮮語基礎1」の単位修得済が望ましい。	基礎科目群	約30名	1
朝鮮語海外言語文化研修(上級)	2	春他	3・4	LNK3033	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	コア科目群	約30名	1
<p>注意 朝鮮語海外言語文化研修(中級・上級)の履修希望者は、下記日程で開催の説明会に、『シラバス』をよく読んだ上で、必ず参加すること(各回は同内容のため、いずれかの回に参加すること)。</p> <p>説明会：池袋…4月5日(木) 11:15~12:15 X103教室(10号館1階) 新座…4月4日(水) 12:30~13:00 N854教室(8号館5階) 出願：池袋・新座…4月5日(木) 9:00~4月7日(土) 12:30 提出場所：教務事務センター(池袋：タッカーホール1階/新座：7号館1階) 選考結果発表：4月10日(火) 10:00 全学共通科目掲示板</p>								

(新座キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	レベル(科目群)	定員	クラス数
朝鮮語スタンダード1	1	春	2・3・4	LNK2013	「朝鮮語基礎1」および「朝鮮語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	1
朝鮮語スタンダード2	1	春					30名	1
朝鮮語スタンダード3	1	秋					30名	1
朝鮮語スタンダード4	1	秋					30名	1
朝鮮語中級1	2	春	2・3・4	LNK2013	「朝鮮語基礎1」および「朝鮮語基礎2」の単位修得済。	言語自由科目基礎科目群 (中級レベル)	30名	2
朝鮮語中級2	2	秋					30名	2
上級朝鮮語コミュニケーション1	2	春	3・4	LNK3013	言語自由科目基礎科目群から4単位以上修得済。	言語自由科目コア科目群 (上級レベル)	30名	1
上級朝鮮語コミュニケーション2	2	秋					30名	1
上級朝鮮語ライティング1	2	春					30名	1
上級朝鮮語ライティング2	2	秋					30名	1
上級朝鮮語リスニング・リーディング1	2	春					30名	1
上級朝鮮語リスニング・リーディング2	2	秋					30名	1
上級朝鮮語演習1	2	春					30名	1
上級朝鮮語演習2	2	秋					30名	1
言語情報処理論(朝鮮語)	2	秋	1・2・3・4	LNK2013	「朝鮮語基礎1」および「朝鮮語基礎2」の単位取得済が望ましい。	中級レベル	30名	1

7. ロシア語

(池袋キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	定員	クラス数
ロシア語セミナーA	1	春	1・2・3・4	LNR2013	「ロシア語基礎2」または「基礎ロシア語初級」の単位修得済が望ましい。	30名	1
ロシア語セミナーB	1	秋			「ロシア語セミナーA」の単位修得済が望ましい。	30名	1
ロシア語セミナーC	1	春			「ロシア語基礎2」または「基礎ロシア語初級」の単位修得済が望ましい。	30名	1
ロシア語セミナーD	1	秋			「ロシア語セミナーC」の単位修得済が望ましい。	30名	1
ロシア語セミナー1	1	春			ロシア語科目を6単位以上（必修4単位を含む）修得していることが望ましい。	30名	1
ロシア語セミナー2	1	秋			ロシア語科目を6単位以上（必修4単位を含む）修得していることが望ましい。	30名	1

【基礎からのロシア語～言語Bがロシア語以外の人のための科目～】

(池袋キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	備考	定員	クラス数
基礎ロシア語入門	2	春 (週2回)	2・3・4	LNR1010	必修科目がロシア語以外の者。	必修クラスに併せて行う。	8名	1
基礎ロシア語初級	2	秋 (週2回)			必修科目がロシア語以外の者。「基礎ロシア語入門」の単位修得済。	必修クラスに併せて行う。	8名	1

「基礎ロシア語入門・初級」を修得し、更に学びたい者には「セミナー」の履修を推奨する。

8. ポルトガル語

(池袋キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	履修資格	備考	定員	クラス数
ポルトガル語1	1	春	2・3・4	LNP1010	特になし	隔年開講	30名	1
ポルトガル語2	1	秋			「ポルトガル語1」の単位修得済が望ましい。		30名	1
ポルトガル語3	1	2018年度休講		LNP2013	「ポルトガル語2」の単位修得済が望ましい。	隔年開講	30名	－
ポルトガル語4	1	2018年度休講			「ポルトガル語3」の単位修得済が望ましい。		30名	－

9. 日本語

(外国人留学生入試による
入学者対象)

(池袋キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講 学期	配当年次	科目 ナンバリング	履修資格	レベル	定員	クラス 数
日本の文化・社会A	1	春	2・3・4	LNJ2010	特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
日本の文化・社会B	1	秋			特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
日本の文化・社会C	1	秋			特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
日本語論文作成法	1	秋			特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
日本語の諸相A	1	春			特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
日本語の諸相B	1	秋			特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
日本語論文読解	1	春		LNJ3010	特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
キャリアジャパニーズA	1	春・秋			特になし	日本語必修科目修了程度	15名	1
キャリアジャパニーズB	1	春・秋			特になし	日本語必修科目修了程度	25名	1
ビジネス日本語(文書)	1	春・秋			特になし	日本語必修科目修了程度	25名	1
ビジネス日本語口頭A	1	春・秋			特になし	日本語必修科目修了程度	15名	1
ビジネス日本語口頭B	1	春・秋			特になし	日本語必修科目修了程度	15名	1

(新座キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講 学期	配当年次	科目 ナンバリング	履修資格	レベル	定員	クラス 数
ビジネス日本語(文書)	1	秋	2・3・4	LNJ3010	特になし	日本語必修科目修了程度	25名	1
日本語論文読解	1	春		LNJ2010	特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
キャリアジャパニーズA	1	春		LNJ3010	特になし	日本語必修科目修了程度	15名	1
キャリアジャパニーズB	1	秋			特になし	日本語必修科目修了程度	25名	1
日本語論文作成法	1	秋		LNJ2010	特になし	日本語必修科目修了程度	20名	1
ビジネス日本語口頭A	1	春		LNJ3010	特になし	日本語必修科目修了程度	15名	1
ビジネス日本語口頭B	1	秋			特になし	日本語必修科目修了程度	15名	1

10. 日本手話

(池袋キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講 学期	配当年次	科目 ナンバリング	履修資格	レベル	定員	クラス 数
日本手話1	1	春	1・2・3・4	LNH1010	特になし	入門	25名	1
日本手話2	1	秋			「日本手話1」の単位修得済が望ましい。	初級	25名	1
日本手話3	1	2018 年度 休講		LNH2013	「日本手話2」の単位修得済が望ましい。	中級	20名	—
日本手話4	1	2018 年度 休講			「日本手話3」の単位修得済が望ましい。		20名	—

(新座キャンパス開講科目)

全て抽選登録科目

科目名	単位数	開講 学期	配当年次	科目 ナンバリング	履修資格	レベル	定員	クラス 数
日本手話1	1	2018 年度 休講	1・2・3・4	LNH1010	特になし	入門	25名	—
日本手話2	1	2018 年度 休講			「日本手話1」の単位修得済が望ましい。	初級	25名	—
日本手話3	1	春		LNH2013	「日本手話2」の単位修得済が望ましい。	中級	20名	1
日本手話4	1	秋			「日本手話3」の単位修得済が望ましい。		20名	1

3 グローバル教養副専攻 学部展開科目 科目一覧表 (2018年度)

「テーマ」の列の数字は、以下に読みかえること。

Language & Culture Course

- 1 Academic Studies in English
- 2 World Issues in English
- 3 Communication in English
- 4 German Language & Culture
- 5 French Language & Culture
- 6 Spanish Language & Hispanic Culture
- 7 Chinese Language & Culture
- 8 Korean Language & Culture

同一科目を重複履修した場合には、最初に修得した1科目のみがグローバル教養副専攻の修了に必要な単位として認められ、2科目以降に修得した単位は、修了に必要な単位に算入されない。

英語

英語の学部展開科目は各テーマの第2系列に算入する。

設置学部	科目名	単位	学期	テーマ	備考
文	英語文献講読1	2	春学期	1, 2, 3	抽選登録
	英語文献講読2	2	秋学期		
	英語文献講読3	2	春学期		
	英語文献講読4	2	秋学期		
	英語文献講読5	2	春学期		
	英語文献講読6	2	秋学期		
	英語文献講読7	2	春学期		
	英語文献講読8	2	秋学期		
	英語文献講読9	2	秋学期		
	英語文献講読11	2	秋学期		
	英語文献講読13	2	春学期		
	英語文献講読15	2	春学期		
	英語文献講読10	2	春学期		
	英語文献講読12	2	春学期		
	英語文献講読14	2	秋学期		
	英語文献講読16	2	秋学期		
海外フィールドスタディ〈1.海外EAP〉	4	通年他		その他登録	
ケンブリッジ・サマープログラム	6	通年他			
経済	経済英語1	2	春学期	1, 2, 3	抽選登録
	経済英語2	2	秋学期		
	経済英語2	2	春学期		
	経済英語3	2	春学期		
	経済英語4	2	秋学期		
	経済英語5	2	春学期		
	経済英語6	2	秋学期		
	Short-term Study Abroad Program in Economics (USA)	8	春学期		
	Short-term Study Abroad Program in Economics (UK)	8	春学期		
	Short-term Study Abroad Program in Economics (CAN)	6	春学期		
Short-term Study Abroad Program in Economics (AUS)	6	秋学期			
Short-term Study Abroad Program in Economics (PHL)	4	秋学期			
理	科学英語1 (数)	2	春学期	1, 2, 3	抽選登録
	科学英語2 (数)	2	秋学期		
	科学英語1 (物)	2	秋学期		
	科学英語2 (物)	2	春学期		
	科学英語1 (生)	2	春学期		
	科学英語2 (生)	2	春学期		
					CB310
					CB311
					CD310
					CD311

設置学部	科目名	単位	学期	テーマ	備考
社会	Introduction to Sociology A*1	2	春学期	1, 2, 3	抽選登録
	Introduction to Sociology B*1	2	秋学期		
	Introduction to Sociology C	2	春学期		
	Lecture & Discussion on Social Issues A	2	春学期		
	Lecture & Discussion on Social Issues B	2	秋学期		
	Lecture & Discussion on Culture A	2	春学期		
	Lecture & Discussion on Culture B	2	秋学期		
	Lecture & Discussion on Media and Communication A	2	春学期		
	Lecture & Discussion on Media and Communication B	2	秋学期		
	Writing Academic English A*1	2	春学期		
	Writing Academic English B*1	2	秋学期		
	Writing Academic English C	2	秋学期		
	Global Study Program (Sydney)	6	春学期		
	法	法学部合同講義 (オックスフォード・サマープログラム)	4		春学期他
法政外国語演習		2	秋学期	EX678	
法政外国語演習		2	春学期	EX679	
法政外国語演習		2	秋学期	EX680	
法政外国語演習		2	秋学期	EX681	
法政外国語演習		2	春学期	EX682	
法政外国語演習		2	秋学期	EX684	
法政外国語演習		2	春学期	EX685	
法政外国語演習		2	秋学期	EX686	
法政外国語演習		2	春学期	EX687	
法政外国語演習	2	秋学期	EX688		
経営	Argumentation and Debate	2	秋学期	1, 2, 3	BT110
	Argumentation and Debate	2	春学期		BT112
	Marketing Communications and Penetrating the Japanese Market	2	春学期		BT113
	Financial Statement Analysis	2	秋学期		BT118
	Business Negotiation	2	春学期		BT131
	Marketing Management in Japan	2	春学期		BT161
	Global Innovation Management	2	春学期		BT162
	International Human Resource Management	2	秋学期		BT165
	Leadership in Global Organization	2	春学期		抽選登録
	Marketing Positioning Strategy	2	秋学期		BT167
	Global Strategic Management	2	春学期		抽選登録
	Modern Consumer Culture and Society	2	秋学期		BT169
	Modern Consumer Culture and Society	2	秋学期		BT170
	Introduction to Strategic Management	2	春学期		BT175
	Japanese and East Asian Business Environments	2	春学期2		BT177
	Finance	2	春学期		BT183
	Corporate Finance and Valuation	2	秋学期		BT184
	International Financial Management	2	秋学期2		抽選登録
	Finance Accounting	2	春学期		BT188
	Business and Society	2	秋学期		BT203
	Intercultural Business Management	2	春学期		抽選登録
	Intercultural Business Management	2	秋学期		その他登録
	Advanced Small Group Communication	2	春学期		その他登録
Language and Culture	2	春学期	抽選登録		
Language and Culture	2	秋学期			
Business Communication	2	春学期			
Business Communication	2	春学期	BT209		
Business and Society in Asia*1	2	秋学期			
Business Project	2	秋学期	その他登録		
異文化	Seminar in English A	2	春学期	1, 2, 3	抽選登録
	Seminar in English B	2	秋学期		
	Seminar in English C	2	春学期		
	Seminar in English D	2	秋学期		
	Seminar in English E	2	春学期		
	Seminar in English F	2	秋学期		
観光	観光特論3 (英語)	2	秋学期	1, 2, 3	抽選登録
	観光特論4 (英語)	2	春学期他		
	ESP (Investment and Finance) 1	2	春学期		HA984
	ESP (Investment and Finance) 2	2	秋学期		HA985
	観光ビジネス計画論1	2	秋学期		HA980
	観光ビジネス計画論2	2	春学期		HA981
	観光特論5 (英語)	2	秋学期		抽選登録
	観光特論6 (英語)	2	春学期		HA518
ビジネスコミュニケーション	2	春学期	HA120		

設置学部	科目名	単位	学期	テーマ	備考
コミュニ ティ福祉	グローバル社会で活躍するための英語1	2	春学期	1, 2, 3	抽選登録
	グローバル社会で活躍するための英語2	2	秋学期		
	海外留学・海外インターンシップを目指す人への英語(スポーツウエルネス系)	2	春学期		
	英語で学ぶスポーツマネジメント・スポーツビジネス	2	秋学期		
	海外留学・海外インターンシップを目指す人への英語(福祉系)	2	春学期		
	英語で学ぶ海外の福祉の現状	2	秋学期		
	海外留学・海外インターンシップを目指す人への英語(コミュニティ政策系)	2	春学期		
	英語で学ぶコミュニティ政策	2	秋学期		
	異文化スタディ	2	春学期外		
	インターンシップ(海外系・シアトル)	4	通年		
インターンシップ(海外系・イーストロンドン)	4	通年			
インターンシップ(海外系・ベトナム)	4	通年			
インターンシップ(海外系・フロリダ)	4	通年			
現代心理	英語文献講読演習(初級)	2	春学期	1, 2, 3	HM731
	英語文献講読演習(中級)	2	秋学期		HM732
	英語文献講読演習(上級)	2	春学期		HM733
	英語表現演習(初級)	2	秋学期		HM734
	英語表現演習(中級)	2	春学期		HM735
	英語表現演習(上級)	2	秋学期		HM736
	英語ディベート(発展)	2	春学期		HM737
	短期海外留学プログラム	2	春学期		その他登録
	心理学特講4(併置:心理学特講7)	2	春学期		
	身体学文献講読3	2	秋学期		抽選登録
	映像学文献講読2	2	春学期		
	映像学文献講読3	2	秋学期		
	都市の記憶と表象文化	2	春学期		

*同一科目名で複数クラス展開されている科目もある。
 *各学部の履修要項・シラバスをよく読み、対象クラスを間違えないように注意すること。
 *各科目のシラバス・履修対象年次・履修登録方法等は、各学部の履修要項・シラバスを見て確認すること。
 *1 2017年度に科目名変更。旧科目名「Business and Society in Japan」

ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語

過年度に修得した科目については当該年度の全学共通科目履修要項で確認すること。

設置学部	科目名	単位	学期	テーマ	系列	備考			
文	ドイツ語圏文化概論1	2	春学期	4	第2系列	AL231			
	ドイツ語圏文化概論2	2	秋学期			AL232			
	文学講義157	2	休講			AN357			
	文学講義107	2	春学期			AN337			
	海外フィールドスタディ<2.海外ASD>	4	通年他	5	第3系列	その他登録			
	フランス文学・文化概論	2	春学期			AL216			
	文学講義217	2	春学期			AS317			
	文学講義218	2	秋学期			AS318			
海外フィールドスタディ<3.海外SLV>	4	通年他	6	第3系列	その他登録				
異文化	ドイツ語 Lecture A	2			春学期	4	DM151		
	ドイツ語 Lecture B	2			秋学期	DM152			
	フランス語 Lecture A	2			春学期	5	DM153		
	フランス語 Lecture B	2			秋学期	DM154			
	スペイン語 Lecture A	2			春学期	6	DM155		
	スペイン語 Lecture B	2			秋学期	DM156			
	中国語 Lecture A	2			春学期	7	DM157		
	中国語 Lecture B	2			秋学期	DM158			
	朝鮮語 Lecture A	2			春学期	8	DM159		
	朝鮮語 Lecture B	2			秋学期	DM160			
	観光	観光特論1(中国語)			2	春学期	7	第2系列	抽選登録
		観光特論2(朝鮮語)			2	春学期	8		

*備考欄に科目コードの記載のある科目は、同一科目名で複数クラス展開されているものである。
 *各学部の履修要項・シラバスをよく読み、対象クラスを間違えないように注意すること。
 *各科目のシラバス・履修対象年次・履修登録方法等は、各学部の履修要項・シラバスを見て確認すること。

履修規定 カリキュラム

心理学科
映像身体学科

心理学科履修規定

2016年度以降入学者に適用

専門教育科目の特色

本学科では、1・2年次で心理学に関する文献を理解するために必要な心理学の基礎知識と英文読解力を身につけるとともに、少人数グループに分かれて行う心理学実験実習、心理学調査実習を通して、研究や調査を計画・立案し、得られたデータを分析し、結果を表現・報告する能力を養う。3年次からは専任教員が開講するゼミに全員が所属して、興味のある心理学領域を深く学び、教員による綿密な指導のもとで卒業研究を行う。

履修にあたっては、「現代心理学部全学生にかかわる事項」もあわせてよく読むこと。

1 卒業要件単位数

- (1) 2016年度以降入学者の卒業に必要な卒業要件単位数は124単位である。
- (2) 科目群（履修区分）ごとに必要単位数が定められており、その内訳は次のとおりである。

〈卒業要件単位数〉

履修区分	卒業要件単位数
必修科目	30単位
選択科目	68単位
自由科目	26単位以上
合計	124単位以上

* 卒業研究を選択する場合は70単位

* 卒業研究を選択する場合は24単位以上

2 科目群（履修区分）の概要と履修上の注意

卒業論文選択（2017年度以前入学者）

	導入期	形成期	完成期
必修科目	学びの技法（現代心理学入門）		
	キャリアと心理学		
	心理学概説1, 統計法1	心理学概説2, 統計法2	心理学文献講読, 心理学実験実習, 心理学調査実習
	言語教育科目A（英語）		
	言語教育科目B（初習言語）		
選択科目	学びの精神		
	学部統合科目1～4		
	学科選択科目A（演習） 心理学演習1・2		
	学科選択科目B（講義） 認知心理学, 産業心理学, 臨床心理学 など		
	学科選択科目C（研究法） 心理学研究法1～4		
	学科選択科目D（特別講義） 神経心理学, リスク心理学, 心理療法 など		
	多彩な学び		
スポーツ実習			学科選択科目E（卒業論文）
自由科目	自由選択科目, 現代心理学部他学科科目, 他学部科目, 言語自由科目, f-Campus科目 など		

卒業研究選択（2017年度以前入学者）

	導入期	形成期	完成期	
必修科目	学びの技法（現代心理学入門）			
	キャリアと心理学			
	心理学概説1, 統計法1	心理学概説2, 統計法2	心理学文献講読, 心理学実験実習, 心理学調査実習	
	言語教育科目A（英語）			
	言語教育科目B（初習言語）			
選択科目	学びの精神			
	学部統合科目1～4			
			学科選択科目A（演習） 心理学演習1・2	
	学科選択科目B（講義） 認知心理学, 産業心理学, 臨床心理学 など			
	学科選択科目C（研究法） 心理学研究法1～4			
	学科選択科目D（特別講義） 神経心理学, リスク心理学, 心理療法 など			
				学科選択科目E
	多彩な学び			
スポーツ実習				
自由科目	自由選択科目, 現代心理学部他学科科目, 他学部科目, 言語自由科目, f-Campus科目 など			

卒業論文選択（2018年度以降入学者）

	導入期	形成期	完成期	
必修科目	学びの技法 現代心理学入門, キャリアと心理学, 心理学概説1, 心理学統計法1	心理学概説2, 心理学統計法2	心理学文献講読1・2	
			心理学実験実習1（心理学実験）, 心理学調査実習1	
	言語教育科目A（英語）			
	言語教育科目B（初習言語）			
	選択科目	学びの精神		
学部統合科目1～4				
		学科選択科目A（演習） 心理学演習1・2		
学科選択科目B（講義） 認知心理学（知覚・認知心理学）, 産業・組織心理学, 臨床心理学概論 など				
学科選択科目C（研究法） 心理学研究法1～3・4（心理的アセスメント）				
学科選択科目D（特別講義） 神経心理学（神経・生理心理学）, リスク心理学, 心理学的支援法 など				
			学科選択科目E（卒業論文）	
多彩な学び				
スポーツ実習				
自由科目	自由選択科目, 現代心理学部他学科科目, 他学部科目, 言語自由科目, f-Campus科目 など			

卒業研究選択（2018年度以降入学者）

	導入期	形成期	完成期
必修科目	学びの技法 現代心理学入門、 キャリアと心理学、 心理学概論1、心理学統計法1	心理学概論2、心理学統計法2	心理学文献講読1・2
	言語教育科目A（英語） 言語教育科目B（初習言語）	心理学実験実習1（心理学実験）、心理学調査実習1	
選択科目	学びの精神	学部統合科目1～4	学科選択科目A（演習） 心理学演習1・2
		学科選択科目B（講義） 認知心理学（知覚・認知心理学）、産業・組織心理学、臨床心理学概論 など	学科選択科目C（研究法） 心理学研究法1～3・4（心理的アセスメント）
		学科選択科目D（特別講義） 神経心理学（神経・生理心理学）、リスク心理学、心理学的支援法 など	学科選択科目E
		多彩な学び	
		スポーツ実習	
自由科目		自由選択科目、現代心理学部他学科科目、他学部科目、言語自由科目、f-Campus科目 など	

**1. 1（2017年度以前入学者）
必修科目**

卒業するまでにすべて履修しなければならない。現代心理学入門は学部の理念と学問領域の広がりを理解する科目、キャリアと心理学は心理学と社会のつながりに関する理解を深める科目、心理学概論、統計法、心理学実験実習、心理学調査実習は心理学の基本的な知識と技法を学ぶ科目、心理学文献講読は心理学に関する英文読解力を養う科目である。

＜履修上の注意＞

- (1) 必修科目は自動登録されるので科目コード登録で登録する必要はない。
- (2) 心理学実験実習1、心理学調査実習1、心理学文献講読1・2はクラス分けが行われる。確定したクラスは履修登録状況画面で確認すること。なお、新2年次生の心理学実験実習1、心理学調査実習1のクラスは、履修前年度中に現代心理学部掲示板に発表するので、各自確認すること。
- (3) 本学科以外の学生は、必修科目を履修できない。

**1. 2（2018年度以降入学者）
必修科目**

卒業するまでにすべて履修しなければならない。現代心理学入門は学部の理念と学問領域の広がりを理解する科目、キャリアと心理学は心理学と社会のつながりに関する理解を深める科目、心理学概論、心理学統計法、心理学実験実習1（心理学実験）、心理学調査実習1は心理学の基本的な知識と技法を学ぶ科目、心理学文献講読は心理学に関する英文読解力を養う科目である。

＜履修上の注意＞

- (1) 必修科目は自動登録されるので科目コード登録で登録する必要はない。
- (2) 心理学実験実習1（心理学実験）、心理学調査実習1、心理学文献講読1・2はクラス分けが行われる。確定したクラスは履修登録状況画面で確認すること。なお、新2年次生の心理学実験実習1（心理学実験）、心理学調査実習1のクラスは、履修前年度中に現代心理学部掲示板に発表するので、各自確認すること。
- (3) 本学科以外の学生は、必修科目を履修できない。

**2. 選択科目
学部統合科目**

1年次秋学期以降履修できる心理学科と映像身体学科の共通科目で、卒業までに4単位（2科目）以上履修して単位を修得しなければならない。

学科選択科目A
(演習)

少人数クラスのゼミナールで3年次から履修する。1, 2年次の基礎的な学習を踏まえて, さらに深く探究したい専門領域のゼミを1つ選択し, 文献講読, 実験, 観察, 調査, 面接による小研究, 発表, 討論を通じて専門的な考え方を学ぶ。卒業要件単位は4単位である。

<履修上の注意>

- (1) 研究領域別にA~Kのゼミが用意されているので, 基本的には3年次にその中の1つを選び, 春学期と秋学期に履修すること(たとえばゼミAなら春学期「心理学演習A1」, 秋学期「心理学演習A2」)。卒業要件単位は「1」2単位, 「2」2単位の合計4単位である。
- (2) 「2」は「1」と同一アルファベットの科目を履修しなければならない。また, 「1」の単位を修得済みでないと「2」を履修することはできない(先修規定による)。
- (3) 「1」は4月期科目コード登録で履修登録をすること。
- (4) 「2」は単位修得済みの「1」と同一アルファベットの科目を大学が登録(自動登録)する。たとえば, 「心理学演習A1」の単位を修得した場合は, 「心理学演習A2」が自動登録される。
- (5) 今年度の「2」の自動登録を取り消したい場合は, 指定の期日(9月7日(金)16:00まで)までに新座キャンパス教務事務センターに申し出ること。
- (6) 一度単位を修得した科目を再度履修すること(重複履修)はできない。
- (7) ゼミで探求できるテーマや学習できる研究技法については, 2年次の秋学期末にガイダンスおよび個別相談が行われるので, 必ず参加して履修登録の際の参考にすること。
- (8) 本学科以外の学生は学科選択科目A(演習)を履修できない。

学科選択科目B
(講義)

心理学の主要な領域における重要なテーマについての講義科目である。研究の裾野を拡げて, 人間や動物の「こころ」を総合的な視野から見るができるようにするために, どれか特定の領域に偏ることなく, 多領域にわたって履修することが重要である。

これらの科目は1年次秋学期から履修でき, 卒業要件単位は10単位(5科目)(卒業研究選択者は12単位(6科目))である。

学科選択科目C
(研究法)

心理学の研究法に関する講義であり, 基礎から応用までの調査・研究・分析技法を学ぶことができる。

研究法1~4のうち最低2科目(4単位)を2年次以降卒業までに履修して単位を修得しなければならない。

学科選択科目D
(特別講義)

学科選択科目Bでカバーしていない心理学領域や, より高度な内容を講義するとともに, 海外体験プログラムも行う。

心理学特講1~3では, 最先端の研究を行う研究者を任期を限って招請する講義科目で, 今日の急速な研究の進展によって生まれた新しい心理学領域や学際的領域, 心理学近接諸科学領域を積極的に取り上げる。また心理学特講4では, 海外における心理学の歴史や発展など, 国際的な視点から心理学の展開を学ぶ機会を提供する。

2年次から履修でき, 卒業要件単位は16単位(8科目)(卒業研究選択者は22単位(11科目))である。

学科選択科目E
(卒業論文・
卒業研究)

- (1) 卒業論文と卒業論文指導演習は、在学7学期・8学期に履修できる。
- ① 「卒業論文指導演習1」は、学科で定める「卒業論文テーマおよび指導教員届」を希望する指導教員に事前に提出し、了解を得た上で登録すること。
- ※「心理学演習」を履修した教員と異なる指導教員に履修登録を希望する場合は、必ず「心理学演習」を履修した教員と事前に十分相談のうえ、希望する指導教員の了解を得てから、科目コード登録すること。
- ※希望する指導教員が研究休暇等の理由で、科目コード登録することができない場合、希望する指導教員が指示する他の教員の科目コードに登録すること。なおこの場合、「卒業論文テーマおよび題目届」(原本)を希望する指導教員に提出し、あわせて、そのコピーを科目コード登録する教員にも提出すること。
- ② 「卒業論文指導演習2」を履修するためには、「卒業論文指導演習1」の単位を修得していなければならない(先修規定による)。「卒業論文指導演習1」の合格者は「卒業論文指導演習2」の登録を取り消すことはできない。
- ③ 卒業論文を未提出あるいは提出しても不合格となった場合は、「卒業論文指導演習2」の単位は修得できない。
- ④ 卒業論文指導演習が不合格となった場合または休学等で正規の学期に履修できなかった場合「卒業論文指導演習1・2」は学期を変えて履修できることがある。この場合、「卒業論文」は7月に提出することになる。学期を変えて履修を希望する場合は、指導教員に相談の上、新座キャンパス教務事務センターまで申し出ること。
- 申出期限：[春学期に履修を希望する場合] 前年度中に申し出を行うこと。
[秋学期に履修を希望する場合] 9月7日(金)16:00まで
- ⑤ 卒業論文については「Ⅲ-2 履修規定(履修についての注意事項) 2 卒業論文, 卒業制作, 卒業研究について」を参照すること。
- (2) 卒業研究については、6. 卒業論文・卒業研究の選択についてを参照すること。

3. 自由選択科目

英語講読・演習科目, 社会調査士資格関連科目, 短期海外留学プログラム, 情報処理, 心理学実験実習2, 心理学調査実習2, 公認心理師受験要件科目である。

- (1) 英語講読・演習系科目(グローバル教養副専攻科目)
- 1年次から4年次まで体系的に、英語の講読や演習を通じて、深く心理学を学ぶことができる。
- 「心理学原書講読(入門)」「英語文献講読演習(初級～上級)」では、心理学における英語による専門書や論文などを講読し、英文読解能力を身につける。入門から上級まで、扱う内容が段階分けされており、個人のレベルに合わせて学ぶことができる。
- 「英語表現演習(初級～上級)」「英語ディベート(発展)」では、英語による心理学レポート・論文の書き方を学び、さらに、海外での学会発表や討論の模擬体験として、英語によるプレゼンテーションや議論の仕方を学び、心理学英語を書く力、話す力、聞く力を身につける。初級から発展まで、扱う内容が段階分けされており、個人のレベルに合わせて学ぶことができる。

<履修上の注意>

- ① 各科目15名を定員として「抽選登録」による人数制限を行う。
- ② 最大8科目(16単位)まで履修することができる。
- (2) 社会調査士資格関連科目
- 社会調査士資格関連科目である。社会調査士資格取得および履修規定については社会調査士の頁を参照すること。

(3) 短期海外留学プログラム

1ヶ月程度の短期海外留学プログラムを通じて、英語における全般的な力と異文化交流経験を育む。履修にあたっては、必ず事前説明会に参加すること。

(4) 情報処理

パソコンおよび表計算ソフトを用いたデータの整理と分析に関する方法を学ぶ。定員45名として「抽選登録」による人数制限を行う。

(5) 心理学実験実習2・心理学調査実習2

必修科目の心理学実験実習1 [2018年度以降入学者は心理学実験実習1 (心理学実験)]・心理学調査実習1に引き続き、3時限連続、同一曜日時限で開講する。開講時期は春学期2または秋学期2の後半4週となり、春学期集中または秋学期集中講義扱いとなる。授業日程についてはシラバスを確認すること。

(6) 公認心理師受験要件科目

公認心理師の受験資格のために必要な科目であり、公認心理師になる上で必要な知識を習得する科目である。

<履修上の注意>

2年次においては必修科目の心理学実験実習1 [2018年度以降入学者は心理学実験実習1 (心理学実験)] を履修した学生のみ心理学実験実習2を、心理学調査実習1を履修した学生のみ心理学調査実習2を履修することができる。

登録は科目コード登録となる。履修登録の際、履修資格のない学生が誤って登録した場合でも、エラーは表示されないので注意すること。また授業日程と重複している期間に別の科目を登録した場合でも、エラーは表示されないので注意すること。

誤って登録した場合には、履修登録期間後に取消となるが、他の科目を登録できない場合もあるので、履修登録の際には十分注意すること。

4. 自由科目

学生の自発的な学習計画にしたがって自分独自の学習を進めるために設定されている科目区分である。以下の科目群から、各学生が関心に応じて選択する。

- (1) 心理学科専門教育科目の選択科目 (超過履修分)
- (2) 全学共通科目 (総合教育科目超過履修分, 言語自由科目)
- (3) 映像身体学科科目
- (4) 他学部科目
- (5) 5大学間単位互換制度による科目

5. その他履修上の注意

(1) 重複履修

重複履修とは、同一科目を2度以上履修することをいう。心理学科必修科目、選択科目、自由科目はすべて重複履修できない。

(2) 超過履修

超過履修とは、同一科目群の科目を規定以上に履修することをいう。選択科目区分で超過して修得した単位は自由科目の卒業要件単位数に算入される。

6. 卒業論文・卒業研究の選択について

(1) 卒業論文および卒業研究の目的と位置づけ

現代心理学部心理学科を卒業するためには、4年次（在学7学期以降）において、「卒業論文（「卒業指導演習1・2」と「卒業論文」の合計12単位）、「卒業研究」（「卒業研究指導演習」と「卒業研究」の合計6単位）のどちらかを選択し、履修・単位修得しなければならない。

「卒業研究」は、2年次秋学期以降～4年次春学期の間に、連続して9か月（270日）以上海外の大学に留学する学生のうち、在学留学する者のみが履修できるものとする。

ただし、「卒業研究」の履修にあたっては、必修科目「現代心理学入門」「心理学概説1・2 [2018年度以降入学者は心理学概論1・2]」「心理学実験実習1 [2018年度以降入学者は心理学実験実習1 (心理学実験)]」「心理学調査実習1」「心理学文献講読1・2」「心理学演習1」を含む82単位以上を修得していなければならない。なお、語学留学やワーキングホリデーについては、「卒業研究」への履修登録は認めない。

(2) 卒業研究の選択とその手続き（図1参照）

- ・1年次生において、卒業研究選択希望者は、秋学期に実施する「卒業研究型のガイダンス」に必ず参加する。（2年次生の希望者も参加可能）
- ・卒業研究の選択の申し出については、1年次秋学期末（1年次の1月下旬ごろ）には、アカデミックアドバイザー教員との面談をおこない、留学の計画、卒業研究に必要な留学先での資料の収集、帰国後の履修計画などについて十分に相談を行う。
- ・アカデミックアドバイザー教員との面談後は、届出用紙と留学の受け入れを申請した書類（留学先入学許可書のコピーなど）を教務事務センターに提出する。届出用紙には、卒業研究指導を希望する教員名を記入する。
- ・心理学会議（2月～3月上旬）にて、卒業研究選択の許可について審査を行い、指導教員を決定する。
- ・2年次春学期には、学生に卒業研究選択の許可および指導教員について通達する。
- ・留学中は、必要に応じて、メールを用いて指導教員に連絡・相談を行う。
- ・留学後は、卒業研究指導演習（2単位）を修得し、「卒業研究」（4単位）を履修することになる。
- ・卒業研究選択者が、やむを得ない理由により、留学期間途中で帰国した場合や留学期間が270日に満たない場合は、申し出により、4年次に「卒業論文指導演習1」「卒業論文指導演習2」を履修し、「卒業論文」を選択する。
- ・口頭試問は、指導教員および教務委員などが立ち合い、卒業研究に関する発表および諮問を行う。

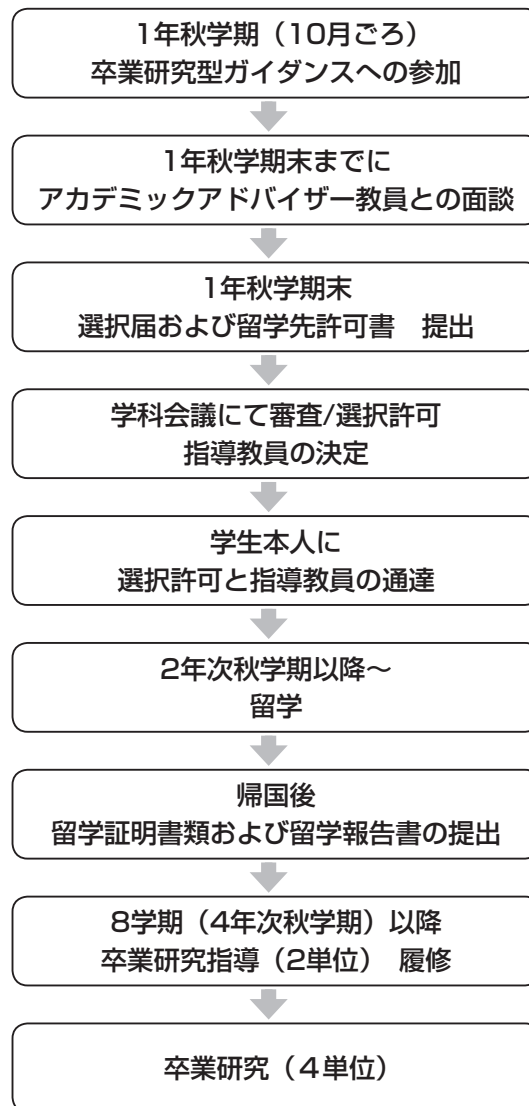


図1：卒業研究の選択とその手続き

(3) 卒業研究手続きの概要

① 履修登録

- ・「卒業研究指導演習」「卒業研究」は、4年次秋学期に履修登録を認める。登録方法は自動登録とする。
- ・卒業研究指導演習は、学科で定める「卒業研究テーマおよび指導教員届」を希望する指導教員に提出すること。
- ・卒業研究を未提出あるいは提出しても不合格となった場合は、「卒業研究指導演習」の単位は修得できない。
- ・卒業研究指導演習が不合格となった場合または休学等で正規の学期に履修できなかった場合は「卒業研究指導演習」は学期を変えて履修できることがある。この場合、「卒業研究」は7月に提出することになる。学期を変えて履修を希望する場合は、指導教員に相談の上、指定の期日までに新座教務事務センターまで申し出ること。

② ガイダンスと手続き

(留学前)

卒業研究の選択を希望する者は、原則として、1年次の秋学期に、「卒業研究型のガイダンス」を行うので、必ず出席すること（2年次生の希望者においても出席可能とする）。

1年次秋学期末までに届出用紙と留学先許可書（コピー）を新座教務事務センターに提出する。

届出用紙には、卒業研究指導を希望する教員名を記入する。

(留学後)

留学後は、留学先の在籍証明書および成績表を新座教務事務センターに提出する。また留学に関する報告書を指導教員に提出する。

卒業研究の執筆については、卒業研究指導演習の初回に、各指導教員が個別に説明を行う。

③ 卒業研究の提出

・提出期日・提出場所

卒業論文と同様とする。

・提出物と提出部数

卒業研究	研究レポート	2部 ※原則として、くるみ製本。仮製本も認めるがホチキス止めは不可。
	抄録	1部（教育研究支援室に提出）

④ 口頭試問

卒業研究提出後（1月下旬～2月上旬）に、口頭試問を行う。春学期に卒業研究を提出した者は7月下旬に口頭試問を行う。

1 国家資格「公認心理師」受験資格取得について

1. 資格の趣旨

「公認心理師」とは、心の健康に関する専門家として、心理に関する支援や観察、分析に関する業務を、保健医療、福祉、教育、犯罪、産業等の分野において行う国家資格である。資格についての詳細な情報は、厚生労働省のホームページ (<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116049.html>) を参照すること。

2. 資格取得の流れ

大学在学期間中に省令で定められた科目を修めた後、大学院修士課程において在学期間中に省令に定められた科目を修める、あるいは国が認定した実習機関において省令で定められた期間（原則3年）実務経験等を行うことで、国家試験の受験資格が認められる。国家試験に合格することで、資格を得る。大学および大学院では、在学期間中に定められた科目を修めなければならない。卒業等で在学期間を終えた後、本学あるいは他大学の科目を修めても、定められた科目を修めたとは見なされない。

3.1 大学在学期間中における受験資格取得の方法
【2017年度以前入学者】

【2017年度以前入学者】

受験資格を取得するためには、省令で定められた科目の単位を全て修得することが必須である。なお、法令が施行された2017年9月15日以前に大学に入学した者は、経過措置対象となる。経過措置では、次の表に示すとおり、各科目カテゴリーから一定数以上の科目の単位を修得することで、受験資格が認められる。なお、2017年度以前の開講科目と2018年度以降の開講科目では、科目名称が異なる場合があるので注意すること。

- ・Ⅰカテゴリーから3科目以上、Ⅱカテゴリーから4科目以上、Ⅲカテゴリーから2科目以上、Ⅳカテゴリーから2科目以上、Ⅴカテゴリーから1科目以上の単位修得が必要である。
- ・各カテゴリー内の各要件科目について、1科目ずつ単位を修得する必要がある。各要件科目に対して2科目以上の単位を修めても、必要な科目数として計上されない（例えば心理学研究法において、心理学研究法1と2の2科目の単位を修得しても、1科目として数える）。
- ・中黒で結ばれた要件科目においては、対応する開講科目についていずれか一つの単位を修得することで要件を満たす（例えば知覚・認知心理学において、知覚心理学あるいは認知心理学のどちらかの単位を修得すれば、1科目として数える）。
- ・ある要件科目に該当すると見なした開講科目は、別の科目に重複して該当すると見なすことは出来ない。
- ・Ⅲカテゴリーの心理演習は、臨床心理学領域を専門とする教員が担当する心理学演習科目に限る（心理学演習A, B, D, I, J, K）。
- ・Ⅳカテゴリーに含まれる健康・医療心理学は、Ⅴカテゴリーに該当すると見なすことが出来る。その場合、Ⅳカテゴリーについては、健康・医療心理学を除いた要件科目から2科目以上を履修しなければならない。
- ・公認心理師要件科目として他大学開講科目あるいはf-Campus開講科目の受講をする場合、あらかじめアカデミックアドバイザー教員に要件科目に該当するかどうか確認すること。

カテゴリー	要件科目	開講科目		必要履修科目数
		2017年度以前開講	2018年度以降開講	
I	心理学概論	心理学概説1 心理学概説2	心理学概説1 心理学概説2	3科目以上
	臨床心理学概論	臨床心理学	臨床心理学概論	
	心理学研究法	心理学研究法1 心理学研究法2 心理学研究法3	心理学研究法1 心理学研究法2 心理学研究法3	
	心理学統計法	統計法1 統計法2	統計法1 統計法2	
	心理学実験	心理学実験実習1	心理学実験実習1	
II	知覚・認知心理学	知覚心理学 認知心理学	知覚心理学 (知覚・認知心理学) 認知心理学 (知覚・認知心理学)	4科目以上
	学習・言語心理学	学習心理学 言語心理学 実験的行動分析 比較心理学	学習心理学 (学習・言語心理学) 言語心理学 (学習・言語心理学) 実験的行動分析 比較心理学 (比較認知心理学)	
	感情・人格心理学	人格心理学	感情・人格心理学	
	神経・生理心理学	神経心理学 生理心理学 認知神経科学の基礎 (2016年度以前開講)	神経心理学 (神経・生理心理学) 生理心理学 (神経・生理心理学)	
	社会・集団・家族心理学	社会心理学 心理学特講3 (2016年度以前開講)	社会心理学 (社会・集団・家族心理学) 家族心理学 (社会・集団・家族心理学) (2019以降開講予定)	
	発達心理学	発達心理学	発達心理学	
	障害者・障害児心理学	—	障害者・障害児心理学	
III	心理的アセスメント	心理検査実習 心理面接実習 心理学研究法4	心理学研究法4 (心理的アセスメント) 心理検査実習 (2019年度廃止予定) 心理面接実習 (2019年度廃止予定)	2科目以上
	心理学的支援法	心理療法	心理学的支援法	
	心理演習	心理学演習 (A, B, D, I, J, K)	心理学演習 (A, B, D, I, J, K)	
	心理実習	—	— (2018年度以降入学者対象科目)	
IV	健康・医療心理学	—	健康・医療心理学	2科目以上
	福祉心理学	—	福祉心理学	
	教育・学校心理学	教育心理学 学校心理学	教育心理学 (教育・学校心理学) 学校心理学 (教育・学校心理学)	
	司法・犯罪心理学	犯罪心理学	司法・犯罪心理学	
	産業・組織心理学	産業心理学	産業・組織心理学	
V	人体の構造と機能及び疾病	—	人体の構造と機能及び疾病	1科目以上
	精神疾患とその治療	精神医学	精神疾患とその治療	

3.2 大学在学期間
中における受
験資格取得の
方法
【2018年度
以降入学者】

【2018年度以降入学者】

受験資格を取得するためには、省令で定められた科目の単位を全て修得することが必須である。なお、省令で心理演習・心理実習の教員に対する学生数が定められていることから、2年次秋学期終了時点で、一部の公認心理師要件科目（公認心理師の職責、心理演習、心理実習）の履修対象者を選抜する予定である。選抜人数は45名程度を予定しており、2年次秋学期終了時点における公認心理師受験要件科目に含まれる学科必修科目と一部の講義科目の成績、および志願理由書等をもとに選抜を行う予定である。詳細については、1年次履修ガイダンスおよび2年次公認心理師ガイダンスにて告知する。

・各要件科目について、1科目ずつ単位を修得する必要がある。各要件科目に対して2科目以上の単位

を修めても、必要な科目数として計上されない（例えば心理学研究法において、心理学研究法1と2の2科目の単位を修得しても、1科目として数える）。

- ・中黒で結ばれた要件科目においては、対応する開講科目についていずれか一つの単位を修得することで要件を満たす（例えば知覚・認知心理学において、知覚心理学（知覚・認知心理学）あるいは認知心理学（知覚・認知心理学）のどちらかの単位を修得すれば、1科目として数える）。

要件科目	展開科目	備考
公認心理師の職責	公認心理師の職責	2018年度以降入学者で、履修許可を受けた者が3年次に履修、2020年度以降開講
心理学概論	心理学概論1 心理学概論2	
臨床心理学概論	臨床心理学概論	
心理学研究法	心理学研究法1 心理学研究法2 心理学研究法3	
心理学統計法	心理学統計法1 心理学統計法2	
心理学実験	心理学実験実習1（心理学実験）	
知覚・認知心理学	知覚心理学（知覚・認知心理学） 認知心理学（知覚・認知心理学）	
学習・言語心理学	学習心理学（学習・言語心理学） 言語心理学（学習・言語心理学）	
感情・人格心理学	感情・人格心理学	
神経・生理心理学	神経心理学（神経・生理心理学） 生理心理学（神経・生理心理学）	
社会・集団・家族心理学	社会心理学（社会・集団・家族心理学） 家族心理学（社会・集団・家族心理学）	家族心理学（社会・集団・家族心理学）は2019年度以降開講予定
発達心理学	発達心理学	
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	
心理的アセスメント	心理学研究法4（心理的アセスメント）	
心理学的支援法	心理学的支援法	
健康・医療心理学	健康・医療心理学	
福祉心理学	福祉心理学	
教育・学校心理学	教育心理学（教育・学校心理学） 学校心理学（教育・学校心理学）	
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	
産業・組織心理学	産業・組織心理学	
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	
関係行政論	関係行政論	
心理演習	心理演習	2018年度以降入学者で、履修許可を受けた者が、3年次に履修、2020年度以降開講
心理実習（80時間以上）	心理実習	2018年度以降入学者で、履修許可を受けた者が4年次に履修、2021年度以降開講

1 「社会調査士」資格取得について

1. 資格の趣旨

「社会調査士」は、世論や市場動向・社会事象等をとらえる調査能力をもつ人に対して「一般社団法人 社会調査協会」が認定する資格である。社会の実態を把握するための調査について専門的な知識と実施の技能があることを証明するもので、卒業後の進路において調査や分析、企画職・マーケティング職などに就く上で有利になることが期待されている。国内の多くの大学、さまざまな学部や学科において導入されているが、本学科においてもこの資格の対応科目が設置されている。

資格は大学卒業時に資格対応科目の単位をすべて修得していれば申請できるが、それまでに一定の単位を修得することで「キャンディデイト」資格を在学中に申請することもでき、就職活動に際してアピールすることが可能である。資格についての詳細は、社会調査協会のホームページ (<http://jasr.or.jp/>) を参照すること。

2. 資格取得の申請方法・場所

資格取得のための試験等は特になく、大学卒業までに資格対応科目のすべてを修得すること、学部を卒業することで資格取得が可能になる。資格申請にあたっては、指定科目の単位修得を証明する書類と、審査・認定手数料を一定の期間内にそろえることが必要である。在学中の「キャンディデイト」資格についても同様であるが、卒業時に「キャンディデイト」資格から正規の社会調査士資格への変更申請をする必要がある。

資格取得の申請や相談については、新座キャンパスメディアセンター窓口または池袋キャンパスの社会情報教育研究センター (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi>) で受け付けている。なお、立教大学の学生は「キャンディデイト」資格の申請手数料に関して、一般の大学に比べて減額を受けられる（今年度の申請期間や具体的な手順などについての詳細は、正式決定後に学部掲示板に掲示する）。

3. 資格取得に必要な科目

資格取得のためには資格に対応した科目の単位をすべて修得することが必須である。本学部では社会調査協会が設定したカテゴリ-A～Gに対応する開講科目がある。ただし、EとFについてはどちらか一方の単位を修得すればよい。

社会調査士カリキュラム	対応科目	単位数	開講学期	配当年次	備 考
【A】 社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査概論	2	春	1～4	現代心理学部心理学科 自由選択科目
	社会調査入門（全学共通科目）	2	春	1～4	全学共通科目 オンデマンド授業・抽選登録科目
【B】 調査設計と実施方法に関する科目	社会調査設計法	2	秋	1～4	現代心理学部心理学科 自由選択科目
	社会調査の技法（全学共通科目）	2	秋	1～4	全学共通科目 オンデマンド授業・抽選登録科目
【C】 基本的な資料とデータの分析に関する科目	統計法1・心理学統計法1	2	春	1	現代心理学部心理学科 必修科目
	データ分析入門（全学共通科目）	2	春	1～4	全学共通科目 オンデマンド授業・抽選登録科目
【D】 社会調査に必要な統計学に関する科目	統計法2・心理学統計法2	2	秋	1	現代心理学部心理学科 必修科目
	データの科学（全学共通科目）	2	秋	1～4	全学共通科目 オンデマンド授業・抽選登録科目
【E】 多変量解析の方法に関する科目	心理学研究法2	2	秋	2～4	現代心理学部心理学科 学科選択科目
	多変量解析入門（全学共通科目）	2	秋	1～4	全学共通科目 オンデマンド授業・抽選登録科目
【F】 質的な調査と分析の方法に関する科目	心理学研究法3	2	秋	2～4	現代心理学部心理学科 学科選択科目
【G】 社会調査を実際に経験し学習する科目	社会調査演習	4	通年	3・4	現代心理学部心理学科 自由選択科目

- ・ カテゴリーA～Eは現代心理学部開講科目、全学共通科目のいずれでも良い。
- ・ 全学共通科目のカテゴリーA～Eはオンデマンド授業（抽選登録科目）なので、履修を希望する場合は「V 履修登録 **3 履修届出方法** 3. 抽選登録」を参照の上、抽選登録期間に申し込むこと。
- ・ カテゴリーGは通年科目であるため、春・秋学期ともに必ず履修すること。もし半期のみ履修した場合は、次年度に再度通年の履修が必要となる。

資格取得自体は、学部指定の科目の代わりに、同カテゴリーに指定されている他学部科目・全学共通科目を、学部で修得した他のカテゴリーの科目と組み合わせて申請することも可能だが、卒業に必要な学部の単位と混同しないように注意が必要である。

心理学科 2016年度以降入学者卒業要件単位表（卒業論文選択）

必修/選択/自由	科目区分	卒業要件単位数		
必修科目	言語教育科目 言語A 【全学共通】	6	30	124以上
	言語教育科目 言語B 【全学共通】	4		
	専門必修科目（導入科目（学びの技法）含む）	20		
選択科目	学びの精神 【全学共通】	4	68	
	多彩な学び 【全学共通】	14		
	スポーツ実習 【全学共通】			
	学部統合科目	4		
	学科選択科目A（演習）	4		
	学科選択科目B（講義）	10		
	学科選択科目C（研究法）	4		
	学科選択科目D（特別講義）	16		
	学科選択科目E（卒業論文）	12		
自由科目	自由選択科目	制限なし	26以上	
	選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位			
	映像身体学科科目			
	他学部科目			
	学びの精神 【全学共通】 多彩な学び 【全学共通】 スポーツ実習 【全学共通】			の卒業要件単位数を超えて修得した単位
	言語自由科目 【全学共通】			
	5大学間単位互換制度による他大学科目（f-Campus）			

◆全学共通科目の履修については、全学共通科目の項を参照すること。

◆「随意科目」は、卒業要件単位に含めることはできない。

心理学科 2016年度以降入学者卒業要件単位表（卒業研究選択）

必修/選択/自由	科目区分	卒業要件単位数		
必修科目	言語教育科目 言語A 【全学共通】	6	30	124以上
	言語教育科目 言語B 【全学共通】	4		
	専門必修科目（導入科目（学びの技法）含む）	20		
選択科目	学びの精神 【全学共通】	4	70	
	多彩な学び 【全学共通】	14		
	スポーツ実習 【全学共通】			
	学部統合科目	4		
	学科選択科目A（演習）	4		
	学科選択科目B（講義）	12		
	学科選択科目C（研究法）	4		
	学科選択科目D（特別講義）	22		
	学科選択科目E（卒業研究）	6		
自由科目	自由選択科目	制限なし	24以上	
	選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位			
	映像身体学科科目			
	他学部科目			
	学びの精神 【全学共通】 多彩な学び 【全学共通】 スポーツ実習 【全学共通】			の卒業要件単位数を超えて修得した単位
	言語自由科目 【全学共通】			
	5大学間単位互換制度による他大学科目（f-Campus）			

◆全学共通科目の履修については、全学共通科目の項を参照すること。

◆「随意科目」は、卒業要件単位に含めることはできない。

現代心理学部心理学科 学科課程 (2018年度入学者)

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
必修科目							
自動登録	現代心理学入門	佐藤・堀・大石・松永・嘉瀬・都築・中村・山本・日高(優)・香山・松田	2	春	1	CPX1110	学びの技法
自動登録	キャリアと心理学	内藤 淳	2	春	1	PSY1110	キャリア支援科目
自動登録	心理学概論1	都築, 森井, 大石, 川越	2	春	1	PSY1110	必修科目
自動登録	心理学概論2	林, 小口, 塚本, 松永	2	秋	1	PSY1110	必修科目
自動登録	心理学統計法1(A)	嘉瀬 貴 祥	2	春	1	PSY1110	クラス指定 1科目必修
自動登録	心理学統計法1(B)	大久保 暢 俊	2	春	1	PSY1110	
自動登録	心理学統計法2(A)	大久保 暢 俊	2	秋	1	PSY2110	クラス指定 1科目必修
自動登録	心理学統計法2(B)	嘉瀬 貴 祥	2	秋	1	PSY2110	
	心理学実験実習1(心理学実験)(A)		2		2	PSY2910	クラス指定 1科目必修 2019年度以降開講
	心理学実験実習1(心理学実験)(B)		2		2	PSY2910	
	心理学調査実習1(A)		2		2	PSY2910	クラス指定 1科目必修
	心理学調査実習1(B)		2		2	PSY2910	
	心理学文献講読1(A)		2		2	PSY2910	クラス指定 1科目必修
	心理学文献講読1(B)		2		2	PSY2910	
	心理学文献講読1(C)		2		2	PSY2910	
	心理学文献講読1(D)		2		2	PSY2910	
	心理学文献講読2(A)		2		2	PSY2910	クラス指定 1科目必修
	心理学文献講読2(B)		2		2	PSY2910	
	心理学文献講読2(C)		2		2	PSY2910	
	心理学文献講読2(D)		2		2	PSY2910	
選択科目							
学部統合科目							
HT201	学部統合科目1(総合融合)	松 永 美 希	2	秋	1・2・3・4	CPX2120	
	学部統合科目2(認知行動)		2		2・3・4	CPX2120	
HT203	学部統合科目3(表現思考)	山 本 尚 樹	2	秋	1・2・3・4	CPX2120	
	学部統合科目4(コラボ)		2		2・3・4	CPX2120	
学科選択科目A							
	心理学演習A1		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習A2		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習B1		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習B2		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習C1		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習C2		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習D1		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習D2		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習E1		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習E2		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習F1		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習F2		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習G1		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習G2		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習H1		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習H2		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習I1		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習I2		2		3・4	PSY3920	

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
	心理学演習 J 1		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習 J 2		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習 K 1		2		3・4	PSY3920	
	心理学演習 K 2		2		3・4	PSY3920	
学科選択科目B							
	知覚心理学 (知覚・認知心理学)		2		1・2・3・4	PSY2220	1 年次秋学期から履修できる
HM318	学習心理学 (学習・言語心理学)	堀 耕 治	2	秋	1・2・3・4	PSY2220	
HM317	認知心理学 (知覚・認知心理学)	本 間 元 康	2	秋 1	1・2・3・4	PSY2220	
HM320	生理心理学 (神経・生理心理学)	池 田 一 成	2	秋	1・2・3・4	PSY2220	
HM304	比較心理学	牛 谷 智 一	2	秋	1・2・3・4	PSY2220	
	発達心理学		2		1・2・3・4	PSY2320	
	教育心理学 (教育・学校心理学)		2		1・2・3・4	PSY2320	
HM319	感情・人格心理学	花 嶋 裕 久	2	秋	1・2・3・4	PSY2320	
	社会心理学 (社会・集団・家族心理学)		2		1・2・3・4	PSY2320	
HM323	産業・組織心理学	芳 賀 繁	2	秋	1・2・3・4	PSY2320	
HM315	臨床心理学概論	松 永 美 希	2	秋	1・2・3・4	PSY2420	2019年度以降開講
	家族心理学 (社会・集団・家族心理学)		2		1・2・3・4	PSY2420	
学科選択科目C							
	心理学研究法 1		2		2・3・4	PSY3220	
	心理学研究法 2		2		2・3・4	PSY3220	
	心理学研究法 3		2		2・3・4	PSY3320	
	心理学研究法 4 (心理的アセスメント)		2		2・3・4	PSY3420	
学科選択科目D							
	実験的行動分析		2		2・3・4	PSY2220	
	応用行動分析		2		2・3・4	PSY2320	
	言語心理学 (学習・言語心理学)		2		2・3・4	PSY2320	
	文化心理学		2		2・3・4	PSY2321	
	神経心理学 (神経・生理心理学)		2		2・3・4	PSY2220	
	動物生態学		2		2・3・4	PSY2220	
	児童心理学		2		2・3・4	PSY2320	
	青年心理学		2		2・3・4	PSY2320	
	学校心理学 (教育・学校心理学)		2		2・3・4	PSY2320	
	精神疾患とその治療		2		2・3・4	PSY2520	
	社会病理学		2		2・3・4	PSY2520	
	心理学的支援法		2		2・3・4	PSY2420	
	司法・犯罪心理学		2		2・3・4	PSY2420	
	リスク心理学		2		2・3・4	PSY2320	
	消費者心理学		2		2・3・4	PSY2320	
	コミュニティ心理学		2		2・3・4	PSY2420	
	心理学特講 1 (基礎)		2		2・3・4	PSY2220	
	心理学特講 2 (応・観光心理)		2		2・3・4	PSY2320	
	心理学特講 3 (臨・トラウマの心理学)		2		2・3・4	PSY2420	
	心理学特講 4 (海外)		2		2・3・4	PSY2921	春学期集中
	障害者・障害児心理学		2		2・3・4	PSY2420	
	健康・医療心理学		2		2・3・4	PSY2420	
	福祉心理学		2		2・3・4	PSY2420	
	人体の構造と機能及び疾病		2		2・3・4	PSY2520	
学科選択科目E							
	卒業論文指導演習 1		2		4	PSY4910	
	卒業論文指導演習 2		2		4	PSY4910	
	卒業論文		8		4	PSY4910	
	卒業研究指導演習		2		4	PSY4910	
	卒業研究		4		4	PSY4910	

科目 コード	科目名	担当者	単位数	開講 学期	配当年次	科目 ナンバリング	備考
自由科目							
自由選択科目							
	心理学実験実習2 (A)		1		2・3・4	PSY2930	春学期集中
	心理学実験実習2 (B)		1		2・3・4	PSY2930	秋学期集中
	心理学調査実習2 (A)		1		2・3・4	PSY2930	秋学期集中
	心理学調査実習2 (B)		1		2・3・4	PSY2930	春学期集中
HM730	心理学原書講読 (入門)	佐々木 恭志郎	2	秋	1・2・3・4	PSY2933	
	英語文献講読演習 (初級)		2		2・3・4	PSY2933	
	英語文献講読演習 (中級)		2		2・3・4	PSY2933	
	英語文献講読演習 (上級)		2		3・4	PSY3933	
	英語表現演習 (初級)		2		2・3・4	PSY2933	
	英語表現演習 (中級)		2		2・3・4	PSY2933	
	英語表現演習 (上級)		2		3・4	PSY3933	
	英語ディベート (発展)		2		2・3・4	PSY3933	
	短期海外留学プログラム		2		2・3・4	CPX2931	春学期集中
HM721	社会調査概論	山口 誠一	2	春	1・2・3・4	PSY2930	社会調査士関連科目
HM722	社会調査設計法	濱本 真一	2	秋	1・2・3・4	PSY2930	社会調査士関連科目
	社会調査演習 (A)		4		3・4	PSY2930	人数制限科目 (定員30名)・クラス指定 社会調査士関連科目
	社会調査演習 (B)		4		3・4	PSY2930	人数制限科目 (定員30名)・クラス指定 社会調査士関連科目
抽選登録	情報処理	古賀 ひろみ	2	秋	1・2・3・4	PSY9930	人数制限科目 (定員45名)
	関係行政論		2		2・3・4	PSY2930	
	公認心理師の職責		2		3	PSY3430	2020年度以降開講
	心理演習		2		3	PSY3430	2020年度以降開講
	心理実習		1		4	PSY3430	2021年度以降開講

現代心理学部心理学科 学科課程 (2016・2017年度入学者)

科目 コード	科目名	担当者	単位数	開講 学期	配当年次	科目 ナンバリング	備 考
必修科目							
自動登録	現代心理学入門	佐藤・堀・大石・ 松永・嘉瀬・都築・ 中村・山本・ 日高(優)・香山・ 松田	2	春	1	CPX1110	学びの技法
自動登録	キャリアと心理学	内 藤 淳	2	春	1	PSY1110	キャリア支援科目
自動登録	心理学概説 1	都築, 森井, 大石, 川越	2	春	1	PSY1110	必修科目
自動登録	心理学概説 2	林, 小口, 塚本, 松永	2	秋	1	PSY1110	必修科目
自動登録	統計法 1 (A)	嘉 瀬 貴 祥	2	春	1	PSY1110	クラス指定 1科目必修
自動登録	統計法 1 (B)	大久保 暢 俊	2	春	1	PSY1110	
自動登録	統計法 2 (A)	大久保 暢 俊	2	秋	1	PSY2110	クラス指定 1科目必修
自動登録	統計法 2 (B)	嘉 瀬 貴 祥	2	秋	1	PSY2110	
自動登録	心理学実験実習 1 (A)	堀, 川越, 森井, 齋藤, 藤巻	2	春	2	PSY2910	クラス指定 1科目必修
自動登録	心理学実験実習 1 (B)	浅野, 川越, 森井, 齋藤, 小原	2	秋	2	PSY2910	
自動登録	心理学調査実習 1 (A)	塚本, 嘉瀬, 茂垣, 雨宮	2	秋	2	PSY2910	クラス指定 1科目必修
自動登録	心理学調査実習 1 (B)	小口, 嘉瀬, 都築, 雨宮	2	春	2	PSY2910	
自動登録	心理学文献講読 1 (A)	川 越, 大 石	2	春1	2	PSY2910	クラス指定 1科目必修
自動登録	心理学文献講読 1 (B)	橋 本, 川 越	2	春1	2	PSY2910	
自動登録	心理学文献講読 1 (C)	塚 本, 橋 本	2	春1	2	PSY2910	
自動登録	心理学文献講読 1 (D)	大 石, 塚 本	2	春1	2	PSY2910	
自動登録	心理学文献講読 2 (A)	塚 本, 橋 本	2	春2	2	PSY2910	クラス指定 1科目必修
自動登録	心理学文献講読 2 (B)	大 石, 塚 本	2	春2	2	PSY2910	
自動登録	心理学文献講読 2 (C)	川 越, 大 石	2	春2	2	PSY2910	
自動登録	心理学文献講読 2 (D)	橋 本, 川 越	2	春2	2	PSY2910	
選択科目							
学部統合科目							
HT201	学部統合科目 1 (総合融合)	松 永 美 希	2	秋	1・2・3・4	CPX2120	
HT202	学部統合科目 2 (認知行動)	浅 野 倫 子	2	春	2・3・4	CPX2120	
HT203	学部統合科目 3 (表現思考)	山 本 尚 樹	2	秋	1・2・3・4	CPX2120	
HT204	学部統合科目 4 (コラボ)	加 藤 千 恵	2	春	2・3・4	CPX2120	
学科選択科目 A							
HM221	心理学演習 A 1	塚 本 伸 一	2	春	3・4	PSY3920	
自動登録	心理学演習 A 2	塚 本 伸 一	2	秋	3・4	PSY3920	
HM223	心理学演習 B 1	松 永 美 希	2	春	3・4	PSY3920	
自動登録	心理学演習 B 2	松 永 美 希	2	秋	3・4	PSY3920	
HM225	心理学演習 C 1	浅 野 倫 子	2	春	3・4	PSY3920	
自動登録	心理学演習 C 2	浅 野 倫 子	2	秋	3・4	PSY3920	
HM227	心理学演習 D 1	藪 垣 将	2	春	3・4	PSY3920	
自動登録	心理学演習 D 2	山 田 哲 子	2	秋	3・4	PSY3920	
HM229	心理学演習 E 1	堀 耕 治	2	春	3・4	PSY3920	
自動登録	心理学演習 E 2	堀 耕 治	2	秋	3・4	PSY3920	
HM231	心理学演習 F 1	都 築 誉 史	2	春	3・4	PSY3920	
自動登録	心理学演習 F 2	菊 地 学	2	秋	3・4	PSY3920	
HM233	心理学演習 G 1	小 口 孝 司	2	春	3・4	PSY3920	
自動登録	心理学演習 G 2	小 口 孝 司	2	秋	3・4	PSY3920	
HM235	心理学演習 H 1	井 出 正 和	2	春	3・4	PSY3920	

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考	
自動登録	心理学演習 H 2	井出正和	2	秋	3・4	PSY3920		
HM237	心理学演習 I 1	大石幸二	2	春	3・4	PSY3920		
自動登録	心理学演習 I 2	大石幸二	2	秋	3・4	PSY3920		
HM239	心理学演習 J 1	安田みどり	2	春	3・4	PSY3920		
自動登録	心理学演習 J 2	安田みどり	2	秋	3・4	PSY3920		
HM241	心理学演習 K 1	林もも子	2	春	3・4	PSY3920		
自動登録	心理学演習 K 2	林もも子	2	秋	3・4	PSY3920		
学科選択科目 B								
HM316	知覚心理学 (知覚・認知心理学)		2	休講	1・2・3・4	PSY2220	1 年次秋学期から履修できる	
HM318	学習心理学 (学習・言語心理学)	堀 耕 治	2	秋	1・2・3・4	PSY2220		
HM317	認知心理学 (知覚・認知心理学)	本 間 元 康	2	秋 1	1・2・3・4	PSY2220		
HM320	生理心理学 (神経・生理心理学)	池 田 一 成	2	秋	1・2・3・4	PSY2220		
HM304	比較心理学	牛 谷 智 一	2	秋	1・2・3・4	PSY2220		
HM305	発達心理学	塚 本 伸 一	2	春	1・2・3・4	PSY2320		
HM322	教育心理学 (教育・学校心理学)	三 好 昭 子	2	春	1・2・3・4	PSY2320		
HM319	感情・人格心理学	花 嶋 裕 久	2	秋	1・2・3・4	PSY2320		
HM321	社会心理学 (社会・集団・家族心理学)	小 口 孝 司	2	春 1	1・2・3・4	PSY2320		
HM323	産業・組織心理学	芳 賀 繁	2	秋	1・2・3・4	PSY2320		
HM315	臨床心理学概論	松 永 美 希	2	秋	1・2・3・4	PSY2420		
	家族心理学 (社会・集団・家族心理学)		2		1・2・3・4	PSY2420		2018年度新設・2019年度以降開講
	知覚心理学							2018年度以降「知覚心理学 (知覚・認知心理学)」に科目名変更
	学習心理学						2018年度以降「学習心理学 (学習・言語心理学)」に科目名変更	
	認知心理学						2018年度以降「認知心理学 (知覚・認知心理学)」に科目名変更	
	生理心理学						2018年度以降「生理心理学 (神経・生理心理学)」に科目名変更	
	教育心理学						2018年度以降「教育心理学 (教育・学校心理学)」に科目名変更	
	人格心理学						2018年度以降「感情・人格心理学」に科目名変更	
	社会心理学						2018年度以降「社会心理学 (社会・集団・家族心理学)」に科目名変更	
	産業心理学						2018年度以降「産業・組織心理学」に科目名変更	
	臨床心理学						2018年度以降「臨床心理学概論」に科目名変更	
学科選択科目 C								
HM705	心理学研究法 1	川 越 敏 和	2	秋	2・3・4	PSY3220		
HM310	心理学研究法 2	秋 山 隆	2	春	2・3・4	PSY3220		
HM311	心理学研究法 3	大 瀧 玲 子	2	秋	2・3・4	PSY3320		
HM325	心理学研究法 4 (心理的アセスメント)	糸 井 岳 史	2	春	2・3・4	PSY3420		
	心理学研究法 4						2018年度以降「心理学研究法 4 (心理的アセスメント)」に科目名変更	
学科選択科目 D								
HM402	実験的行動分析	井 垣 竹 晴	2	秋	2・3・4	PSY2220		
HT111	応用行動分析	大 石 幸 二	2	春 2	2・3・4	PSY2320		
HM443	言語心理学 (学習・言語心理学)	浅 野 倫 子	2	秋	2・3・4	PSY2320		
HM435	文化心理学	澤 海 崇 文	2	秋	2・3・4	PSY2321		
HM444	神経心理学 (神経・生理心理学)	鈴 木 浩 太	2	春	2・3・4	PSY2220		
HM437	動物生態学	今 野 晃 嗣	2	春	2・3・4	PSY2220		
HM438	児童心理学	榎 澤 令 子	2	秋	2・3・4	PSY2320		
HM421	青年心理学	大 野 久	2	春	2・3・4	PSY2320		
HM449	学校心理学 (教育・学校心理学)	安 田 み どり	2	秋	2・3・4	PSY2320		
HM452	精神疾患とその治療	池 田 健	2	春	2・3・4	PSY2520		
HM440	社会病理学	相 良 翔	2	春	2・3・4	PSY2520		
HM446	心理学的支援法	林 もも子	2	春	2・3・4	PSY2420		
HM450	司法・犯罪心理学	越 智 啓 太	2	春他	2・3・4	PSY2420		
HM441	リスク心理学	申 紅 仙	2	秋	2・3・4	PSY2320		
HM408	消費者心理学	碓 朋 子	2	春	2・3・4	PSY2320		
HM309	コミュニティ心理学	安 田 み どり	2	春	2・3・4	PSY2420		
HM416	心理学特講 1 (基礎)	上 田 彩 子	2	秋 2	2・3・4	PSY2220		

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
HM417	心理学特講2 (応・観光心理)		2	休講	2・3・4	PSY2320	
HM418	心理学特講3 (臨・トラウマの心理学)	菅野 恵	2	春	2・3・4	PSY2420	
HM419	心理学特講4 (海外)		2	休講	2・3・4	PSY2921	
HM445	障害者・障害児心理学	榎本 拓哉	2	春	2・3・4	PSY2420	2018年度新設
HM447	健康・医療心理学	佐藤 さやか	2	秋	2・3・4	PSY2420	2018年度新設
HM448	福祉心理学	高田 治	2	秋他	2・3・4	PSY2420	2018年度新設
HM451	人体の構造と機能及び疾病	市倉 加奈子	2	秋	2・3・4	PSY2520	2018年度新設
	言語心理学						2018年度以降「言語心理学(学習・言語心理学)」に科目名変更
	神経心理学						2018年度以降「神経心理学(神経・生理心理学)」に科目名変更
	学校心理学						2018年度以降「学校心理学(教育・学校心理学)」に科目名変更
	精神医学						2018年度以降「精神疾患とその治療」に科目名変更
	心理療法						2018年度以降「心理学的支援法」に科目名変更
	犯罪心理学						2018年度以降「司法・犯罪心理学」に科目名変更
学科選択科目E							
	卒業論文指導演習1		2		4	PSY4910	
	卒業論文指導演習2		2		4	PSY4910	
	卒業論文		8		4	PSY4910	
	卒業研究指導演習		2		4	PSY4910	
	卒業研究		4		4	PSY4910	
自由科目							
自由選択科目							
HM726	心理学実験実習2 (A)	堀, 川越	1	春他	2・3・4	PSY2930	春学期集中
HM727	心理学実験実習2 (B)	浅野, 川越	1	秋他	2・3・4	PSY2930	秋学期集中
HM728	心理学調査実習2 (A)	嘉瀬, 塚本	1	秋他	2・3・4	PSY2930	秋学期集中
HM729	心理学調査実習2 (B)	小口, 嘉瀬	1	春他	2・3・4	PSY2930	春学期集中
HM730	心理学原書講読(入門)	佐々木 恭志郎	2	秋	1・2・3・4	PSY2933	
HM731	英語文献講読演習(初級)	吉原 将大	2	春	2・3・4	PSY2933	
HM732	英語文献講読演習(中級)	未 定	2	秋	2・3・4	PSY2933	
HM733	英語文献講読演習(上級)	板口 典弘	2	春	3・4	PSY3933	
HM734	英語表現演習(初級)	吉原 将大	2	春	2・3・4	PSY2933	
HM735	英語表現演習(中級)	未 定	2	秋	2・3・4	PSY2933	
HM736	英語表現演習(上級)	板口 典弘	2	春	3・4	PSY3933	
HM737	英語ディベート(発展)	未 定	2	秋	2・3・4	PSY3933	
その他	短期海外留学プログラム	江口 正登	2	春他	2・3・4	CPX2931	春学期集中
HM721	社会調査概論	山口 誠一	2	春	1・2・3・4	PSY2930	社会調査士関連科目
HM722	社会調査設計法	濱本 真一	2	秋	1・2・3・4	PSY2930	社会調査士関連科目
その他	社会調査演習(A)	大久保 暢俊	4	通年	3・4	PSY2930	人数制限科目(定員30名)・クラス指定 社会調査士関連科目
その他	社会調査演習(B)	嘉瀬 貴祥	4	通年	3・4	PSY2930	人数制限科目(定員30名)・クラス指定 社会調査士関連科目
抽選登録	心理検査実習	糸井 岳史	2	秋	3・4	PSY3430	人数制限科目(定員30名), 2020年度廃止予定
抽選登録	心理面接実習	中根 千景	2	秋	3・4	PSY3430	人数制限科目(定員30名), 2020年度廃止予定
抽選登録	情報処理	古賀 ひろみ	2	秋	1・2・3・4	PSY9930	人数制限科目(定員45名)
抽選登録	観光心理学	小口 孝司	2	春	2・3・4	PSY2930	2018年度新設 人数制限科目(定員200名)
HM752	関係行政論	梶原 洋生	2	秋	2・3・4	PSY2930	2018年度新設

映像身体学科履修規定

2016年度以降入学者に適用

専門教育科目の特色

本学科では、まず1年次に開講される映像身体学入門1, 2によって映像身体学の学びに必要な基礎概念を理解し、加えて入門演習1, 2によって映像身体学科を構成する専任教員の知識、経験の多様性を知り、基礎文献の読解力を養い、また、映像と身体についての自らの関心を深める。さらに2年次春学期基礎演習, 3, 4年次専門演習を通じて専門的知見を深め、またこれと並行して開講されるさまざまなワークショップ、文献講読演習、講義を通じて、映像身体学の拡がりを学ぶ。

履修にあたっては、「現代心理学部全学生にかかわる事項」もあわせてよく読むこと。

1 卒業要件単位数

- (1) 2016年度以降入学者の卒業に必要な卒業要件単位数は124単位である。
- (2) 科目群（履修区分）ごとに必要単位数が定められており、その内訳は次のとおりである。

〈卒業要件単位数〉

履修区分	卒業要件単位数
必修科目	24単位
選択科目	80単位
自由科目	20単位以上
合計	124単位以上

2 科目群（履修区分）の概要と履修上の注意

	導入期	形成期	完成期	
必修科目	学びの技法（現代心理学入門）			
	映像身体学入門1・2			
	入門演習1・2			
	言語教育科目A（英語）			
	言語教育科目B（初習言語）			
選択科目	学びの精神			
	学部統合科目1～4	学科選択科目A 基礎演習	学科選択科目B 専門演習	
	学科選択科目C 専門展開科目（映像の思想、身体学文献講読、戯曲シナリオ演習、映像系・身体系ワークショップなど）		学科選択科目D 卒業論文・卒業制作	
	多彩な学び			
	スポーツ実習			
	自由科目	自由選択科目、現代心理学部他学科科目、他学部科目、言語自由科目、f-Campus科目 など		

1. 必修科目

1年次に履修し、卒業するまでにすべて履修し終えなければならない。現代心理学入門は学部の理念と学問領域の広がりを理解する科目、映像身体学入門は映像身体学の学びに不可欠な基礎的概念を修得し、入門演習は映像と身体をめぐる思考と表現について基本的な考え方や基礎的な知識を修得し、各自の問題意識を高める科目である。

<履修上の注意>

- (1) 必修科目は自動登録されるので科目コード登録で登録する必要はない。
- (2) 入門演習1・2はクラス分けを行った上で自動登録される。クラス分けの結果は、履修登録状況画面で確認すること。
- (3) 本学科以外の学生は、必修科目を履修できない。

2. 選択科目

学部統合科目

1年次秋学期以降履修できる心理学科と映像身体学科の共通科目で、卒業までに4単位（2科目）以上履修して修得しなければならない。

学科選択科目A (基礎演習)

2年次（2年次以上、在学1～3学期）春学期に履修する。3・4年次の専門演習の前提となる発想、知識、技能を修得する。専門演習の準備課程であるだけでなく、複数クラスを履修することで専門演習のクラスを選択するための判断の材料を得ることができる。

<履修上の注意>

- (1) 各科目30名を目安として人数制限を行う。選考基準等は各科目のシラバスを参照すること。
- (2) 所定の希望届を指定された日時に提出すること。履修が許可された場合は大学が登録するので、科目コード登録で登録する必要はない。

提出期間	提出場所
1月17日（木）～23日（水） 9：00～17：00	新座キャンパス教務事務センター レポートボックス

- (3) 休学により履修前年度秋学期に選考が受けられなかった者で履修を希望する場合は、前年度中に選考書類を提出すること。詳細は休学願提出時に新座キャンパス教務事務センター窓口で確認すること。

*不明点がある場合は必ず事前に新座キャンパス教務事務センターに問い合わせること。

- (4) 複数クラスを履修することができる。
- (5) 本学科以外の学生は、学科選択科目A（基礎演習）を履修できない。

学科選択科目B (専門演習)

3・4年次（在学5学期以降）の春学期・秋学期に履修する。1・2年次までの基礎的・準備的な学習を踏まえ、さらに深く探究したい専門領域のクラスを1つ選択し、それぞれのクラス独自のプログラムで2年間継続的かつ系統的に学ぶ。専門演習は3・4年次生合同で行う。なお原則的に3年次のクラスが自動的に4年次に持ちあがる。

<履修上の注意>

- (1) 選択科目であり、2年次秋学期（履修前年度秋学期）に募集・選考を行う。

提出期間	提出場所
11月26日（月）～11月30日（金） 9：00～17：00	新座キャンパス教務事務センター レポートボックス

- (2) 3年次の春学期・秋学期、4年次の春学期・秋学期、履修が認められた同じクラスにそのつど自動登録される（各科目2単位、2年間で8単位）。クラスの途中変更は認められない。

- (3) 申し出により、履修辞退を認めることがある。履修辞退を希望する場合は、指導教員に相談の上、期日までに新座キャンパス教務事務センターまで申し出ること。ただし、再登録は認められない。

申出期限：春学期 前年度中に申し出を行うこと。（履修継続者のみ）

秋学期 9月7日（金）16：00まで

- (4) 休学等により履修前年度秋学期に選考が受けられなかった者は、期日までに選考書類を提出すること。

*不明点がある場合は必ず事前に新座キャンパス教務事務センターに問い合わせること。

- (5) 選考通過者で履修初年度春学期を休学した場合は、選考結果が無効になるため、選考を受け直すこと。詳細は新座キャンパス教務事務センターに問い合わせること。
- (6) 本学科以外の学生は、学科選択科目B（専門演習）を履修できない。

学科選択科目C (専門展開科目)

映像と身体の理論と実践に関連する多様なテーマを、講義、演習、ワークショップというそれぞれのテーマに即した形式の授業で学ぶ。入門的な内容の科目は1年次秋学期から、それ以外の科目は2年次から履修できる。

<履修上の注意>

- (1) 選択科目であり、人数制限を行う科目（科目コードが「抽選登録」と記載されている科目）がある。人数制限科目の定員は学科課程の備考欄に記載している。
- (2) 人数制限を行う科目の履修を希望する場合は、「抽選登録」の申し込みをすること。履修が許可された場合は、大学が履修登録をするので科目コード登録で届け出る必要はない。
- (3) 「生態心理学」は「生態心理学実験」の先修科目であり、「生態心理学実験」を履修するには「生態心理学」を履修済みでなければならない。

学科選択科目D (卒業論文・卒業制作)

専門演習で学習を積み重ねた上で、卒業論文の場合は自分のテーマを設定して調査と分析を行って論文にまとめ、卒業制作の場合は自分で企画構想した作品または指導教員から提案された課題作品を制作する。選択科目であるが積極的に履修することが望まれる。

<履修上の注意>

- (1) 在学7・8学期に履修できる。
- (2) 卒業論文・卒業制作の指導は、所属する専門演習の担当教員が行う。「卒業論文・卒業制作指導演習1・2」を履修するためには、専門演習を4単位分修得していなければならない。
- (3) 「卒業論文・卒業制作指導演習1」の履修を希望する場合は、学科で定める「卒業論文・卒業制作履修希望届」を専門演習の指導教員に提出すること。大学が登録を行う。
- (4) 「卒業論文・卒業制作指導演習2」を履修するためには、「卒業論文・卒業制作指導演習1」の単位を修得していなければならない（先修規定による）。「卒業論文・卒業制作指導演習1」の合格者は「卒業論文・卒業制作指導演習2」の登録を取り消すことはできない。
- (5) 卒業論文を未提出あるいは提出しても不合格となった場合は、「卒業論文・卒業制作指導演習2」の単位は修得できない。
- (6) 卒業論文指導演習が不合格となった場合または休学等で正規の学期に履修できなかった場合「卒業論文指導演習1・2」は学期を変えて履修できることがある。この場合、「卒業論文」は7月に提出することになる。履修を希望する場合は、指導教員に相談の上、新座キャンパス教務事務センターまで申し出ること。

申出期限：[春学期に履修を希望する場合] 前年度中に申し出を行うこと。

[秋学期に履修を希望する場合] 9月7日（金）16:00まで

- (7) 卒業論文・卒業制作については、「Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）」2 卒業論文、卒業制作、卒業研究について」を参照すること。
- (8) 本学科以外の学生は、学科選択科目D（卒業論文・卒業制作）を履修できない。

3. 自由科目

学生の自発的な学習計画にしたがって自分独自の学習を進めるために設定されている科目区分である。以下の科目群から、各学生が関心に応じて選択する。

- (1) 自由選択科目
- (2) 映像身体学科専門教育科目の選択科目（超過履修分）
- (3) 全学共通科目（総合教育科目超過履修分、言語自由科目）
- (4) 心理学科目
- (5) 他学部科目
- (6) 5大学間単位互換制度による科目

自由選択科目
(短期海外留学プログラム)

1ヶ月程度の短期海外留学プログラムを通じて、英語における全般的な力と異文化交流経験を育む。
履修にあたっては必ず事前説明会にすること。

4. その他履修上
の注意

(1) 重複履修

重複履修とは、同一科目を2度以上履修することをいう。3・4年次配当の専門演習に限り重複履修できる。

(2) 超過履修

超過履修とは、同一科目群の科目を規定以上に履修することをいう。選択科目で超過して修得した単位は自由科目の卒業要件単位数に算入される。

映像身体学科 2016年度以降入学者卒業要件単位表

必修/選択/自由	科目区分	卒業要件単位数		
必修科目	言語教育科目 言語A 【全学共通】	6	24	124以上
	言語教育科目 言語B 【全学共通】	4		
	専門必修科目（導入科目（学びの技法）含む）	14		
選択科目	学びの精神 【全学共通】	4	80	
	多彩な学び 【全学共通】	14		
	スポーツ実習 【全学共通】			
	学部統合科目	4		
	学科選択科目A（基礎演習）	58		
	学科選択科目B（専門演習）			
	学科選択科目C（専門展開科目）			
学科選択科目D（卒業論文・卒業制作）				
自由科目	自由選択科目	制限なし	20以上	
	選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位			
	心理学科科目			
	他学部科目			
	学びの精神 【全学共通】 多彩な学び 【全学共通】 スポーツ実習 【全学共通】			の卒業要件単位数を超えて修得した単位
	言語自由科目 【全学共通】			
	5大学間単位互換制度（f-Campus）			

◆全学共通科目の履修については、全学共通科目の項を参照すること。

◆「随意科目」は、卒業要件単位に含めることはできない。

現代心理学部映像身体学科 学科課程

科目コード	学 科 目	担 当 者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備 考
必修科目							
自動登録	現代心理学入門	佐藤・堀・大石・松永・嘉瀬・都築・中村・山本・日高(優)・香山・松田	2	春	1	CPX1110	学びの技法
自動登録	映像身体学入門1	江川, 大山	2	春	1	BEC1310	
自動登録	映像身体学入門2	日高(優), 大山	2	秋	1	BEC1310	
自動登録	入門演習1(A)	加藤 千恵 恵力 香山 尚樹 明優 山本 尚樹 吉誠 田崎 英明 載 日高 尚樹 誠理 大篠 尚樹 誠理 砂連 尾	4	春	1	BEC1310	クラス指定 1科目必修
	入門演習1(B)		4	春	1	BEC1310	
	入門演習1(C)		4	春	1	BEC1310	
	入門演習1(D)		4	春	1	BEC1310	
	入門演習1(E)		4	春	1	BEC1310	
	入門演習1(F)		4	春	1	BEC1310	
自動登録	入門演習2(A)	万田 邦敏 敏隆 松田 正隆 男登之彦 江川 正秀 一彦 江口 村藤 一彦 中佐 藤馬 千秋 相馬 千秋	4	秋	1	BEC1310	クラス指定 1科目必修
	入門演習2(B)		4	秋	1	BEC1310	
	入門演習2(C)		4	秋	1	BEC1310	
	入門演習2(D)		4	秋	1	BEC1310	
	入門演習2(E)		4	秋	1	BEC1310	
	入門演習2(F)		4	秋	1	BEC1310	
選択科目							
学部統合科目							
HT201	学部統合科目1(総合融合)	松永美希	2	秋	1・2・3・4	CPX2120	
HT202	学部統合科目2(認知行動)	浅野倫子	2	春	2・3・4	CPX2120	
HT203	学部統合科目3(表現思考)	山本尚樹	2	秋	1・2・3・4	CPX2120	
HT204	学部統合科目4(コラボ)	加藤千恵	2	春	2・3・4	CPX2120	
学科選択科目A							
その他	基礎演習1	香山リカ	2	春	2	BEC2320	人数制限科目
その他	基礎演習2	中村秀之	2	春	2	BEC2320	人数制限科目
その他	基礎演習3	田崎英明	2	春	2	BEC2320	人数制限科目
その他	基礎演習4	杉本隆久	2	春	2	BEC2320	人数制限科目
その他	基礎演習5	加藤千恵	2	春	2	BEC2320	人数制限科目
その他	基礎演習6	大山載吉	2	春	2	BEC2320	人数制限科目
その他	基礎演習7	砂連尾理	2	春	2	BEC2320	人数制限科目
その他	基礎演習8	松田正隆	2	春	2	BEC2320	人数制限科目
その他	基礎演習9	相馬千秋	2	春	2	BEC2320	人数制限科目
その他	基礎演習10	篠崎誠	2	春1	2	BEC2320	人数制限科目
その他	基礎演習11	万田邦敏	2	春2	2	BEC2320	人数制限科目
その他	基礎演習12	佐藤一彦	2	春	2	BEC2320	人数制限科目
その他	基礎演習13	日高優	2	春	2	BEC2320	人数制限科目
その他	基礎演習14	山本尚樹	2	春	2	BEC2320	人数制限科目
その他	基礎演習15	江口正登	2	春	2	BEC2320	人数制限科目
学科選択科目B							
その他	専門演習A1	香山リカ	2	春	3・4	BEC3320	人数制限科目
自動登録	専門演習A2	香山リカ	2	秋	3・4	BEC3320	人数制限科目
その他	専門演習B1	中村秀之	2	春	3・4	BEC3320	人数制限科目
自動登録	専門演習B2	中村秀之	2	秋	3・4	BEC3320	人数制限科目
その他	専門演習C1	田崎英明	2	春	3・4	BEC3320	人数制限科目
自動登録	専門演習C2	田崎英明	2	秋	3・4	BEC3320	人数制限科目
その他	専門演習D1	江川隆男	2	春	3・4	BEC3320	人数制限科目
自動登録	専門演習D2	江川隆男	2	秋	3・4	BEC3320	人数制限科目
その他	専門演習E1	加藤千恵	2	春	3・4	BEC3320	人数制限科目

科目コード	学 科 目	担 当 者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備 考
自動登録	専門演習E2	高橋 睦美	2	秋	3・4	BEC3320	人数制限科目
その他	専門演習F1	大山 載吉	2	春	3・4	BEC3320	人数制限科目
自動登録	専門演習F2	大山 載吉	2	秋	3・4	BEC3320	人数制限科目
その他	専門演習G1	日高 優	2	春	3・4	BEC3320	人数制限科目
自動登録	専門演習G2	日高 優	2	秋	3・4	BEC3320	人数制限科目
その他	専門演習H1	砂連尾 理	2	春	3・4	BEC3320	人数制限科目
自動登録	専門演習H2	砂連尾 理	2	秋	3・4	BEC3320	人数制限科目
その他	専門演習I1	松田 正隆	2	春	3・4	BEC3320	人数制限科目
自動登録	専門演習I2	松田 正隆	2	秋	3・4	BEC3320	人数制限科目
その他	専門演習J1	篠崎 誠	2	春	3・4	BEC3320	人数制限科目
自動登録	専門演習J2	篠崎 誠	2	秋	3・4	BEC3320	人数制限科目
その他	専門演習K1	万田 邦敏	2	春	3・4	BEC3320	人数制限科目
自動登録	専門演習K2	万田 邦敏	2	秋	3・4	BEC3320	人数制限科目
その他	専門演習L1	佐藤 一彦	2	春	3・4	BEC3320	人数制限科目
自動登録	専門演習L2	佐藤 一彦	2	秋	3・4	BEC3320	人数制限科目
その他	専門演習M1	相馬 千秋	2	春	3・4	BEC3320	人数制限科目
自動登録	専門演習M2	相馬 千秋	2	秋	3・4	BEC3320	人数制限科目
その他	専門演習N1	山本 尚樹	2	春	3・4	BEC3320	人数制限科目
自動登録	専門演習N2	山本 尚樹	2	秋	3・4	BEC3320	人数制限科目
その他	専門演習O1	江口 正登	2	春	3・4	BEC3320	人数制限科目
自動登録	専門演習O2	江口 正登	2	秋	3・4	BEC3320	人数制限科目
学科選択科目C							
HT104	他者の現象学	稲垣 諭	2	春	2・3・4	BEC2220	
HT105	アフォーダンス	青山 慶	2	春	2・3・4	BEC2220	
HT114	養生論の思想	加藤 千恵	2	春	2・3・4	BEC2220	
HT116	オートポイエーシス	稲垣 諭	2	春	2・3・4	BEC2220	
HT120	フィルム・スタディーズの基礎	中村 秀之	2	春	2・3・4	BEC2120	
HN703	生命システム論	稲垣 諭	2	秋	1・2・3・4	BEC2220	
HN704	現代思想概説	田崎 英明	2	秋	1・2・3・4	BEC2320	
HN131	身体社会論	田崎 英明	2	秋	1・2・3・4	BEC2220	
HN132	映像社会論	中村 秀之	2	秋	1・2・3・4	BEC2120	
HN133	生態心理学	奥野 真之	2	秋	①・②・③・4	BEC2320	「生態心理学実験」の先修科目
HN134	身体表現史	相馬 千秋	2	秋	①・②・③・4	BEC2220	
HN135	映像表現史	篠崎 誠	2	秋2	1・2・3・4	BEC2120	
HN137	生態心理学実験	青山 慶	2	春	2・3・4	BEC2320	HN133を修得済みでないとは履修できない
抽選登録	身体系ワークショップ1 (演劇)	相馬 千秋	2	秋	2・3・4	BEC2220	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	身体系ワークショップ2 (演劇)	羽鳥 嘉郎	2	秋	2・3・4	BEC2220	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	身体系ワークショップ3 (ダンス)	砂連尾 理	2	秋	2・3・4	BEC2220	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	身体系ワークショップ4 (ダンス)		2	休講	2・3・4	BEC2220	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	身体系ワークショップ5 (太極拳)	佐藤 公子	2	春	2・3・4	BEC2220	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	身体系ワークショップ6 (武術)	廖 赤陽	2	秋	2・3・4	BEC2220	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	身体系ワークショップ7 (気功)	廖 赤陽	2	春	2・3・4	BEC2220	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像系ワークショップ1 (映画)	篠崎 誠	2	秋1	2・3・4	BEC2120	人数制限科目 (定員16名)
抽選登録	映像系ワークショップ2 (映画)	万田 邦敏	2	秋2	2・3・4	BEC2120	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像系ワークショップ3 (映画)	西山 洋市	2	春	2・3・4	BEC2120	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像系ワークショップ4 (映像)	佐藤 一彦	2	秋	2・3・4	BEC2120	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像系ワークショップ5 (映像)	山田 達也	2	春	2・3・4	BEC2120	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像系ワークショップ6 (写真)	笹岡 啓子	2	春	2・3・4	BEC2120	人数制限科目 (定員20名)
抽選登録	映像系ワークショップ7 (広告)	細金 正隆	2	春他	2・3・4	BEC2120	人数制限科目 (定員40名) 春学期集中
抽選登録	超域系ワークショップ1	シャルル	2	春	2・3・4	BEC2320	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	戯曲シナリオ演習1	松田 正隆	2	秋	2・3・4	BEC2220	人数制限科目 (定員20名)
抽選登録	戯曲シナリオ演習2	羽鳥 嘉郎	2	春	2・3・4	BEC2220	人数制限科目 (定員35名)

科目コード	学 科 目	担 当 者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備 考
抽選登録	身体学文献講読 1	杉 本 隆 久	2	秋	2・3・4	BEC2220	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	身体学文献講読 2		2	休講	2・3・4	BEC2220	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	身体学文献講読 3	田 崎 英 明	2	秋	2・3・4	BEC2220	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像シナリオ演習 1	井 川 耕一郎	2	秋	2・3・4	BEC2120	人数制限科目 (定員40名)
抽選登録	映像シナリオ演習 2	井 川 耕一郎	2	春	2・3・4	BEC2120	人数制限科目 (定員40名)
抽選登録	映像シナリオ演習 3	吉 田 泰 子	2	秋	2・3・4	BEC2120	人数制限科目 (定員40名)
抽選登録	映像学文献講読 1	黒 木 秀 房	2	秋	2・3・4	BEC2120	人数制限科目 (定員60名)
抽選登録	映像学文献講読 2	日 高 優	2	春	2・3・4	BEC2120	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像学文献講読 3	篠 儀 直 子	2	秋	2・3・4	BEC2120	人数制限科目 (定員35名)
HN434	身体思想	杉 本 隆 久	2	秋	1・2・3・4	BEC2220	
HN403	現代演劇論 1	江 口 正 登	2	秋	2・3・4	BEC2220	
HN404	現代演劇論 2	横 堀 応 彦	2	春	2・3・4	BEC2220	
HN435	比較舞踊論 1	越 智 雄 磨	2	秋	2・3・4	BEC2220	
HN436	比較舞踊論 2	越 智 雄 磨	2	春	2・3・4	BEC2220	
HN437	身体人類学	竹 田 恵 子	2	秋	2・3・4	BEC2220	
HN438	芸術人類学	江 澤 健一郎	2	春	2・3・4	BEC2220	
HN439	医学身体論	香 山 リカ	2	秋	2・3・4	BEC2220	
HN440	映像の思想	大 山 載 吉	2	秋	1・2・3・4	BEC2120	
HN447	アメリカ映画論	木 下 耕 介	2	秋	1・2・3・4	BEC2120	
HN448	ヨーロッパ映画論	赤 坂 太 輔	2	春	2・3・4	BEC2120	
HN449	日本映画論	河 野 真理江	2	秋	2・3・4	BEC2120	
HN450	アジア映画論	佐 藤 賢	2	春	2・3・4	BEC2120	
HN451	ドキュメンタリー映画論	大 川 景 子	2	春	2・3・4	BEC2120	
HN452	写真映像論	日 高 優	2	秋	1・2・3・4	BEC2120	
抽選登録	映像技術論 1	川 口 陽 一	2	秋	2・3・4	BEC2120	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像技術論 2	大 川 景 子	2	春	3・4	BEC2120	人数制限科目 (定員35名)
HN441	ファッションの思想	高 平 未 來	2	秋	2・3・4	BEC2220	
HN442	広告論	千 田 利 史	2	春	2・3・4	BEC2320	
HN453	次世代メディア論	佐 藤 一 彦	2	秋	2・3・4	BEC2320	
HN424	映像人類学	村 尾 静 二	2	春	2・3・4	BEC2120	
HN425	ジェンダー文化論	田 崎 英 明	2	春	2・3・4	BEC2220	
HN426	ポストコロナル論	崔 真 碩	2	春他	2・3・4	BEC2320	春学期集中
HN454	音の思想 1	村 山 和 之	2	春	2・3・4	BEC2320	
HN455	音の思想 2	恩 地 元 子	2	秋	1・2・3・4	BEC2320	
HN446	芸術の思想	矢 野 静 明	2	秋	1・2・3・4	BEC2320	
HN429	言語芸術論	江 澤 健一郎	2	秋	2・3・4	BEC2320	
HN430	視覚論	山 本 尚 樹	2	秋	1・2・3・4	BEC2320	
HN431	認知科学	稲 垣 諭	2	秋	1・2・3・4	BEC2320	
HN432	アートの心理学	山 本 尚 樹	2	春	2・3・4	BEC2320	
HN513	映像身体学特講 1	万 田 邦 敏	2	秋 1	2・3・4	BEC2320	
HN502	映像身体学特講 2	香 山 リカ	2	春	2・3・4	BEC2320	
HN503	映像身体学特講 3	石 山 雄 太	2	春	2・3・4	BEC2320	
HN504	映像身体学特講 4	小 平 雅 尋	2	秋	2・3・4	BEC2320	
HN505	映像身体学特講 5	矢 野 静 明	2	春	2・3・4	BEC2320	
HN514	映像身体学特講 6	森 瑞 枝	2	春	2・3・4	BEC2320	
HN507	映像身体学特講 7	山 本 尚 樹	2	秋	2・3・4	BEC2320	
HN515	映像身体学特講 8	赤 坂 太 輔	2	春	2・3・4	BEC2320	
抽選登録	映像技術入門 A	山 田 達 也	2	春	1	BEC1120	人数制限科目 (定員60名)
抽選登録	映像技術入門 B	山 田 達 也	2	秋	1	BEC1120	同一内容, 1科目のみ履修可
抽選登録	映像技術中級 1	山 田 達 也	2	春	②・③・4	BEC2120	人数制限科目 (定員40名)
抽選登録	映像技術中級 2	山 田 達 也	2	秋	②・③・4	BEC2120	人数制限科目 (定員40名)
抽選登録	舞台技術演習	牛川・杉山・吉本	2	春他	2・3・4	BEC2220	人数制限科目 (定員30名) 春学期集中
その他	都市の記憶と表象文化	江 口 正 登	2	春他	2・3・4	BEC2931	春学期集中

科目 コード	学 科 目	担 当 者	単位数	開講 学期	配当年次	科目 ナンバリング	備 考
学科選択科目D							
	卒業論文・卒業制作指導演習 1		2		4	BEC4320	
	卒業論文・卒業制作指導演習 2		2		4	BEC4320	
	卒業論文・卒業制作		8		4	BEC4320	
自由科目							
自由選択科目							
その他	短期海外留学プログラム	江 口 正 登	2	春他	2・3・4	CPX2931	春学期集中

○付きの数字は推奨年次を表す。

現代心理学研究科

にかかわる事項

博士課程前期課程

心理学専攻

臨床心理学専攻

映像身体学専攻

博士課程後期課程

心理学専攻

臨床心理学専攻

映像身体学専攻

現代心理学研究科の理念・目的

現代心理学研究科心理学専攻、臨床心理学専攻、映像身体学専攻は、心、身体、映像に関する諸学を捉え直し、各領域の成果をそれぞれに深化させながら、ひとつの新たな人間学、すなわち〈現代心理学〉を創造しようとするものである。我々は、心身を連続する一体の働きとして考え、映像を心身の本質的機能である〈知覚〉の問題のなかに捉え込もうとする。このことで、心理学、身体論、映像論の三つの探求領域は、互いに内的な連関を獲得して、現代心理学の形成へと動き出すことになる。本研究科では、実験・実証科学と臨床実践、哲学的考察と制作・表現行為とが、それぞれの特質をいささかも失うことなく支え合い、ついには創造的融合を果たすことが目指されている。

各専攻は、以下を教育研究上の目的としている。

心理学専攻（博士課程前期課程・後期課程）：今日の心理学は研究対象においても、方法論を含む理論的枠組においても、高度に細分化・専門化されてきている。しかしながら、社会から解決が求められる様々な心理学的問題は、諸分野の成果を結集して初めて可能になるものも多く、幅広い学際的視野の必要性、人間を全体として包括的に捉える視座の重要性が指摘されている。博士課程前期課程では、知覚、認知、学習行動分析などの心理学の基礎領域から社会、産業、発達、人格などの応用領域にいたる広範な領域の研究・教育を展開しており、これによって、総合的、体系的な専門知識を持ち、科学的実証のための厳格な態度と技術を身につけて多角的な視点から研究を遂行できる研究者や高度専門職業人の育成を目指している。博士課程後期課程では、博士課程前期課程における専門教育の成果をふまえ、高度な先端研究に対応できる優れた研究能力と深い学識を有し、応用心理学分野においては、これに加えて現場の実務者と連携して実践的な問題解決がはかれる能力を備えた研究者、心理学研究を牽引し次代の研究者を育てる力量を持った指導者の養成を目的としている。

臨床心理学専攻（博士課程前期課程・後期課程）：組織・制度・技術といった社会を支えるシステムが急激に複雑・多様化する現代にあって、幅広い視野から心身の健康を促進し、心理的支援を推進していくことは臨床心理学に課せられた重要な課題となっている。博士課程前期課程は、あくまでも科学的実証的な研究方法をとりながらも、精神分析、コミュニティ・アプローチ、応用行動分析、認知行動療法、精神医学といった多様な実践理論と方法論に関する深い学識を持ち、社会からの多様な要請に迅速かつ柔軟に 대응する高度の専門性を備えた臨床心理士等の実践者、研究者の養成を目的としている。教育課程は臨床心理士養成第1種指定大学院（（公財）日本臨床心理士資格認定協会）として、「理論—方法—実践」を体系的に修得できる教育環境を整えることにより、臨床心理学における科学的態度と実践的視座を相互循環的に統合できる基礎的能力の育成に主眼が置かれている。博士課程後期課程では、博士課程前期課程における教育成果を基礎として、複雑多様な人間の心の問題や社会病理に対して、そのような現象を生み出した社会、時代への深い洞察力和そのメカニズムを科学的に究明する確かな分析力を備えるとともに、心身の健康の維持・促進に向けて、実践的有効性のある新たな理論と方法論を構築し、心理的諸問題の解決に多角的・総合的視角から能動的に取り組み、援助できる研究者、教育者、実践者の養成を目的としている。

映像身体学専攻（博士課程前期課程・後期課程）：人間にとって身体とは何かという問いが、様々な学問や芸術の探求において、ますます重要度を増している。一方、十九世紀中葉の写真の発明から今日のデジタル時代に至るまでの機械映像の驚異的な進展は、人間の知覚、認知、感情形成に深く関わる新たな心理学的諸事象を生み出している。映像身体学は、人間存在における身体性の意味を理論的かつ実践的に追究しながら、機械映像と人間身体の関係を解明し、同時に、両者の新たな関係を創造しようとする新しい人間学である。博士課程前期課程では、映像身体学理論を追究する基盤研究系科目、高度な表現技法を習得する制作・表現系科目、社会的実現能力を養成するプロデュース系科目という三つの科目群による教育・研究を展開し、これによって、映像身体学に関する固有の知見と、そうした知見を社会に還元できる高度な技能を持った専門的職業人の養成

を目的としている。博士課程後期課程では、博士課程前期課程における専門教育の成果をふまえ、高度の先端研究に対応する優れた能力と深い学識を持つ研究者を養成すること、また映像身体学に関連する創作、プロデュースにおいて、実践的思考を備えた研究者、映像身体学研究を牽引し次世代の研究者を育てる力量を持つ指導者の養成を目的としている。

現代心理学研究科委員長 江川 隆男

教育研究上の目的

「現代心理学研究科は、現代心理学部における一般的ならびに専門的教養の上に、心理学、臨床心理学、映像身体学を研究し、その深奥を究め、かつ、キリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与することを目的とする。」

以下は、この目的を前提とした、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針である。

学位授与方針

<博士課程前期課程>

博士課程前期課程の教育目標を下記の通り定め、本課程に2年（4学期）以上在学し、所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

1. 心理学専攻においては、心理学の分野において自立した研究者を目指して博士課程後期課程に進学できる能力、あるいは、心理学の知見と方法論を身につけた高度職業人として企業・行政機関などで活躍できる能力を身につける。
2. 臨床心理学専攻においては、臨床心理学の優れた見識と能力を持ち、教育・医療・福祉・産業の領域で活躍できる、臨床心理士・公認心理師をはじめとする高度職業人を育てることを目標とし、あわせて、臨床心理学の分野において自立した研究者となるために博士課程後期課程に進学できる能力も身につけることも目指す。
3. 映像身体学専攻においては、映像や舞台における専門家として、あるいは、企業、行政機関、NGOやNPOなどで高度職業人として活躍できる能力を身につけ、あわせて、自立した研究者、または制作実践者を目指して博士課程後期課程に進学できる能力を身につける。

上記の目標を達成するため、各専攻は以下の学習成果を学生に求める。

1. 心理学専攻においては、基礎心理学および応用心理学の研究法を修得して、各種の研究課題に対してそれらを適切に使えるようになるとともに、心理学各分野における最先端の研究と成果について幅広い知識を獲得していること。そしてこれらの技法と知識を自分の研究に活用できること。
2. 臨床心理学専攻においては、臨床心理学の理論および実践への応用を学習し、心理学的な支援の専門家としての基本的な態度と技法を修得していること。臨床心理学の研究法を習得し、社会に臨床心理学的に意義ある研究を行えること。
3. 映像身体学専攻においては、映像身体学の基礎理論を修得し、さらに映像と身体に関するさまざまな理論的研究と実践的探究を自分の研究に活用できること。

<博士課程後期課程>

博士課程後期課程の教育目標を下記の通り定め、本課程に3年（6学期）以上在学し、博士學位論文作成に関する所定の研究指導を受け、博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。ただし、心理学専攻においては、優れた研究業績を上げ、所定の手続きをして認定を受けた者については本課程に1年（2学期）以上在学すれば足りるものとする。

1. 大学その他の教育・研究機関で教育者・研究者として活躍できる能力を身につける。
2. 心理学、臨床心理学、映像身体学のいずれかの分野の高度な専門性を活かして企業や行政機関の研究所、シンクタンク、NGOやNPOなどで活躍できる能力を身につける。

教育課程編成・実施方針

<博士課程前期課程>

指導教員を定め、修士論文指導演習（4単位）を受け、修士論文を作成する。映像身体学専攻においては、同様の指導のもとに修士論文に相当する修了制作と副論文の完成を目指すこともできる。これに加えて、専攻ごとに定める必修科目及び選択科目を合わせて30単位以上修得し、各自の研究テーマを深める。各専攻の教育内容と教育方法の考え方は以下の通りである。

1. 心理学専攻においては、必修科目として修士論文関連科目のほかに研究法の科目を設け、研究の実際的方法が身につくように指導する。また選択科目では幅広い心理学の領域を学べるよう配慮するとともに、発表と討論の機会を豊富に設ける。
2. 臨床心理学専攻においては、臨床心理士養成のための必修科目、公認心理師養成のための科目として、査定や面接などについての科目、また、学内外での実習の科目を設け、心理学的な支援の基礎が身につくように指導する。また、研究法や統計法などの科目により、研究者としての基礎の学習を促進する。
3. 映像身体学専攻においては、必修科目として「映像身体学概説」、「映像身体学演習」を設けて映像身体学の理論的基礎が身につくように指導する。また、狭い専門分野にとどまらず、幅広い知見を得つつ映像身体学を探究することができるように、選択科目では理論系の演習科目や実践系のワークショップ科目を設けている。

<博士課程後期課程>

指導教員を定め、そのもとで博士論文を作成する。指導教員とは研究領域に関して常に討論を積み重ねる。論文執筆に関して細部にわたる助言を指導教員から受け、博士論文の完成に至る。映像身体学専攻においては、作品制作による実践的研究を付属資料として添付することもできる。

科目ナンバリングについて

立教大学では、2016年度より全学部・研究科で科目ナンバリング制度を導入している。科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付与し分類することで学修の段階や順序等を表し、カリキュラムの体系的性を明示する仕組みである。科目ナンバリングを用いて検索をすることで、学びたい分野を探し体系的に履修するための一つのツールとすることができる。また、成績証明書（2016年度以降入学者のみ対象）には修得科目ごとに科目ナンバリングが記載され、体系的に学習した結果を対外的に証明することが可能である。

1 科目ナンバリング構成について

本学の科目ナンバリングはアルファベット3文字と数字4文字の構成となっている。

- ・アルファベット3桁⇒科目の設置学部学科（専修）・研究科（専攻）を示す。
- ・数字4桁⇒レベル・科目分野分類等を示す。

アルファベット部分	1000番台	100番台	10番台	1番台
A B C	1	2	3	0
↓	↓	↓	↓	↓
学科・専攻等	レベル	分野	学部・研究科自由領域	言語

他研究科科目等のナンバリングについては、当該の履修要項を参照すること。

2 アルファベット・数字部分の説明

- ① 科目の設置学部学科（専修）・研究科（専攻）を示すアルファベット3桁は以下のとおりである。

PSY 心理学専攻 CLP 臨床心理学専攻 BEC 映像身体学専攻

- ② レベル・科目分野分類等を示す数字4桁は以下のとおりとなる。

◆1000番台（レベルコード）

番号	専門科目
5000	大学院博士課程前期課程・修士課程基礎科目
6000	大学院博士課程前期課程・修士課程発展科目・研究指導
7000	大学院博士課程後期課程科目（研究指導を含む）
9000	その他

◆100番台（科目分野）

PSY 心理学専攻		CLP 臨床心理学専攻		BEC 映像身体学専攻	
番号	科目分野	番号	科目分野	番号	科目分野
100	一般心理学	100	臨床心理学	100	映像学
200	基礎心理学	200	一般心理学	200	身体学
300	応用心理学	300	基礎心理学	300	映像身体学
400	臨床心理学	400	応用心理学	900	その他
500	近接諸科学	500	近接諸科学		
900	その他	600	実践力養成		
		900	その他		

◆10番台（履修区分を示す）

番号	履修区分
10	必修科目
20	選択科目
30	自由科目

◆1番台（使用言語を示す）

番号	言語
0	日本語で行う授業
1	英語で行う授業
2	英語以外の外国語で行う授業
3	その他（バイリンガル授業など）

博士課程前期課程

履修規定その他注意事項 全専攻

1 修士学位授与について

1. 修士学位授与の要件	修士学位は、博士課程前期課程に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に対して授与される。
2. 学位名称	修了者に対し立教大学が授与する学位は以下のとおりとする。 心理学専攻「修士（心理学，立教大学）」 臨床心理学専攻「修士（臨床心理学，立教大学）」 映像身体学専攻「修士（映像身体学，立教大学）」

2 履修登録

1. 履修登録について	履修登録とは、本年度履修する科目を所定の期日に届け出る手続きである。登録期間は年2回、4月と9月にあり、履修登録をしていない科目は履修することができない。 履修登録に関して質問のある場合は、事前に新座キャンパス教務事務センターで相談すること。
4月期登録	通年および春学期開講科目について履修登録すること。
9月期登録	秋学期開講科目のみ履修登録すること。 履修登録済みの通年科目の取消は認められない。
履修登録の方法	履修登録の方法、およびその後の手続きについては、現代心理学部の履修登録方法を適用する。
2. 他研究科科目 ・他専攻科目 ・平和コミュニティ研究機構科目	(1) 他研究科科目 <ul style="list-style-type: none"> ① 他研究科科目の履修を希望する者は、予め、各学部掲示板（ただし、池袋キャンパス開講科目については、新座7号館1階脇の移動掲示板）に掲示してある「他研究科学生履修不許可科目」一覧で履修登録の可否を確認しておくこと。また、他研究科科目のシラバスは新座キャンパス教務事務センター窓口に設置してあるシラバスまたは、シラバス・時間割検索システムを参照すること。 ② 科目コード登録で届け出たそれらの科目は、当該研究科からの承認を受け、はじめて正式に履修許可となる。履修の可否については教授会審議後、掲示板で発表する。 <4月期登録> 5月下旬 <9月期登録> 10月下旬 ③ 不許可となった場合、時間割のその部分は「空き時間」となるが、「空き時間」に当該期間の新たな科目を追加登録することはできない。履修登録の際はこの点に留意の上登録すること。 (2) 他専攻科目 他専攻学生履修不許可科目は「他研究科学生履修不許可科目」一覧に記載されている科目と同じである。履修を希望する場合は、履修登録の可否を確認しておくこと。 (3) 平和・コミュニティ研究機構科目 平和・コミュニティ研究機構科目については、 10 平和・コミュニティ研究機構提供科目 を参照すること。
3. 学部科目	現代心理学研究科の学生は学部科目を履修登録しないこと。ただし、教職課程登録者等、学部科目の履修登録が必要な場合を除く。

4. その他

現代心理学部科目以外の他学部科目の履修については「Ⅲ-2履修規定（履修についての注意事項）
3 他学部科目・他学科科目について 1. 他学部科目(3)~(5)」を参照のこと。修得した単位は、修了要件単位に算入されない。

全学共通科目、全学共通カリキュラム科目の履修については、全学共通科目・全学共通カリキュラムの履修要項を参照のこと。

修得した単位は、修了要件単位に算入されない。

3 カリキュラムの一部改定

2018年度のカリキュラム一部改定

心理学専攻

(1) 科目の新設

【選択科目A】 認知・言語心理学特殊研究（半期 2単位）

【選択科目B】 認知・言語心理学特殊演習（半期 2単位）

臨床心理学専攻

(1) 科目の新設

【必修科目】 臨床心理面接特論1（心理支援に関する理論と実践）（半期 2単位）

臨床心理査定演習1（心理的アセスメントに関する理論と実践）（半期 2単位）

心理実践実習2（臨床心理実習1）（半期 1単位）

【選択科目】 産業・労働分野に関する理論と支援の展開（半期 2単位）

心の健康教育に関する理論と実践（半期 2単位）

心理実践実習1（基礎）（半期 1単位）

心理実践実習3（半期 1単位）

心理実践実習4（半期 1単位）

(2) 科目名の変更

【選択科目】 発達心理学特論 → 発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）

社会病理学特論 → 社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）

精神医学特論 → 精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）

心身医学特論 → 心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）

障害児（者）心理学特論 → 障害児・者心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）

コミュニティ・アプローチ特論 → コミュニティ・アプローチ特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）

臨床心理学特殊研究3（心理療法） → 臨床心理学特殊研究3（心理支援に関する理論と実践）

臨床心理学特殊研究5（学校心理臨床） → 臨床心理学特殊研究5（教育分野に関する理論と支援の展開）

2017年度のカリキュラム一部改定

映像身体学専攻

(1) 科目の廃止

廃止科目の単位を修得済みの者は、入学年度の学科課程表にある履修区分の修得単位をして算入される。

【プロデュース系科目】 著作権法

4 入学前単位認定

1. 入学前に他大学院で修得した単位の認定について

大学院学則第15条第2項の規定による「本大学院に入学する前に、他大学院において履修した授業科目について修得した単位を本大学院に入学した後の本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる」制度について、本研究科博士課程前期課程では、心理学専攻のみ実施し、臨床心理学専攻及び映像身体学専攻は実施しない。単位認定を希望する場合は、以下のとおり認定することがある。

(1) 申請時期・方法

現代心理学部の履修規定（単位認定）に準ずる。

Ⅲ-4 履修規定（単位認定）を参照。

(2) 認定対象の範囲

心理学専攻の一定の基準に基づき、選択科目Aと同一の科目を履修したと認められた場合は、その単位を認定する。

(3) 認定の上限単位数

入学前修得単位の認定は10単位を上限とする。

(4) 認定科目名

選択科目A（11科目）の科目名で認定する。

(5) 認定単位数の換算

認定を受けた科目の単位は、修得先の授業時間数を考慮して決定する。

(6) 認定科目の履修区分

認定を受けた科目の履修区分は、選択科目Aとする。

(7) 認定科目の単位の扱い

認定を受けた科目は、認定区分に従って修了要件単位に算入できる。

(8) 認定科目の成績表示

入学前に修得した単位の認定の成績は「認定」とする。

5 試験・成績

(1) 成績の評価は、定期試験（筆記試験・レポート試験）または平常点（テスト・レポート・口頭試問等）により科目担当者がこれを行う。

(2) 当該年度の履修登録をしていない科目については試験を受けることができない。

(3) 成績の評価は次のとおりである。

授業科目の成績は100点満点とし、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

⊖ 単位を修得した科目の評価を取り消すことはできない。

〈成績の評価〉

評 価	成績通知表	成績証明書
100点～90点	S	S
89点～80点	A	A
79点～70点	B	B
69点～60点	C	C
59点～0点 (不合格)	D	表示されない
欠席	欠	表示されない

ただし、「修士論文」は合格の場合、「合」と表記される。

- (4) 合格した科目については所定の単位を与える。
不合格の科目については再試験を行わない。
- (5) 定期試験・成績に関する注意
定期試験・成績に関する事項は、「VI. 試験・成績」を参照すること。なお、成績の発表、成績評価調査の申請の記載については、「特別卒業申請者」は「特別修了申請者」に、「卒業合格発表対象者」は「修了発表対象者」に読み替えて適用する。
- (6) 「現代心理学部専門教育科目試験規則」の準用
特に記載されていない事項については、「現代心理学部専門教育科目試験規則」を準用する。

6 修士論文に関する規定

1. 修士論文関連日程

専攻ごとの修了に向けた年間予定は、およそ以下のとおりである。研究計画を立てる目安にすること。

〈心理学専攻〉

時期	行事項目	履修要項該当頁
〈1年次〉 4月上旬 4月～7月 9月 9月～1月 1月末～2月初旬	研究科ガイダンス、春学期履修登録 【正・副指導教員決定】 秋学期履修登録 「現代心理学特殊演習」履修 【修士論文構想発表会】	p.133「4.研究指導の体制」参照 p.133「4.研究指導の体制」参照
〈2年次〉 4月上旬 5月上旬 9月 9月～1月 1月 1月末～2月初旬 2月下旬	研究科ガイダンス、春学期履修登録 「修士論文題目届」提出 【修士論文中間報告会：実施しない】 秋学期履修登録 「現代心理学特殊演習」履修 修士論文提出 【修士論文口頭試問・発表会】 修了可否審査、修了可否発表	p.133「4.研究指導の体制」参照 p.127「6.修士論文に関する規定 2.」参照 p.133「4.研究指導の体制」参照 p.133「4.研究指導の体制」参照 p.127・128「6.修士論文に関する規定4., 5.」参照 p.129「6.修士論文に関する規定 6.」参照

博士課程前期課程

〈臨床心理学専攻〉

時期	行事項目	履修要項該当頁
〈1年次〉 4月上旬	研究科ガイダンス、春学期履修登録 【正指導教員決定】	p.136 「4.研究指導の体制」 参照
7月中旬	【副指導教員決定】	p.136 「4.研究指導の体制」 参照
9月	秋学期履修登録	p.136 「4.研究指導の体制」 参照
11月	【修士論文構想発表会】	
〈2年次〉 4月上旬	研究科ガイダンス・春学期履修登録	p.136 「4.研究指導の体制」 参照
5月上旬	【修士論文題目届】提出	
5月中旬	【修士論文中間報告会】	p.127 「6.修士論文に関する規定 2.」 参照
9月	秋学期履修登録	p.127 「6.修士論文に関する規定 3.」 参照
1月	修士論文提出	p.136 「4.研究指導の体制」 参照
1月末～2月初旬	【修士論文口頭試問・発表会】	
2月下旬	修了合否審査、修了合否発表	p.127・128 「6.修士論文に関する規定4., 5.」 参照 p.129 「6.修士論文に関する規定 6.」 参照

〈映像身体学専攻〉

時期	行事項目	履修要項該当頁
〈1年次〉 4月上旬	研究科ガイダンス、春学期履修登録 【正指導教員決定】	p.146・147 「4.研究指導の体制」 参照
5月上旬	秋学期履修登録	
9月	【修士論文構想発表会】	
2月下旬		p.146・147 「4.研究指導の体制」 参照
〈2年次〉 4月上旬	研究科ガイダンス・春学期履修登録	
6月下旬	【修士論文中間報告会】	p.127 「6.修士論文に関する規定 2.」 参照
9月	秋学期履修登録	p.146・147 「4.研究指導の体制」 参照
1月	修士論文提出	
1月中旬～下旬	【修士論文口頭試問】	
2月下旬	修了合否審査、修了合否発表	p.127・128 「6.修士論文に関する規定4., 5.」 参照 p.129 「6.修士論文に関する規定 6.」 参照

なお、「修士論文構想発表会」、「修士論文中間報告会」および「修士論文発表会」については、専攻ごとに実施の有無や開催時期などの詳細が異なるため、休学等により出席できない特別の事情があるときは、指導教員及び専攻主任と事前に相談すること。

2. 履修登録

- (1) 「修士論文」は、今年度の4月の時点で1年（2学期）以上在学した学生が履修登録できる。
- (2) 修士論文を提出しようとする者は、4月期に科目コード登録で「修士論文」を他の科目と同様に届け出ること。

3. 修士論文題目届

- (1) 心理学専攻・臨床心理学専攻の「修士論文」の履修登録をした者は、修士論文題目届（論文題目・内容の概要・指導教員の承認印）を指定の期間に各指導教員に提出すること。用紙は、4月の研究科ガイダンスで配付する。

提出期間：5月4日（金）～10日（木）

- (2) 2019年度春学期に修士論文を提出する予定の者は、修士論文題目届を10月1日（月）～5日（金）に各指導教員に提出すること。

4. 論文作成書式

- (1) 本文は、A4判、横書き、1ページあたり1200字（40文字×30行）で印刷すること。
余白の目安は以下のとおりとする。
上側：30mm
下側：25mm
左側：35mm
右側：25mm

- (2) 中表紙は、本文に用いた用紙を使用し、当該年度修士論文、論文題目、指導教員名、研究科、専攻、課程、学生番号および氏名を明記すること。
- (3) 映像身体学専攻では指導教員の承認のもと、立教大学大学院学則第5条2項により、修了制作をもって修士論文に代えることができる。(ただし、2016年度以降入学者は出願時の論文、制作の選択から変更することは認められない。)映像身体学専攻で修了制作を行う場合の提出形態の詳細は別途専攻で指示する。制作物(DVD等)本体にも論文表紙と同じ内容を記入すること。

5. 提出

- (1) 提出論文部数及び提出期限
論文3部および論文概要(別途専攻で定める様式に従うこと)を新座キャンパス教務事務センターに提出すること。ただし心理学専攻・臨床心理学専攻の論文概要は心理学科教育研究支援室に提出すること。
提出期間：2019年1月9日(水)～2019年1月11日(金)17:00まで
また、「特別修了(9月修了)」(「現代心理学研究科にかかわる事項 8 修了に関する事項」を参照のこと)を申請予定の者の提出期間は、2018年7月4日(水)～7月6日(金)17:00までとする。なお、この期間に提出した者は、同一年度内に修士論文を再度提出することはできない。
- (2) 提出形態
提出論文は、製本の上、提出すること。仮製本可。
- (3) 審査手数料の支払
所定の単位を修得後、3年次以上に引き続き在学し、博士課程前期課程に入学後4年以内(休学中の期間を除く)に修士論文を提出する場合、審査手数料として¥15,000を支払うこと。
- (4) 修士論文の表紙作成見本

(表紙)

2018年度 修士論文	
○○○○○○○○○○	← 提出論文の題目
指導教員 ○○○○教授	← 修士論文指導演習1に登録した教員名
(指導教員 △△△△教授)	← <u>研究指導教員が他専攻にいるときは「括弧書き」で「下段に付記」する(いないときは記載しない)</u>
立教大学大学院現代心理学研究科	
○学専攻博士課程前期課程	
17UM003X □□□□□	← 学生番号・氏名を記載

修士論文提出に際しての注意

修士論文は、指定された締切後は受理しないので時間厳守のこと。交通機関等の遅延も予測されるので、提出にあたっては十分余裕をもって臨み、本人が提出できない場合は、信頼できる代理人に依頼する等の措置を講ずること。ただし、締切日当日、不測の事態により、本人または代理人が修士論文の提出に来られない場合は、当日の締め切り時刻以前にその対応について所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を仰ぐこと。不測の事態とは、事件・事故や交通機関等の大幅な遅延などの場合を言う。

* プリンター等、機器の故障は不測の事態には含まないので注意すること。

学校感染症のため出校停止となった学生のレポート・卒業論文・卒業制作・修士論文の提出について

上記に該当した場合は、以下の指示に従うこと。

1. 上記の提出物の提出期間において本人が出校停止中である場合は、代理人を立て、当該の期間内に提出することを原則とする。

代理人による不備は、依頼した本人の責任となる。

2. 1. において代理人を立てることができない場合は、締め切り時刻以前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。

<以下のすべてに該当する場合、後日の提出を認めることがある>

- ① 上記2. に該当する学生であること。
- ② 医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」の提出によって、締切日当日に学校感染症に罹患して出校停止中であった事実が証明できること。
- ③ 「出校可能となった日の翌日（窓口対応可能日）」に提出すること。

6. 審査・試問

論文を提出したものは、主査および副査による審査・試問を受けなければならない。

論文の試問：2019年1月下旬～2月上旬

提出された修士論文（修了制作含む）の審査・試問については、研究業績としての自律性、創造性及び客観性等を総合的に評価するものとする。

なお、「特別修了（9月修了）」申請予定者で、修士論文を上記「5. 提出」で定めた期間に提出した者については、論文の試問を2018年7月下旬に行う。

7. 修士論文審査基準

修士論文の審査は次の基準にもとづいて行う。

〈心理学専攻〉

1. 研究テーマが明確で学術上の意義があること
2. 論文構成が適切で、論旨が論理的に展開されていること
3. 実験または量的／質的調査から得られたデータを用いた実証的研究であること
4. 研究に対して倫理的配慮がなされていること
5. 研究において立教大学研究活動行動規範を遵守していること

〈臨床心理学専攻〉

1. 研究テーマが明確で臨床心理学的かつ独創的であること
2. 研究内容と方法が適切であること
3. 論文構成が適切で、論旨展開が論理的に明晰であること
4. 使用する文献の引用が明確で適切であること
5. 共同研究の場合は、申請者の独立した計画とその実施が明確であること

6. 研究について高い倫理性を有していること
7. 研究において立教大学研究活動行動規範を遵守していること

〈映像身体学専攻〉

1. 研究テーマが明確で専門的かつ独創的であること
2. 研究内容と方法が適切で専門的であること
3. 論文の構成が適切で、論旨展開が論理的に明晰であること
4. 使用する文献の引用が明確で適切であること
5. 研究において立教大学研究活動行動規範を遵守していること

8. 修了制作審査
基準

修了制作の審査は次の基準にもとづいて行う。

1. 制作のテーマやコンセプトが明確で独創的であること
2. 適切な方法論が採用されていること
3. 完成した制作物に高度の専門性が認められること
4. 共同制作の場合、分担箇所が明確であること
5. 制作において立教大学研究活動行動規範を遵守していること

9. 成績

「修士論文」の成績は「合格」または「不合格」とする。

7 オフィスアワー

オフィスアワーは、それぞれの専任教員が、主として担当する授業に関する質問や勉学の相談等に応じることを目的として、授業期間中の毎週決まった時間帯に研究室で待機する制度である。授業内容等に関する質問がある場合には、オフィスアワーの時間帯に担当教員の研究室を訪ね質問することができる。

※兼任講師の担当する授業に関する質問は、授業終了後の時間帯を利用し質問すること。

オフィスアワーの時間帯は履修要項の「教員一覧」を参照すること。

8 修了に関する事項

1. 修了年月日 本学の修了年月日は、当該年度3月31日付とする。
2. 修了可否の発表 修了可否は2月28日（木）に成績参照システムにて発表する。必ず本人が修了の可否を確認すること。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。
 ☒ 電話や電子メールなどでの問い合わせには一切応じない。
3. 特別修了（9月修了）とは 「特別修了（9月修了）」とは以下の6つの条件をすべて満たした学生が、所属研究科が行う修了判定で合格した場合、年度途中の9月19日付で修了することができる制度である。

〈特別修了（9月修了）申請条件〉

1. 所定の受付期間に、所定の書式（特別修了願）によって保証人連署をもって願い出ていること
2. 大学院修士課程または大学院博士課程前期課程であること
3. 申請時において、在学4学期目以降の学生であること^{*1}
 ただし、在学学期数に関しては、経済学研究科・法学研究科・観光学研究科・コミュニティ福祉学研究科大学院特別進学生制度の対象学生、経営学研究科5年間一貫プログラム・IDDプログラム、異文化コミュニケーション研究科TESOL-Jの対象学生またはキリスト教学研究科ウィリアムズコースの対象学生については、在学2学期目以降で足りるものとする
4. 申請時において、所属研究科の修了に必要な要件を満たす見込^{*2}のある学生であること
5. 申請学期において、在学中であること^{*3}
6. 申請時において、当該年次の「学費^{*4}その他の納入金」の全額または分納1を納めていること

この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。特別修了願を提出し特別修了を許可された場合の「学費^{*4}その他の納入金」は、学費^{*4}その他の納入金の2分の1額とする。

- ※1：休学中の期間は、在学年数ならびに在学学期数に含まれない
- ※2：当該年度春学期中に、所属研究科の修了に必要な要件を満たす見込がある学生
- ※3：休学中・停学中でないこと
- ※4：学費とは、授業料（在籍料含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。
- ※5：特別修了を許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が特別修了の申請条件として納入すべき金額に不足する場合は、特別修了願を受理しない。

(1) 特別修了願配付

- 配付期間** 2018年6月1日(金)9:00~7月16日(月)17:00
配付場所 教務窓口（巻頭参照）

(2) 特別修了願受付期間・許可者発表・学位授与式

- 受付期間** 2018年7月2日(月)9:00~7月16日(月)17:00
 *受付期間以外の申請はいっさい受け付けないので注意すること。
- 受付場所** 教務窓口（巻頭参照）
- 許可者発表** 2018年9月5日(水)
 成績参照システムに発表する
 発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。
- 学位授与式** 2018年9月19日(水) 時間については、許可者発表日にあわせて成績参照システムに発表する。

9 学生証・学籍・学費

- | | |
|---|--------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生証 2. 学籍 3. 休学・復学 4. 退学 5. 再入学 6. 学費 | <p>学部の「Ⅷ学生証・学籍・学費」を参照すること。</p> |
|---|--------------------------------|

10 平和・コミュニティ研究機構提供科目

立教大学平和・コミュニティ研究機構（以下、「研究機構」）は、従来の平和研究の視野をより拡大し、安全・公正・人権の原理に立つ持続的コミュニティのあり方を探求しつつ、「平和」の条件を研究するセンターとして2004年3月に設立された。研究機構は、大学院博士課程前期課程にも授業科目を提供し、専門性と広い視野および現実関心を養い、国際関係、人の安全保障、持続的開発、市民社会的協力、移動と多文化共生などのテーマを相互関連的に学ぶ方途を大学院生に提供するものである。

詳細は平和・コミュニティ研究機構のホームページ（<http://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/ipcs/>）を参照のこと。平和・コミュニティ研究機構提供科目は、自専攻で開講されている科目以外は他専攻・他研究科科目の扱いとなる。

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 履修登録方法 2. 修得単位の扱い 3. その他 | <p>履修登録方法は、開講研究科の定める方法によりおこなうこと。</p> <p>所属する研究科各専攻の履修規定による。</p> <p>(1) 本研究機構提供科目は年度により担当者、科目内容が変更になる場合がある。
 (2) 平和・コミュニティ関連の研究に関心を持つ大学院生は、研究機構が別途に行う「セミナー」および「フォーラム」にも積極的に参加し、研究を深める機会とされたい。</p> |
|---|--|

博士課程前期課程 履修規定 心理学専攻

履修にあたっては、「博士課程前期課程 履修規定その他注意事項 全専攻」もあわせてよく読むこと。

1. 所定単位（修了に必要な単位）

心理学専攻を修了するためには、次表に示す最低必要単位数以上を修得しなければならない。

科目区分	必要単位数	備考
必修科目	8単位	1・2年次に配当
選択科目	22単位	1・2年次に配当
合計	30単位	

2. 設置科目区分と履修方法

設置科目は、必修科目、選択科目A, B, Cに区分される。

(1) 必修科目

- ① 全ての学生が履修し単位を修得しなければならない科目であり、「基礎心理学研究法」「応用心理学研究法」「修士論文指導演習1」「修士論文指導演習2」（各2単位）「修士論文」の5科目が該当する。
- ② 「修士論文指導演習1」「修士論文指導演習2」の配当年次は2年次であるが、それぞれ在学3学期・在学4学期に履修できる。「修士論文」は在学4学期目以降に提出できる。
- ③ 「修士論文指導演習1」「修士論文指導演習2」は学期を変えて履修することができる。この場合、修士論文は7月に提出することになる。履修する学期の変更を希望する場合は指導教員と相談の上、新座キャンパス教務事務センターへ申し出ること。

申出期限：[春学期に履修を希望する場合] 前年度中に申し出を行うこと。

[秋学期に履修を希望する場合] 9月7日（金）16：00まで

- ④ 春学期を休学して、その年度の秋学期に修士論文を提出する者は、指導教員に相談の上、新座キャンパス教務事務センターまで申し出ること。

申出期限：9月7日（金）16：00まで

(2) 選択科目

選択科目の単位として認められるものには、次の種類がある。

- ① 本専攻設置科目の「特殊研究」「特殊演習」「特殊講義」「論文作成演習」を履修し、修得した単位（各2単位）。
- ② 本学他研究科設置科目、他専攻設置科目、平和・コミュニティ研究機構提供科目は、合計4単位までを選択科目として算入できる。

3. 重複履修

本専攻設置科目は、必修科目を除き重複履修できる。

4. 研究指導の体制

(1) 研究指導担当教員

研究指導は、下表の「研究指導教員一覧」に掲載された教員が担当する。

担当者	研究指導領域・分野	研究指導概要
浅野 倫子	認知心理学, 実験心理学, 言語心理学	人間の認知処理過程について、国内外の研究の動向を踏まえ、実証的研究を立案、遂行し、成果を公表するという、基礎的な研究能力（知識・技術）を養う。
堀 耕治	実験的行動分析, 学習心理学	徹底した個別指導により、最新の研究動向を踏まえた独自の問題の発見、研究の計画と実施、データの分析と報告など、研究者に必要な技能を養う。
大野 久	青年心理学, 人格心理学, 生涯発達心理学（アイデンティティ理論を踏まえた青年期の心理, 恋愛, 生育史研究）	前期課程研究指導では、修士論文作成に向けて、文献研究、問題の設定、質問紙調査、面接調査の計画、実施、分析、論文の執筆について指導を行う。

博士課程前期課程

塚本 伸一	社会性の発達（自己統制・制御の発達）、学校・学級の心理学的研究（教師の児童生徒認知、児童生徒の学校適応、学校ストレス）	修士論文指導演習、研究室内のデータミーティング、研究会への参加等のほか、随時個別的な研究指導を行う。
日高 聡太	知覚心理学、実験心理学、認知心理学	ヒトの情報処理過程を科学的に実証し、成果を国際誌に発表することを目標に、実験の実施やデータの検証・報告等、基礎的な研究スキルを総合的に養う。
小口 孝司	社会心理学、産業・組織心理学、観光心理学	各自の問題意識、関心に基づき、研究テーマを設定し、研究計画の作成、実験・調査の実施、分析などを進め、学会発表、さらには学会誌投稿につなげる。
都築 誉史	認知心理学、社会心理学、認知科学	研究テーマの設定、先行研究の展望、研究計画の立案、実験や調査の実施手順、データの分析方法、修士論文の執筆、成果の公表（学会発表、学会誌投稿）についての研究指導を行う。

(2) 指導教員・副指導教員

心理学専攻は、原則として学生の希望に基づき、1年次春学期中に指導教員1名を選定し、あわせて指導教員と協議の上、副指導教員を選定する。指導教員および副指導教員は、学生の在学期間中、継続して共同で研究指導を担当する。

なお、指導教員が修士論文の主査を、副指導教員が修士論文の副査を担当する。修士論文の副査は2名であり、もう1名の副査は、1年次秋学期に開催する修士論文構想発表会の後に決定する。

研究指導一貫性の観点からは、1年次と2年次に同一の教員の指導を受けることが望ましい。しかし、教員側の事情または学生側の事情により、2年次に指導教員を変更することもある。例えば、教員の退職、研究休暇、学生本人の休学留学、研究関心や領域の変更などの事由である。

(3) 現代心理学特殊演習

秋学期に開講する「現代心理学特殊演習」は、1、2年次にそれぞれ履修することが望ましい。本科目において、研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

(4) 修士論文構想発表会

1年次秋学期（1月末～2月初旬）に一度、修士論文構想発表会を開催し、研究指導教員全員が共同で研究指導を行った上で、修士論文の主査および副査を決定する。

報告者：本専攻前期課程1年次生全員

参加者（教員）：全専任教員

参加者（大学院学生、学部学生）：本専攻前期課程学生全員、学部学生（任意）

実施形態：報告会形式（授業外）

内容：報告者（本専攻前期課程1年次生）が修士論文研究の構想内容を説明、教員及び他の参加者による質疑応答、教員からの指導を行う。

(5) 修士論文中間報告会

本専攻では、秋学期に開講する「現代心理学特殊演習」（1年次および2年次）において、研究指導教員全員による十分な共同の研究指導を行うため、修士論文中間報告会は実施しない。

(6) 修士論文口頭試問・発表会（修士論文最終面接・博士課程報告会）

修士論文を提出した者が、発表会形式で公開の口頭試問を受ける。研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

発表者：修士論文提出者

参加者（教員）：全専任教員

参加者（大学院学生、学部学生）：本専攻前期課程・後期課程学生全員、学部学生（任意）

実施形態：報告形式（授業外）

内容：修士論文提出者が修士論文研究の成果を発表し、主査・副査による口頭試問を受ける。

博士課程後期課程学生による研究報告もあわせて行う。

心理学専攻（博士課程前期課程） 学科目表

科目 コード	科目名	担当者	単位数	開講 学期	配当年次	科目 ナンバリング	備考
必修科目							
UM131	基礎心理学研究法	木原 健	2	春	1・2	PSY5210	
UM132	応用心理学研究法	小口 孝司	2	秋	1・2	PSY5310	
UM11*	修士論文指導演習1	研究科委員	2	春	2	PSY6910	週2時間 科目コードは下記コード参照
UM12*	修士論文指導演習2	研究科委員	2	秋	2	PSY6910	週2時間 科目コードは下記コード参照
UM90*	修士論文	研究科委員	-	-	2	PSY6910	下記コード参照
選択科目A							
UM201	知覚心理学特殊研究		2	休講	1・2	PSY5220	
UM202	比較・認知心理学特殊研究		2	休講	1・2	PSY5220	
UM203	認知心理学特殊研究	都築 誉史	2	春	1・2	PSY5220	
UM204	学習心理学特殊研究	堀 耕治	2	春	1・2	PSY5220	
UM205	社会心理学特殊研究	小口 孝司	2	秋	1・2	PSY5320	
UM206	産業・組織心理学特殊研究		2	休講	1・2	PSY5320	
UM207	応用行動分析学特殊研究	大石 幸二	2	春	1・2	PSY5320	
UM208	人格心理学特殊研究	大野 久	2	春	1・2	PSY5320	
UM215	認知・言語心理学特殊研究	浅野 倫子	2	春	1・2	PSY5320	2018年度新設
UM209	発達心理学特殊研究	塚本 伸一	2	春	1・2	PSY5320	
UM214	現代心理学特殊研究	原島 雅之	2	春	1・2	PSY5920	
UM213	心理統計法特殊研究	中村 健太郎	2	春	1・2	PSY5220	
選択科目B							
UM301	知覚心理学特殊演習		2	休講	1・2	PSY5220	
UM302	比較・認知心理学特殊演習		2	休講	1・2	PSY5220	
UM303	認知心理学特殊演習		2	休講	1・2	PSY5220	
UM304	学習心理学特殊演習	堀 耕治	2	秋	1・2	PSY5220	
UM305	社会心理学特殊演習	小口 孝司	2	秋	1・2	PSY5320	
UM306	産業・組織心理学特殊演習		2	休講	1・2	PSY5320	
UM307	応用行動分析学特殊演習		2	休講	1・2	PSY5320	
UM308	人格心理学特殊演習	大野 久	2	秋	1・2	PSY5320	
UM312	認知・言語心理学特殊演習	浅野 倫子	2	秋	1・2	PSY5320	2018年度新設
UM309	発達心理学特殊演習	塚本 伸一	2	秋	1・2	PSY5320	
UM310	英語論文作成演習	中島 亮一	2	秋	1・2	PSY5920	
UM311	現代心理学特殊演習	研究科委員	2	秋	1・2	PSY5920	
選択科目C							
UM401	心理臨床特殊研究1	安田 みどり	2	春	1・2	PSY5420	
UM402	心理臨床特殊研究2		2	休講	1・2	PSY5420	
UM403	精神医学特殊研究		2	休講	1・2	PSY5520	隔年開講
UM404	コミュニティ心理学特殊研究	安田 みどり	2	秋	1・2	PSY5420	
UM405	心理療法特殊研究	西谷 晋二	2	春他	1・2	PSY5420	春学期集中
UM406	学校心理学特殊研究	安田 みどり	2	春	1・2	PSY5420	

◎研究科委員担当者コード……修士論文指導演習1, 修士論文指導演習2, 修士論文の科目コード下1桁(*)には, 下記の該当する担当者コードを記入すること

担当者	コード
浅野 倫子	1
堀 耕治	2
大野 久	3
塚本 伸一	4
日高 聡太	5
小口 孝司	6
都築 誉史	7

博士課程前期課程 履修規定 臨床心理学専攻

履修にあたっては、「博士課程前期課程 履修規定その他注意事項 全専攻」もあわせてよく読むこと。

1. 所定単位（修了に必要な単位）

臨床心理学専攻を修了するためには、次表に示す最低必要単位数以上を修得しなければならない。

科目区分	必要単位数	備考
必修科目	20単位	1・2年次に配当
選択科目	10単位	1・2年次に配当
合計	30単位	

2. 設置科目区分と履修方法

設置科目は、必修科目、選択科目に区分される。

(1) 必修科目

- ① すべての学生が履修し単位を修得しなければならない科目である。
- ② 「修士論文指導演習1」「修士論文指導演習2」の配当年次は2年次であるが、それぞれ在学3学期・在学4学期に履修できる。修士論文は在学4学期目以降に提出できる。
- ③ 「修士論文指導演習1」「修士論文指導演習2」は学期を変えて履修できる。この場合、修士論文は7月に提出することになる。履修を希望する場合は、指導教員に相談の上、新座キャンパス教務事務センターまで申し出ること。

申出期限：[春学期に履修を希望する場合] 前年度中に申し出を行うこと。

[秋学期に履修を希望する場合] 9月7日（金）16：00まで

- ④ 春学期を休学して、その年度の秋学期に修士論文を提出する者は、指導教員に相談の上、新座キャンパス教務事務センターまで申し出ること。

申出期限：9月7日（金）16：00まで

(2) 選択科目

本専攻設置科目の「特論」「特殊研究」を履修し、修得した単位（各2単位）。

選択科目については、別紙（4月の研究科履修ガイダンス時に配布する）に示すように、A～E領域についてそれぞれ2単位以上を履修すること。

3. 重複履修

本専攻設置科目は、必修科目を除き重複履修ができる。

4. 研究指導の体制

(1) 研究指導担当教員

研究指導は、下表の「研究指導教員一覧」に掲載された教員が担当する。

担当者	研究指導領域・分野	研究指導概要
林 もも子	精神分析的な精神療法、成人および思春期のアタッチメント	臨床心理学領域のテーマについて、自分の問題意識を先行研究と照らし合わせながら深め、臨床的な意義のある研究実践を、集団・個別形式で指導する。
逸見 敏郎	学校臨床心理学、ライフコース論	学校における心理相談活動および関連する家族、友人関係を対象とする研究について、臨床心理学的アプローチによる研究指導をおこなう。
松永 美希	臨床心理学、認知行動療法、健康心理学	認知行動理論・療法に関する領域について、基礎的研究から実践的研究まで幅広いテーマについて、集団および個別形式による研究指導を行う。
山田 哲子	臨床心理学、家族心理学、家族療法	臨床心理学、家族心理学などの研究テーマに対し、個人を取り巻く関係性に着目するシステムズアプローチや、質的研究法を取り入れながら指導を行う。
大石 幸二	応用行動分析（行動コンサルテーションの実証研究）、障害児（者）心理学（特別支援教育の実践研究）、学校ソーシャルワーク、臨床発達心理学	社会的問題の解決のため、行動観察データを収集し、その機能分析を行い、具体的な介入計画の立案・実行・評価と改善に関する研究の指導を行う。
山中 淑江	臨床心理学、カウンセリング、青年心理、学生相談、グループアプローチ	青年期の危機と課題、グループプロセス、自己概念、言語による自己表現等のテーマについて、個別指導を行う。

(2) 指導教員・副指導教員

臨床心理学専攻の学生は、入学後すみやかに、研究指導を受ける指導教員1名を選定し、あわせて指導教員と協議の上、1年次の春学期中に副指導教員を選定する。指導教員および副指導教員は、学生の在学期間中、継続して共同で研究指導を担当する。

(3) 修士論文構想発表会

1年次秋学期（11月）に一度、修士論文構想発表会を開催し、研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

報告者：本専攻前期課程1年次生全員

参加者（教員）：全専任教員

参加者（大学院学生、学部学生）：本専攻前期課程学生全員、学部学生（任意）

実施形態：報告会形式（授業外）

内容：報告者（本専攻前期課程1年次生）が修士論文研究の構想内容を説明、教員による質疑応答、教員からの指導を行う。

(4) 修士論文中間報告会

2年次春学期（5月～6月）に一度、修士論文中間報告会を開催し、研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

報告者：本専攻2年次以上で2018年度修士論文提出予定者全員

参加者（教員）：全専任教員

参加者（大学院学生、学部学生）：本専攻前期課程学生全員、学部学生（任意）

実施形態：報告会形式（授業外）

内容：報告者（本専攻2年次以上で2018年度修士論文提出予定者）が修士論文研究の構想内容を説明、教員による質疑応答、教員からの指導を行う。

(5) 修士論文口頭試問・発表会

修士論文を提出した者が、発表会形式で公開の口頭試問を受ける。

発表者：修士論文提出者

参加者（教員）：全専任教員

参加者（大学院学生、学部学生）：本専攻前期課程学生全員、学部学生（任意）

実施形態：報告会形式（授業外）

内容：修士論文提出者が修士論文研究の成果を発表し、主査・副査による口頭試問を受ける。

「臨床心理士」受験資格取得について

1. 資格の趣旨
「臨床心理士」とは、臨床心理学に基づく知識や技術を用いて、人間の“こころ”の問題にアプローチする、日本臨床心理士資格認定協会が定める民間資格である。資格についての詳細な情報は、日本臨床心理士資格認定協会のホームページ（<http://fjcbcp.or.jp/>）を参照すること。
2. 資格取得の流れ
臨床心理士養成に関する指定大学院（1種・2種）または専門職大学院を修了し、年に一度行われる日本臨床心理士資格認定協会の資格試験に合格することで資格を得る。なお、立教大学大学院は、第1種指定大学院（修了後の心理臨床経験不要）に指定されている。
3. 受験資格取得の方法および科目履修について
受験資格を取得するためには、日本臨床心理士資格認定協会が認可する受験資格基準に該当することが条件となっている。
 - ・臨床心理士指定大学院必修科目全てにおいて単位修得が必要である。
 - ・選択科目のA群～E群において、各群2単位以上、計10単位以上の単位を修得する必要がある。
 - ・2018年度以降入学者の場合、一部の選択科目について、国家資格公認心理師履修科目に読み替えた場合に、臨床心理士資格に必要な履修科目に読み替えが認められなくなる科目があるため、注意すること。

臨床心理士資格科目と公認心理師資格科目の読み替え（2018年度以降入学者）		
科目名	公認心理師科目の読み替え	備考
臨床心理士指定大学院必修科目		
臨床心理学特論 1	読み替えない	
臨床心理学特論 2	読み替えない	
臨床心理面接特論 1（心理支援に関する理論と実践）	⑦心理支援に関する理論と実践	
臨床心理面接特論 2	読み替え不可	
臨床心理査定演習 1（心理的アセスメントに関する理論と実践）	⑥心理的アセスメントに関する理論と実践	
臨床心理査定演習 2	読み替え不可	
臨床心理基礎実習 1	読み替えない	
臨床心理基礎実習 2	読み替えない	
臨床心理実習 1（心理実践実習 2）	⑩心理実践実習	
臨床心理実習 2	読み替え不可	
修士論文指導演習 1		
修士論文指導演習 2		
修士論文		
選択科目	群	各群 2 単位以上計 10 単位以上
臨床心理学研究法特論	A	自由裁量認定
心理統計法特論 1	A	自由裁量認定
心理統計法特論 2	A	自由裁量認定
発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	B	自由裁量認定
人格心理学特論	B	自由裁量認定
学習心理学特論	B	自由裁量認定
認知心理学特論	B	自由裁量認定
社会心理学特論	C	自由裁量認定
組織心理学特論	C	—
社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	C	④司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	D	①保健医療分野に関する理論と支援の展開
心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	D	①保健医療分野に関する理論と支援の展開
障害児(者)心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	D	②福祉分野に関する理論と支援の展開
コミュニティ・アプローチ特論（家族関係・集団・地域社会における心理的支援に関する理論と実践）	E	⑧家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践
臨床心理学特殊研究 1（心理支援に関する理論と実践）	E	⑦心理支援に関する理論と実践
臨床心理学特殊研究 2（投映法）	E	読み替えない
臨床心理学特殊研究 3（心理支援に関する理論と実践）	E	⑦心理支援に関する理論と実践
臨床心理学特殊研究 4（心理臨床倫理）		
臨床心理学特殊研究 5（教育分野に関する理論と支援の展開）	E	③教育分野に関する理論と支援の展開

2018年度休講

②福祉分野に関する理論と支援の展開に読み替え可能

2018年度休講

※隔年開講

公認心理師科目に読み替えると、E単位として認定できない

2018年度休講
公認心理師科目に読み替えるとE単位として認定できない

2018年度休講

公認心理師科目に読み替えるとE単位として認定できない

2018年度休講

公認心理師科目に読み替えるとE単位として認定できない

国家資格「公認心理師」受験資格取得について

1. 資格の趣旨

「公認心理師」とは、心の健康に関する専門家として、心理に関する支援や観察、分析に関する業務を、保健医療、福祉、教育、犯罪、産業等の分野において行う国家資格である。資格についての詳細な情報は、厚生労働省のホームページ (<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116049.html>) を参照すること。

2. 資格取得の流れ

大学在学期間中に省令で定められた科目を修めた後、大学院修士課程において在学期間中に省令に定められた科目を修めること、あるいは国が認定した実習機関において省令で定められた期間（原則3年）実務経験等を行うことのいずれかにより、国家試験の受験資格が認められる。国家試験に合格することで、資格を得る。

大学および大学院では、在学期間中に定められた科目を修めなければならない。卒業等で在学期間を終えた後に、本学あるいは他大学の科目を修めても、定められた科目を修めたとは見なされない。

3. 大学院在学期間中における受験資格取得の方法

【2017年度以前入学者】

受験資格を取得するためには、省令で定められた科目の単位を全て修得することが必須である。なお、法令が施行された2017年9月15日以前に大学院に入学した者は、経過措置対象となる。経過措置では、次の表に示すとおり、各科目カテゴリーから一定数以上の科目の単位を修得することで、受験資格が認められる。なお、2017年度以前の開講科目と2018年度以降の開講科目では、科目名称が異なる場合があるので注意すること。

- ・ A.心理実践科目Ⅰカテゴリーから①保健医療分野に関する理論と支援の展開を含む3科目以上、Ⅱカテゴリーから2科目以上、B.Ⅲ実習科目より1科目以上の単位修得が必要である。
- ・ 各カテゴリー内の各要件科目について、1科目ずつ単位を修得する必要がある。各要件科目に対して2科目以上の単位を修めても、必要な科目数として計上されない（例えば①保健医療分野に関する理論と支援の展開において、精神医学特論と心身医学特論の2科目の単位を修得しても、1科目として数える）。
- ・ ある要件科目に該当すると見なした展開科目は、別の科目に重複して該当すると見なすことは出来ない。

【2018年度以降入学者】

受験資格を取得するためには、大学在学期間中に省令で定められた科目を修めた後、省令で定められた科目の単位を全て修得することが必須である。

- ・ 各要件科目について、A.心理実践科目については、①から⑨を1科目ずつ単位を修得する必要がある。各要件科目に対して2科目以上の単位を修めても、必要な科目数として計上されない（例えば①保健医療分野に関する理論と支援の展開において、精神医学特論と心身医学特論の2科目の単位を修得しても、1科目として数える）。B.実習科目については、心理実践実習1-4まですべての単位を修得する必要がある。
- ・ 公認心理師の履修科目に読み替えた場合に、臨床心理士資格に必要な履修科目に読み替えることが認められない科目があるため、注意すること。前頁の臨床心理士資格科目と公認心理師資格科目の読み替え表を参照のこと。

〔2017年度以前入学者〕移行措置中の公認心理師受験資格科目と大学院開講科目の対応表			
公認心理師受験資格科目	大学院開講科目		
A. 心理実践科目	2017年度以前開講	2018年度以降開講	
I	①保健医療分野に関する理論と支援の展開	精神医学特論 心身医学特論 ※隔年開講	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開） 心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開） ※隔年開講
	②福祉分野に関する理論と支援の展開	障害児（者）心理学特論	障害児・者心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開） 発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）
	③教育分野に関する理論と支援の展開	臨床心理学特殊研究5（学校心理臨床）	臨床心理学特殊研究5（教育分野に関する理論と支援の展開）
	④司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	社会病理学特論	社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）
	⑤産業・労働分野に関する理論と支援の展開	—	産業・労働分野に関する理論と支援の展開
必要履修科目数：①を含めた3科目以上			
II	⑥心理的アセスメントに関する理論と実践	臨床心理査定演習1	臨床心理査定演習1（心理的アセスメントに関する理論と実践）
	⑦心理支援に関する理論と実践	臨床心理面接特論1 臨床心理学特殊研究3（心理療法）	臨床心理面接特論1（心理支援に関する理論と実践） 臨床心理学特殊研究3（心理支援に関する理論と実践）
	⑧家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	コミュニティ・アプローチ特論	コミュニティ・アプローチ特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）
	⑨心の健康教育に関する理論と実践	—	心の健康教育に関する理論と実践
必要履修科目数：2科目以上			
B. 実習科目			
III	⑩心理実践実習（時間は問わない）	臨床心理実習1	心理実践実習2（臨床心理実習1）
必要履修科目数：1科目以上			

〔2018年度以降入学者〕公認心理師受験資格科目と大学院開講科目の対応		
公認心理師受験資格科目	大学院開講科目	備考
A. 心理実践科目		
①保健医療分野に関する理論と支援の展開	・精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開） ・心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	隔年開講
②福祉分野に関する理論と支援の展開	・障害児（者）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開） ・発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	
③教育分野に関する理論と支援の展開	・臨床心理学特殊研究5（教育分野に関する理論と支援の展開）	
④司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	・社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	
⑤産業・労働分野に関する理論と支援の展開	・産業・労働分野に関する理論と支援の展開	
⑥心理的アセスメントに関する理論と実践	・臨床心理査定演習1（心理的アセスメントに関する理論と実践）	
⑦心理支援に関する理論と実践	・臨床心理面接特論1（心理支援に関する理論と実践） ・臨床心理学特殊研究3（心理支援に関する理論と実践）	
⑧家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	・コミュニティ・アプローチ特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	
⑨心の健康教育に関する理論と実践	・心の健康教育に関する理論と実践	
B. 実習科目		
⑩心理実践実習（450時間以上）	心理実践実習1（基礎） 心理実践実習2（臨床心理実習1） 心理実践実習3 心理実践実習4	心理実践実習2は、臨床心理士科目の臨床心理実習1と読み替える。

臨床心理学専攻（博士課程前期課程） 学科目表（2018年度入学者）

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
必修科目							
UN101	臨床心理学特論1	山中 淑江	2	春	1・2	CLP5110	
UN102	臨床心理学特論2	林・藪 垣	2	秋	1・2	CLP5110	
UN133	臨床心理面接特論1 (心理支援に関する理論と実践)	松永 美希	2	春	1・2	CLP5110	
UN104	臨床心理面接特論2	林 もも子	2	秋	1・2	CLP5110	
UN131	臨床心理査定演習1 (心理的アセスメントに関する理論と実践)	前川 真奈美	2	春	1・2	CLP5110	
UN106	臨床心理査定演習2	逸見 敏郎	2	秋	1・2	CLP5110	
UN111	臨床心理基礎実習1	林・松永	1	春	1	CLP5110	
UN112	臨床心理基礎実習2	林・山中・山田	1	秋	1	CLP5110	
UN132	心理実践実習2 (臨床心理実習1)		1	休講	2	CLP5110	
UN122	臨床心理実習2	林・大石・山田・橋本	1	秋	2	CLP5110	
UN21*	修士論文指導演習1	研究科委員	2	春	2	CLP6110	週2時間 科目コードは次頁コード参照
UN22*	修士論文指導演習2	研究科委員	2	秋	2	CLP6110	週2時間 科目コードは次頁コード参照
UN90*	修士論文	研究科委員	-	-	2	CLP6110	次頁コード参照
選択科目							
UN301	臨床心理学研究法特論	安田 みどり	2	春	1・2	CLP5120	
UN302	心理統計法特論1	中村 健太郎	2	春	1・2	CLP5220	
UN303	心理統計法特論2		2	休講	1・2	CLP5220	
UN324	発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	塚本 伸一	2	春	1・2	CLP5320	
UN305	人格心理学特論	大野 久	2	春	1・2	CLP5320	
UN306	学習心理学特論	堀 耕治	2	春	1・2	CLP5320	
UN307	認知心理学特論	都築 誉史	2	春	1・2	CLP5320	
UN308	社会心理学特論	小口 孝司	2	秋	1・2	CLP5420	
UN309	組織心理学特論		2	休講	1・2	CLP5420	
UN326	社会病理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	相良 翔	2	秋	1・2	CLP5520	
UN321	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)		2	休講	1・2	CLP5520	隔年開講
UN322	心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	堀江・平出	2	春	1・2	CLP5520	隔年開講
UN323	障害児・者心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	大石 幸二	2	春	1・2	CLP5520	
UN329	コミュニティ・アプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	安田 みどり	2	秋	1・2	CLP5620	
UN315	臨床心理学特殊研究1 (子どもの臨床心理)		2	休講	1・2	CLP5620	
UN316	臨床心理学特殊研究2 (投映法)		2	休講	1・2	CLP5620	
UN329	臨床心理学特殊研究3 (心理支援に関する理論と実践)	西谷 晋二	2	春他	1・2	CLP5620	春学期集中
UN318	臨床心理学特殊研究4 (心理臨床倫理)		2	休講	1・2	CLP5620	
UN325	臨床心理学特殊研究5 (教育分野に関する理論と支援の展開)	安田 みどり	2	春	1・2	CLP5620	
UN327	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	緒方 一子		春	1・2	CLP5520	2018年度新設
UN330	心の健康教育に関する理論と実践	松永 美希		秋	1・2	CLP5620	2018年度新設
UN331	心理実践実習1 (基礎)	林・松永・橋本	1	秋	1	CLP5620	2018年度新設
UN332	心理実践実習3		1	未定	2	CLP5620	2018年度新設, 2019年度以降開講
UN333	心理実践実習4		1	未定	2	CLP5620	2018年度新設, 2019年度以降開講

◎研究科委員担当者コード……修士論文指導演習1，修士論文指導演習2，修士論文の科目コード下1桁（*）には，下記の該当する担当者コードを記入すること

担当者	コード
林 もも子	1
逸見 敏郎	2
松永 美希	3
山田 哲子	4
大石 幸二	6
山中 淑江	7

臨床心理学専攻（博士課程前期課程） 学科目表（2017年度以前入学者）

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
必修科目							
UN101	臨床心理学特論1	山中淑江	2	春	1・2	CLP5110	
UN102	臨床心理学特論2	林・藪垣	2	秋	1・2	CLP5110	
UN103	臨床心理面接特論1	松永美希	2	春	1・2	CLP5110	
UN104	臨床心理面接特論2	林もも子	2	秋	1・2	CLP5110	
UN105	臨床心理査定演習1	前川真奈美	2	春	1・2	CLP5110	
UN106	臨床心理査定演習2	逸見敏郎	2	秋	1・2	CLP5110	
UN111	臨床心理基礎実習1	林・松永	1	春	1	CLP5110	
UN112	臨床心理基礎実習2	林・山中・山田	1	秋	1	CLP5110	
UN121	臨床心理実習1	林・松永・橋本	1	春	2	CLP5110	
UN122	臨床心理実習2	林・大石・山田・橋本	1	秋	2	CLP5110	
UN21*	修士論文指導演習1	研究科委員	2	春	2	CLP6110	週2時間 科目コードは次頁コード参照
UN22*	修士論文指導演習2	研究科委員	2	秋	2	CLP6110	週2時間 科目コードは次頁コード参照
UN90*	修士論文	研究科委員	-	-	2	CLP6110	次頁コード参照
選択科目							
UN301	臨床心理学研究法特論	安田みどり	2	春	1・2	CLP5120	
UN302	心理統計法特論1	中村健太郎	2	春	1・2	CLP5220	
UN303	心理統計法特論2		2	休講	1・2	CLP5220	
UN324	発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	塚本伸一	2	春	1・2	CLP5320	
UN305	人格心理学特論	大野久	2	春	1・2	CLP5320	
UN306	学習心理学特論	堀耕治	2	春	1・2	CLP5320	
UN307	認知心理学特論	都築誉史	2	春	1・2	CLP5320	
UN308	社会心理学特論	小口孝司	2	秋	1・2	CLP5420	
UN309	組織心理学特論		2	休講	1・2	CLP5420	
UN326	社会病理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	相良翔	2	秋	1・2	CLP5520	
UN321	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)		2	休講	1・2	CLP5520	隔年開講
UN322	心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	堀江・平出	2	春	1・2	CLP5520	隔年開講
UN323	障害児・者心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	大石幸二	2	春	1・2	CLP5520	
UN329	コミュニティ・アプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	安田みどり	2	秋	1・2	CLP5620	
UN315	臨床心理学特殊研究1 (子どもの臨床心理)		2	休講	1・2	CLP5620	
UN316	臨床心理学特殊研究2 (投映法)		2	休講	1・2	CLP5620	
UN328	臨床心理学特殊研究3 (心理支援に関する理論と実践)	西谷晋二	2	春他	1・2	CLP5620	春学期集中
UN318	臨床心理学特殊研究4 (心理臨床倫理)		2	休講	1・2	CLP5620	
UN325	臨床心理学特殊研究5 (教育分野に関する理論と支援の展開)	安田みどり	2	春	1・2	CLP5620	
UN327	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	緒方一子	2	春	1・2	CLP5520	2018年度新設
UN330	心の健康教育に関する理論と実践	松永美希	2	秋	1・2	CLP5620	2018年度新設
	発達心理学特論						2018年度以降「発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）」に科目名変更
	社会病理学特論						2018年度以降「社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）」に科目名変更
	精神医学特論						2018年度以降「精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）」に科目名変更

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
	心身医学特論						2018年度以降「心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）」に科目名変更
	障害児(者)心理学特論						2018年度以降「障害児・者心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）」に科目名変更
	コミュニティ・アプローチ特論						2018年度以降「コミュニティ・アプローチ特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）」に科目名変更
	臨床心理学特殊研究3 (心理療法)						2018年度以降「臨床心理学特殊研究3（心理支援に関する理論と実践）」に科目名変更
	臨床心理学特殊研究5 (学校心理臨床)						2018年度以降「臨床心理学特殊研究5（教育分野に関する理論と支援の展開）」に科目名変更

◎研究科委員担当者コード……修士論文指導演習1，修士論文指導演習2，修士論文の科目コード下1桁（*）には、下記の該当する担当者コードを記入すること

担当者	コード
林 もも子	1
逸見 敏郎	2
松永 美希	3
山田 哲子	4
大石 幸二	6
山中 淑江	7

博士課程前期課程 履修規定 映像身体学専攻

履修にあたっては、「博士課程前期課程 履修規定その他注意事項 全専攻」もあわせてよく読むこと。

1. 所定単位（修了に必要な単位）

映像身体学専攻を修了するためには、次表に示す最低必要単位数以上を修得しなければならない。

科目区分	必要単位数	備考
必修科目	8単位	1年次4単位, 2年次4単位配当
選択科目	22単位	1・2年次に配当
合計	30単位	

2. 設置科目区分と履修方法

設置科目は、必修科目、選択科目に区分される。

(1) 必修科目

- ① 全ての学生が履修し単位を修得しなければならない科目であり、1年次配当「映像身体学概説」「映像身体学演習」、2年次配当「修士論文指導演習1」「修士論文指導演習2」（各2単位）「修士論文」の5科目が該当する。
- ② 「修士論文指導演習1」「修士論文指導演習2」の配当年次は2年次であるが、それぞれ在学3学期・在学4学期に履修できる。修士論文は在学4学期目以降に提出できる。
- ③ 「修士論文指導演習1」「修士論文指導演習2」は学期を変えて履修することができる。この場合、修士論文は7月に提出することになる。履修を希望する場合は、指導教員に相談の上、新座キャンパス教務事務センターまで申し出ること。

申出期限：[春学期に履修を希望する場合] 前年度中に申し出を行うこと。

[秋学期に履修を希望する場合] 9月7日（金）16：00まで

- ④ 春学期を休学して、その年度の秋学期に修士論文を提出する者は、指導教員に相談の上、新座キャンパス教務事務センターまで申し出ること。

申出期限：9月7日（金）16：00まで

(2) 選択科目

選択科目の単位として認められるものには、次の2種類がある。

- ① 本専攻設置科目の基盤研究系科目（必修科目である「映像身体学概説」「映像身体学演習」を除いた「特殊研究」「特殊演習」）、制作・表現系科目（「ワークショップ」）、プロデュース系科目（「舞台制作プロデュース論演習」「映像制作プロデュース論演習」「著作権法」「アートビジネス論演習」「映像機器・施設ワークショップ」）（各2単位）。
- ② 本学他研究科設置科目、他専攻設置科目、平和・コミュニティ研究機構提供科目は、合計4単位までを選択科目として算入できる。

3. 重複履修

本専攻設置科目は、必修科目を除き重複履修できる。

4. 研究指導の体制

(1) 研究指導担当教員

研究指導は、下表の「研究指導教員一覧」に掲載された教員が担当する。

担当者	研究指導領域・分野	研究指導概要
香山 リカ	精神医学。とくに「思春期・青年期の精神病理と現代社会の影響」「働く女性のメンタルヘルス」の問題について、臨床を通して考察している。	精神病理学を柱とした作品・人物研究。精神医学、哲学と芸術、文化とを連続させるための方法論の探究。
大山 載吉	映像身体学、哲学、表象文化論	機械による知覚の「非人称性」と身体による知覚の「人称性」のあいだを思考し、存在の「深さ」を探究する。
万田 邦敏	映画演出	劇映画の演出において実践的な指導を行う。
加藤 千恵	古代中国の身体観・宇宙観・生命観。道教思想史。	古代中国の文献や図像資料から身体観について学び、現代の身体をとらえなおす。

博士課程前期課程

中村 秀之	映画研究, 文化社会学, 表象文化論	映画に対する理論的・歴史的・批評的アプローチからの研究を指導する。
佐藤 一彦	映像表現論, 映像システム技術論, テレビドキュメンタリー制作論, デジタルシネマの研究と開発, デジタルコンテンツ全般の研究と開発	映像身体学が持つ学問知や身体知を, 4Kや3D, 電子書籍など最新のデジタル手法を駆使して領域横断的に現代を分析・創造するための根拠を捜し出す。
篠崎 誠	映画全般	劇映画における演出の指導
田崎 英明	身体社会論, ジェンダー/セクシュアリティ理論, 身体政治論	身体・アート・エコロジー等についての哲学的・文化批評的アプローチについて, 日本語および欧文の文献を参照しながら指導する。
松田 正隆	戯曲・シナリオ創作。演劇・パフォーマンスの研究。	演劇における身体のことを考える。
江川 隆男	西洋近現代哲学, 現代思想, 精神と身体哲学, 身体倫理論	哲学的な思考にかかわる精神(感情やイメージを含む)と身体(物体を含む)についての諸問題を研究指導する。
日高 優	映像身体学, 写真研究, 表象文化論	映像, 特に写真を通して, 世界の存在様態と我々の生のありようをつかまえし, その可能性を追究する。

(2) 指導教員・副指導教員

研究科ガイダンス後に, 学生の希望に基づいて専攻会議で決定する。正指導教員は, 原則として入学試験出願時に本人が希望した教員とする。

(3) 「修士論文構想発表会」

1年次秋学期(2月下旬)に一度, 修士論文構想発表会を開催し, 研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

報告者: 本専攻前期課程1年次生全員

参加者(教員): 全専任教員

参加者(大学院学生, 学部学生): 本専攻前期課程学生全員, 学部学生(任意)

実施形態: 報告会形式(授業外)

内容: 報告者(本専攻前期課程1年次生)が修士論文研究の構想内容を説明, 教員による質疑応答, 教員からの指導を行う。

(4) 「修士論文中間報告会」

2年次春学期(6月下旬)に一度, 修士論文中間報告会を開催し, 研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

報告者: 本専攻2年次以上で2018年度修士論文提出予定者全員

参加者(教員): 全専任教員

参加者(大学院学生, 学部学生): 本専攻前期課程学生全員, 学部学生(任意)

実施形態: 報告会形式(授業外)

内容: 報告者(本専攻2年次以上で2018年度修士論文提出予定者)が修士論文研究の構想内容を説明, 教員による質疑応答, 教員からの指導を行う。

映像身体学専攻（博士課程前期課程） 学科目表

	科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考
必修科目								
基盤研究系科目	UP101	映像身体学概説	大山 載吉	2	春	1	BEC5310	
	UP102	映像身体学演習	江川 隆男	2	秋	1	BEC5310	
研究指導科目	UP2**	修士論文指導演習1	研究科委員	2	春	2	BEC6310	週2時間 科目コードは下記コード参照
	UP2**	修士論文指導演習2	研究科委員	2	秋	2	BEC6310	週2時間 科目コードは下記コード参照
	UP9**	修士論文	研究科委員	-	-	2	BEC6310	下記コード参照
選択科目								
基盤研究系科目	UP301	身体学特殊研究1	杉本 隆久	2	春	1・2	BEC5220	
	UP302	身体学特殊研究2	加藤 千恵	2	春	1・2	BEC5220	
	UP311	映像学特殊研究1	中村 秀之	2	春	1・2	BEC5120	
	UP312	映像学特殊研究2	中村 秀之	2	秋	1・2	BEC5120	
	UP321	身体学特殊演習1	田崎 英明	2	春	1・2	BEC5220	
	UP322	身体学特殊演習2	田崎 英明	2	秋	1・2	BEC5220	
	UP323	身体学特殊演習3	香山 リカ	2	秋	1・2	BEC5220	
	UP331	映像学特殊演習1	日高 優	2	春	1・2	BEC5120	
	UP332	映像学特殊演習2	佐藤 賢	2	秋	1・2	BEC5120	
	UP333	映像学特殊演習3	日高 優	2	秋	1・2	BEC5120	
制作・表現系科目	UP401	身体論ワークショップ1	相馬 千秋	2	春	1・2	BEC5220	
	UP402	身体論ワークショップ2	砂連尾 理	2	秋	1・2	BEC5220	
	UP403	身体論ワークショップ3	羽鳥 嘉郎	2	春	1・2	BEC5220	
	UP404	身体論ワークショップ4	羽鳥 嘉郎	2	秋	1・2	BEC5220	
	UP405	身体論ワークショップ5	松田 正隆	2	春	1・2	BEC5220	
	UP406	身体論ワークショップ6	松田 正隆	2	秋	1・2	BEC5220	
	UP421	映像論ワークショップ1	万田 邦敏	2	春	1・2	BEC5120	
	UP422	映像論ワークショップ2	万田 邦敏	2	秋	1・2	BEC5120	
	UP423	映像論ワークショップ3	篠崎 誠	2	春	1・2	BEC5120	
	UP424	映像論ワークショップ4	篠崎 誠	2	秋	1・2	BEC5120	
	UP425	映像論ワークショップ5	山田 達也	2	春	1・2	BEC5120	
	UP426	映像論ワークショップ6		2	休講	1・2	BEC5120	
	UP427	映像論ワークショップ7	佐藤 一彦	2	春	1・2	BEC5120	
	プロデュース系科目	UP501	舞台制作プロデュース論演習		2	休講	1・2	BEC5220
UP502		映像制作プロデュース論演習	佐藤 一彦	2	秋	1・2	BEC5120	
UP503		著作権法		2		1・2		2017年度廃止
UP504		アートビジネス論演習		2	休講	1・2	BEC5320	
UP505		映像機器・施設ワークショップ	川口 陽一	2	秋	1・2	BEC5320	

◎研究科委員担当者コード……修士論文指導演習1・2，修士論文の科目コード

担当者	科目コード		
	修士論文指導演習1	修士論文指導演習2	修士論文
香山 リカ	UP201	UP211	UP901
大山 載吉	UP202	UP212	UP902
万田 邦敏	UP203	UP213	UP903
加藤 千恵	UP204	UP214	UP904
中村 秀之	UP205	UP215	UP905
佐藤 一彦	UP206	UP216	UP906
篠崎 誠	UP207	UP217	UP907
田崎 英明	UP208	UP218	UP908
松田 正隆	UP209	UP219	UP909
江川 隆男	UP210	UP220	UP910
日高 優	UP221	UP222	UP911

博士課程後期課程 履修規定その他注意事項

心理学専攻・臨床心理学専攻・映像身体学専攻

1 博士学位授与について

1. 博士学位授与の要件
- 博士学位は、3年以上博士課程後期課程に在学し、博士学位論文作成に関する所定の研究指導を受け、博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して授与される。
- ただし、心理学専攻のみ、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。早期修了については、3. 修業年限短縮修了（早期修了）を参照すること。
2. 学位名称
- 修了者に対して立教大学が授与する学位は以下のとおりとする。
- 心理学専攻「博士（心理学，立教大学）」
臨床心理学専攻「博士（臨床心理学，立教大学）」
映像身体学専攻「博士（映像身体学，立教大学）」
3. 修業年限短縮修了（早期修了）
〈心理学専攻のみ適用〉
- 大学院学則第6条（優れた研究業績を上げた者）の規定による標準修了年限を短縮し修了することができる制度である。
- 〈修業年限短縮修了（早期修了）の条件等について〉
- (1) 学会論文誌・学術雑誌に審査を経て3本以上（第1著者に限る）掲載され、かつ、そのうち2本以上は英文学術誌査読論文である者については、1年以上在学すれば足りるものとする。
- (2) 申請時期・申請書類
- 修業年限短縮修了（早期修了）を希望する者は、心理学専攻会議に、「申請希望届」および申請要件となる学会論文誌・学術雑誌に掲載された、あるいは掲載が決定している論文3本以上を各1部提出すること（抜刷，コピー共に可）。
- (3) 資格審査
- ① 申請書類一式が提出された場合、研究科委員長は、速やかに修業年限短縮資格審査委員会（以下、審査委員会とする）を設置する。審査委員会は、研究科委員長が委嘱する委員3名以上をもって構成する。審査委員会委員長は研究科委員長が指名する。なお、指導教員は委員長になることができない。
- ② 審査は、提出された書類と、これに関する口頭試問によって行う。
- ③ 審査委員会委員長は、審査報告書を作成し、研究科委員長に提出する。その後研究科委員会において、修業年限短縮資格審査結果について審議する。
- ④ 研究科委員長は、審議の結果について申請者に通知する。
- (4) 博士学位の申請について
- 資格審査申請の許可を受けた者は、次の学期より、博士学位申請論文を提出することができる。博士学位の申請については、6 博士論文 に準じる。

2 研究指導

1. 研究指導の概要
- (1) 後期課程の学生は、専攻の定めるところに従い、担当の指導教員より研究指導を受けるものとする（各学期週2時間）。
- (2) 研究指導の履修登録は、4月中旬以降に新座キャンパス教務事務センターにて行うため、手続きは不要である。
- (3) 指導の内容・方法等については、年度ごとに指導教員と相談のうえ提出される「研究計画書」に基づき、学期単位で行うものとする。

- (4) 成績については、年度ごとに指導教員と相談のうえ提出される「研究計画書」と、学期ごとに提出される「研究成果報告書」をもとに総合的な評価を行うものとする。学期ごとの研究指導を受け終えたと評価された場合、その成績は「認」となる。
- (5) 留学中および指導教員が研究休暇中の研究指導については、事前に指導教員に相談すること。
- (6) 研究指導担当予定の教員とその専攻領域は各専攻の頁で後述するとおりである。なお、研究指導教員は、学生が提出する「研究計画書」を踏まえて、年間の研究計画や作成する論文等についての指導及び助言を個別具体的に与え、研究指導を行う体制をとることとする。
- (7) 心理学専攻・臨床心理学専攻では、共同指導体制をとるため副指導教員を選定することとする。

3 研究計画書・前期課程科目の履修について

1. 研究計画書

年度ごとに、研究計画書を4月末までに指導教員に提出すること。用紙は4月の研究科ガイダンスで配付する。

なお、春学期を休学し秋学期から復学する者は、9月末までに指導教員に研究計画書を提出すること。春学期に在学し、引き続き秋学期に在学する者は、改めて提出する必要はない。

2. 前期課程科目の履修について

博士後期課程では、在学期間を通して個別に行われる研究指導以外には授業科目を設定しないが、現代心理学研究科博士課程前期課程に設置されている科目（映像身体学専攻は他研究科博士課程前期課程に設置されている科目含む。ただし履修については当該研究科委員会の許可が必要）について、研究に必要である場合には履修することができる。心理学専攻では特に、「現代心理学特殊演習」を履修することが望ましい。履修登録の方法、およびその後の手続きについては、現代心理学部の履修登録方法を適用する。

4 研究成果報告書

学期ごとに研究成果・指導記録用紙を用いて研究成果報告書を作成し、新座キャンパス教務事務センター窓口へ提出しなくてはならない。研究成果・指導記録用紙は新座キャンパス教務事務センターで配付する。なお、必要な場合は、学術雑誌などに発表した論文の別刷等を添付することができる。研究成果報告書は、休学中を除き、後期課程在学中毎学期作成する。

提出期間	春学期	2018年7月6日(金)～10日(火) 15:00
	秋学期	2019年1月9日(水)～11日(金) 15:00

5 博士論文中間報告書【臨床心理学専攻・映像身体学専攻】

- (1) 博士学位申請論文（課程博士）を提出しようとする者は、それに先だって博士論文中間報告書を提出しなければならない。
- (2) 博士論文中間報告書は後期課程2年次秋学期に在学し、3学期分の研究指導を終了している者が提出することを原則とする。また、3学期分の研究指導を終了し、かつ当該学期に在学中の者は、3年年次以降毎学期提出できるものとする（在学中の全ての大学院学生に適用される）。原則として博士学位申請論文（課程博士）提出の前年度までに提出すること。ただし、研究科委員会が特に認めた場合は同一年度内に博士学位申請論文（課程博士）を提出することができる。
- (3) 博士論文中間報告書の提出期限は以下のとおりとする。なお、後期課程に在学中で、その年度内に学位申請論文を提出する見通しが立っており、研究科委員会が事前に許可した者は、春学期末を目処に中間報告書を提出することができる。

博士論文中間報告書提出期限・提出場所

日時：2019年1月11日（金）15：00

※春学期末提出者期限は2018年7月20日（金）15：00とする。

場所：新座キャンパス教務事務センター窓口

- (4) 博士論文中間報告書には、博士学位申請論文の主題・構成の概略が明らかになるような章立て（目次案）と、論文執筆のための基本的構想および論文の中心となる論旨、かつ予定される論文の序章もしくは数章を盛り込み、最後に詳細な参考文献リストを付すものとする。
- (5) 博士論文中間報告書の受理・不受理の決定は、現代心理学研究科掲示板で発表する。発表日時は、別に定める。
- (6) 中間報告書が受理された者は、博士（課程博士）の学位申請論文提出資格を得る。ただし、学位申請論文の主題や構想が中間報告書の内容と異なる場合は中間報告書を再提出し、審査を受けなければならない。中間報告書が受理された学期の翌学期から休学期間を含んで7学期目以降に学位申請論文を提出する場合も、原則として中間報告書を再提出すること。なお、審査の結果受理されなかった場合は、前回の提出から3か月以上を経過し、かつ、研究科委員会の許可があれば再提出することができる。
- (7) 博士論文中間報告書の体裁は以下のとおりとする。
 - ① 本文の量はA4判1,200字詰め10枚以上とする。
 - ② 表紙扉には「〇〇年度 博士論文中間報告書」と明記し、題目・指導教員名・研究科・専攻・学年・学生番号・氏名を必ず明記すること。
 - ③ 表紙と扉に次ぎ、A4判1～2枚の論文要旨を目次の前に綴じ込むこと。
 - ④ 左綴じに製本（仮製本も可）2部を新座キャンパス教務事務センターに提出すること。
 - ⑤ 資料・写真集等別冊を用意するときも、題目・氏名を明記すること。
 - ⑥ その他、不明の点は、必ず指導教員に問い合わせること。

6 博士論文

1. 前提条件（課程博士及び論文博士）

【心理学専攻・臨床心理学専攻】

申請者の研究業績

- (1) 学会論文誌・学術雑誌に審査を経て掲載された原著論文2本以上（第1著者に限る）。
- (2) ただし、(1)に規定する原著論文のうちの1本は、以下に該当する業績2本以上で代替する事が出来る：
 - ① 学会論文誌・学術雑誌に審査を経て掲載された、展望・短報・招待論文。ただし第1著者に限る。
 - ② 学会論文誌・学術雑誌に審査を経て掲載された原著論文で第2著者以下のもの。
 - ③ 大学や研究機関の紀要に審査を経て掲載された原著論文。ただし第1著者に限る。
- (3) 課程博士申請者は、(2)に代わって、(1)に規定する原著論文のうちの1本を『立教大学心理学研究』または『立教大学臨床心理学研究』掲載論文（原著、展望、短報でも可、ただし第1著者に限る）とすることを認める。
- (4) 論文博士であっても、立教大学文学研究科または現代心理学研究科の博士課程後期課程に3年以上在籍した後退学した人が、退学後3年以内に博士学位申請論文を提出した場合は、(3)の特例を認める。
- (5) 掲載が決定していれば、未刊行の論文を研究業績として扱うことができる。
- (6) (1)～(5)に規定する研究業績は、博士学位申請論文の内容と関連しているものであることを要する。

【映像身体学専攻】

博士学位申請に関する内規で定めるとおりとする。

2. 申請前の予備手続き

博士学位申請者は、新座キャンパス学部事務5課（7号館1階）に論文を提出する14日以上前までに、履歴書、業績リスト、論文要旨を指導教員に提出しなければならない。申請者は、業績要件を満たすためにカウントする論文について、その掲載誌と別刷を提示することが必要である。専攻会議では、資格予備審査を行い、審査委員会構成案（主査1名、副査2名以上）を決定する。

3. 博士論文

- (1) 博士（課程博士）の学位取得を希望するものは、博士の学位論文申請（課程博士）を新座キャンパス学部事務5課（7号館1階）に提出しなくてはならない。
- (2) 学位申請論文（課程博士）は後期課程3年次末までに5学期分の研究指導を終了している者が提出することを原則とする。最長在学年度内に提出しない場合には、博士（課程博士）の学位の取得は認められない。
- (3) 学位授与は3月と9月の年2回行われる。

学位の授与を希望する時期	申請期限（論文提出期限）
2019年3月	2018年11月末まで
2019年9月	2019年4月末まで

- (4) 学位申請論文（課程博士）の提出の手続きは立教大学博士学位申請手続要領の定めるところによる。
- (5) 本学大学院後期課程に3年以上在学して退学した者が、博士の学位の授与を申請する場合には、論文博士の規定（立教大学学位規則第4条第3項）に従う。
- (6) 現代心理学研究科において受理を認められた博士学位申請論文は、「立教大学学位規則」に則り、主査1名、副査2名以上の審査委員からなる審査委員会により審査される。学位審査の厳格性を確保するため、副査のうち1名は関連分野の本学専任教員とし、1名は関連分野の専門家とする。また、学位審査の客観性を確保するため、学位申請者との最終試験は、公開とする。
- (7) 博士論文の審査は次の基準にもとづいて行う。

〈心理学専攻〉

1. 研究テーマが明確で学術上の意義があること
2. 論文構成が適切で、論旨が論理的に展開されていること
3. 問題提起と実験、調査、事例などに基づく研究成果、理論的考察と明確な結論をそなえた研究であること
4. 当該研究分野において独創的な学術的貢献をなしていること
5. 研究に対して倫理的配慮がなされていること
6. 研究において立教大学研究活動行動規範を遵守していること

〈臨床心理学専攻〉

1. 研究テーマが明確で専門的かつ独創的であり、臨床心理学において独創的な学術的貢献をなしていること
2. 研究テーマが臨床心理学の実践に基礎的、あるいは応用的な貢献をするものであること
3. 論文の構成が適切で、論旨展開が論理的に明晰であること
4. 問題提起と実験、調査、事例などに基づく研究成果、理論的考察と明確な結論をそなえた研究であること
5. 研究に対して高い倫理性を有していること

6. 研究において立教大学研究活動行動規範を遵守していること

〈映像身体学専攻〉

1. 研究テーマが明確で専門的かつ独創的であること
2. 研究内容と方法が適切で専門的であること
3. 論文の構成が適切で、論旨展開が論理的に明晰であること
4. 使用する文献の引用が明確で適切であること
5. 当該研究分野において独創的な学術的貢献をなしていること
6. 研究において立教大学研究活動行動規範を遵守していること

4. 審査スケジュール（目安）

	3月授与予定者	9月授与予定者
申請前予備手続き	10月中～下旬	2月中～下旬
資格予備審査	11月上旬	3月上旬
博士論文提出	11月中～下旬	4月中～下旬
審査委員会発足	11月下旬	4月下旬
第1回審査委員会	～12月上旬	～5月上旬
第2回審査委員会	～12月中旬	～5月下旬
博士学位申請論文公開審査会	～1月上旬	6月上～中旬
第3回審査委員会	～1月上旬	～6月下旬
学位授与予備審査 (専攻会議, 主任会)	1月中～下旬	6月下旬～7月上旬
学位授与審査 (研究科委員会, 大学院委員会)	1月中旬～2月中旬	7月上～下旬

7 試験・成績

- (1) 各学期の研究指導の結果については、下記のとおり表示し、成績参照システムに発表する。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

〈各学期の研究指導の結果〉

各学期の研究指導	成績通知の表示	証明書の表示
終了	認	認
未終了	不	表示されない
Q 注)	Q	表示されない

注) 成績確定前に、休学したものおよび在学留学したもの

〈各学期の研究指導の結果発表〉

春学期：2018年9月5日(水)

秋学期：2019年3月13日(水)

*研究指導の結果発表には、当該年度の全科目（学部・講座・前期課程科目を含む）の成績と研究指導の結果、および過年度の合格（認定）科目についても記載されている。

- (2) 博士課程前期課程の科目を履修した場合、その科目の試験・成績については、博士課程前期課程履修規定その他注意事項 **全専攻** の **5** 試験・成績 を参照すること。

8 最長在学年数、休学・退学などに関する事項

1. 最長学年数
博士課程後期課程における最長在学年数は、6年とする。
* 休学した期間は在学年数に算入されない。
2. 休学・退学・
など
休学、退学、復学、および再入学については、「大学院学則第4章」および「Ⅷ. 学生証・学籍・学費」を参照すること。

9 オフィスアワー

オフィスアワーは、それぞれ専任教員が、主として担当する授業に関する質問や勉学の相談等に応じることを目的として、授業期間中の毎週決まった時間帯に研究室で待機する制度である。授業内容等に関する質問がある場合には、オフィスアワーの時間帯に担当教員の研究室を訪ね質問することができる。

※兼任講師の担当する授業に関する質問は、授業終了後の時間帯を利用し質問すること。

オフィスアワーの時間帯は履修要項の「教員一覧」参照すること。

心理学専攻（博士課程後期課程）

1. 研究指導について

心理学専攻は、原則として学生の希望に基づき、1年次春学期中に指導教員1名を選定し、あわせて指導教員と協議の上、副指導教員を選定する。指導教員および副指導教員は、学生の在学期間中、継続して協力して研究指導を担当する。

副指導教員の選定について、「研究計画書」に指導教員の氏名を、「副指導教員届」に副指導となることを希望する教員氏名を記入し、それぞれ定められた期間に心理学科教育研究支援室に届け出ることとする。なお、副指導教員の決定については、届出をもとに専攻において審議し、伝達することとする。

研究の一貫性の観点からは、後期課程3年間は同一の教員の指導を受けることが望ましい。しかし、教員側の事情または学生側の事情により、指導教員を変更することもある。例えば、教員の退職、研究休暇、学生本人の休学留学、研究関心や領域の変化などの事由である。

各指導教員は、論文提出に関する諸規定等を踏まえ、担当する学生に対して年間を通して研究上の個別の指導と助言を行う。

また、一年に一度、研究報告会を開催し、研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

研究指導担当予定の教員とその専攻領域は下表のとおりである。

2. 研究指導担当 予定の教員・ 研究指導領域・ 研究指導概要

教員名	専攻領域
浅野倫子	認知心理学, 実験心理学, 言語心理学
堀耕治	学習心理学, 実験的行動分析
大野久	発達心理学 (青年期), 人格心理学
塚本伸一	発達心理学, 教育心理学
日高聡太	知覚心理学, 実験心理学, 認知心理学
小口孝司	社会心理学, 産業・組織心理学, 観光心理学
都築誉史	認知心理学, 社会心理学, 認知科学

なお、研修指導のナンバリングはPSY7910である。

臨床心理学専攻（博士課程後期課程）

1. 研究指導について

学生は、入学後すみやかに、研究指導を希望する教員と面談して指導教員を決定し、指導教員と協議の上、1年次の春学期中に副指導教員を選定する。指導教員および副指導教員は、学生の在学期間中、継続して協力して研究指導を担当する。

副指導教員の選定について、「研究計画書」に指導教員の氏名を、「副指導教員届」に副指導となることを希望する教員氏名を記入し、それぞれ定められた期間に心理学科教育研究支援室に届け出ることとする。なお、副指導教員の決定については、届出をもとに専攻において審議し、指導教員から担当する学生に対して個別に伝達することとする。

研究の一貫性の観点からは、後期課程3年間は同一の教員の指導を受けることが望ましい。しかし、教員側の事情または学生側の事情により、指導教員を変更することもある。例えば、教員の退職、研究休暇、学生本人の休学留学、研究関心や領域の変化などの事由である。

各指導教員は、論文提出に関する諸規定等を踏まえ、担当する学生に対して年間を通して研究上の個別の指導と助言を行う。

また、一年に一度、研究報告会を開催し、研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

研究指導担当予定の教員とその専攻領域は下表のとおりである。

2. 研究指導担当 予定の教員・ 研究指導領域・ 研究指導概要

教員名	専攻領域
林 もも子	臨床心理学, 精神分析学
逸見 敏郎	カウンセリング, 人格心理学
松永 美希	臨床心理学, 認知行動療法, 健康心理学
山田 哲子	臨床心理学, 家族心理学, 家族療法
大石 幸二	応用行動分析学, 障害児(者)心理学
山中 淑江	臨床心理学, カウンセリング

なお、研修指導のナンバリングはCLP7910である。

映像身体学専攻（博士課程後期課程）

1. 研究指導について

学生は、入学時点において、研究指導を受ける指導教員1名を選定する。

研究一貫性の観点からは、後期課程3年間は同一の教員の指導を受けることが望ましい。しかし、教員側の事情または学生側の事情により、指導教員を変更することもある。例えば、教員の退職、研究休暇、学生本人の休学留学、研究関心や領域の変化などの事由である。

各指導教員は、論文提出に関する諸規定等を踏まえ、担当する学生に対して年間を通して研究上の個別の指導と助言を行う。

また、一年に一度、研究報告会を開催し、研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

研究指導担当予定の教員とその専攻領域は下表のとおりである。

2. 研究指導担当 予定の教員・ 研究指導領域・ 研究指導概要

教員名	専攻領域
香 山 リ カ	臨床精神医学, 病跡学
大 山 載 吉	映像身体論, 哲学, 表象文化論
万 田 邦 敏	劇映画演出
加 藤 千 恵	中国身体論, 道教
中 村 秀 之	映画学, 文化社会学, 表象文化論
佐 藤 一 彦	次世代デジタルコンテンツの制作手法の開発
篠 崎 誠	映像作品演出
田 崎 英 明	現代思想, ジェンダー/セクシュアリティ理論
松 田 正 隆	戯曲・シナリオ創作, 演劇・パフォーマンス研究
江 川 隆 男	西洋近代哲学, 現代思想, 精神と身体の哲学, 身体倫理学
日 高 優	映像身体学, 写真研究, 表象文化論

なお、研修指導のナンバリングはBEC7910である。

諸規則

- 1 立教大学学則（抜粋）
- 2 立教大学大学院学則（抜粋）
- 3 立教大学学位規則（抜粋）
学位規則第3条第4項に関する諒解事項
- 4 現代心理学部専門教育科目試験規則
- 5 立教大学博士学位申請手続要領（抜粋）
- 6 博士学位論文取扱い事務に関する内規（抜粋）
- 7 立教大学大学院学位論文審査手数料規則
- 8 立教大学大学院学費その他納入金内規
- 9 立教大学大学院学生会発表奨励金規程
- 10 学習院大学・学習院女子大学・日本女子大学・立教大学・早稲田大学学生交流に関する覚書
- 11 明治大学、立教大学及び国際大学による共同教育プログラムの履修等に関する覚書

1 立教大学学則（抜粋）

第1章 総則

(目的)

第1条 本大学は、キリスト教に基づく人格の陶冶を旨とし、学校教育法（昭和22年法律第26号）により学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めることを目的とする。

2 学部ごとの、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別表7のとおりとする。

(設置)

第2条 本大学に学部及び大学院を置く。

(学部、学科等)

第3条 略

(修業年限)

第4条 1年次から同一学部・学科・専修に在学する者の修業年限は4年とする。ただし、在学年数は8年を超えることができない。

2 2年次に編入学又は転部・転科した者の当該学部・学科の修業年限は3年とする。ただし、在学年数は7年を超えることができない。

3 3年次に編入学又は転部・転科・転専修した者の当該学部・学科・専修の修業年限は2年とする。ただし、在学年数は6年を超えることができない。

(学士の学位)

第5条 1年次から同一学部・学科・専修に4年以上在学して、所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者には学士の学位を授与する。

2 2年次に編入学又は転部・転科した場合、当該学部・学科に3年以上在学して、所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者には学士の学位を授与する。

3 3年次に編入学又は転部・転科・転専修した場合、当該学部・学科・専修に2年以上在学して、所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者には学士の学位を授与する。

4 学部・学科において授与する学士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

学 部	学 科	専攻分野名
文 学 部	キリスト教学科	文学
	史 学 科	
	教 育 学 科	
	文 学 科	文学
		学術
経 済 学 部	経 済 学 科	経済学
	会計ファイナンス学科	
	経 済 政 策 学 科	
理 学 部	数 学 科	理学
	物 理 学 科	
	化 学 科	
	生 命 理 学 科	
社 会 学 部	社 会 学 科	社会学
	現 代 文 化 学 科	
	メディア社会学科	
法 学 部	法 学 科	法学
	政 治 学 科	
	国際ビジネス法学科	
観 光 学 部	観 光 学 科	観光学
	交 流 文 化 学 科	
コミュニティ福祉学部	福 祉 学 科	コミュニティ福祉学
	コミュニティ政策学科	
	スポーツウエルネス学科	
経 営 学 部	経 営 学 科	経営学
	国 際 経 営 学 科	
現 代 心 理 学 部	心 理 学 科	心理学
	映 像 身 体 学 科	
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	異文化コミュニケーション学

(学年)

第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を分けて次の2期とする。

春学期 4月1日から9月19日まで

秋学期 9月20日から翌年3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）で規定する休日

(3) 本大学創立記念日 5月5日

(4) 春季休業 2月上旬から3月下旬まで

(5) 夏季休業 7月下旬から9月中旬まで

(6) 冬季休業 12月下旬から翌年1月上旬まで

2 前項の休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることがある。

第2章 教育課程

第1節 単位

第9条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 輪講、実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

第10条 学生は、第13条から第18条の6に定める所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

2 授業科目は、全学共通科目及び専門教育科目は配当年次の指定科目を除き全学年において履修させる。

第10条の2 本大学は、教育上有益と認めるときは、教授会の定めるところにより、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

第10条の3 本大学は、教育上有益と認めるときは、教授会の定めるところにより、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、前条第1項及び第2項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第10条の4 本大学は、教育上有益と認めるときは、教授会の定めるところにより、学生が本大学に入学する前に、大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本大学は、教育上有益と認めるときは、教授会の定めるところにより、学生が本大学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転部等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第10条の2第1項及び第2項並びに前条第1項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第11条 小学校、中学校、高等学校教諭1種免許状取得希望者は、各学部・学科・専修に配置された教科に関する専門教育科目及び文学部教育学科に配置された小学校、中学校、高等学校教育職員免許状取得に必要な教職に関する専門教育科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

2, 3, 4 略

第12条 学芸員の資格を取得しようとする者は、各学部・学科所定の単位のほか、第19条に定められた博物館に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

博物館に関する科目及びその単位は、第10条に規定する授業科目及び単位には含まれない。

2 司書の資格及び司書教諭の資格を取得しようとする者は、第19条に定められた図書館に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

図書館に関する科目及びその単位は、第10条に規定する授業科目及び単位には含まれない。

3 社会教育主事の資格を取得しようとする者は、第19条に定められた社会教育に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

社会教育に関する科目及びその単位は、第10条に規定する授業科目及び単位には含まれない。

第13条～第19条 略

第3章 試験

第20条 削除

第21条 試験は、各授業科目について行い、合格、不合格を定める。

2 試験成績は、100点を満点とし、60点以上を合格とし、60点未満を不合格とする。

3 試験に合格した者には、その授業科目所定の単位を与える。

第22条 忌引その他の事由により試験を受けることができなかった者のために、追試験を行うことがある。

第23条 休学中は、試験を受けることができない。

第4章 入学、編入学、休学、復学、退学、再入学及び除籍

(入学)

第24条 略

第24条の2 立教新座高等学校、立教池袋高等学校及び日本聖公会関係の各高等学校又は本大学の推薦入学者制度の指定を受けた高等学校の卒業生中当該学校長の推薦した者については、前条の規定にかかわらず選抜試験の一部又は全部を免除することができる。

(編入学)

第25条 2年次以上に編入学又は転部・転科・転専修を許可する者は、別に定める本大学の編入学又は転部・転科・転専修の資格を有し、かつ、本大学で行う選抜試験に合格し所定の手続を完了した者とする。

第26条 第24条による入学資格を有しない外国人学生であって在外公館の推薦ある者は、審査の上、学修を許可することができる。

2 前項により学修を許可された者は、第5条を除き本学則を準用する。

(入学期)

第27条 入学期は、学年又は学期の初めとする。

2 第50条の2に規定する特別外国人学生の入学時期は、各年の4月1日又は9月1日とすることができる。

3 略

(入学志願手続)

第28条 入学志願者は、入学願書、出身学校長証明の調査書、写真を提出し、かつ、別表2の1若しくは別表2の2による入学検定料を納めなければならない。

(入学手続)

第29条 選抜試験に合格した者で本大学に入学しようとする者は、保証人を定め、所定の期日までに保証書を提出し、その他指定された手続をしなければならない。

2 本大学は、前項の手続を完了した者に対して入学を許可する。

第30条 保証人は、本人在学中に係る一切の事項についてその責に任じ、本人の父母又はこれに代わるべき者でなければならない。

第31条 保証人が死亡し又は前条の要件を欠いた時は、遅滞なく新たな保証人を定め更に保証書を提出しなければならない。

(休学及び復学)

第32条 病気その他やむを得ない事由により満2か月以上就学することができないときは、その事実を証明する書面を添え保証人連署をもって願出で許可を受け当該学期間休学することができる。

2 休学中の期間は、在学年数に算入しない。

3 休学回数は、通算して8回を超えることができない。

4 休学者は、第1項により休学した期間終了後、学期の初めにおいて復学する。

(退学)

第33条 病気その他の事由により退学しようとする場合は、保証人連署をもって願出で許可を受けなければならない。

(再入学)

第34条 願いにより退学した者が再入学を願い出るときは、学年又は学期の初めにおいて原年次に入学を許可することができる。

第35条 再入学を許可された者は、第29条に規定する手続をしなければならない。

(除籍)

第36条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

(1) 第4条各項のただし書に定める在学年数を超えた者

(2) 学費を納めない者

第36条の2 入学、編入学、休学、復学、退学及び再入学の許可並びに除籍は、教授会の議を経て、総長が行う。

第5章 留学

第37条 本大学の学生が本大学との間にあらかじめ学生の相互交流を目的とする協定、又は本大学からの留学に関する協定が成立している外国の大学、又はこれに相当する高等教育機関等及び本学が認めた同等の大学、機関の授業科目を履修するため当該大学等への留学を希望するときは、審査の上、本人の教育上有益であると認める場合、これを許可することができる。

2 前項による留学は、本大学における学籍上の扱いを在学のままとする留学(以下「在学留学」という。)及び休学とする留学(以下「休学留学」という。)の2種とする。

第38条 在学留学の許可を受けた者については、その許可を受けた期間を本大学における在学年数に算入する。

第39条 在学留学の許可を得た者が、留学した大学等において修得した単位

又は成果のうち、教授会が適当と認めたものは、第10条の2第2項に基づき、本大学の卒業に必要な単位として認定することができる。

第40条 第32条の規定は、休学留学のための休学に準用する。

第6章 学費その他

第41条 選抜試験に合格した者で本大学に入学しようとする者は、別表2の3及び別表2の4による学費を指定された入学手続期間内に納めなければならない。

2 学生は、別表2の4による学費を毎学年授業開始後の指定の期日までに納めなければならない。

3 第1項及び前項に定める学費のうち授業料、教育充実費及び実験・実習費は、春学期・秋学期に分納するものとする。

第42条 学費とは、入学金、授業料(在籍料を含む。)、教育充実費及び実験・実習費をいう。

第43条 学費は、休学中も別に定める額を納めなければならない。

第44条 学年の途中で退学する場合も、学費は別に定める額を納めなければならない。

第45条 既に納めた学費その他の納入金は、次項及び第3項に定めた場合を除いて、返還しない。

2 選抜試験に合格し学費その他の納入金を納めた者のうち、やむを得ない事由により、所定の手続きに則り入学辞退願を提出した者については、入学金を除く学費その他の納入金を返還するものとする。

3 出願時に卒業見込みや所定単位修得見込みなどで選抜試験に合格し、学費その他の納入金を納めた後に、卒業不可や所定単位未修得などが確定し、入学資格要件を満たすことができなくなった者は、届け出により入学金を含む学費その他の納入金を返還するものとする。

第46条 在学中の学費その他について変更のあった場合には、新たに定められた額に基づいて納めなければならない。

第47条 教育職員免許状取得に必要な教職に関する専門科目及び学芸員・司書・司書教諭・社会教育主事の資格取得に必要な科目を履修する者は、別表3による受講料を納めなければならない。

第48条 削除

第49条 証明書等の交付を受ける者は、別表5による手数料を納めなければならない。

第50条 学費滞納者には、当該年次の単位認定、研究指導の認定及び学位の授与を行わない。

第6章の2 特別外国人学生

(特別外国人学生)

第50条の2 本大学と協定のある外国の大学から派遣される学生及び政府その他の機関から本大学に委託される外国人学生は、審査の上、特別外国人学生として入学を許可することができる。

第50条の3 入学を許可された特別外国人学生は、所定の手続をし、かつ、別に定める納入金を納めなければならない。

(単位の認定)

第50条の4 特別外国人学生が履修した授業科目については、所定の単位を与えることができる。

(学則の準用)

第50条の5 特別外国人学生については、第5条を除き本学則を準用する。

第50条の6 略

第7章 科目等履修生・特別聴講学生・短期プログラム受講生

(科目等履修生)

第51条 各学部及び全学共通科目所定の授業科目中その1授業科目又は数授業科目の学修を願い出る者に対して、選考の上、科目等履修生として学修を許可することができる。

2 教職課程、学芸員課程、司書課程及び社会教育主事課程の所定の授業科目の学修を願い出る者に対して、選考の上、科目等履修生として学修を許可することができる。

3 科目等履修生として学修を願い出る者は、別表6による選考料を納めなければならない。

4 科目等履修生が、その履修した授業科目に合格した場合には、所定の単位を与える。

(特別聴講学生)

第51条の2 本大学と協定のある他大学学生及び他の教育機関の学生・生徒が、本大学の授業科目の学修を願い出るときは、特別聴講学生として許可することができる。

2 特別聴講学生が、その聴講した科目に合格した場合には、所定の単位を与える。

(短期プログラム受講生)

第51条の3 略

(登録料及び受講料)

第52条 第51条第1項及び第2項で科目等履修生として学修を許可された者は、別表6による登録料及び受講料を指定された期間内に納めなければならない。

第53条 削除

(学則の準用)

第54条 科目等履修生、特別聴講学生については、第5条を除き本学則を準用し、第51条、第51条の2及び第52条で規定した以外の事項については別に定める細則による。

第54条の2 略

第8章 賞罰

第55条 品行方正学業優等の者又は善行により本大学の名誉を揚げた者は、これを表彰する。

第56条 本大学の規則に違反し、又は本大学の教育方針に背いた者は、これを懲戒する。

2 懲戒は、訓告、停学及び退学の3種とする。

3 退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 学業を怠り成業の見込みのないと認められる者
- (2) 性行不良で改善の見込みのないと認められる者
- (3) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 停学は、行為により以下の各号が適用される場合がある。

- (1) 停学期間を在学年数に算入しない。
- (2) 当該年度の卒業を認めない。

5 停学中は以下の各号が適用される。

- (1) 停学中は、大学からの指示がある場合を除き、原則として大学に来ることはできない。
- (2) 当該科目の授業時数の2分の1以上の期間にわたって停学であった場合は、当該科目の単位修得は認められない。
- (3) 停学中は休学を願い出ることはできない。
- (4) 停学中は第37条による留学はできない。

第57条 賞罰は、教授会の議を経て、総長がこれを行う。

第9章 教職員組織 略

第10章 教授会 略

第11章 附属施設

第1節 礼拝堂

第78条 礼拝堂は、本大学の建学精神の象徴であつて教職員及び学生が日本聖公会の信仰と法憲・法規に基づいてキリスト教生活を営むことを目的とする。

第79条 礼拝堂においては、次の行事を行う。

- (1) 礼拝
- (2) 本学の諸式典
- (3) キリスト教講演
- (4) 聖書研究
- (5) その他のキリスト教行事

第2節 図書館

第80条 本大学図書館は、池袋図書館、新座図書館、及び新座保存書庫をもつて構成する。

第81条～第84条 略

第3節 診療所

第85条 診療所は、教職員並びに学生の保健衛生思想の向上、疾病の予防並びに診療を行うことを目的とする。

第86条 本診療所の目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 定時並びに不定時健康診断の実施
- (2) 治療の実施
- (3) 保健衛生に関する講演会の開催
- (4) その他必要と認められた事項

第4節 学生相談所

第87条 略

第88条 学生相談所は、学生が当面する問題について、カウンセリングを行うことを目的とする。

第89条 略

第5節 研究所等

第90条 この大学に、研究所、センターその他の附属教育研究機関（以下「研究所等」という。）を置く。

第91条 前条の研究所等については、別に定める。

附則 略

2 立教大学大学院学則（抜粋）

第1章 総則

(目的)

第1条 本大学院は、学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上に、専門の学術を研究し、その深奥を究め、かつ、キリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与することを目的とする。

2 研究科ごとの、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別表8のとおりとする。

(課程)

第2条 本大学院は、修士課程、博士課程及び専門職学位課程とする。

2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業等を担うための卓越した能力を培うものとする。

3 博士課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

4 専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を養うものとする。

(研究科・専攻等)

第2条の2 略

(課程の区分と修業年限)

第3条 本大学院の標準修業年限は、修士課程2年、博士課程5年とし、博士課程は、これを2年の前期課程及び3年の後期課程に区分する。

2 前期課程は、これを修士課程として取り扱う。

3 第1項にかかわらず、キリスト教学研究科キリスト教学専攻博士課程前期課程のうち実務経験を有する者を対象としたコースの標準修業年限は1年とする。

(収容定員)

第4条 略

第4条の2 削除

(修士課程並びに前期課程の修了要件及び修士の学位の専攻分野)

第5条 修士課程又は前期課程に2年以上在学して授業を受け、30単位以上を修得し、かつ、学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）を受けた上、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、第3条第3項に規定するコース及び優れた研究業績を上げた者については、修士課程又は前期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 前項の場合において、当該修士課程又は前期課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

3 本大学院において授与する修士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

研究科	専攻	専攻分野名
文学研究科	英米文学専攻	文学
	史学専攻	
	教育学専攻	教育学
	日本文学専攻	文学
	フランス文学専攻	
	ドイツ文学専攻	
経済学研究科	比較文明学専攻	比較文明学
	超域文化学専攻	文学
	経済学専攻	経済学 会計学
理学研究科	物理学専攻	理学
	化学専攻	
	数学専攻	
	生命理学専攻	
社会学研究科	社会学専攻	社会学
法学研究科	法学政治学専攻	法学 政治学
観光学研究科	観光学専攻	観光学
コミュニティ福祉学 研究科	コミュニティ福祉学専攻	コミュニティ福祉学 スポーツウエルネス学
	ビジネスデザイン専攻	経営管理学
21世紀社会デザイン研究科	比較組織ネットワーク学専攻	社会デザイン学
異文化コミュニケーション 研究科	異文化コミュニケーション専攻	異文化コミュニケーション学
経営学研究科	経営学専攻	経営学
	国際経営学専攻	国際経営学
		公共経営学

現代心理学研究科	心理学専攻	心理学
	臨床心理学専攻 映像身体学専攻	臨床心理学 映像身体学
キリスト教学研究科	キリスト教学専攻	神学 文学 実践神学

(博士課程の修了要件及び博士の学位の専攻分野)

第6条 博士課程に5年（修士課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については博士課程に3年（修士課程を修了した者にあつては当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

2 標準修業年限が1年以上2年未満の修士課程を修了した者、及び前条第1項のただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了要件は、博士課程に修士課程における在学期間に3年を加えた期間以上在学し、研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については博士課程に3年（修士課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

3 専門職学位課程を修了した者が博士課程の後期課程に入学した場合は、博士課程後期課程に3年（法科大学院の課程を修了した者にあつては2年）以上在学し、研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については、博士課程後期課程に1年（標準修業年限が1年以上2年未満の専門職学位課程を修了した者については、博士課程の3年から当該専門職学位課程の標準修業年限を減じた期間）以上、在学すれば足りるものとする。

4 前3項の規定にかかわらず、第20条第5号の規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士課程後期課程に入学した場合は、博士課程後期課程に3年以上在学し、研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については博士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

5 前4項の規定にかかわらず、本大学院の博士課程を経ないで論文を提出し博士の学位を請求した者で、論文の審査及び最終試験に合格し、かつ、専攻学術に関し、前4項の規定により本大学院の博士課程を修了した者と同等に広い学識を有することを確認された者に、博士の学位を授与することができる。

6 本大学院において授与する博士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

研究科	専攻	専攻分野名
文学研究科	英米文学専攻	文学
	史学専攻	
	教育学専攻	教育学
	日本文学専攻	文学
	フランス文学専攻	
	ドイツ文学専攻	
経済学研究科	比較文明学専攻	比較文明学
	超域文化学専攻	文学
	経済学専攻	経済学 会計学
理学研究科	物理学専攻	理学
	化学専攻	
	数学専攻	
	生命理学専攻	
社会学研究科	社会学専攻	社会学
法学研究科	法学政治学専攻	法学 政治学
観光学研究科	観光学専攻	観光学
コミュニティ福祉学 研究科	コミュニティ福祉学専攻	コミュニティ福祉学 スポーツウエルネス学
	ビジネスデザイン専攻	経営管理学
21世紀社会デザイン研究科	比較組織ネットワーク学専攻	社会デザイン学
異文化コミュニケーション 研究科	異文化コミュニケーション専攻	異文化コミュニケーション学
経営学研究科	経営学専攻	経営学
	国際経営学専攻	国際経営学
		公共経営学
現代心理学研究科	心理学専攻	心理学
	臨床心理学専攻 映像身体学専攻	臨床心理学 映像身体学

キリスト教学研究科	キリスト教学専攻	神学
		文学

(学位論文等の審査及び試験)

第7条 学位論文及び特定の課題についての研究の成果の審査並びに最終試験等については、別に定める。

(最長在学年数)

第8条 本大学院における最長在学年数は、修士課程及び前期課程にあっては4年、後期課程にあっては6年とする。

(研究室)

第9条 本大学院の目的を達成し、学生の研究指導を行うため、各研究科にその専攻部門に応じて研究室を置く。

2 研究室に関する規程は、別に定める。

(学年及び学期)

第10条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 学年を分けて次の2期とする。

春学期 4月1日から9月19日まで

秋学期 9月20日から翌年3月31日まで

(休業日)

第11条 休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)で規定する休日

(3) 本大学創立記念日 5月5日

(4) 春季休業 2月上旬から3月下旬まで

(5) 夏季休業 7月下旬から9月中旬まで

(6) 冬季休業 12月下旬から翌年1月上旬まで

2 前項の休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることがある。

第2章 教育課程

(教育方法)

第12条 本大学院の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。

(教育方法の特例)

第12条の2 次の研究科に、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行う修士課程及び博士課程を置き、次の専攻を置く。

経済学研究科 経済学専攻 前期課程

観光学研究科 観光学専攻 前期課程

ビジネスデザイン研究科

ビジネスデザイン専攻 博士課程

21世紀社会デザイン研究科

比較組織ネットワーク学専攻 博士課程

(履修方法等)

第13条 各研究科における授業科目及び単位数並びに研究指導等の履修方法は、各研究科において定め、別表1のとおりとする。

(単位の認定)

第14条 授業科目を履修した者に対しては、試験の上、その合格者に所定の単位を与える。

(他大学院等における授業科目の履修及び研究指導)

第15条 各研究科において教育研究上有益と認めるときは、本学の平和・コミュニティ研究機構及び他大学院とあらかじめ協議の上、同機構及び当該大学院の授業科目を履修させることができる。

2 各研究科において教育研究上有益と認めるときは、学生が本大学院に入学する前に、他大学院において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本大学院に入学した後の本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 各研究科において教育研究上有益と認めるときは、他大学院等とあらかじめ協議の上、後期課程の学生が当該大学院等において研究指導を受けることを認めることができる。

4 第1項及び第2項の規定により修得した授業科目の単位は、合わせて10単位を超えない範囲で本大学院博士課程前期課程又は修士課程の修了に必要な単位数に算入することができる。

(教育職員免許状の種類)

第15条の2 略

第3章 教員組織 略

第4章 入学、休学、復学、再入学、退学、及び除籍

(修士課程及び前期課程への入学)

第19条 修士課程又は前期課程に入学を許可する者は、次の各号の一に該当し、かつ、選抜試験に合格し所定の手続を完了した者とする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構において、学士の学位を取得した者

(3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

(5) 日本国内において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

(6) 外国の大学等(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上の課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者

(7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(8) 文部科学大臣の指定した者

(9) 本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したもの

(後期課程への進学又は編入学)

第20条 後期課程に進学又は編入学を許可する者は、次の各号の一に該当し、かつ、選抜試験に合格し所定の手続を完了した者とする。

(1) 修士の学位を有する者

(2) 専門職学位を有する者

(3) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(5) 日本国内において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(6) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者

(7) 外国の学校、学校教育法施行規則第156条第3号の指定を受けた教育施設または国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(8) 文部科学大臣の指定した者

(9) 本大学院において、修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの

(入学の時期)

第21条 入学の時期は、学年又は学期の初めとする。

2 第36条の2に規定する特別外国人学生の入学時期は、各年の4月1日又は9月1日とすることができる。

3 略

(入学志願手続)

第22条 入学志願者は、別表2による入学検定料を納入し、所定の手続をしなければならない。

(入学手続)

第23条 選抜試験に合格した者で本大学院に入学しようとする者は、保証人を定め、所定の期日までに保証書を提出し、その他指定された手続をしなければならない。

2 本大学院は、前項の手続を完了した者に対して入学を許可する。

(休学及び退学等)

第24条 病気その他の事由によって休学又は退学しようとする者は、保証人連署をもって願い出て、許可を受けなければならない。

2 休学の期間は、当該学期間とし在学年数に算入しない。

3 休学回数は、通算して修士課程及び博士課程前期課程は4回、博士課程後期課程は6回を超えることができない。

4 休学者は、第2項により休学した期間終了後、学期の初めにおいて復学する。

5 第1項により退学した者が再入学を願い出たときは、学年又は学期の初めにおいて許可することがある。再入学を許可された者は、前条に規定する手続をしなければならない。

(除籍)

第25条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

(1) 第8条に規定する最長在学年数を超えた者

(2) 学費を納めない者

第25条の2 入学、休学、復学、再入学及び退学の許可並びに除籍は、研究科委員会の議を経て、総長が行う。

第5章 留学

第26条 本大学院の学生が本大学院との間にあらかじめ学生の相互交流を目的とする協定、又は本大学院からの留学に関する協定が成立している外国の

大学、又はこれに相当する高等教育機関等及び本学が認めた同等の大学、機関の授業科目を履修し、又は研究指導を受けるため当該大学等への留学を希望するときは、審査の上、本人の教育上有益であると認める場合、これを許可することができる。

2 前項による留学は、本大学院における学籍上の扱いを在学のままとする留学（以下「在学留学」という。）及び休学とする留学（以下「休学留学」という。）の2種とする。

第27条 在学留学の許可を受けた者については、その許可を受けた期間を本大学院における在学年数に算入する。

第28条 在学留学の許可を得た者が、留学した大学等において修得した単位又は成果のうち、研究科委員会が適当と認めたものは、本大学院の課程の修了に必要な単位として認定することができる。ただし、認定し得る単位数は、10単位を限度とする。

第29条 第24条の規定は、休学留学のための休学に準用する。

第6章 学費その他

第30条 選抜試験に合格した者で本大学院に入学しようとする者は、別表3の1及び別表3の2による学費を指定された入学手続期間内に納めなければならない。

2 学生は別表3の2による学費を毎学年授業開始後の指定の期日までに納めなければならない。

3 第1項及び前項に定める学費のうち授業料、教育充実費及び実験・実習費は、春学期・秋学期に分納するものとする。

4 学費とは、入学金、授業料（在籍料を含む。）、教育充実費及び実験・実習費をいう。

第31条 学費は、休学中も別に定める額を納めなければならない。

第32条 学年の途中で退学する場合も、学費は別に定める額を納めなければならない。

第33条 既に納めた学費その他の納入金は、次項及び第3項に定めた場合を除いて、返還しない。

2 選抜試験に合格し学費その他の納入金を納めた者のうち、やむを得ない事由により、所定の手続きに則り入学辞退願を提出した者については、入学金を除く学費その他の納入金を返還するものとする。

3 出願時に卒業見込みや所定単位修得見込みなどで選抜試験に合格し、学費その他の納入金を納めた後に、卒業不可や所定単位未修得などが確定し、入学資格要件を満たすことができなくなった者には、届け出により入学金を含む学費その他の納入金を返還するものとする。

第34条 在学中の学費その他について変更のあった場合には、新たに定められた額に基づいて納めなければならない。

第35条 証明書等の交付を受ける者は、別表4による手数料を納めなければならない。

第36条 学費滞納者には、当該年次の単位認定、研究指導の認定及び学位の授与を行わない。

第6章の2 特別外国人学生

(特別外国人学生)

第36条の2 本大学院と協定のある外国の大学から派遣される学生及び政府その他の機関から本大学院に委託される外国人学生は、審査の上、特別外国人学生として入学を許可することができる。

第36条の3 入学を許可された特別外国人学生は、所定の手続きをし、かつ、別に定める納入金を納めなければならない。

(単位の認定)

第36条の4 特別外国人学生が履修した授業科目については、所定の単位を与えることができる。

(学則の準用)

第36条の5 特別外国人学生については、第5条及び第6条第1項から第4項までを除き本学則を準用する。

第36条の6 略

第7章 特別聴講学生、科目等履修生、研究生、研修生、短期プログラム受講生

(特別聴講学生)

第37条 本大学院と単位互換制度の協定のある他大学院学生が、本大学院の授業科目の学修又は研究指導を願い出るときは、特別聴講学生として許可することができる。

2 前項により聴講を許可された者は、別表5による特別聴講料を納入し、所定の手続きをしなければならない。

3 特別聴講学生が、その聴講した科目に合格した場合には、所定の単位を与えることができる。

(科目等履修生)

第38条 各研究科所定の授業科目中その1授業科目又は数授業科目の学修を願い出る者に対して、選考の上、科目等履修生として学修を許可することができる。

2 公共団体又はその他の機関により本大学院の授業科目の学修を委託された者に対して、選考の上、科目等履修生として学修を許可することができる。

3 科目等履修生として学修を願い出る者は、別表6による選考料を納めな

なければならない。

4 科目等履修生として学修を許可された者は、別表6による登録料、受講料及び委託料を納めなければならない。

5 科目等履修生が、その履修した授業科目に合格した場合には、所定の単位を与えることができる。

6 本条で規定した以外の事項については、別に定める細則による。

(研究生)

第38条の2 大学院博士課程後期課程の正規の学生の研究に支障のない範囲において、次の者を選考の上、研究生として受け入れを許可することができる。ただし、専任の職務についている者は除くものとする。

(1) 本大学院の博士課程後期課程において所定の研究指導を受け、博士の学位を取得した者で、引き続き研究を希望する者

(2) 本大学院の博士課程後期課程において所定の研究指導を受け、在学6年経過後に退学した者で、引き続き研究を希望する者

2 前項により研究生として受け入れを許可された者は、別表7による登録料を納入し、所定の手続きをしなければならない。

第38条の3 専門職大学院に関しては、別に定める。

(研修生)

第38条の4 本大学院の博士課程前期課程において所定の研究指導を受け、修士の学位を取得し、本大学院の博士課程後期課程への進学の準備をする者を、大学院博士課程前期課程の正規の学生の研究に支障のない範囲において選考の上、研修生として受け入れを許可することができる。

2 前項により研修生として受け入れを許可された者は、別表7による登録料を納入し、所定の手続きをしなければならない。

(短期プログラム受講生)

第38条の5 略

第39条 削除

(学則の準用)

第40条 特別聴講学生、科目等履修生、研究生及び研修生については、第5条、第6条第1項から第4項までを除き本学則を準用する。

第40条の2 略

附則

本学則に規定する事項のほかは立教大学学則を準用する。

3 立教大学学位規則（抜粋）

（目的）

第1条 この規則は、学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第1項から第4項まで並びに学位規則（昭和28年文部省令第9号）並びに立教大学学則（昭和24年4月1日。以下「学則」という。）及び立教大学大学院学則（昭和26年4月1日。以下「大学院学則」という。）に基づき、立教大学（以下「本学」という。）が授与する学位について必要な事項を定めるものとする。

（専攻分野の名称）

第2条 本学の学部・学科において授与する学士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

学 部 名	学 科	専攻分野名
文 学 部	キリスト教学科	文学
	史 学 科	
	教育学科 文学科	文学 学術
経 済 学 部	経 済 学 科	経済学
	会計ファイナンス学科	
	経 済 政 策 学 科	
理 学 部	数 学 科	理学
	物 理 学 科	
	化 学 科	
	生 命 理 学 科	
社 会 学 部	社 会 学 科	社会学
	現代文化学科	
	メディア社会学科	
法 学 部	法 学 科	法学
	政 治 学 科	政治学
	国際ビジネス法学科	法学
観 光 学 部	観 光 学 科	観光学
	交 流 文 化 学 科	
コミュニティ福祉学部	福 祉 学 科	コミュニティ福祉学
	コミュニティ政策学科	
	スポーツウエルネス学科	スポーツウエルネス学
経 営 学 部	経 営 学 科	経営学
	国 際 経 営 学 科	
現 代 心 理 学 部	心 理 学 科	心理学
	映 像 身 体 学 科	映像身体学
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	異文化コミュニケーション学

2 本学大学院において授与する修士及び博士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

研 究 科 名	専攻分野名	
	修 士	博 士
文 学 研 究 科	修士（文学）	博士（文学）
	修士（教育学）	博士（教育学）
	修士（比較文明学）	博士（比較文明学）
経 済 学 研 究 科	修士（経済学）	博士（経済学）
	修士（会計学）	博士（会計学）
理 学 研 究 科	修士（理学）	博士（理学）
社 会 学 研 究 科	修士（社会学）	博士（社会学）
法 学 研 究 科	修士（法学）	博士（法学）
	修士（政治学）	博士（政治学）
観 光 学 研 究 科	修士（観光学）	博士（観光学）
コミュニティ福祉学研究科	修士（コミュニティ福祉学）	博士（コミュニティ福祉学）
	修士（スポーツウエルネス学）	博士（スポーツウエルネス学）
ビジネスデザイン研究科	修士（経営管理学）	博士（経営管理学）
21世紀社会デザイン研究科	修士（社会デザイン学）	博士（社会デザイン学）
異文化コミュニケーション研究科	修士（異文化コミュニケーション学）	博士（異文化コミュニケーション学）

経 営 学 研 究 科	修士（経営学）	博士（経営学）
	修士（国際経営学）	
	修士（公共経営学）	
現 代 心 理 学 研 究 科	修士（心理学）	博士（心理学）
	修士（臨床心理学）	博士（臨床心理学）
	修士（映像身体学）	博士（映像身体学）
キ リ ス ト 教 学 研 究 科	修士（神学）	博士（神学）
	修士（文学）	博士（文学）
	修士（実践神学）	

3 本学専門職大学院において授与する学位を次のとおりとする。

研 究 科 名	学 位 名
法務研究科	法務博士（専門職）

（学位授与の要件）

第3条 本学を卒業した者には、学則第5条第1項、第2項及び第3項の定めるところにより、前条所定の学士の学位を授与する。

2 本学大学院の修士課程又は前期課程を経た者には、大学院学則第5条第1項及び第2項の定めるところにより、前条所定の修士の学位を授与する。

3 本学大学院の後期課程を経た者には、大学院学則第6条第1項から第4項までの定めるところにより、前条所定の博士の学位を授与する。

4 本学大学院の後期課程を経ない者には、大学院学則第6条第5項の定めるところにより、前条所定の博士の学位を授与する。

5 本学専門職大学院の専門職学位課程を経た者には、立教大学専門職大学院学則（2004年4月1日）第5条の定めるところにより、前条所定の学位を授与する。

（学位申請論文の提出）

第4条 修士の学位申請論文（以下「論文」という。）は、各研究科の定めるところにより、総長に提出するものとする。

2 本学大学院の後期課程に在学する者が、博士の学位の授与を申請するときは、学位申請書、研究業績一覧、論文の要旨、履歴書及び別に定める論文審査手数料を添えて、論文を総長に提出するものとする。

3 本学大学院の後期課程を経ない者が、博士の学位の授与を申請するときは、学位申請書、研究業績一覧、論文の要旨、履歴書及び別に定める論文審査手数料を添え、学位の専攻分野名を指定して論文を総長に提出するものとする。

4 本学大学院の後期課程に3年以上在学して退学した者が、博士の学位の授与を申請する場合は、前項の規定によるものとする。

5 総長は、学位の授与の申請が前4項のうちの1項に規定する要件を具備するときは、これを受理する。受理した申請は原則として、その取下げを認めない。

6 第1項、第2項及び第3項の規定により提出した論文並びに論文審査手数料は、返還しない。

7 大学院学則第5条第2項で定める「特定の課題についての研究成果」は、本規則及び本条第1項の規定を準用する。

（論文）

第5条 前条の規定により提出する主論文は1篇とし、修士の学位申請の場合は1部、博士の学位申請の場合は、PDF版1部・くみ製本版3部を提出することを原則とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

2 審査のため必要があるときは、審査委員会は、参考論文、論文の訳文、模型又は標本等の審査資料を提出させることができる。

（論文の審査付託）

第6条 第4条第5項の規定により論文が受理されたときは、総長は、申請された学位に該当する研究科委員会にその論文の審査を付託する。

（審査委員会）

第7条 前条の規定により論文の審査を付託された研究科委員会は、申請された学位に該当する専攻の教員を含む3名以上からなる審査委員会を設ける。

2 審査委員会は、主査1名と複数の副査により構成する。

3 審査委員会は、審査のため必要があると認めるときは、研究科委員会の議を経て、論文に関連する専門の教員等を審査委員会の副査に加えることができる。

4 審査委員会の主査は、申請された学位に該当する専攻に所属する教員から選出する。ただし、募集を停止した専攻においては別に定める。

（論文の審査及び試験）

第8条 審査委員会は、論文の審査並びに最終試験を行う。

2 最終試験は、論文、それに関連する科目並びに2種類の外国語について口頭又は筆答によって行う。

3 審査委員会は、論文の審査の結果、その内容が著しく不良であると認めるときは、最終試験を行わない。

4 第3条第4項による審査の場合は、本条第2項のほか専攻学術に関し本学大学院後期課程を経て学位を授与された者と同様の学識を有することを認定しなければならない。

(試験の免除)

第9条 第4条第1項、第2項及び第4項の規定により学位を申請する者は、前条第2項に規定する外国語の試験を免除する。

(審査期間)

第10条 審査委員会は、修士の学位についてはその学期末までに、第4条第2項によって申請される博士の学位については申請のあった学期末までに、第4条第3項又は第4条第4項によって申請される博士の学位については申請受理後1年以内に、それぞれの論文の審査及び最終試験を終了しなければならない。ただし、博士の学位については、特別の事由のあるときは、研究科委員会の議を経て、その期間を更に1年以内に限り延長することができる。

(審査委員会の報告)

第11条 審査委員会の主査は、論文の審査並びに最終試験を終了したときは、直ちに論文の内容の要旨、論文審査の要旨及び最終試験の結果の要旨に学位授与の可否の意見を添え、研究科委員会に文書で報告しなければならない。ただし、必要に応じて副査の1名に文書の起草を依頼することができる。

2 審査委員会は、第8条第3項の規定に従って最終試験を行わなかった場合は、その旨を研究科委員会に文書で報告しなければならない。

(研究科委員会の審議)

第12条 研究科委員会は、前条の報告に基づき、第3条第2項及び第3項によるものについては、大学院学則に従って、学位授与の可否を審議し、同条第4項によるものについては、その論文及び最終試験の可否並びに博士の学位授与の可否について審議し、議決をする。

2 前項の議決は、委員全員の3分の2以上の出席を必要とし、出席委員の4分の3以上の賛成がなければならない。ただし、公務又は出張のため出席することができない委員は、委員の数に算入しない。

(研究科委員長の報告)

第13条 研究科委員会が前条の議決をしたときは、その研究科委員長は、論文とともに、論文の内容の要旨、論文審査の要旨及び最終試験の結果の要旨に学位授与の可否の意見を添え、文書で総長に報告しなければならない。

第13条の2 削除

(学位授与の決定)

第14条 総長は、前条の報告に基づいて大学院委員会を招集し、その審議を経て学位授与の可否を決定する。

2 大学院委員会において前項の審議の議決をするには、第12条第2項を適用する。

(学位の授与)

第15条 総長は、前条の決定に基づいて学位を授与すべき者には、所定の学位記を授与し、学位を授与できない者には、その旨を通知する。

(学位論文の要旨等の公表)

第16条 本学は、博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から3か月以内に、その学位論文の内容の要旨及び審査の結果の要旨を「立教大学学術リポジトリ」により公表しなければならない。

(学位論文の公表)

第17条 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に、その学位論文を「立教大学学術リポジトリ」により公表しなければならない。ただし、既に公表したときは、この限りでない。

2 博士の学位を授与された者は、前項の規定にかかわらず、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。

なお、この場合、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 前項の規定により学位論文を公表する場合は、立教大学審査論文である旨を明記しなければならない。

(学位の名称の使用)

第18条 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、本学名を「立教大学学士(〇〇学)」、「立教大学修士(〇〇学)」、「立教大学博士(〇〇学)」、「立教大学法務博士(専門職)」又は

{ 学士(〇〇学)
 修士(〇〇学)
 博士(〇〇学)
 法務博士(専門職) } (立教大学) のように付記するものとする。

(学位授与の取消)

第19条 学位を授与された者が、その名譽を汚す行為をしたとき、又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、総長は、大学院委員会の議を経て、学位の授与を取消し、学位記を還付させ、かつ、その旨を公表しなければならない。

2 前項の議決をするには、第12条第2項を適用する。

(登録)

第20条 本学において博士の学位を授与したときは、総長は、学位簿に登録し、3か月以内に、別表1の様式による学位(博士)授与報告書を電子メー

ルにより文部科学大臣に提出しなければならない。
(学位記の様式)

第21条 学位記の様式は、別表2のとおりとする。

学位規則第3条第4項に関する諒解事項

立教大学学位規則第3条第4項の規則により学位を申請する者に対しては、外国語については研究科委員会が特別の事由があると認めるときは、1種類若しくは2種類を免除することができる。

4 現代心理学部専門教育科目試験規則

施行 2006年4月1日
改正 2007年2月5日
改正 2008年2月18日
改正 2009年2月18日
改正 2010年2月23日
改正 2011年2月22日
改正 2013年4月1日
改正 2014年4月1日
改正 2015年4月1日
改正 2016年4月1日
改正 2017年4月1日
改正 2018年4月1日

第1章 総則

(目的)

第1条

この規則は、現代心理学部専門教育科目の試験について定める。

第2章 試験

(試験の種類)

第2条

試験の種類は、定期試験、時間重複特別試験及び追試験とする。

(試験の時期・試験場)

第3条

定期試験は、春学期に講義が終了する科目については春学期末(7月中旬～下旬)、秋学期に終了する科目については秋学期末(1月中旬～2月上旬)を行う。

② 時間重複特別試験及び追試験は、春学期末、秋学期末の定期試験終了後に行う。

③ 試験の日時及び試験場は、その都度現代心理学部掲示板に掲示する。

(試験の方法)

第4条

定期試験の方法は、筆記試験及びレポート試験とする。

② 身体等の障害及びそれに準ずる事由で通常の筆記試験を受験することが甚だしく困難な場合には、筆記試験に代わる方法で定期試験を実施することがある。適用の可否、方法及び実施時期等については、担当教員の了解を得て、教授会がこれを決定する。

(受験資格の喪失)

第5条

次の者は、受験資格を失う。

- 1 学生証の不携帯者(ただし、「臨時学生証」所持者を除く)
- 2 履修届未提出者
- 3 当該試験期に休学中・停学中の者
- 4 担当教員のあらかじめ指示した必要要件を欠く者

(出校停止による受験不可)

第5条の2

インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法(昭和33年法律第56号)に定める学校感染症(学校において予防すべき感染症)第1種又は第2種に罹患中の者は試験を受験することができない。

(時間重複特別試験)

第6条

現代心理学部専門教育科目の試験が、他学部において受験すべき試験と時間的に重複する場合は、他学部の試験を受験するものとし、現代心理学部の専門教育科目の受験は時間重複特別試験で受験するものとする。時間重複特別試験を受験できる者は、第3項に定められた所定の届出をし、受験を許可された者に限る。

② 以下の場合に時間重複特別試験を実施する。

- 1 現代心理学部専門教育科目の定期試験が、他学部において受験すべき試験と時間的に重複するために受験できない者。
- 2 池袋キャンパスとの校地移動時間不足により、新座キャンパスで受験すべき現代心理学部専門教育科目の試験を受験できないと認められた者。

③ 時間重複特別試験に必要な手続きは以下のとおりとする。

- 1 申請：第2項の事由が発生した場合には、当該学期の試験期間開始1週間前までに、所定の試験時間重複特別試験受験申請書を教務事務センターへ提出しなければならない。ただし、試験時間が変更されたことにより第2項の事由が発生した場合には、試験実施日の翌日から2日以内に所定の試験時間重複特別試験受験申請書を教務事務センターへ届け出なければならない。
- 2 許可：時間重複特別試験受験の許可は掲示で行う。

④ 時間重複特別試験の施行については、現代心理学部専門教育科目試験規則第7条から第14条までを準用する。

第3章 筆記試験の施行

(受験者の入場)

第7条

受験者は、所定の日の定刻までに試験場の前に集合し、試験監督者の指示にしたがって入場しなければならない。

(学生証の携帯・掲示)

第8条

受験者は、学生証を携帯し、入場の際に試験監督者に提示しなければならない。

② 受験中は学生証を試験監督の見やすい机の上に提示しておかななければならない。

(遅刻者)

第9条

遅刻者の入場は認めない。ただし、試験開始後15分以内の遅刻者に限り、試験監督者は入場を許可することがある。

② 交通機関の遅延による遅刻で、交通機関発行の遅延証明書を提出した場合には、試験開始後15分以上経過後も入場を許可することがある。

(座席指定)

第10条

受験者は、座席が指定されている場合には、その指定された座席に着席しなければならない。

(使用許可物)

第11条

教科書、参考書又はノートの類は、その使用が許可されたものを除き、指定の場所に置かななければならない。教科書、参考書又はノートの類の使用が許可された場合にも、試験場に入場した後はそれらを授受してはならない。

② 前項の規定に違反した場合は、当該科目の試験は零点とする。

(発言等の禁止)

第12条

受験者は、試験監督者の許可なくして、発言し、文房具を授受し、また場外に出ることができない。

(受験者の退場)

第13条

受験者は、試験開始後30分間および試験終了前10分間は、退室することができない。

(退室命令)

第14条

試験場においてはすべて試験監督者の指示に従わなければならない。

② 試験監督者の指示に従わない者については、試験監督者は第13条第1項に関わらず退場を命ずることができる。

第4章 追試験

(追試験)

第15条

病気その他やむをえない事由により、定期試験を受験することができなかった者には追試験を行うことがある。

(追試験の受験資格)

第16条

追試験を受験できる者は、定期試験を別表「追試験受験申請書添付書類」に記載されている事由で受験できなかった者に限る。

(追試験の施行科目)

第17条

定期試験の科目に限り、追試験を実施する。

(追試験受験申請書の提出)

第18条

追試験を受験する者は、当該科目の筆記試験実施日の翌日から1週間以内(翌週の同じ曜日を含む。なお、締切日が窓口業務を行わない日の場合は次に窓口業務を行う日までとし、以下この章における日付の満了日について同じ。)に、別表「追試験受験申請書添付書類」に記載されている書類を添付の上、所定の追試験受験申請書を教務事務センターに提出しなければならない。

② 前項の手続きを行ったものについて、追試験受験の許可は掲示で行う。

③ 別表「追試験受験申請書添付書類」の(2)に該当する者は、追試験受験申請書の提出に先立って、電話で教務事務センターに連絡しなければならない。

④ 別表「追試験受験申請書添付書類」の(1)の事由により期間内に追試験受験申請書を提出できない場合は、提出期間内に電話で教務事務センターに連絡しなければならない。

第19条 削除

第20条 削除

(再試験)

第21条

定期試験において不合格となった科目について再試験は行わない。

第5章 不正行為

(受験資格の喪失)

第22条

筆記試験の受験中に不正行為を行った場合、当該学期の全学共通科目英語単位認定試験、全学共通カリキュラム英語単位認定試験および当該試験期における筆記試験全科目の受験資格を喪失させ、その成績はすべて不合格とする。

(不正行為者の退場命令)

第23条

試験監督者は、不正行為を発見した場合は、直ちに退場を命ずることができる。

(処分の決定)

第24条

不正行為を行った者の処分は、教授会がこれを決定する。

(処分の種類)

第25条

処分は、訓告、停学、退学の3種類とする。

〈別表：追試験受験申請書添付書類〉

	試験欠席事由	添付すべき証明書類 <small>事由によっては、立教大学が記入用紙を作成する場合がある</small>
(1)	入院またはそれに準ずる登校不能（風邪・下痢等の一時的な疾病は含まない）ただし、必修科目、先修科目については欄外*を参照	入院先機関の発行する入院証明書 ^{注1)}
(2)	インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症） 第1種または第2種の罹患による登校不能 ^{注2)}	医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」 ^{注3)} 、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」 ^{注4)}
(3)	忌引（保証人、配偶者および3親等以内の血族または姻族に限る）（法事は含まない） ^{注5)}	本人と保証人の署名・捺印のある書類（様式は自由、本人との続柄を明記）およびその事実を明らかにするもの（死亡に関する公的証明書もしくは会葬礼状等）
(4)	交通機関の30分以上の遅延	交通機関発行の遅延証明書
(5)	重大な災害による登校不能	官公庁発行の被災証明書
(6)	学校・社会教育講座の各種実習・体験等	実習・体験期間証明書
(7)	就職試験（就職試験の日程が変更できない場合に限る。セミナー、複数企業の合同説明会、OB・OG訪問等は含まない）	本人が受験したことを証明する受験先機関発行の証明書（就職試験の場所、日時を明記、社印が押印されていること）
(8)	他大学大学院入学試験	受験票のコピー
(9)	日本代表としてのスポーツ公式競技への参加	派遣元団体が大学に宛てた公文書
(10)	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭、または裁判員に選任された公判のための裁判所への出頭	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭の場合、出頭した裁判所で出頭日の証明を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」、裁判員に選任された場合、裁判員職務従事期間についての「証明書」
(11)	上記10事項に準ずる事由 ^{注6)}	

* 必修科目、先修科目については、医師の診断書がある病気・けがによる登校不能についても欠席事由とする。

先修科目とは、ある科目を履修するための条件として、先立って単位を修得しておくことが必要な科目をいう。具体的には、科目設置学科の規定を参照すること。

注1) 上記(1)の場合の入院証明書・医師の診断書は、試験を欠席した日の入院・病気・けがを証明する内容であること。

注2) 上記(2)に該当した場合には、速やかに所属キャンパスの教務窓口で連絡し指示を受けること。なお、罹患中に試験を受験した場合には、その試験は無効となる。

注3) 上記(2)に該当した場合の医師の診断書において、罹患時と治癒時の受診医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「罹患期間についての証明」が受けられない場合があるので注意が必要である。受診医療機関を変更する場合は、罹患時に受診した医療機関が発行する「罹患日記載がある『診断書』」を必ず取得しておくこと。こうすることにより、罹患時に取得した「診断書」と治癒時に受診した医療機関が発行する「治癒日と登校可能日の記載がある『診断書』」の2種類をもって「罹患期間についての証明」とすることが可能となる。

注4) 上記(2)に該当した場合の「治癒証明書」の書式は、SPIRIT 教務部ページからダウンロードすること。

注5) 3親等以内の血族または姻族とは次を指す。

血族—父母・子、祖父母・兄弟姉妹・孫、曾祖父母・伯叔父母・甥姪・曾孫

姻族—配偶者の父母・子の配偶者・配偶者の子（配偶者の前婚における子など）、配偶者の祖父母・配偶者の兄弟、姉妹・孫の配偶者・配偶者の孫（配偶者の前婚における孫など）・兄弟姉妹の配偶者、配偶者の曾祖父母・配偶者の伯叔父母・配偶者の甥姪・曾孫の配偶者・配偶者の曾孫（配偶者の前婚における曾孫など）・甥姪の配偶者・伯叔父母の配偶者

注6) 原則として、事前の届出に対して審査を行うので、所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせのこと。

5 立教大学博士学位申請手続要領 (抜粋)

改正 2017年4月1日

- 1 博士の学位授与を申請する場合は、論文(PDF版1部(媒体自由、PDF/A形式を推奨)、くろみ製本版3部)(原則としてA4判の大きさとする。)に7の申請関係書類(各3部・うち2部はコピー可)を添えて、申請する研究科のあるキャンパスの教務事務センター又は独立研究科事務室に提出すること。
なお、次の研究科の博士学位申請論文については、仮製本の形で提出も可とし、部数については、各研究科で定める。この場合のPDF版の提出は不要とする。
(課程博士の場合)
全ての研究科
(論文博士の場合)
文学研究科、理学研究科、社会学研究科、観光学研究科、コミュニティ福祉学研究科、ビジネスデザイン研究科、異文化コミュニケーション研究科、現代心理学研究科、キリスト教学研究科
仮製本で提出した申請者は、審査委員会から論文の修正要求があった場合は、指示に従い論文を修正し、修正要求が満たされたと判断された後、PDF版1部(媒体自由、PDF/A形式を推奨)、くろみ製本版(部数は各研究科が指示する。)を提出すること。その手続については、各研究科の指示に従うこと。
- 2 論文(主論文)の表紙には、PDF版、くろみ製本版ともに、論文題目及び申請者名を記入すること。
- 3 論文が受理された場合は、「立教大学大学院学位論文審査手数料規則」に定める所定の審査手数料を、指示に従って納入すること。
- 4 最終試験の日時については、学部事務課又は独立研究科事務室から申請者に通知する。
- 5 学位授与の可否については、教務事務センター又は独立研究科事務室から申請者に通知する。

- 6 一度納入した論文審査手数料は、返却しない。
- 7 学位申請関係書類
下記の申請関係書類は、横書きにして、インクは黒又は青を使用し、数字は算用数字を用いること。
 - (1) 学位申請書
・学位申請書には、申請する学位の専攻分野名及び立教大学学位規則第8条第2項により受験する外国語を明記すること。
 - (2) 論文題目
・主論文の題目が外国語の場合は、日本語訳をつけること。
・参考論文とは審査に当たって参考としてほしい本人の論文をいう。
 - (3) 論文要旨
・主論文の題目が外国語の場合は、日本語訳をつけること。
・論文要旨は、日本語の場合は4,000字以内、外国語の場合は2,000語以内とする。
 - (4) 履歴書
・学歴は、高等学校又は同程度の学校の入学から年次を追って記入すること。
・年号は西暦で記入すること。
・本籍地欄は外国人の場合は国籍を記入すること。
 - (5) 研究業績一覧
 - (6) 最終学校の卒業(修了)証明書(最終学校が本学の場合及び本学在学学生は不要)
 - (7) 立教大学学術リポジトリ登録申請書

(注) 学位授与申請後、学位授与までの間に現住所を変更した場合は、速やかにその都度申請した研究科のあるキャンパスの教務事務センター又は独立研究科事務室に報告すること。

6 博士学位論文取扱い事務に関する内規 (抜粋)

改正 2017年4月1日

立教大学大学院学則及び立教大学学位規則に定めるもののほか、学位論文の取扱い事務に関しては、以下のとおりとする。

(提出日)

- 1 学位申請論文提出期日は、各研究科の定めるところによる。

(受理)

- 2 ① 学位申請のため提出された関係書類及び論文は、教務事務センターが受理した後、各学部事務課に届ける。
② 各学部事務課は、当該研究科委員長に関係書類及び論文を提示・報告し、指示を受ける。
③ 独立研究科においては、①②とも独立研究科事務室が行う。

(審査)

- 3 各研究科は、審査委員会を設置し、総長に受理及び審査委員の報告を行う。
- 4 審査終了後、審査委員会は審査報告書を作成し、各研究科委員会での審議を行う。

- 5 研究科委員長は、研究科委員会での審議結果を総長に報告し、大学院委員会での審議を依頼する。
 - 6 大学院委員会の審議結果及び授与式の申請者本人への通知は教務事務センター又は独立研究科事務室が行う。
- ### (授与)
- 7 博士の学位授与は、3月及び9月とする。
 - 8 学位記の作成は教務事務センターが行う。
- ### (文科省への報告)
- 9 文部科学省への博士の学位授与報告は独立研究科事務室が行う。
- ### (論文等の保管)
- 10 ① 博士の学位が授与された者の学位論文については、PDF版とくろみ製本版1部は本学図書館に保管する。くろみ製本版の残りの部数の取り扱いについては各研究科の定めるところによる。
② 学位授与の審査に関する諸関係書類及び学位論文審査報告書は、各1部を学部事務課又は独立研究科事務室で保管する。

7 立教大学大学院学位論文審査手数料規則

改正 2018年4月1日

(目的)

第1条 この規則は、立教大学学位規則に定めるもののほか、立教大学大学院(以下「大学院」という。)修士課程又は博士課程前期課程及び同後期課程を経た者、並びに博士課程後期課程を経ない者が学位申請論文(以下「論文」という。)を提出する場合に納入すべき審査手数料について定める。

2 この規則における論文は、立教大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第5条第2項で定める「特定の課題についての研究の成果」を含むものとする。

(修士論文)

第2条 大学院修士課程又は博士課程前期課程に在学して、大学院学則第5条に定める所定の単位を修得し終える学期までに論文を提出する場合、審査手数料は無料とする。

2 大学院修士課程若しくは博士課程前期課程に在学して、所定の単位を修得した者が在学2年を超えて、又は大学院学則第3条第3項に定めるコースにおいて在学1年を超えて引き続き在学し、在学4年以内に論文を提出する場合、審査手数料は1万5千円とする。

(博士論文)

第3条 大学院博士課程後期課程に在学して、大学院学則第6条に定める研究指導を受け終える学期までに論文を提出する場合、審査手数料は無料とする。

2 大学院博士課程後期課程に在学して、大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた後、在学3年を超える者が引き続き在学し、在学6年以内に論文を提出する場合、審査手数料は3万円とする。

3 大学院博士課程後期課程に在学して、大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた上退学した者が、博士課程後期課程入学後6年以内(休学中の期間を除く。)に論文を提出する場合、審査手数料は4万5千円とする。

4 大学院博士課程後期課程に在学して、大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた上退学した者が、博士課程後期課程入学後6年(休学中の期間を除く。)を経過した後に論文を提出する場合、審査手数料は6万円とする。

5 大学院博士課程後期課程を経ない者又は大学院博士課程後期課程に在学して、大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えることなく退学した者が論文を提出する場合、審査手数料を20万円とする。

6 本学専任教職員が論文を提出する場合(第3項及び第4項に該当する場合を除く。)、審査手数料は10万円とする。

8 立教大学大学院学費その他納入金内規

題名改正 2010年4月1日
改正 2014年4月1日

(趣旨)

第1条 この内規は、立教大学大学院（以下「大学院」という。）学則に定めるもののほか、修士課程並びに博士課程前期課程及び同後期課程における当該年次納入すべき学費その他納入金について定める。

(定義)

第2条 この内規において学費とは、授業料（在籍料を含む。）、教育充実費及び実験・実習費をいう。

2 この内規において当該年次とは、4月入学者は当該年度春学期及び秋学期の期間をいい、9月入学者は当該年度秋学期及び翌年度春学期の期間をいう。

(修士課程及び博士課程前期課程のうち4月に入学した者)

第3条 4月に入学し、かつ、春学期の始めに大学院修士課程若しくは博士課程前期課程において在学2年を超える者、又は大学院学則第3条第3項に定めるコースにおいて在学1年を超える者が、大学院学則第5条に定める所定の単位修得のため引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費の全額及びその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、春学期に大学院学則第5条に定める所定の単位を修得し引き続き秋学期に在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の4分の3額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

3 第1項により在学した者が、春学期に大学院学則第5条に定める修了に必要な要件を満たし9月19日に修了した場合は、第1項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(同前のうち所定の単位を修得した者)

第4条 4月に入学し、かつ、春学期の始めに大学院修士課程若しくは博士課程前期課程において所定の単位を修得した者が在学2年を超えて、又は大学院学則第3条第3項に定めるコースにおいて在学1年を超えて引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の2分の1額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、春学期に大学院学則第5条に定める修了に必要な要件を満たし、9月19日に修了した場合は、前項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(修士課程及び博士課程前期課程のうち、9月に入学した者)

第5条 9月に入学し、かつ、秋学期の始めに大学院修士課程若しくは博士課程前期課程において在学2年を超える者、又は大学院学則第3条第3項に定めるコースにおいて在学1年を超える者が、大学院学則第5条に定める所定の単位修得のため引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費の全額及びその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、秋学期に大学院学則第5条に定める所定の単位を修得し引き続き翌春学期に在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の4分の3額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

3 第1項により在学した者が、秋学期に大学院学則第5条に定める修了に必要な要件を満たし3月31日に修了した場合は、第1項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(同前のうち所定の単位を修得した者)

第6条 9月に入学し、かつ、秋学期の始めに大学院修士課程若しくは博士課程前期課程において所定の単位を修得した者が在学2年を超えて、又は大学院学則第3条第3項に定めるコースにおいて在学1年を超えて引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の2分の1額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、秋学期に大学院学則第5条に定める修了に必要な要件を満たし、3月31日に修了した場合は、前項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(博士課程後期課程のうち4月に入学した者)

第7条 4月に入学し、かつ、春学期の始めに大学院博士課程後期課程において在学3年を超える者で大学院学則第6条に定める研究指導を受けるため引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費の全額その他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、春学期に大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた後、引き続き秋学期に在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の4分の3額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

3 第1項により在学した者が、春学期に大学院学則第6条に定める修了に必要な要件を満たし9月19日に修了した場合は、第1項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(同前のうち所定の研究指導を受け終えた者)

第8条 4月に入学し、かつ、春学期の始めに大学院博士課程後期課程において大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた後、在学3年を超える者

が引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の2分の1額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、春学期に大学院学則第6条に定める修了に必要な要件を満たし、9月19日に修了した場合は、前項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。ただし、9月19日までに博士学位申請論文が受理され、3月31日に修了した者は、前項の学費の2分の1額及び学位授与までの在籍期間所定の在籍料並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

(4月に入学した者のうち所定の研究指導を受け終えた後学位授与が翌春学期以降に及ぶ者)

第9条 4月に入学し、かつ、大学院博士課程後期課程在学中の者が所定の研究指導を受け終えた後、3月31日までに博士学位申請論文が受理され、その学位授与が翌春学期以降になった場合は、翌春学期から学位授与までの期間の学費として在籍期間に応じ所定の在籍料及びその他必要な納入金を納入しなければならない。

(博士課程後期課程のうち9月に入学した者)

第10条 9月に入学し、かつ、秋学期の始めに大学院博士課程後期課程において在学3年を超える者で大学院学則第6条に定める研究指導を受けるため引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費の全額その他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、秋学期に大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた後、引き続き翌春学期に在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の4分の3額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

3 第1項により在学した者が、秋学期に大学院学則第6条に定める修了に必要な要件を満たし3月31日に修了した場合は、第1項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(同前のうち所定の研究指導を受け終えた者)

第11条 9月に入学し、かつ、秋学期の始めに大学院博士課程後期課程において大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた後、在学3年を超える者が引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の2分の1額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、秋学期に大学院学則第6条に定める修了に必要な要件を満たし、3月31日に修了した場合は、前項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。ただし、3月31日までに博士学位申請論文が受理され、9月19日に修了した者は、前項の学費の2分の1額及び学位授与までの在籍期間所定の在籍料並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

(9月に入学した者のうち所定の研究指導を受け終えた後学位授与が翌秋学期以降に及ぶ者)

第12条 9月に入学し、かつ、大学院博士課程後期課程在学中の者が所定の研究指導を受け終えた後、9月19日までに博士学位申請論文が受理され、その学位授与が翌秋学期以降になった場合は、翌秋学期から学位授与までの期間の学費として在籍期間に応じ所定の在籍料及びその他必要な納入金を納入しなければならない。

附則

1 この内規は、2010年4月1日から施行する。

2 「立教大学大学院授業料に関する申し合わせ事項」(昭和36年4月1日施行)は、廃止する。

附則

この内規は、2011年4月1日から施行する。

附則

この内規は、2014年4月1日から施行する。

9 立教大学大学院学生会発表奨励金規程

改正 2017年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、立教大学大学院に在籍する学生の学会における発表・報告等（以下「学会発表」という。）を奨励することを目的として支給する立教大学大学院学生会発表奨励金（以下「奨励金」という。）について定める。

(奨励金の支給制限)

第2条 この奨励金は、支給を申請した学生について年3回に限り支給するものとする。

2 年3回のうち、国内での学会発表に対する申請は2回に限り、海外での学会発表に対する申請は1回に限る。

(支給対象)

第3条 奨励金の支給対象は、次の各号のいずれかでの学会発表とする。

- (1) 学会取扱い規程第3条の手続きにより登録された学術団体が開催する学会
- (2) 前号による登録をしていない学術団体のうち、学会取扱い規程第2条第

1号又は第2号に定める基準に該当するものであって、当該研究科委員会が承認した学術団体が開催する学会

- (3) 海外で開催されるもののうち、前2号に該当しない場合は、当該研究科委員会が前号に準ずるものとして承認した学術団体が開催する学会

(支給額)

第4条 支給額は、学会発表の場所により、次の各号のとおりとする。

- (1) 東京都、神奈川県、埼玉県又は千葉県 一律1万円
- (2) 前号以外の国内 一律3万円
- (3) 海外 一律5万円

(奨励金の申請)

第5条 この奨励金の申請は、所定の申請書によるものとし、当該研究科委員長の承認を得なければならない。

(改廃)

第6条 この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て総長が行う。

10 学習院大学・学習院女子大学・日本女子大学・立教大学・早稲田大学学生交流に関する覚書

学習院大学、学習院女子大学、日本女子大学、立教大学及び早稲田大学は「学習院大学・学習院女子大学・日本女子大学・立教大学・早稲田大学大学間交流に関する協定書」に基づき、互恵の精神を以て相互に多様な授業科目を開放し、学生が相互履修することについて、本覚書を締結する。

1. 受入

各大学は、協定大学の学生が指定された授業科目の履修を希望するときは、協定に基づき当該学生を受け入れることができる。

2. 受入学生の身分

各大学は、前項によって受け入れた学生を、特別聴講学生と称する。ただし、受入大学において別に定める場合はこの限りでない。

3. 対象者

各大学に在学する2年次以上の学部学生を対象とする。

4. 受入学生数

この協定により各大学が受け入れる特別聴講学生数は、5大学で協議の上決定する。

5. 個人情報提供及び保護

- (1) 各大学は、相互履修を希望する自大学の学生の学籍に関する必要情報を相互に提供するものとする。
- (2) 前項により得た情報は、5大学間学生交流に関する目的以外に使用してはならない。

6. 履修期間

特別聴講学生の履修期間は、当該学生の履修科目に必要と定められた期間とする。

7. 履修科目の範囲および単位数

- (1) 各大学の提供科目数は、5大学で協議の上調整する。
- (2) 各大学は、それぞれの大学が開講する科目のうち特別聴講学生が履修できる授業科目を提供科目として選定し、相互に通知する。
- (3) 各提供科目毎の特別聴講学生受入人数は、当該科目を設置する大学の定めるところによる。
- (4) 特別聴講学生が同一年度内に履修できる単位数の上限は、5大学で協議の上決定する。

8. 申請及び承認手続き

特別聴講学生として授業科目の履修を希望する学生は、定められた期間に所定の申請手続きをとり、学生を受け入れる大学の許可を得るものとする。

9. 履修方法・成績評価等

- (1) 特別聴講学生の履修方法、成績評価等については、当該科目を設置する大学の定めるところによる。
- (2) 特別聴講学生が修得した単位の認定に関わる事項は、学生の所属大学が定めるところによる。

10. 図書館の相互利用に係る便宜

各大学は、特別聴講学生の勉学に資するため、特別聴講学生の大学図書館の利用に関して配慮するものとする。

11. 施設・設備利用の便宜

前条によるほか、特別聴講学生が提供科目を履修するに際し、当該科目を設置する大学の施設及び設備の利用が必要と認められる場合には、特別聴講学生に対し、当該大学の定めるところによりその利用について便宜を図るものとする。

12. 学費等

- (1) 各大学は、特別聴講学生の授業履修に係る授業料等については、これを相互に免除するものとする。
- (2) 授業の履修に必要な実験・実習費等特別な経費については、当該授業科目を設置する大学の定めるところによる。

13. 協議

本覚書に定めるもののほか、協定の実施に関する必要事項は、5大学の協議により定める。

14. その他

- (1) 本覚書の改廃は5大学の協議を経て行う。
- (2) 本覚書は2001年4月1日から施行し、2004年3月31日まで有効とする。ただし、有効期限の6か月前までに申し出がない場合は、さらに1年間延長するものとし、以後についても同様とする。

11 明治大学、立教大学及び国際大学による共同教育プログラムの履修等に関する覚書

明治大学、立教大学及び国際大学（以下「3大学」という。）は、学長及び総長により締結した「国際協力人材の育成に関する協定」（以下「協定」という。）第3条に基づき、共同教育プログラムの履修等関連事項について、この覚書を締結する。

(受入)

第1条 各大学は、この覚書に基づき、3大学の学生が指定された授業科目の履修を希望するときは、当該学生を受け入れることができる。

(受入学生)

第2条 各大学は、前条によって受け入れた学生を、特別聴講学生と称する。ただし、受入大学において別に定める場合はこの限りでない。

(受入学生数)

第3条 各大学が受け入れる特別聴講学生数は、授業科目ごとに受入大学が決定する。

(個人情報提供及び保護)

第4条 特別聴講学生の個人情報提供及び保護は、次のとおりとする。

- (1) 各大学は、特別聴講学生として授業科目の履修を希望する学生の学籍等に関する必要情報をそれぞれの大学に提供するものとする。
- (2) 前項により得た情報は、3大学間の単位互換に関する目的以外に使用してはならない。

(履修期間)

第5条 特別聴講学生の履修期間は、当該学生が履修する授業科目に必要と定められた期間とする。

(履修科目の範囲及び履修上限単位数)

第6条 特別聴講学生が履修できる授業科目の範囲及び履修できる単位の上限は、次のとおりとする。

- (1) 各大学が提供する授業科目数は、3大学で協議の上調整する。
- (2) 各大学は、共同教育プログラムのうち、特別聴講学生が履修できる授業科目を提供科目として選定し、互いに通知する。
- (3) 特別聴講学生が同年度内に履修できる単位数の上限は、3大学で協議の上決定する。

(履修申請)

第7条 特別聴講学生として授業科目の履修を希望する学生は、定められた期間に所定の申請手続きをとり、受入大学の許可を得るものとする。

(履修方法、試験方法及び成績評価等)

第8条 特別聴講学生の授業科目の履修方法、試験方法及び成績評価等は、次のとおりとする。

(1) 特別聴講学生の履修方法、試験方法及び成績評価については、当該科目を設置する大学の定めるところによる。

(2) 特別聴講学生が修得した単位の認定に関わる事項は、学生の所属大学が定めるところによる。

(授業料等)

第9条 特別聴講学生の授業料等は、徴収しない。ただし、実験・実習費等特別な経費については、当該授業科目を設置する大学の定めるところによりこれを徴収することができる。

2 前項の規定にかかわらず、国際大学が受け入れる特別聴講学生の授業料等については別途協議するものとする。

(授業担当教員に対する給与、手当、交通費等)

第10条 特別聴講学生の履修する授業科目を担当する教員の給与、手当及び交通費等については、原則として、当該科目を開講する大学の規程による。

(利用の施設)

第11条 特別聴講学生が履修上必要な施設・設備の利用については、受入大学の定めるところにより、その利用について便宜を図るものとする。

(この覚書の効力)

第12条 この覚書の有効期間は、協定の有効期間満了の6か月前までに3大学のいずれかの大学から他方の大学に対して書面による覚書破棄通告を行わない限り、協定の有効期間に準ずるものとする。

2 この覚書の失効日時時点で受入大学において授業科目を履修中の特別聴講学生は、当該失効日の影響を受けず、当初予定していた授業科目の履修期間を満了できるものとする。

(その他)

第13条 この覚書に定めるもののほか、協定の実施に関する必要事項は、3大学の協議により定める。

2 この覚書3通を作成し、それぞれの当事者記名の上、それぞれ1通を保有する。

附 則

この覚書は、2013年（平成25年）4月1日から施行する。

個人情報 保護

プライバシーポリシー
立教大学における個人情報の取扱いについて

プライバシーポリシー

立教大学における個人情報の取扱について

最終更新日 2017年6月1日

(個人情報に関する基本的な考え方)

立教大学(以下「大学」という。)では、個人情報保護の重要性を認識し、その適切な管理を行うことが重要な社会的責務であると考えています。個人情報に関する法令等を遵守すると共に、「立教大学個人情報保護規程」に基づいた、以下のプライバシーポリシーに従って個人情報の保護に努めております。

1. 個人情報とは

現在大学に在籍している、及び過去において在籍した学生、大学院学生、受験生、保証人、教職員等に関する情報であって、個人が識別されるものをいいます。

2. 個人情報の収集について

個人情報は適正かつ公正な手段によって収集し、不正な手段によっては情報を収集しません。また、収集にあたっては、自明の場合を除き、その利用目的を明らかにします。

3. 個人情報の利用目的

大学の正課・正課外等教育研究活動及びそれに付随する必要なサービスの提供並びに校務のために利用します。より具体的な利用目的は、別表に定める他、情報収集の際に明示します。

4. 情報の提供について

大学では、以下の場合を除き、情報を外部に提供することはありません。

- (1) 大学の業務に必要な不可欠な場合
- (2) 情報主体が同意している場合
- (3) 法令による場合
- (4) 情報主体の身体・生命等を保護するため、緊急かつ止むを得ない場合
- (5) 情報の同一性確認を求める公的機関からの依頼がある場合
- (6) 学術研究に利用する場合

5. 情報の管理方法

立教大学では、個人情報を正確、最新のものにするよう適切な措置を講じています。また、個人情報の漏洩、紛失、誤用、改ざん、不正アクセス等を防止するための合理的な保護措置をとっています。

業務委託、事業継承及び共同利用にあたっては、機密保持条項を含む契約を締結し、委託先に対し、情報に関する厳重管理を求め、目的以外の利用を行わせないようにしています。

なお、上記の保護措置及び管理措置を実施するために、大学に「個人情報保護統括管理責任者」及び各部署・部署等に「個人情報管理責任者、個人情報取扱責任者」を定めています。

6. 情報の開示・訂正

個人情報の開示は、「立教大学個人情報保護規程、同施行細則」に基づいて行われます。個人情報の内容に誤りがあった場合には速やかに訂正いたします。

7. 不服の申し立て

大学の個人情報の取扱いについて不服がある場合は、「個人情報保護審査会」に申し立てることができます。個人情報保護審査会への申し立ては大学の主要窓口で受付いたします。

別表(「3. 個人情報の利用目的」関係)

利用区分	利用業務
教育研究	1 入学関係(出願・入学手続) 2 学籍関係(学生証交付、名簿作成等の学籍管理、休学・復学・退学等の諸手続き等) 3 授業関係(履修相談、履修登録・通知、授業・実習・試験運営、成績処理・通知*1・管理、学修効果確認、卒業判定、学位記授与等々) 4 各種証明書等の発行 5 図書館の利用及び各種図書館サービスの提供 6 教学に関わる調査・統計資料作成*2 7 学術研究に関わる調査*3・統計資料作成*2 8 実習関係(教育実習、介護等体験、博物館実習、図書館実習等) 9 教員免許状申請 10 大学内への掲示等による大学各部署からの連絡・問い合わせ 11 卒業後の学籍・成績関係情報の在籍記録保存、各種証明書等作成・発行

教育学術交流・留学等支援	1 他大学・大学院との単位互換制度関係(国の内外を問わない) 2 学生からの申し込みを受けて行う留学のための各種アテンド 3 海外文化研修・海外語学研修、学部単位の留学制度を利用する学生の派遣及び受入の準備のための情報授受 4 学生および保証人に送付する各種関係書類の発送 5 学生および保証人に対し当該プログラム実施の為にを行う連絡・問合せ 6 学生が希望する、私費外国人留学生奨学金奨学金の選考結果を利用する学内外の奨学金選考及び推薦資料の作成等に関する事務
学生生活支援	1 学生生活全般の指導・助言 2 学生対象の各種福利厚生業務(奨学金・学生健康保険互助組合・留学生総合住宅補償・学生食堂・アルバイト紹介・部屋紹介・遺失物・臨時託児所等) 3 学生団体及び個人の課外活動支援(クラブ・サークル活動、キャンプ等) 4 学生生活支援(相談業務、オリエンテーション、課外教育プログラム、遺失物対応等) 5 学生生活に係る調査・統計資料作成*2 6 大学の教育活動への協力依頼(入試業務、ハンドブック作成等) 7 学生の保険加入及び異動管理*4
キャリア支援	1 進路・就職支援等の相談
情報・通信	1 V・Campus等各種情報サービスの提供 2 学内コンピュータ施設利用時の利用者認証及び利用者に応じたログオン環境の提供
財務	1 学費納付のための業務 2 経理処理に必要な手続き(内容確認及び証憑書類としての照合) 3 給与等の振込口座登録
人事・福利厚生	1 勤務員の人事管理 2 給与の支給等、税・社会保険納付、福利厚生 3 各種調査・統計資料作成*2 4 立教学院年金諸事務
保健・診療	1 診療所における診療関連業務 2 診療所における日本医師会が医療機関に定める個人情報の利用 3 診療所における学生健康保険互助組合加入者が補助を受ける場合の学生健康保険互助組合への請求 4 保健室における救急対応 5 保健室における健康診断を含む健康相談等の健康管理 6 保健室における利用者が立教学院診療所利用時において必要なサービスを受けるための連携業務 7 保健室における他部署からの健康診断受診状況照会への回答 8 保健室における他部署からの健康診断証明書発行可否照会への回答
広報・発信	1 卒業後の本学及び校友会に関する情報提供*5 2 保証人への季刊誌の送付 3 保証人への教育懇談会開催通知 4 寄付に関するお知らせの送付

*1 入学時に提出いただいた同意書に基づき、学生本人(大学院学生含む。以下同じ)の学修効果の確認、休学・復学・退学等の確認のため、大学に届け出ている保証人に、個人情報を提供します。ただし、満年齢が20歳に達した学生については、保証人への情報提供を行わない場合があります。情報の提供を希望しない学生は、教務関係窓口*にその旨申し出てください。

*2 統計資料の作成に際しては、個人情報が入り混じった形で数値化等の加工をした上で行います。

*3 学術上の調査・研究にかかわると判断できる場合で、当該情報が生存する個人の個人情報に関係しない判断できるときは、教務部内規により故人の個人情報を開示することがあります。

*4 保険加入に際し、学外機関への個人情報の提供が必要な場合は、学生本人にその旨をお知らせし、同意を得て行います。

5 大学を通じた校友会関係情報の送付については、在学時は教務関係窓口、卒業後は校友会関係窓口*で変更することができます。

※各窓口の担当部署

教務関係窓口…教務事務センター、独立研究科事務室、法務研究科事務室
 校友会関係窓口…渉外課

各種案内

- 1 教務部案内（新座キャンパス）
- 2 パソコン教室利用案内
- 3 V-Campus案内
- 4 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置
- 5 地震発生時の心得
- 6 台風の接近が予想される場合の措置
- 7 授業中にJアラートが作動（弾道ミサイル発射時）した場合の対応
- 8 緊急連絡システムについて

1 教務部案内

1. 教務部事務

教務部は、以下の事項を取り扱う。

- (1) 学籍の管理
- (2) 入学・休学・退学・卒業に関する事項
- (3) 授業に関する事項
 - ① クラス編成
 - ② 時間割の作成
 - ③ 教室配当
 - ④ 履修科目の登録
- (4) 試験及び学業成績に関する事項
- (5) 所管事項に関する文書の受信・発信
 - ① 保証人・国籍の変更、氏名変更、住所変更届等の受理
 - ② 学生証、在学・卒業・修了・成績等各種証明書、学割等の発行
- (6) その他教務事務に関する一切の事項
 教務部では、業務を次のように分担している。
 - ① 教務事務センター（池袋キャンパス：タッカーホール1階、新座キャンパス：7号館1階）
 学部学生、大学院学生の履修・授業・成績・試験・休学・退学に関する事項、保証人・国籍の変更、氏名変更・住所変更届に関する事項、学生証、通学定期乗車券発行控に関する事項、在学・卒業・修了・成績等の各種証明書の発行
 - ② 学校・社会教育講座事務室（池袋キャンパス：2号館1階、新座キャンパス：7号館1階）
 学部学生、大学院学生の教職課程・学芸員課程・司書課程（司書教諭を含む）・社会教育主事課程関係の受講登録、履修・授業・試験・成績、各課程における実習・体験、各課程資格取得・申請に関する事項、各課程修了・単位修得等の各種証明書の発行
 - ③ 独立研究科事務室（池袋キャンパス：11号館4階）
 ビジネスデザイン研究科、21世紀社会デザイン研究科、異文化コミュニケーション研究科（2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者）、経済学研究科（社会人コース）の大学院学生の履修・授業、試験・成績、休学・退学、保証人・国籍の変更、氏名変更届、住所変更届に関する事項
 - ④ 法務研究科事務室（池袋キャンパス：11号館4階）
 法務研究科の大学院学生の履修・授業、試験・成績に関する事項

証（学割証）、健康診断証明書の各証明書は、教務事務センター内の証明書発行機により即時発行。それ以外の証明書は翌日（翌日が窓口閉室日の場合は、翌日以降の窓口開室日）の12：00以降。

注1）調査書の作成には多少日数がかかる。出願先の所定用紙を持参のうえ、教務事務センター窓口へ申し出ること。

注2）健康診断証明書の発行について

1. 発行開始日：（4月入学者）2018年5月14日（月）
 （9月入学者）2018年10月15日（月）

※それ以前の発行はできない。

2. 下記に該当する場合は発行はできない。
 - ・本学が実施した定期健康診断を受けていない。
 - ・定期健康診断時に未検の検査項目がある、また保健室から指示された再検査、診察などを受けていない。

注3）学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）は1年間に1人10枚まで、有効期間は発行日から3ヶ月である。

注4）博士課程後期課程の成績証明書、修了見込証明書が必要な場合は、教務事務センター窓口へ申し出ること。発行は翌日（翌日が窓口閉室日の場合は翌日以降の窓口開室日）の12：00以降。

また、博士課程後期課程の英文成績証明書は原則作成していない。

※証明書発行機での交付には学生証が必要である。

※上記以外の証明書が必要な場合は、所属キャンパスの教務事務センター窓口へ申し出ること。

（注）学生氏名文字（漢字）について

学生証に記載されている学生氏名の文字（漢字）は、原則としてJIS規格の文字を使用し、在学中発行の諸証明書及び学位記、卒業後の諸証明書などの発行に用いる。JISに無い文字については、JIS準拠のものに改めるが、不都合がある場合は、所属キャンパスの教務事務センター窓口へ申し出ること。

2. 諸届・各種証明書の発行

- (1) 諸届
 諸届とも教務事務センター窓口にて所定の届出用紙がある。
 所属キャンパスの教務事務センターに提出すること。
 - ① 保証人変更届
 保証書を添え、保証人連署・捺印の上届出ること。
 - ② 国籍変更（帰化）届
 詳細は前記窓口でたずねること。
 - ③ 氏名変更届
 住民基本台帳記載事項の証明書若しくはそれに代わるものを添え、届出ること。
 - ④ 住所変更届
 本人または保証人の住所、電話番号、本人のメールアドレス、通学区間（最寄駅）を変更した場合に届出ること。
- (2) 各種証明書の発行

証明書の種類	和文料金	英文料金	発行にかかる日数
在学証明書	300円	400円	即時
卒業（見込）証明書			
修了（見込）証明書			
成績証明書			
調査書			注1
健康診断証明書		400円	注2
学割証 注3	無料		即時

在学、成績（注4）、卒業見込、修了見込（注4）、学校学生生徒旅客運賃割引

2 パソコン教室、貸出パソコン利用案内

<パソコン教室の利用について>

立教大学では池袋・新座キャンパスにそれぞれ、パソコン教室があります。

授業で使用されていない時間は、自由な自習利用が可能です。

開室時間などについては、以下のURLから確認することができます。

<https://spirit.rikkyo.ac.jp/vcampus/パソコン教室.aspx>

	池袋キャンパス	新座キャンパス
場所	8号館3F 8301, 8302, 8303, 8304 4F 8402, 8403, 8404 5F 8501, 8502, 8503, 8504 8505, 8506	8号館2F N821, N822, N823, N824 3F N831, N832, N833, N834, N835, N836
開室時間	月～金曜日：9：00～21：00 土曜日：9：00～17：00 日曜・祝日、そのほか本学の定めた休日は閉室です。 長期休暇中など開室時間が上記と異なる場合、以下のURLでお知らせします。 https://spirit.rikkyo.ac.jp/vcampus/パソコン教室.aspx	
利用環境	<p>パソコン教室のパソコンを使うには、V-Campus IDとパスワードが必要です。 パソコン教室では、以下のようなことが行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで情報を収集する ・レポートやプレゼンテーション資料を作成する ・授業支援システムを使って予習・復習・課題を提出する ・Webメールを使用する ・自分のホームページを作成する ・ファイルやホームページを印刷する ・作成したデータを保管する <p>設置台数 https://spirit.rikkyo.ac.jp/vcampus/学内パソコン内訳.aspx</p> <p>ソフト</p> <p>OS（日・英） Windows 7 Windows 8.1 Windows 10</p> <p>アプリケーションソフト Microsoft Office（Word, Excel, PowerPointなど）をはじめ、授業で使用するアプリケーションソフトがインストールされています。教室ごとに異なりますので、詳しくは下記のURLにてご確認ください。 https://spirit.rikkyo.ac.jp/vcampus/学内パソコンのアプリケーションソフトについて.aspx</p>	

<貸出パソコンについて>

立教大学では、教育・研究活動を支援するため、学生向けにノートパソコン等の貸し出しを行っています。

貸出期間は当日内です。貸出場所、貸出時間などについては、下記のURLから確認することができます。

<https://spirit.rikkyo.ac.jp/vcampus/貸出ノートパソコン（学生向け）について.aspx>

3 V-Campus案内

パソコンやインターネット、メールなどのITに関するサービスは「メディアセンター（池袋8号館4F、新座8号館2F）」で管理を行っています。詳しい情報は以下のホームページでご覧になることができます。

「立教大学V-Campusポータルサイト SPIRIT (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/>)」

V-Campus IDとパスワードについて

メールや学内PCを利用する際には、ID（学生番号）とパスワードが必要です。
このIDを「V-Campus ID」と呼んでいます。

V-Campus IDで利用できるサービス

V-Campus IDは、授業やゼミのほか、各種の教務関連情報を確認するためにも利用します。

- ・パソコン、ネットワークの利用
 - 1) 学内パソコン（パソコン教室、ラーニングスペース）の利用
 - 2) 学内無線LANへの接続
- ・V-Campus
 - 1) SPIRIT（ポータルサイト）
 - 2) SPIRIT Gmail
 - 3) メールングリストの作成
 - 4) Blackboard（授業支援システム）
 - 5) V-Campusアカウント設定
 - 6) V-Campusホームディレクトリ
 - 7) V-Campusホームページ（FTP接続）
 - 8) V-Campus Web設定
- ・英語教材
 - 1) Rikkyo English Online（REO）
 - 2) ALC NetAcademy
 - 3) 英語ディスカッション
- ・Eラーニング
 - 1) Blackboardセルフラーニング
- ・図書館関連
 - 1) MyLibrary
- ・教務関連
 - 1) 履修登録状況の確認
 - 2) 履修登録／成績参照システム
 - 3) グローバル教養副専攻専用Web
 - 4) 休講情報（自宅からの閲覧時）
- ・学修・キャリア支援
 - 1) 立教時間
- ・その他
 - 1) 学内イントラネットへのアクセス
 - 2) Mobile V-Campusの利用登録
 - 3) SPIRIT Mobile


V-Campus IDとパスワードの発行

入学時に学生証と一緒に配付しています。それ以外の方も、パソコン教室のカウンターで学生証を提示することで即時発行を行なっています。

V-Campus IDはさまざまな場面で利用されるものですから、パスワードの扱いは十分に注意してください。詳しくは立教大学 V-Campusポータルサイト SPIRITをご覧ください。

<このほかのパスワード>

上記のほか、f-Campus科目登録を利用する際には、別のパスワードが必要となります。

f-Campus科目登録  <http://www.f-campus.org/>

4 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置

大学は、大規模な地震の発生が予想され、大規模地震対策特別措置法に基づき地震防災対策強化地域判定会の招集が確認された場合には、授業を休講とし、次の措置をとります。

1. 在宅中および通学途中の者は、登校を中止してください。
2. 在学中の者は、大学からの連絡及び指示に従ってください。
3. 警戒宣言解除後の授業の再開については、以下のとおりとします。
 - (1) 警戒宣言が午前5時までに解除された場合は、平常どおり授業を行います。
 - (2) 警戒宣言が午前9時までに解除された場合は、午前中の授業を休講と

し、午後からの授業を行います。

- (3) 警戒宣言が午前9時までに解除されない場合は、当日の授業を全日休講とします。なお、全日休講の場合は、大学の諸業務（窓口業務を含む）を行いません。

注：地震防災対策強化地域判定会

大規模地震対策特別措置法第3条1項に規定する地震防災対策強化地域に係る大規模な地震の発生のおそれに関する判定を行うために、気象庁長官の要請によって招集される判定会をいう。

5 地震発生時の心得

建物は大きな地震にも耐えられる構造となっています。震災が発生した場合は次の事項に注意し、安全確認したうえで冷静に避難してください。

1. 地震が起きたら、すぐに外へ飛び出すことは危険です。慌てず指示があるまで教室内で待機するとともに、頭上からの落下物等に対して、頭を守る等の対応をして下さい。
 - ・机の下などに身を伏せ、しばらく様子を見て下さい。
 - ・固定してない机の下に身を隠す場合は、机の足をしっかり握ってください。
 - ・頭上からの落下物（蛍光灯・窓ガラスなど）に注意し、上着その他のもので頭をおおってください。
2. 火災により被害は倍増します。初期消火にできるだけ協力してください。

3. 避難の際は、ブロック塀の倒壊や商店の看板落下などに特に注意してください。

4. 本学院の小・中・高校生も同時に避難することになりますので、避難・救出に協力し、安全地帯を早く確認してください。
5. 交通機関の不通により、帰宅できないときは、本学の避難場所に於て、状況の判明するまで待機してください。
6. 本学の避難場所は建物内および構内空地（瓦やガラスなどの落下物に注意）です。
7. 学内の非常放送により連絡することもありますので注意してください。
8. 教職員や消防士などの指示に従ってください。

6 台風の接近が予想される場合の措置

台風の接近等により、授業を平常どおり行うことができないと判断された場合は、休講などの特別措置をとります。特別措置の内容については、掲示、ホームページ等または電話で確認してください。

[立教大学ホームページ](http://www.rikkyo.ac.jp/)

<http://www.rikkyo.ac.jp/>

[立教大学 Twitter](https://www.twitter.com/rikkyouniv)

<https://www.twitter.com/rikkyouniv>

[立教大学公式Facebookページ](https://www.facebook.com/RikkyoUniversity)

<https://www.facebook.com/RikkyoUniversity>

- * 試験期間についても前記と同様の措置をとることがあります。
- * 大学の窓口業務、諸施設の利用については、ホームページおよび掲示でお知らせします。

7 授業中にJアラートが作動（弾道ミサイル発射時）した場合の対応

授業中のキャンパスが警戒対象となった場合、身の安全確保を第一に行動してください。なお、大学からは避難行動等の混乱による事故防止を主目的として、直ちに一斉放送を行います。

なお、放送時間は、池袋キャンパス・新座キャンパス共に、①授業期間中の月～土及び祝日授業日は8：30～22：00、②休日及び休業期間中は8：30～19：00とします。

《参考》

内閣官房国民保護ポータルサイト <http://www.kokuminhogo.go.jp/>

8 緊急連絡システムについて

1. 緊急連絡システム

(※本システムは本学学生および専任教職員を対象としています。)

緊急連絡システムとは、大規模地震が発生した際に、大学から自動的にみなさんの携帯電話等のメールアドレス宛てにメールを送信し、みなさんの安否を確認するシステムです。送信する宛先は、入学時または履修登録時に届け出ていただいたアドレスですが、在学中に変更した場合は、必ず教務関係窓口（教務事務センター〈池袋〉、教務事務センター〈新座〉、独立研究科事務室、セカンドステージ大学事務室）に届け出てください（教職員は人事部人事課に届け出てください）。

なお、この緊急連絡システムが正常に機能するかを確認するために、年1～2回のテストを実施します。

また、この緊急連絡システムを利用して、緊急時の全学休講など重要なお知らせをすることもあります。

2. 連絡方法

大規模地震が発生したら、次のいずれかの方法で安否の状況を大学に報告してください（下図参照）。

携帯電話等が使用可能な場合

みなさんの携帯電話等に送られてきた大学からのメールに返信してください。

携帯電話等が使用できない場合

- キャンパス内または周辺にいる場合……

防災のしおりの巻末にある「安否確認カード」を池袋キャンパス警備室、新座キャンパス門衛所に設置された「安否確認投入箱」に投函してください。

- キャンパス外にいる場合……

下記の「大規模災害時の大学内主要連絡先」に電話連絡してください（郵送も可）。

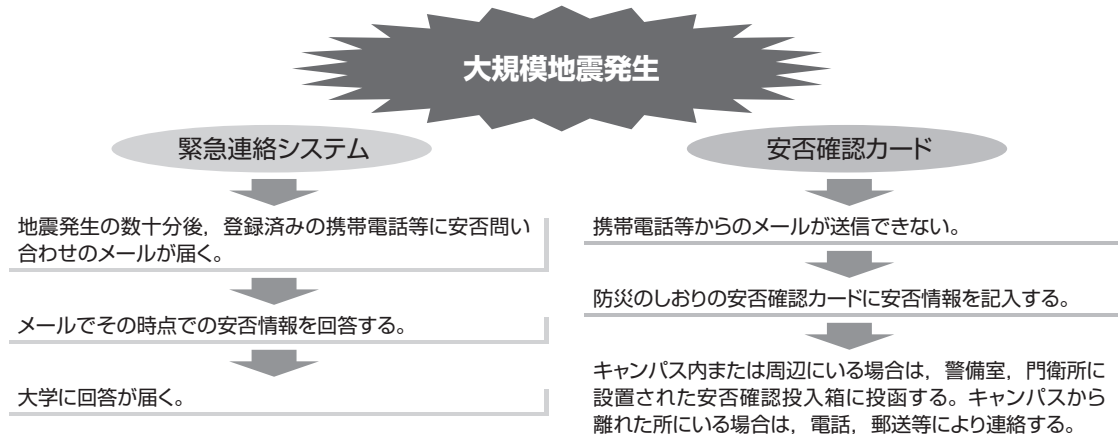
池袋キャンパス 東京都豊島区西池袋3-34-1

総務部総務課	……………03-3985-4605
学生部学生生活課	……………03-3985-2437
警備室（24時間）	……………03-3985-2288

新座キャンパス 埼玉県新座市北野1-2-26

総務部（新座）	……………048-471-6674
学生部学生生活課	……………048-471-6924
新座キャンパス門衛所（24時間）	……………048-471-6600

安否確認方法の流れ



【災害時伝言板サービス】

携帯電話各社では「災害時伝言板サービス」の利用ができます。災害発生時に家族との連絡がとれるように準備しておくことをお勧めします。

※利用についての詳細は各社のホームページをご覧ください。

※毎月1日や防災週間等に体験版の利用ができます。

- NTT docomo
<https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/>
- au by KDDI
<http://www.au.kddi.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengen/>
- SoftBank
<http://www.softbank.jp/mobile/service/dengen/>
- Y!mobile
<http://www.ymobile.jp/service/dengen/>

教 員
一 覽

現代心理学部長			江川 隆男
心理学科長			大石 幸二
映像身体学科長			万田 邦敏
現代心理学研究科委員長			江川 隆男
心理学専攻	博士課程前期課程	主任	堀 耕治
心理学専攻	博士課程後期課程	主任	堀 耕治
臨床心理学専攻	博士課程前期課程	主任	林 もも子
臨床心理学専攻	博士課程後期課程	主任	林 もも子
映像身体学専攻	博士課程前期課程	主任	田崎 英明
映像身体学専攻	博士課程後期課程	主任	田崎 英明

【専任】

担当授業科目の*印は全学共通カリキュラム科目

浅野 倫子 (アサノ ミチコ)	准教授	研究室：N6708 ☎048-471-7094
オフィスアワー	火曜日 12:15~13:10	
E-mail アドレス	asano@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	学部統合科目2, 心理学実験実習1・心理学実験実習2, 実験調査実習1, 心理学演習C1・C2, 言語心理学(学習・言語心理学), 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 言語・認知心理学特殊研究, 言語・認知心理学特殊演習, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	認知心理学, 実験心理学。具体的には, 文の読みのメカニズムや共感覚, 感覚間協応など。	
最近の著書・論文	『岩波講座 コミュニケーションの認知科学 第1巻 言語と身体性 第3章 知覚と言語』(岩波書店, 2014), 『Sound symbolism scaffolds language development in preverbal infants』(Cortex, 2015)	

林 もも子 (ハヤシ モモコ)	教授	研究室：N6706 ☎048-471-7064
オフィスアワー	水曜日 12:40~13:10	
E-mail アドレス	mmkhy@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	心理学概説2, 心理学概論2, 精神分析の思想, 心理学演習K1・K2, 心理学的支援法, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 心理実践実習1(基礎), 臨床心理学特論2, 臨床心理基礎実習1・2, 臨床心理実習1・2, 臨床心理面接特論2, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	精神分析的な精神療法, 成人および思春期のアタッチメント	
最近の著書・論文	『精神分析再考』(2017, みすず書房), 『人間関係の生涯発達心理学』(2014, 丸善出版), 『甘えとアタッチメント』(2012, 遠見書房), 『思春期とアタッチメント』(2010, みすず書房), 『Reliability and validity of the Japanese edition of the Defence Style Questionnaire』(2004)	

日高 聡太 (ヒダカ ソウタ)	准教授	研究室：N6602 ☎048-471-6984
オフィスアワー	火曜日 12:15~13:15 (2018年度海外研究)	
E-mail アドレス	hidaka@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目		
研究分野	知覚心理学, 実験心理学, 認知心理学	
最近の著書・論文	『Spatiotemporal processing in crossmodal interactions for perception of the external world: A review』(Frontiers in Integrative Neuroscience, 2015), 『Neural mechanisms underlying touch-induced visual perceptual suppression: An fMRI study』(Scientific Reports, 2016) など	

堀 耕治 (ホリ コウジ)	教授	研究室：N6607 ☎048-471-7035
オフィスアワー	火曜日 12:15~13:15	
E-mail アドレス	khor@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 心理学実験実習1, 心理学実験実習2, 実験調査実習1, 心理学演習E1・E2, 学習心理学(学習言語心理学), 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 現代心理学特殊演習, 学習心理学特殊演習, 学習心理学特殊研究, 学習心理学特論, 修士論文指導演習1・2, 修士論文, *心の科学	
研究分野	実験的行動分析, 学習心理学	
最近の著書・論文	『現代心理学への招待』(樹村房, 2005年), 「面接場面における行動と一般対応法則」(立教大学心理学研究, 2009, 51, 115-124), 『心理学研究法3』(誠信書房, 2011年, 分担執筆), 『行動生物学辞典』(東京化学同人, 2013年, 分担執筆)	

松永 美希 (マツナガ ミキ)	准教授	研究室：N6707 ☎048-471-7069
オフィスアワー	水曜日 12:20~13:00	
E-mail アドレス	mikim@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 学部統合科目1, 心理学概説2, 心理学概論2, 心理学演習B1・B2, 卒業論文指導演習1・2, 臨床心理学概論, 臨床心理基礎実習1, 臨床心理実習1, 臨床心理面接特論1, 心理実践実習1(基礎), 心の健康教育に関する理論と実践, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	臨床心理学, 認知行動療法を研究テーマとしている。特に抑うつや不安に関する基礎的研究から実践的研究を行い, 効果的な支援方法について検討している。	
最近の著書・論文	「新任教師のリアリティ・ショック要因尺度の作成」(心理学研究, 2017), 「反芻が自動思考と抑うつに与える影響」(心理学研究, 2013), 「心理士が中心に実施したうつ病の集団認知行動療法」(行動療法研究, 2012)	

小口 孝司 (オグチ タカシ)	教授	研究室：N6709 ☎048-471-7096
オフィスアワー	火曜日 12:15~13:05	
E-mail アドレス	oguchi@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	心理学概説2, 心理学概論2, 心理学調査実習1, 心理学調査実習2, 実験調査実習2, 心理学演習G1・G2, 社会心理学(社会・集団・家族心理学), 観光心理学, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 現代心理学特殊演習, 応用心理学研究法, 社会心理学特殊演習, 社会心理学特殊研究, 社会心理学特論, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	社会心理学, 産業・組織心理学, 観光心理学	
最近の著書・論文	『よくわかる社会心理学』ナツメ社(2013)『仕事のスキル』北大路書房(2009)『社会心理学の基礎と応用』放送大学教育振興会(2008)『観光の社会心理学』北大路書房(2006)	

大石 幸二 (オオイシ コウジ)	教授	研究室：N6703 ☎048-471-7042
オフィスアワー	火曜日 12:20~13:10	
E-mail アドレス	oishi@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 心理学概説1, 心理学概論1, 心理学文献講読1・2, 応用行動分析, 心理学演習I1・I2, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 現代心理学特殊演習, 臨床心理実習2, 応用行動分析学特殊研究, 障害児・者心理学特論, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	臨床心理学, 応用行動分析, 障害児者心理学	
最近の著書・論文	2017年3月 "Differentiation of preference using response-reinforcement delay in a child with autism: A case report and review of the literature." (Acta Psychopathologica, 3, 1-5), 2017年4月 "Relationship between nonverbal behavior of consultants and consultees: A preliminary study." (Psychology, 8, 828-836), 2017年6月 「特別支援教育の実践深化に学校ソーシャルワークが求められる理由」(発達障害研究, 39, 1-8), 2017年9月 「授業のユニバーサルデザインと合理的配慮」(金子書房, Pp. 152-156)	

都築 誉史 (ツヅキ タカシ)	教授	研究室：N6605 ☎048-471-6997
オフィスアワー	金曜日 12:20~13:10 (2018年度秋学期研究休暇)	
E-mail アドレス	tsuzuki@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 心理学概説1, 心理学概論1, 心理学調査実習1, 実験調査実習2, 心理学演習F1, 卒業論文指導演習1, 認知心理学特殊研究, 認知心理学特論, 修士論文指導演習1, 修士論文	
研究分野	人間の高次認知過程(判断と意思決定, 言語情報処理, 記憶)に関する実験的検討とモデル構成, メディアコミュニケーションにおける心理的要因の分析	
最近の著書・論文	『ICT/情報行動心理学』(北大路書房, 2017), 「眼球運動の時系列解析による多属性意思決定における魅力効果と妥協効果に関する検討」『認知心理学研究』, 11 (2014), 「多属性意思決定における妥協効果と魅力効果の生起機序に関する包括的分析」『認知科学』, 21 (2014), 「多属性意思決定における類似性効果, 魅力効果, 妥協効果に関する多測度分析」『心理学研究』, 83 (2012), 「認知心理学」(有斐閣, 2010), 「思考と言語」(北大路書房, 2010)	

塚本 伸一 (ツカモト シンイチ)	教授	研究室：N6606 ☎048-471-7014
オフィスアワー	火曜日 12:00~13:00	
E-mail アドレス	tukamoto@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	心理学概説2, 心理学概論2, 実験調査実習2, 心理学調査実習1・2, 心理学文献講読1・2, 心理学演習A1・A2, 発達心理学, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 発達心理学特殊研究, 発達心理学特論(福祉分野), 発達心理学特殊演習, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	社会性の発達(自己統制・制御の発達), 学校・学級の心理学的研究(教師の児童生徒認知, 児童生徒の学校適応, 学校ストレス)	
最近の著書・論文	「教師の指導態度, 学級集団構造, 学級雰囲気」が児童の向社会的行動に及ぼす影響」(キリスト教教育研究, 2017年), 「看護学生のための心理学」(医学書院, 2016年), 「自己制御が中学生の学校適応に及ぼす影響」(学校保健研究, 2010年), 「基礎からの心理学」(おうふう, 2009年), 「乳幼児の自己制御の発達」(立教大学心理学研究, 2009年), 『応用心理学事典』(丸善, 2007年), 「教師の認知枠が中学生の学校適応に及ぼす影響」(立教大学心理学研究, 2006年)	

山田 哲子 (ヤマダ テツコ)	准教授	研究室：N6705 ☎048-471-7049
オフィスアワー	金曜日 12:15~13:15	
E-mail アドレス	tyamad@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	心理学演習D2, 卒業論文指導演習2, 臨床心理基礎実習2, 臨床心理実習2, 修士論文指導演習2, 修士論文, *立教ゼミナール4, *立教ゼミナール, *立教生の学び方	
研究分野	臨床心理学, 家族心理学, 家族療法	
最近の著書・論文	「障がい者支援者を支援する」(家族心理学年報35, 2017), 「親亡き後を視野に入れた知的障がい者家族支援の構築の試み」(日本精神衛生学会, 2015), 「知的障がいのある子どもを緊急に親元から離すプロセスとはー在宅ケアを望んでいた親の施設利用に焦点を当ててー」(質的心理学研究, 2015)	

山中 淑江 (ヤマナカ ヨシエ)	教授	研究室：N6604 ☎048-471-6994 池袋キャンパス学生相談所 ☎03-3985-2653
オフィスアワー	月曜日 18:10~19:00	
E-mail アドレス		
担当授業科目	臨床心理学特論1, 臨床心理基礎実習2, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	臨床心理学, カウンセリング, 青年心理, 学生相談, グループアプローチ	
最近の著書・論文	『カウンセラーのためのアサーション』(金子書房, 2002年, 分担執筆), 『学生相談ハンドブック』(学苑社, 2009年, 分担執筆), 『大学生が会えるリスクとセルフマネジメント』(学苑社, 2015年, 編著)	

江川 隆男 (エガワ タカオ)	教授	研究室：N6809 ☎048-471-7273
オフィスアワー	金曜日 12:20~13:10	
E-mail アドレス	egawat@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	入門演習2, 専門演習D1・D2, 映像身体学入門1, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 映像身体学演習, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	西洋近代哲学, 現代思想, 精神と身体の哲学, 身体倫理論	
最近の著書・論文	著書：『存在と差異 ドゥルーズの超越的経験論』(知泉書館, 2003年), 『死の哲学』(河出書房新社, 2005年), 『超人の倫理』(同上, 2013年), 『アンチ・モラリア』(同上, 2014年), 論文：『崇高と決定不可能性の問題』(『日本カント研究12』, 理想社, 2011年) など	

日高 優 (ヒダカ ユウ)	准教授	研究室：N6715 ☎048-471-7197
オフィスアワー	水曜日 12:20～13:10 (必ず事前にEメール等で予約して下さい)	
E-mail アドレス	yhidaka@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 入門演習1, 基礎演習13, 専門演習G1・G2, 映像学文献講読2, 映像身体学入門2, 写真映像論, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 映像学特殊演習1・3, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	映像身体学, 写真研究, 表象文化論	
最近の著書・論文	『映像と文化—知覚の問いに向かって』(編著, 京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局藝術学舎, 2016年), 『アメリカ文化 55のキーワード』(共著, ミネルヴァ書房, 2013年), 『<風景>のアメリカ文化学』(共著, ミネルヴァ書房, 2011年), 『現代アメリカ写真を読む—デモクラシーの眺望』(青弓社, 2009年), 『美術史の7つの顔』(共著, 未来社, 2005年)	

加藤 千恵 (カトウ チエ)	教授	研究室：N6701 ☎048-471-7036
オフィスアワー	水曜日 12:15～13:15 (2018年度秋学期研究休暇)	
E-mail アドレス	katoch@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	学部統合科目4, 養生論の思想, 入門演習1, 基礎演習5, 専門演習E1, 卒業論文・卒業制作指導演習1, 身体学特殊研究2, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	古代中国の思想史, 道教思想史	
最近の著書・論文	『不老不死の身体—道教と「胎」の思想』(大修館書店, 2002年), 『鉛汞小考(『東方宗教』第130号, 2017), 『帰土の生命説』(『陰陽五行のサイエンス 思想編』2011), 『相い雑わること錦のごとし—術の五行』(『術の思想』(風響社, 2013年)	

香山 リカ (カヤマ リカ)	教授	研究室：N6717 ☎048-471-7212
オフィスアワー	火曜日 12:15～13:15	
E-mail アドレス	kayama@caravan.to	
担当授業科目	現代心理学入門, 入門演習1, 基礎演習1, 専門演習A1・A2, 医学身体論, 映像身体学特講2, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 身体学特殊演習3, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	精神医学。とくに「思春期・青年期の精神病理と現代社会の影響」「働く女性のメンタルヘルス」の問題について、臨床を通して考察している。	
最近の著書・論文	『「すがること」と「だまされること」の精神病理』(臨床精神病理, 第37巻2号, 2017年), 『「いじめ」と「差別」をなくすためにできること』(筑摩書房, 2017年), 『トランプ症候群』(ふいねうま舎, 2017年, 共著), 『保健室と社会をつなぐ』(本の泉社, 2017年) など	

大山 載吉 (オオヤマ ノリヨシ)		准教授	研究室：N6808 ☎048-471-7271
オフィスアワー	木曜日 12:20~13:00 (事前にEメールで連絡してください)		
E-mail アドレス	ohyama@rikkyo.ac.jp		
担当授業科目	入門演習1, 基礎演習6, 専門演習F1・F2, 映像の思想, 映像身体学入門1・2, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 映像身体学概説, 修士論文指導演習1・2, 修士論文, *立教ゼミナール3, *立教ゼミナール, *立教生の学び方		
研究分野	映像身体学, 哲学, 表象文化論		
最近の著書・論文	『ドゥルーズ 抽象機械 〈非〉性の哲学』(河出書房新社, 2016), 『ドゥルーズ 千の文学』(せりか書房, 2011, 共著), 『ドゥルーズ/ガタリの現在』(平凡社, 2008, 共著), 『ダーク・ドゥルーズ』(河出書房新社, 2016, 訳書)		

松田 正隆 (マツダ マサタカ)		教授	研究室：N6810 ☎048-471-7274
オフィスアワー	木曜日 12:15~14:45		
E-mail アドレス	matsudama@rikkyo.ac.jp		
担当授業科目	現代心理学入門, 入門演習2, 基礎演習8, 専門演習I1・I2, 戯曲シナリオ演習1, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 身体論ワークショップ5, 身体論ワークショップ6, 修士論文指導演習1・2, 修士論文		
研究分野	戯曲・シナリオ創作。演劇・パフォーマンスの研究。		
最近の作品	『福島を上演する』(2016, 2017, フェスティバルトーキョー)		

万田 邦敏 (マンダ クニトシ)		教授	研究室：N6716 ☎048-471-7198
オフィスアワー	火曜日 12:30~13:00 (必ず事前にEメール等で予約して下さい)		
E-mail アドレス	manda@rikkyo.ac.jp		
担当授業科目	入門演習2, 基礎演習11, 専門演習K1・K2, 映像系ワークショップ2, 映像身体学特講1, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 映像論ワークショップ1, 映像論ワークショップ2, 修士論文指導演習1・2, 修士論文, *現代心理学からの学び		
研究分野	映画演出		
最近の著書・論文	『UNLOVED』(監督・協同脚本), 『ありがとう』(監督・協同脚本), 『接吻』(監督・協同脚本), 『映像と身体』(共著)(せりか書房), 『イヌミチ』(監督), 『シンクロナイザー』(監督・協同脚本)		

中村 秀之 (ナカムラ ヒデユキ)	教授	研究室：N6718 ☎048-471-7219
オフィスアワー	月曜日 12:45~13:45	
E-mail アドレス	hideyukin@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 入門演習2, 基礎演習2, 映像社会論, 専門演習B1・B2, フィルム・スタディーズの基礎, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 映像学特殊研究1・2, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	映画研究, 文化社会学, 表象文化論	
最近の著書・論文	『特攻隊映画の系譜学』(岩波書店, 2017年, 単著), 『<ヤミ市>文化論』(ひつじ書房, 2017年, 共編著), 「ヒッチコック的3D」(『立教映像身体学研究』4号, 2016年, 単著論文), 『敗者の身ぶり』(岩波書店, 2014年, 単著), 『メロドラマ映画を学ぶ』(フィルムアート社, 2013年, 共訳書)	

佐藤 一彦 (サトウ カズヒコ)	教授	研究室：N6603 ☎048-471-6992
オフィスアワー	火曜日 12:15~13:00	
E-mail アドレス	kazsat@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 入門演習2, 基礎演習1・2, 専門演習L1・L2, 次世代メディア論, 映像系ワークショップ4, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 映像制作プロデュース論演習, 映像論ワークショップ7, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	次世代映像メディア(4K/8K技術, デジタルシネマ, 電子書籍, Webでの配信技術, メディアの制度, 法律, ビジネスモデル)など全般の研究と制作手法の開発	
最近の著書・論文	『4Kでよみがえる浮世絵・歌川広重《名所江戸百景》の世界』(2015, チャンネル4K), 『かぐやの夢』(2008, 日本科学未来館4K), HD作品『自然に生きる一保田與重郎と日本』(2010, 新学社), 『池澤夏樹の世界文学ワンダーランド』(2009, NHK教育), 『白洲正子のかくれ里』(2000, オリジナルビデオ)	

篠崎 誠 (シノザキ マコト)	教授	研究室：N6811 ☎048-471-7295
オフィスアワー	月曜日 12:40~13:10	
E-mail アドレス		
担当授業科目	入門演習1, 基礎演習10, 専門演習J1・J2, 映像系ワークショップ1, 映像表現史, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 映像論ワークショップ3・4, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	映画全般	
最近の著書・論文	『黒沢清の恐怖の映画史』(黒沢清氏との共著, 青土社, 2003) 監督作品『おかえり』(1995), 『忘れられぬ人々』(2000), 『浅草キッドの「浅草キッド」』(2002), 『犬と歩けば チロリとタムラ』(2003), 『天国のスープ』(2008), 『東京島』(2010), 『あれから』(2012), 『SHARING』(2014), 『共想』(2017)	

田崎 英明 (タザキ ヒデアキ)	教授	研究室：N6719 ☎048-471-7226
オフィスアワー	水曜日 12:15~13:00	
E-mail アドレス	tazackey@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	入門演習1, 基礎演習3, 専門演習C1・C2, ジェンダー文化論, 現代思想概説, 身体社会論, 身体学文献講読3, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 身体学特殊演習1・2, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	身体社会論, ジェンダー/セクシュアリティ理論, 身体政治論	
最近の著書・論文	著書：『ジェンダー/セクシュアリティ』（岩波書店, 2000年） その他：アルフォンソ・リングス『汝の敵を愛せ』（中村裕子訳, 洛北出版, 2004年）「解説」, 『無能な者たちの共同体』（未来社, 2007年）, 『マルクス『資本論』入門』（河出書房新社, 共著, 2009年）	

【特任】

橋本 和典 (ハシモト カズノリ)	准教授	研究室：N6401 ☎048-471-6942
オフィスアワー	火曜日 14:00~14:30	
E-mail アドレス		
担当授業科目	心理学文献講読1・2, 臨床心理実習1・2, 心理実践実習1（基礎）	
研究分野	臨床心理学：精神分析的システムズ心理療法・集団精神療法, 青年期困難患者の自己破壊性脱却機序, メガ災害PTSDの予防・心理療法	
最近の著書・論文	『心理療法コミュニティビルディング（集団精神療法の実践事例30）』（金剛出版, 2017）, 「メガ災害被災地における集団精神療法」（精神療法, 2017）, 「喪失と較差力学－困難患者と大震災PTSD心理療法の観点から」（International Journal of Counseling and Psychotherapy, 2016）	

安田 みどり (ヤスダ ミドリ)	准教授	研究室：N6604 ☎048-471-6994
オフィスアワー	春学期：木曜日 12:15~13:00 秋学期：月曜日 12:15~13:00	
E-mail アドレス	yasuda.midori@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	心理学演習J1・J2, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 学校心理学（教育・学校心理学）, コミュニティ心理学, 心理臨床特殊研究1, コミュニティ心理学特殊研究, 臨床心理学研究法特論, コミュニティ・アプローチ特論, 学校心理学特殊研究, 臨床心理学特殊研究5（教育分野に関する理論と支援の展開）	
研究分野	コミュニティ心理学（多職種協働および予防的介入, 心理職への援助要請）, 臨床心理学, 学校心理学	
最近の著書・論文	「看護師における心理専門職への援助要請に対する態度および意図」（心理臨床学研究, 2013）, 「心理専門職への援助要請に対する態度尺度の作成－信頼性と妥当性の検討－」（コミュニティ心理学研究, 2010）, 「心理臨床実践におけるコンサルテーション：学校領域からの報告」（コミュニティ心理学研究, 2015）	

砂連尾 理 (ジャレオ オサム)	教授	研究室：N6702 ☎048-471-7041
オフィスアワー	火曜日 12:00~13:00	
E-mail アドレス		
担当授業科目	入門演習1, 基礎演習7, 専門演習H1・H2, 身体系ワークショップ3, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 身体論ワークショップ2	
研究分野	舞台芸術, ダンスの振付・演出, ボディワーク, 身体ワークショップ	
最近の著書・論文	1. 「老人ホームで生まれた〈とつとつダンス〉: ダンスのような, 介護のような」(晶文社, 2016年10月) 2. Communication-Design7 笑う舞鶴-「シリーズとつとつ」大阪大学コミュニケーションデザインセンター pp.51-54 2012年7月 3. 「とつとつダンスpart.2-愛のレッスン」舞台芸術19・「とつとつダンス」, KADOKAWA pp.108-111 2015年9月	

相馬 千秋 (ソウマ チアキ)	准教授	研究室：N6704 ☎048-471-7046
オフィスアワー	水曜日 12:15~13:15	
E-mail アドレス	5058899@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	入門演習2, 基礎演習9, 専門演習M1・M2, 身体表現史, 身体系ワークショップ1, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 身体論ワークショップ1	
研究分野	舞台芸術, 現代演劇, アートプロデュース, 文化政策, アートNPO経営	
最近の著書・論文	『〈現代演劇〉のレッスン』(フィルムアート社, 2016)(共著), 『アートプロジェクトの悩み』(フィルムアート社, 2016)(共著), 『フェスティバル/トーキョー ドキュメント』(FIT実行委員会2009, 10, 11, 12, 13), 『LOOP映像メディア学』(左右社, 2015)	

山田 達也 (ヤマダ タツヤ)	准教授	研究室：N6702 ☎048-471-7041
オフィスアワー	木曜日 12:15~13:45	
E-mail アドレス		
担当授業科目	映像系ワークショップ5, 映像技術入門A・B, 映像技術中級1・2, 映像論ワークショップ5	
研究分野	映画及び映像撮影技術, 照明技術	
最近の著書・論文	撮影担当作品『あれから』(コムデック, 映画美学校2013), 『イヌミチ』(映画美学校2014), 『雨にゆれる女』(オフィス・シロウズ2016), 『愛∞コンタクト』(ODS Syndicate, ニコット2017), 『SYNCHRONIZER』(立教大学, アルタミラルピクチャーズ2017)	

【助教】

嘉瀬 貴祥 (カセ タカヨシ)		研究室：N6710 ☎048-471-7143
オフィスアワー	水曜日 12：15～13：15（事前にEメールで連絡してください）	
E-mail アドレス	t.kase5609@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門，統計法1，統計法2，心理学統計法1，心理学統計法2，心理学調査実習1，心理学調査実習2，実験調査実習2，社会調査演習B，*現代心理学からの学び	
研究分野	健康心理学，パーソナリティ心理学，教育心理学	
最近の著書・論文	「青年・成人用ライフスキル尺度（LSSAA）の作成」（『心理学研究』，87，2016），「Process linking social support to mental health through a sense of coherence in Japanese university students」（『Mental Health & Prevention』，4，2016）	

江口 正登 (エグチ マサト)		研究室：N6714 ☎048-471-7189
オフィスアワー	水曜日 12：00～13：00	
E-mail アドレス	masatoeguchi@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	入門演習2，基礎演習15，専門演習01・02，現代演劇論1，短期海外留学プログラム，都市の記憶と表象文化，卒業論文・卒業制作指導演習1・2，卒業論文・卒業制作，*身体パフォーマンス，*身体学への招待	
研究分野	パフォーマンス研究，表象文化論，演劇学	
最近の著書・論文	「大森靖子、みんなのうたはだれのうた？」（『ユリイカ』2017年4月号），「ジョン・ジェスラン『ファイアフォー』のアクシデント」（『西洋比較演劇研究』15（1），2015年），「カメラが演じる/語るとき：ジョン・ジェスランの『スノウ』」（『西洋比較演劇研究』，13（2），2013年）	

川越 敏和 (カワゴエ トシカズ)		研究室：N6401 ☎048-471-6952
オフィスアワー	水曜日 12：00～13：00	
E-mail アドレス		
担当授業科目	心理学実験実習1，心理学実験実習2，実験調査実習1，心理学文献講読1・2，心理学研究法1，*現代心理学からの学び	
研究分野	実験心理学・認知神経科学	
最近の著書・論文	「Different pre-scanning instructions induce distinct psychological and resting brain states during functional magnetic resonance imaging」（Eur J Neurosci, 2018）	

山本 尚樹 (ヤマモト ナオキ)		研究室：N6714 ☎048-471-7189
オフィスアワー	火曜日 12:15~13:00	
E-mail アドレス	5055589@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 学部統合科目3, 入門演習1, 基礎演習14, 専門演習N1・N2, アートの心理学, 映像身体学特講7, 視覚論, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作	
研究分野	発達心理学 (特に身体運動発達), 生態心理学	
最近の著書・論文	『乳児期における寝返り動作獲得過程の縦断的観察』(発達心理学研究第22巻, 2011), 『成人男性を対象とした寝返り動作における微視的発生プロセスの検討』(発達心理学研究第24巻, 2013) 『運動発達研究の理論的基礎と課題: Gesell McGraw, Thelen, 三者の比較検討から』(発達心理学研究第25巻, 2014)	

【研究科・専任】

逸見 敏郎 (ヘンミ トシロウ)		教授	研究室：池袋2号館2207 ☎03-3985-3824
オフィスアワー	木曜日 15:00~16:00 (新座学校・社会教育講座指導室)		
E-mail アドレス	thenmi@rikkyo.ac.jp		
担当授業科目	臨床心理査定演習2, 修士論文指導演習1・2, 修士論文, *グローバルの可能性		
研究分野	臨床心理学, ライフコース論		
最近の著書・論文	『リベラルアーツとしてのサービスラーニング』(共編著, 北樹出版, 2017), 『大学生が会うリスクとセルフマネジメント』(共編著, 学苑社, 2015), 『学校・教師の時空間』(共編著, 三元社, 2012), 『教師のリーダーシップと生活指導 -サーバントリーダーシップをめぐる-』(『教職研究』, 2015), 『Ogdenによる「あいだ」の空間からみた青年の親子関係』(『教職研究』, 2014)		

大野 久 (オオノ ヒサシ)		教授	研究室：池袋2号館2209 ☎03-3985-3796
オフィスアワー	金曜日 12:15~13:15 (新座学校・社会教育講座指導室)		
E-mail アドレス	onohisa@rikkyo.ac.jp		
担当授業科目	青年心理学, 人格心理学特殊研究, 人格心理学特論, 人格心理学特殊演習, 修士論文指導演習1・2, 修士論文, 現代心理学特殊演習		
研究分野	青年心理学, 人格心理学, 生涯発達心理学 (アイデンティティ理論を踏まえた青年期の心理, 恋愛, 生育史研究)		
最近の著書・論文	『新・青年心理学ハンドブック』(後藤宗理・大野久ほか編著, 福村出版, 2014), 『アイデンティティ研究ハンドブック』(宮下一博ほか編, ナカニシヤ出版, 2014), 『研究法と尺度 (発達科学ハンドブック 第2巻)』(日本発達心学会 (編), 新曜社, 2011), 『エピソードでつかむ青年心理学』(大野久編者, ミネルヴァ書房, 2010)		

現代心理学部・現代心理学研究科 科目担当者一覧 (氏名アルファベット順)

専任教員

<心理学科>

准教授 浅野倫子
 教授 林もも子
 准教授 日高聡太
 (2018年度海外研究)
 教授 堀耕治
 准教授 松永美希
 教授 小口孝司
 教授 大石幸二
 教授 都築誉史
 (2018年度秋学期研究休暇)
 教授 塚本伸一
 准教授 山田哲子
 教授 山中淑江

<映像身体学科>

教授 江川隆男
 准教授 日高優
 教授 加藤千恵
 (2018年度秋学期研究休暇)
 教授 香山リカ
 教授 万田邦敏
 教授 松田正隆
 教授 中村秀之
 准教授 大山載吉
 教授 佐藤一彦
 教授 篠崎誠
 教授 田崎英明

<研究科>

教授 逸見敏郎
 教授 大野久

<特任>

准教授 橋本和典
 准教授 安田みどり
 教授 砂連尾理
 准教授 相馬千秋
 准教授 山田達也

<助教>

嘉瀬貴祥
 川越敏和
 江口正登
 山本尚樹

<兼担>

濱本真一
 山口誠一

兼任講師

赤坂太輔
 秋山隆
 雨宮怜
 青山慶
 シャール, C
 崔真碩
 榎本拓哉
 江澤健一郎
 藤井達夫
 藤巻峻
 芳賀繁
 花嶋裕久
 羽鳥嘉郎
 原島雅之
 平出麻衣子
 本間元康
 堀江武
 細金正隆
 市倉加奈子
 井垣竹晴
 五十嵐靖博
 碓朋子
 井出正和
 井川耕一郎
 池田一成
 池田健
 稲垣諭
 入江公康
 石井優子
 板口典弘
 石山雄太
 糸井岳史
 梶原洋生
 菅野恵
 川口陽一
 木原健
 菊地学
 木下耕介
 小平雅尋
 古賀ひろみ
 小原健一郎
 今野晃嗣
 河野真理江
 榎澤令子
 黒木秀房
 前川真奈美
 増田知尋
 三好昭子
 茂垣まどか
 森瑞枝
 森井真広
 村尾静二
 村山和之
 内藤淳

中村健太郎
 中島亮一
 中根千景
 西谷晋二
 西山洋市
 越智啓太
 越智雄磨
 緒方一子
 小川誠子
 大川景子
 奥野真之
 恩地元子
 小野義典
 大瀧玲子
 大久保暢俊
 廖赤陽
 相良翔
 齋藤正樹
 佐々木恭志郎
 笹岡啓子
 佐藤賢
 佐藤公子
 佐藤さやか
 澤海崇文
 申紅仙
 篠儀直子
 杉本隆久
 杉山至
 鈴木浩太
 千田利史
 高田治
 高橋睦美
 高平未來
 竹田恵子
 築地正明
 上田彩子
 牛川紀政
 牛谷智一
 藪垣将
 矢野静明
 横堀応彦
 米澤朋英
 吉田泰子
 吉原将大
 吉本有輝子

案内図

専任教員研究室一覧

構内案内図・教室案内図(新座キャンパス)

構内案内図・教室案内図(池袋キャンパス)

(現代心理学部 新座6号館)

(4階)

WC	階段	EV
吹抜・テラス	ラウンジ	
EPS		
6954 N6402		6148 N6403 データ分析室
6952 N6401 橋本 川越		6956 N6404 心理学科教育 研究支援室
— N64H 学生実験室8		6149 N6405 実験倉庫
— N64G 学生実験室7		— N64I 学生実験室9
— N64F 学生実験室6		— N64J 学生実験室10
— N64E 学生実験室5		— N64K 学生実験室11
— N64D 学生実験室4		— N64L 学生実験室12
— N64C 学生実験室3		— N64M 学生実験室13
— N64B 学生実験室2		— N64N 学生実験室14
— N64A 学生実験室1		— N64O 学生実験室15
階段	屋上通路	

(5階)

WC	階段	EV
テラス	吹抜	
EPS		
6155 N6506 工作室		6961 N6507 共同研究室2
6957 N6505 共同研究室1		
6154 N6504 アーカイブ室		6964 N6508 共同研究室3
6153 N6503 編集室1		6979 N6509 編集MA室
6152 N6502 研究実験室2		6982 N6510 機材管理室
6151 N6501 研究実験室1		
階段	リフレッシュコーナー	

(6階)

048-471-内線

WC	階段	EV
吹抜・テラス	ラウンジ	
EPS		
6159 N6609 研究実験室4		6160 N6610 発達・社会 実験室1
6158 N6608 研究実験室3		
7035 N6607 堀		6161 N6611 発達・社会 実験室2
7014 N6606 塚本		6162 N6612 聴覚実験室
6997 N6605 都築		6163 N6613 人間工学実験室
6994 N6604 安田 山中		
6992 N6603 佐藤		6164 N6614 研究実験室5
6984 N6602 日高(聡)		6165 N6615 研究実験室6
6157 N6601 生理心理学 実験室		6166 N6616 視覚実験室
		6167 N6617 認知情報実験室
階段	リフレッシュコーナー	

(現代心理学部 新座6号館)

048-471-内線

(7階)

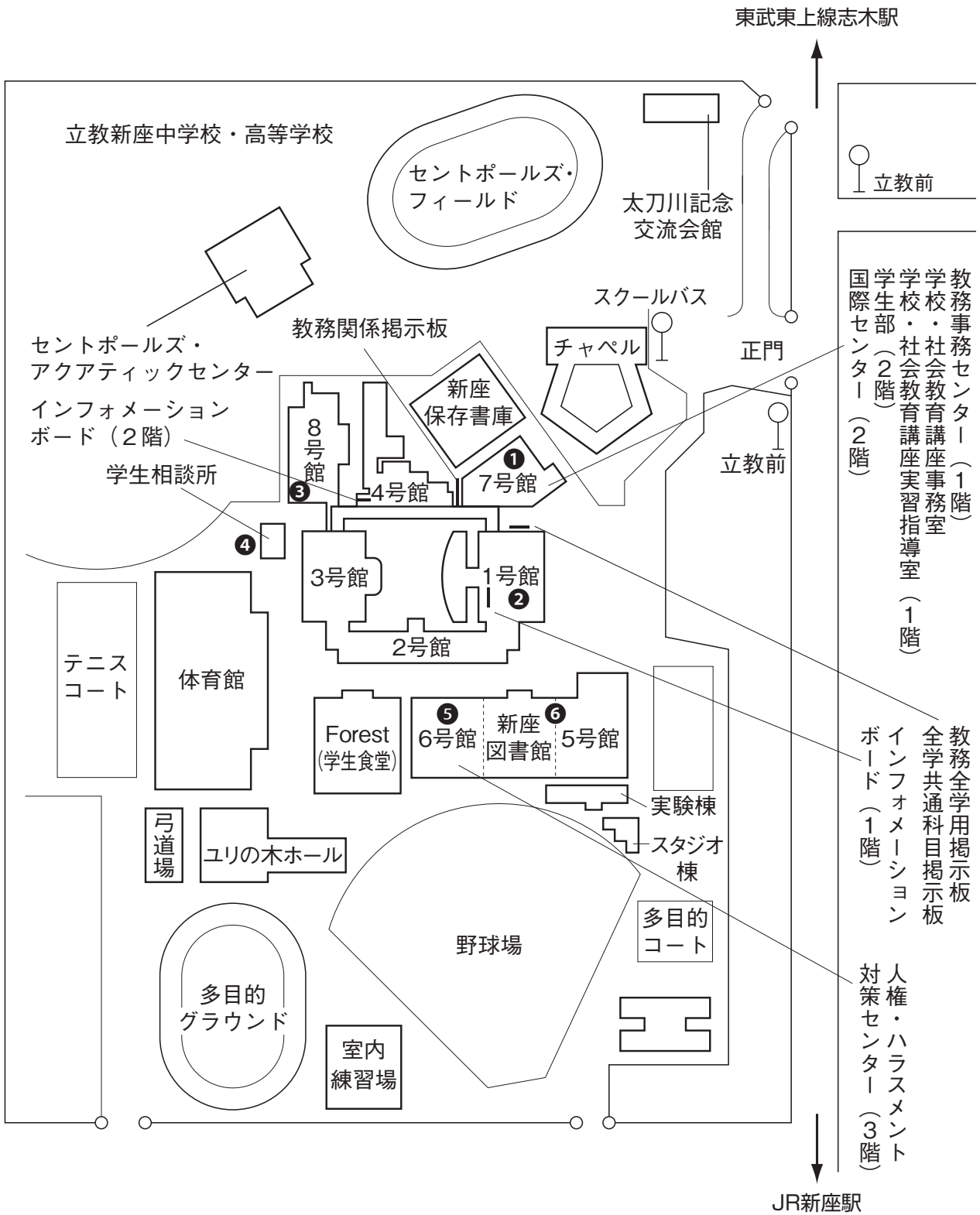
WC	階段	EV
テラス	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> ✕ </div> 吹抜	
EPS		
7143 N6710 嘉瀬原		7149 N6711 7154 7234 7164 (FAX) 現代心理学部 事務室
7096 N6709 小口		7251 心理芸術人文学 研究所
7094 N6708 浅野		7167 N6712 学部長室
7069 N6707 松永		6169 N6713 会議室
7064 N6706 林		7189 N6714 山本 江口
7049 N6705 山田(達)		7197 N6715 日高(優)
7046 N6704 相馬		7198 N6716 万田
7042 N6703 大石		7212 N6717 香山
7041 N6702 山田(達) 砂連尾		7219 N6718 中村
7036 N6701 加藤		7226 N6719 田崎
階段		リフレッシュコーナー

(8階)

WC	階段	EV
吹抜・テラス	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> ✕ </div> ラウンジ	
EPS		
N6805		N6806
N6804		N6807
N6803 心理芸術人文学 研究所		7271 N6808 大山
7247 N6802 客員研究室		7273 N6809 江川
7240 N6801 客員研究室		7274 N6810 松田
		7295 N6811 篠崎
		7298 N6812 会議室
階段		バントリ

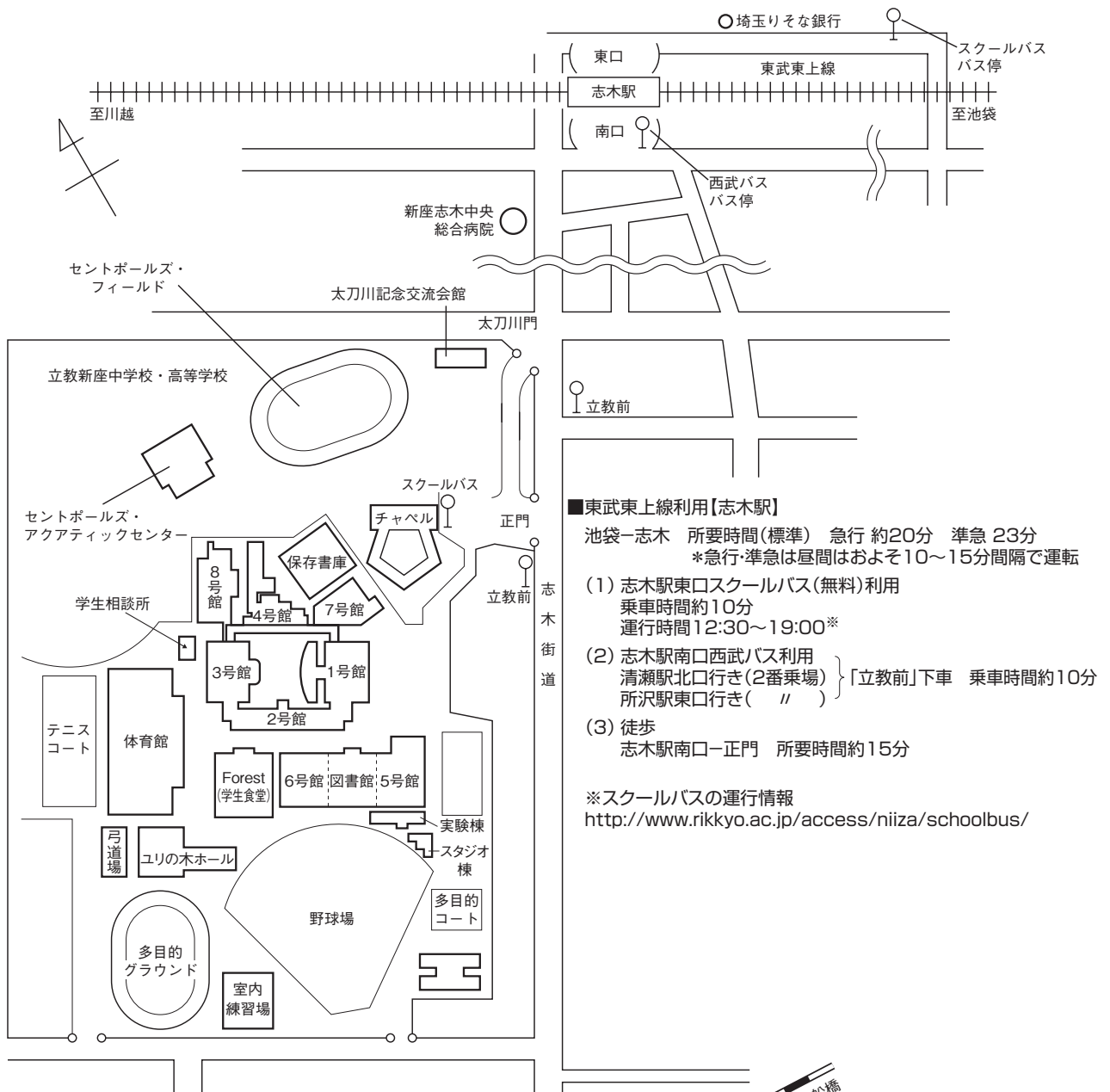
構内案内図（新座キャンパス）

キャンパス案内図



※黒丸の数字は「こんなときは」(214頁)上の位置を示す。

新座キャンパス構内案内図・交通案内図



■東武東上線利用【志木駅】
 池袋-志木 所要時間(標準) 急行 約20分 準急 23分
 *急行・準急は昼間はおよそ10~15分間隔で運転

(1) 志木駅東口スクールバス(無料)利用
 乗車時間約10分
 運行時間12:30~19:00*

(2) 志木駅南口西武バス利用
 清瀬駅北口行き(2番乗場) } 「立教前」下車 乗車時間約10分
 所沢駅東口行き(") }

(3) 徒歩
 志木駅南口-正門 所要時間約15分

*スクールバスの運行情報
<http://www.rikkyo.ac.jp/access/niiza/schoolbus/>

■JR武蔵野線利用【新座駅】

(1) 新座駅南口スクールバス(無料)利用
 乗車時間約10分
 運行時間7:30~20:00*
 (西武バス3番乗場付近)

(2) 新座駅南口西武バス利用
 志木駅南口(北野入口経由)行き(1番乗場)
 「立教前」下車 乗車時間約10分

(3) 徒歩
 新座駅-正門 所要時間約25分

■西武池袋線利用【清瀬駅】
 清瀬駅北口西武バス利用
 志木駅南口行き(2番乗場)
 「立教前」下車 乗車時間約30分

新座キャンパス教室案内図

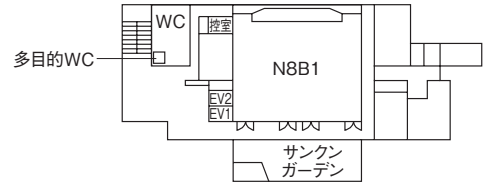
教室番号の見方



Nは新座を示す。
号館
階
番号
※ただしTは体育館を示す。

地下1階

8号館

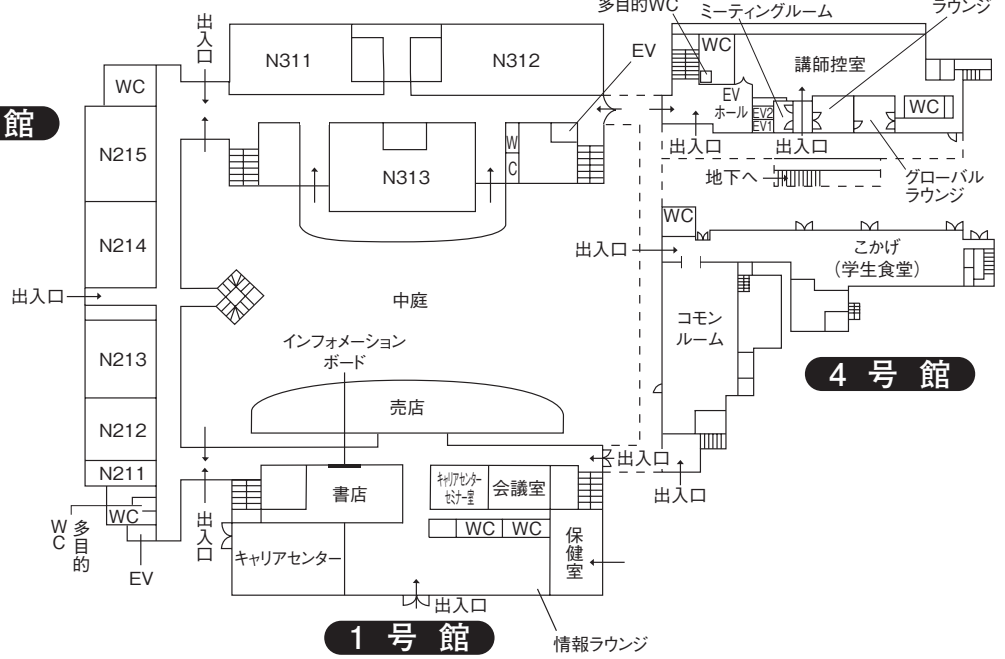


1階

2号館

3号館

8号館

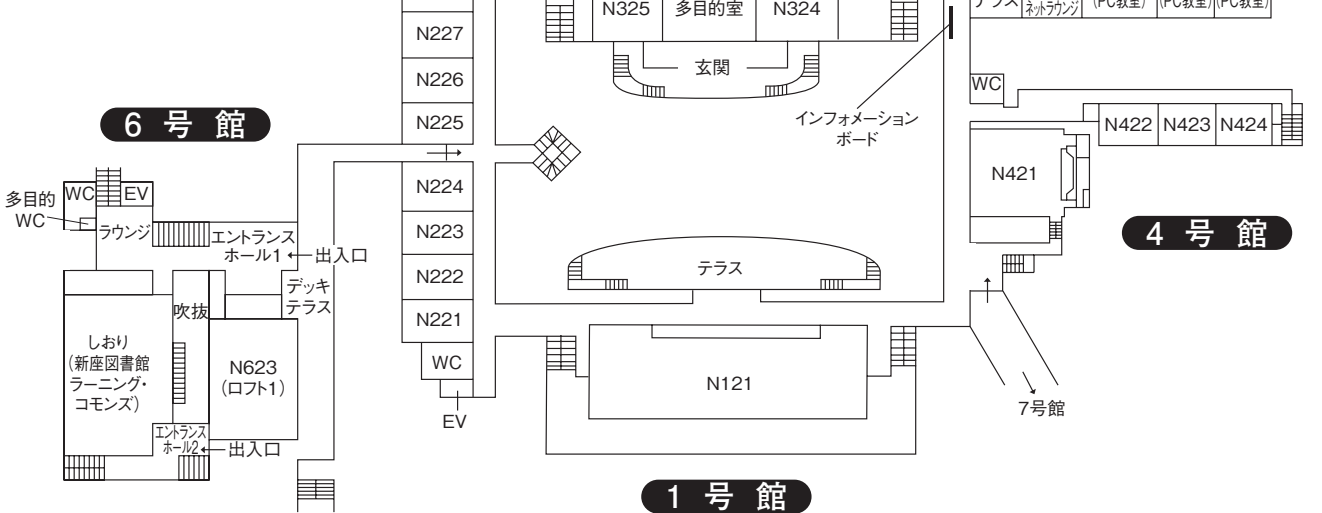


2階

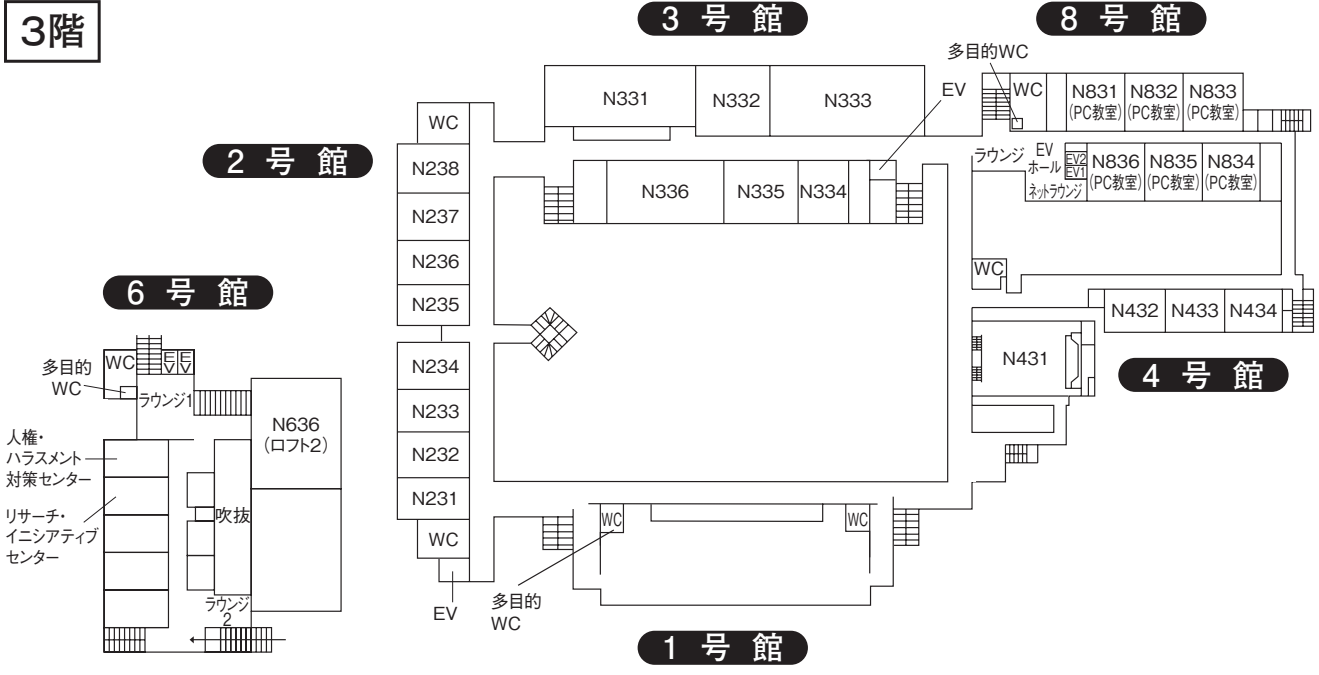
2号館

3号館

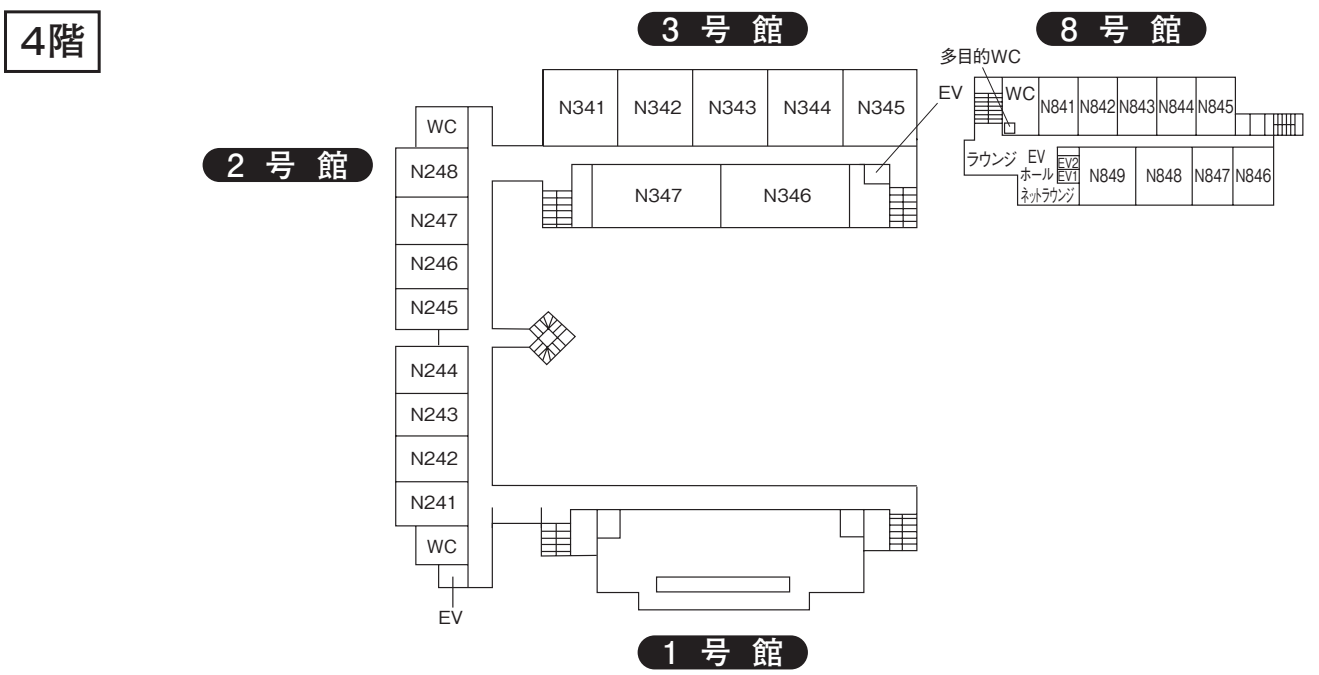
8号館



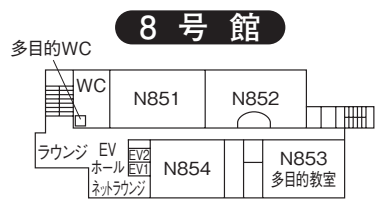
3階



4階

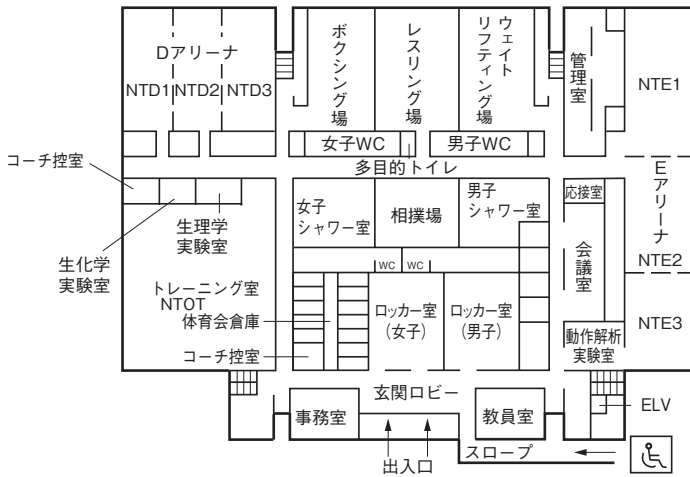


5階

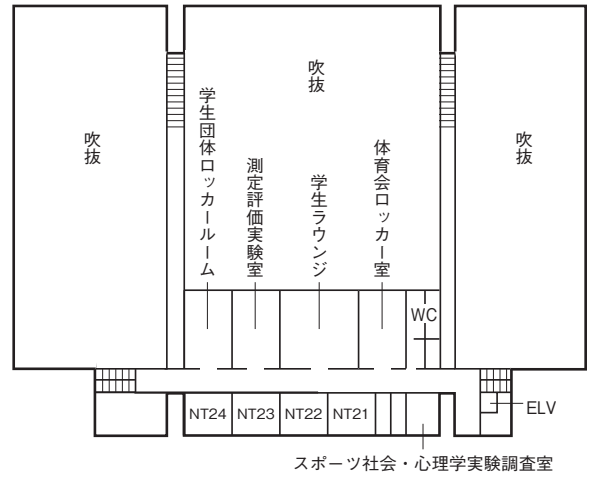


新座キャンパス体育館

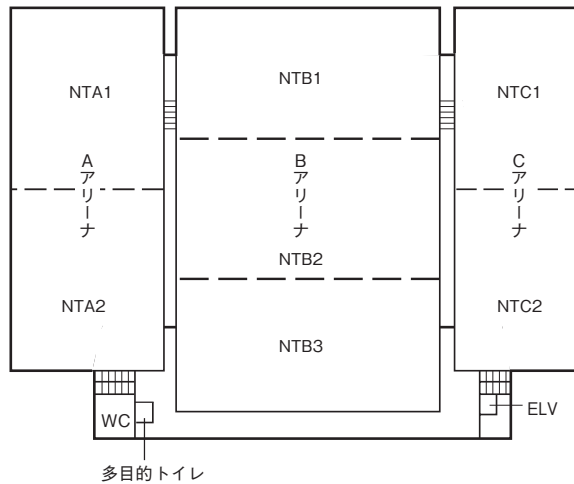
体育館 1階



体育館 2階



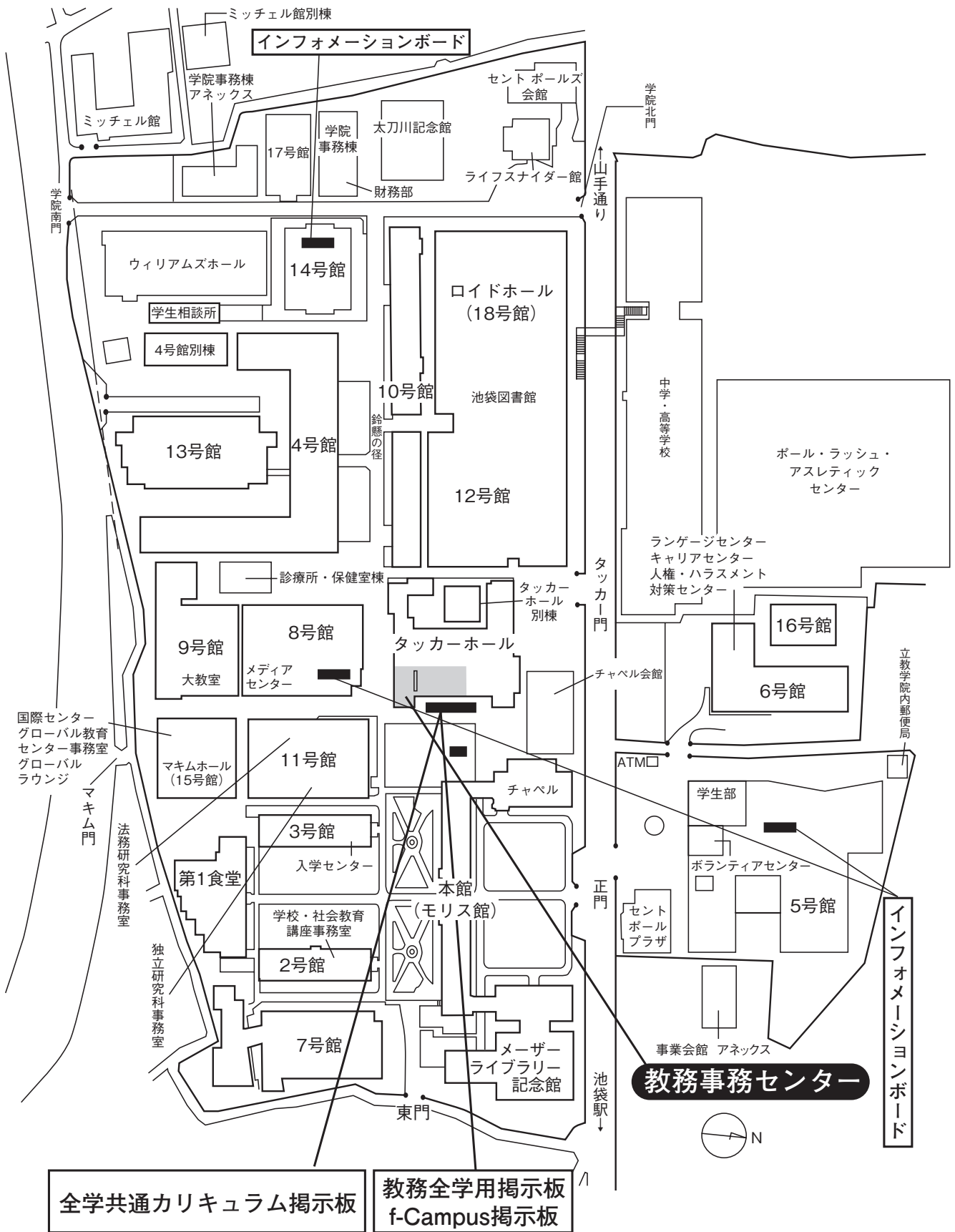
体育館 3階



※その他の新座キャンパス屋外施設

- ・テニスコート (NZT1)
- ・多目的グラウンド (NZA1)
- ・セントポールズ・アクアティックセンター (NPL1)

池袋キャンパス構内案内図

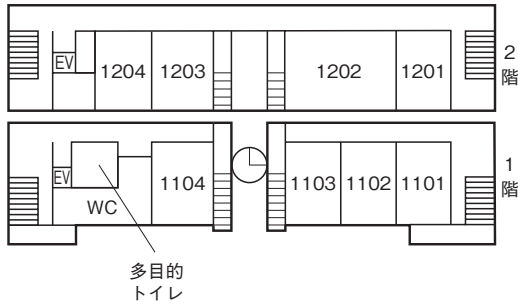


全学共通カリキュラム掲示板

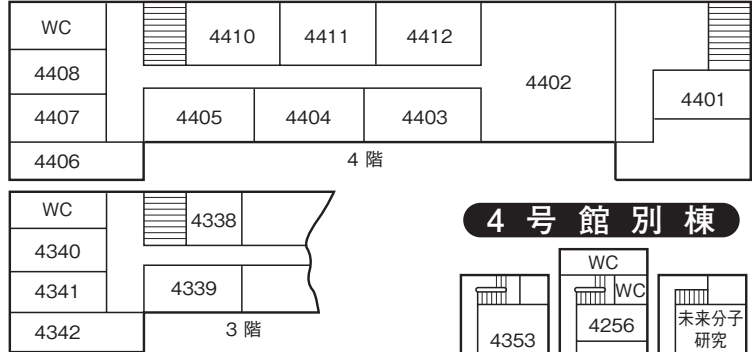
教務全学用掲示板
f-Campus掲示板

池袋キャンパス教室案内図

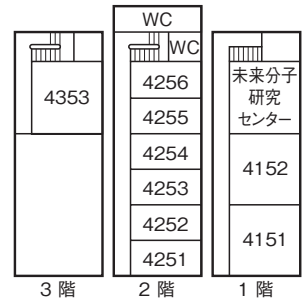
本館



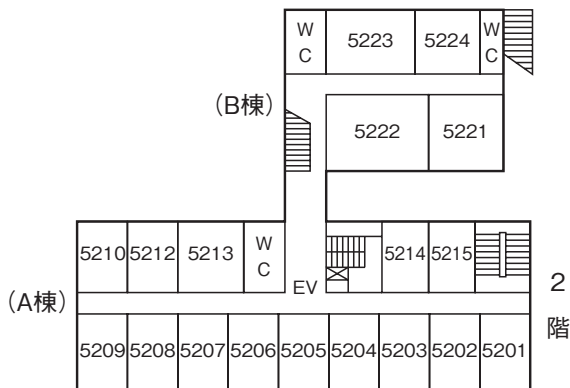
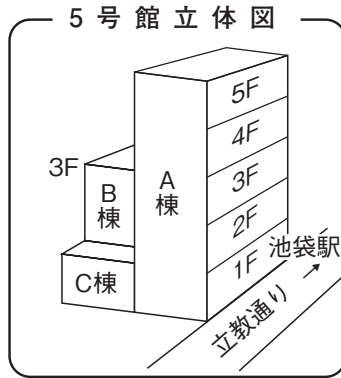
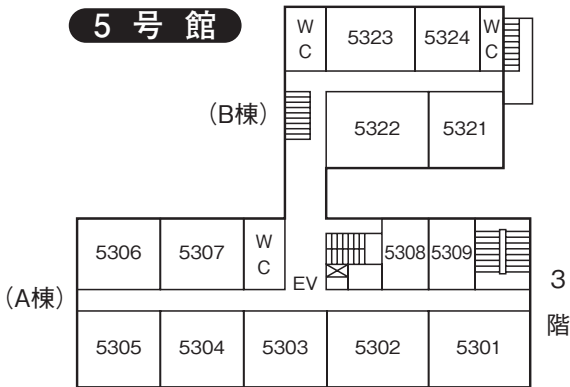
4号館



4号館別棟



5号館



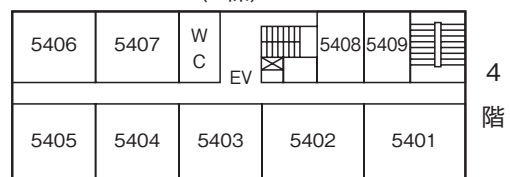
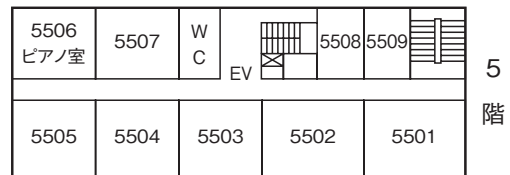
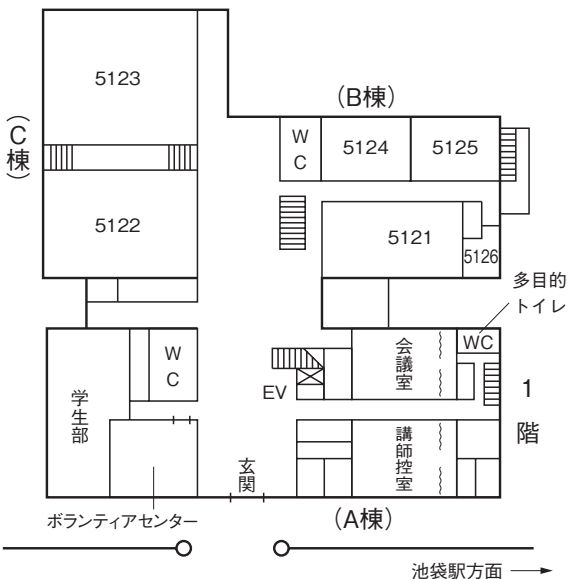
教室番号の見方



号館を示す。ただし 1…本館
X…10号館
A…11号館
D…14号館
M…マキムホール (15号館)
S…事業会館 アネックス
P…ポール・ラッシュ・アスレティックセンター

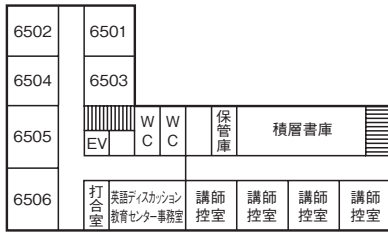
階を示す。その階の東南隅の教室を01として右廻りの順に番号を与える。

5号館 B棟 C棟について 20番台で表示する。
(例……5323→5号館3階B棟)

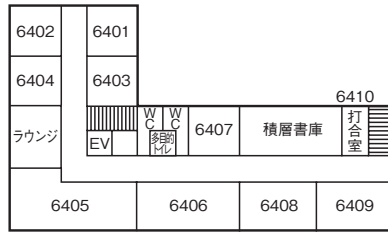


6号館

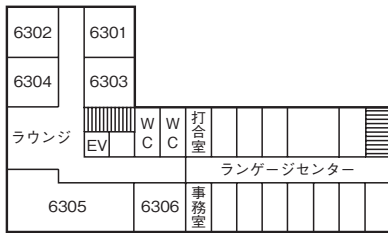
5階



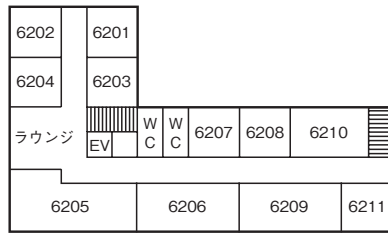
4階



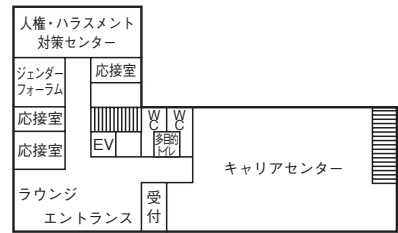
3階



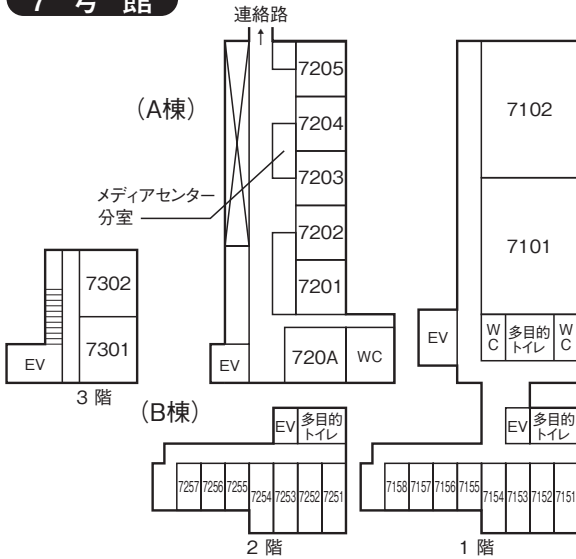
2階



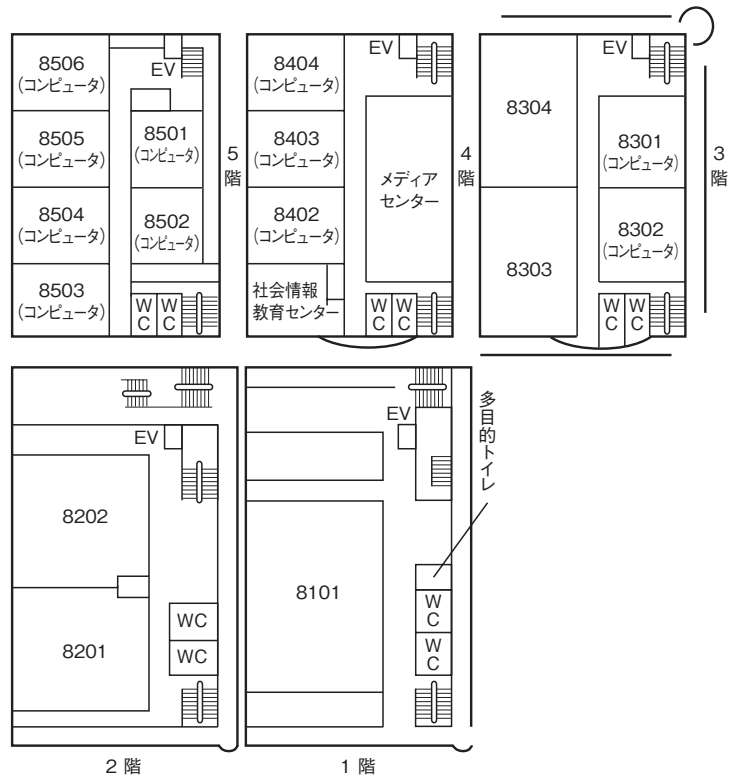
1階

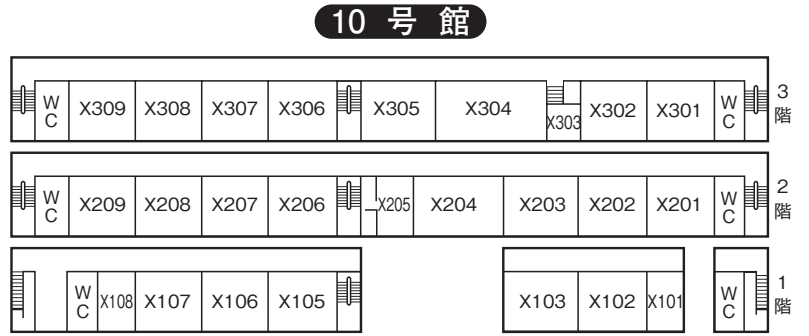
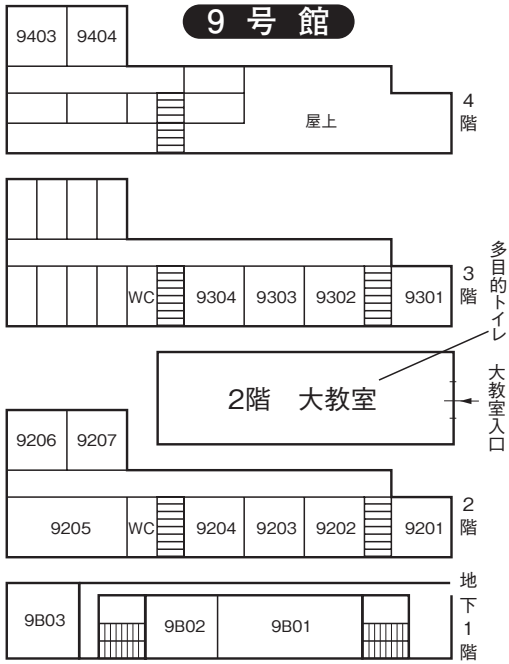


7号館

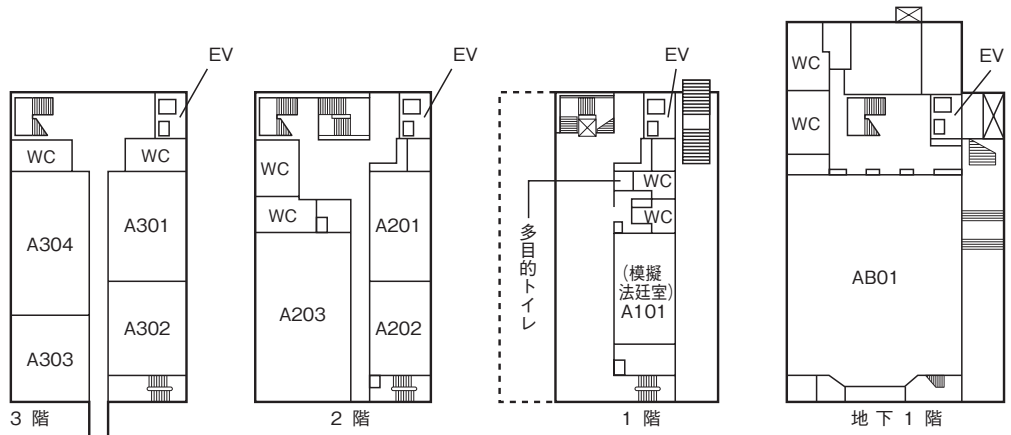


8号館

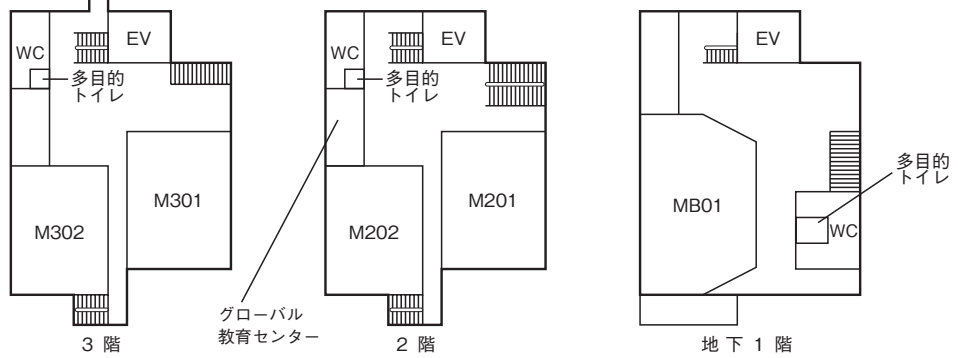




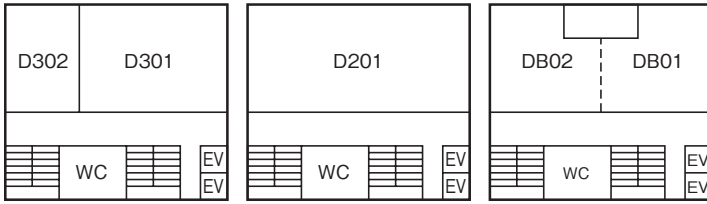
11号館



マキムホール (15号館)



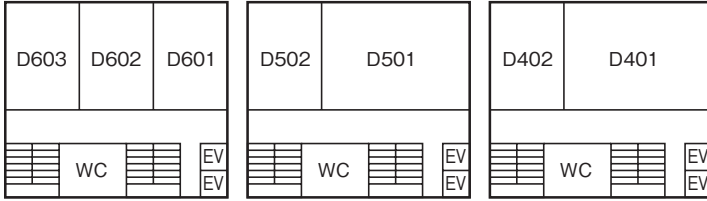
14号館



3階

2階

地下1階

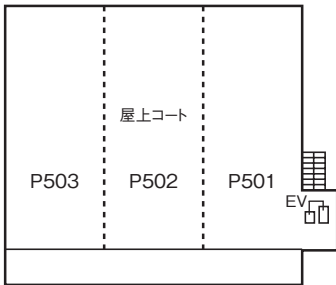


6階

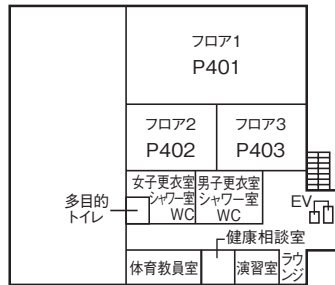
5階

4階

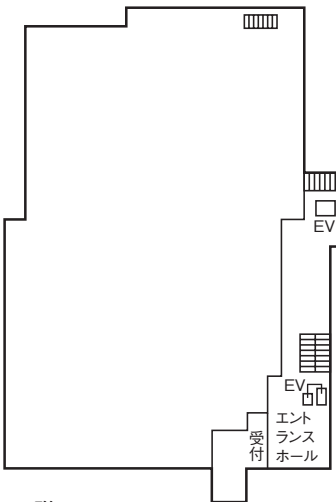
ポール・ラッシュ・アスレティックセンター



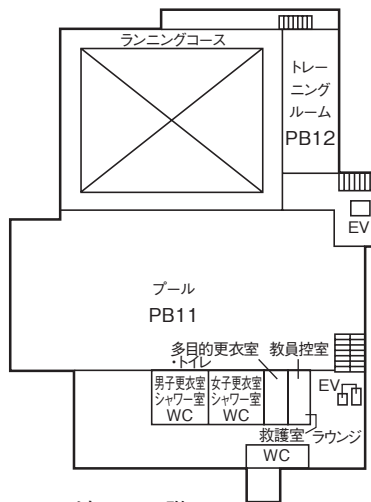
5階



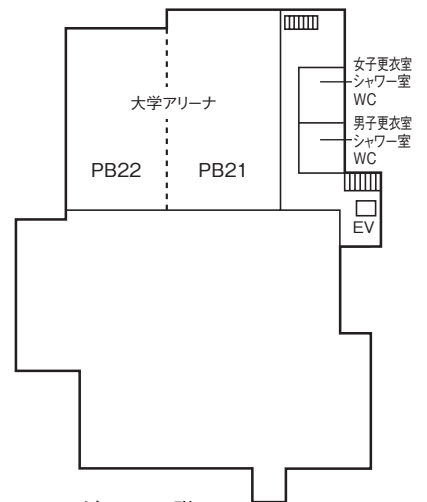
4階



1階



地下1階



地下2階

こんなときは		黒丸の数字は①～⑥構内案内図(新座キャンパス)上の位置を示す
学籍事項(住所・電話番号・保証人・氏名等)に変更があった	新座キャンパス教務事務センター(新座7号館1階)①	
奨学金を受けたい	学生部・国際センター(新座7号館2階)①	
落とし物をした・学内で盗難にあった	学生部(新座7号館2階)①	
進路・就職について相談したい	キャリアセンター(新座1号館1階)②	
インターンシップについて相談したい	新座キャンパス教務事務センター(新座7号館1階)① キャリアセンター(新座1号館1階)②	
転部・転科について知りたい 立教大学大学院への進学について知りたい	入学センター (池袋キャンパス:3号館1階)	
学内でからだの具合が悪くなった	保健室(新座1号館1階)②	
大学での活動中にけがをした(学生健保・学研災の手続き等)	学生部(新座7号館2階)①	
パソコンやメールを使いたい	メディアセンター(新座8号館2階)③	
学校・社会教育の資格を取得するには	学校・社会教育講座事務室(新座7号館1階)①	
こまったとき、悩んだときは	学生相談所④	
ハラスメントについて悩んだときは	人権・ハラスメント対策センター(新座6号館3階)⑤	
学費について知りたい	学生部(新座7号館2階)①	
留学制度について知りたい	国際センター(新座7号館2階)①	
図書館を利用したい *シラバスに記載の参考書等は、原則として 図書館で利用できる。	新座図書館⑥	

2018年4月

立 教 大 学 現 代 心 理 学 部
立 教 大 学 大 学 院 現 代 心 理 学 研 究 科

〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26

立教大学新座キャンパス教務事務センター

☎048-471-6942



学生番号：

氏名：

履修要項は再交付しないので保管に注意すること